上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書XIII

# 牛頸梅頭遺跡群Ⅳ

～第４次調査～

大野城市文化財調査報告書　第86集

２００８

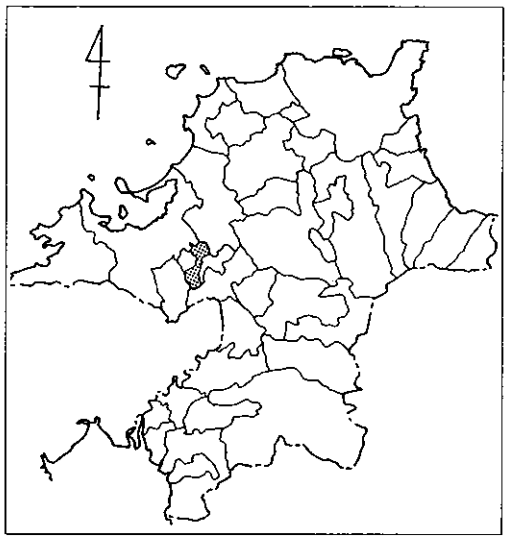
大野城市教育委員会

上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書XIII

# 牛頸梅頭遺跡群Ⅳ

～第４次調査～

大野城市文化財調査報告書　第86集



２００８

大野城市教育委員会



（1）４次調査地全景（調査前）（平成11年撮影）



（2）１号窯跡焼成部上半架構半地下天井壁

# 序

今回報告する牛頸梅頭遺跡第４次調査は、春日大野城リサイクルプラザの北東側に隣接する丘陵斜面で実施されました。調査地は、現在埋め立てられ三兼池公園や街路など新しい街に生まれ変わっています。発見された窯跡は、牛頸窯跡群の操業が盛んになりはじめる６世紀後半から７世紀初めのもので、窯の構造は山の斜面にトンネルを掘り抜く地下式が主流の牛頸窯跡群では極めて珍しい半地下式構造に改造されていました。この結果は、牛頸窯跡群の調査成果に新たな知見を加え、技術がどこからもたらされたのかを考える上で重要な資料となりました。今後さらに調査を進める事で、牛頸窯跡群の今まで知られていなかった実態を明らかにしていき、その成果を研究者だけではなく広く市民に知らせる事で地域の歴史の素晴らしさを再確認し、地域愛護につないでいきたいと思います。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。大野城市では、この残された埋蔵文化財に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心から願うとともに、今後とも文化財行政に対し、尚一層ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成20年９月30日

大野城市教育委員会

教育長　古賀　宮太

# 例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の梅頭遺跡第４次発掘調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸梅頭遺跡群』とした。

2．発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。

3．遺構写真は、石木秀啓・北川貴洋・久住（旧姓井上）愛子が撮影した。

4．遺物写真は、㈲文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。

5．遺構実測図は、石木・北川・久住・主税英則（琉球大学）が作成した。また、地形測量図は㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。また上大利地区旧地形図は、㈱写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。

6．遺構実測図中の方位は磁北を表し、地形測量図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。

7．遺構の製図は、遠藤茜・大里弥生・渡部美香が作成した。

8．遺物実測・拓本・製図・観察表作成は、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

9．窯跡から出土した炭化材について、年代測定は㈱パレオ・ラボに委託した。また、樹種同定については小林克也氏（当時東北芸術工科大学）に依頼して分析原稿を得た。これら自然科学分析の結果については、『牛頸梅頭・本堂遺跡群－自然科学分析編－』大野城市文化財調査報告書第87集に掲載予定である。

10．本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1／25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。

11．遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。

12．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

13．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。

14．本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は石木がおこなった。

# 本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　１．平成18～20年度の調査経過……1
　２．調査体制……1～7
Ⅱ．調査の結果
　１．調査概要……8
　２．遺構と遺物……11～119
Ⅲ．まとめ
　１．窯の構造……120・121
　２．遺物の変遷と年代……121～123
　３．遺物の数量……123・124
　４．燃料材について……124・125
　５．ロクロの回転方向について……125・126

# 図　版　目　次

図版１　（１）調査地全景（調査前）（南西から）
　　（２）１号窯跡最終操業面全景（南東から）
図版２　（１）最終操業面窯体内全景（南東から）
　　（２）最終操業面焚口部全景（東から）
図版３　（１）最終操業面焼成部右側壁半地下天井部（南から）
　　（２）最終操業面焼成部左側壁半地下天井部（東から）
図版４　（１）焼成部ｋ-ｋ'面土層（南東から）
　　（２）焼成部ｉ-ｉ'面土層（南東から）
　　（３）焼成部ｈ-ｈ'面土層（南東から）
　　（４）焼成部ｈ-ｈ'面作業路部分土層（南東から）
　　（５）焼成部１縦断面土層（東から）
　　（６）焼成部２縦断面土層（北東から）
　　（７）焼成部３縦断面土層（北東から）
　　（８）焼成部４縦断面土層（北東から）
図版５　（１）作業路ｆ-ｆ'面土層（東から）
　　（２）作業路ｅ-ｅ'面土層（北東から）
　　（３）作業路ｄ-ｄ'面土層（北東から）
図版６　（１）最終操業面排煙部検出状況（北東から）
　　（２）最終操業面焼成部右側壁半地下部分排煙口残存状況
図版７　（１）焼成部右側壁半地下部断面断割②（南から）
　　（２）焼成部左側壁半地下部断面断割②（東から）
　　（３）窯尻部縦断面作業路土層（南から）

図版８　（１）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（南から）
（２）最終操業面焚口部左側壁構築材検出状況（東から）
図版９　（１）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（南西から）
（２）最終操業面焼成部右側壁構築材検出状況①（南西から）
（３）最終操業面焼成部右側壁構築材検出状況②（南西から）
図版10　（１）最終操業面焚口部左側壁構築材検出状況（東から）
（２）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（北西から）
（３）最終操業面焚口部右側壁葉検出状況（南西から）
図版11　（１）焼成部上半最終操業面半地下部分完掘状況（北から）
（２）焼成部上半最終操業面半地下部分完掘状況（北西から）
図版12　（１）最終操業面焚口部灰層（東から）
（２）最終操業面焚口部灰層縦断面（東から）
（３）灰層２・３区間最終操業時灰層縦断面（北東から）
図版13　（１）最終操業面焚口部完掘状況（北東から）
（２）最終操業面下灰層断割土層（南東から）
図版14　（１）最終操業面縦断面断割土層（東から）
（２）３次操業面前庭部土坑土層（東から）
（３）３次操業面前庭部土坑完掘状況（東から）
図版15　（１）３次操業面全景（南東から）
（２）３次操業面窯体内全景（南東から）
図版16　（１）３次操業面窯体内右側壁全景（南から）
（２）３次操業面窯体内左側壁全景（北東から）
図版17　（１）３次操業面縦断面断割土層（東から）
（２）２次操業面前庭部土坑土層（北東から）
（３）２次操業面前庭部土坑完掘状況（東から）
図版18　（１）２次操業面全景（南東から）
（２）２次操業面窯体内全景（南東から）
図版19　（１）２次操業面右側壁全景（南から）
（２）２次操業面左側壁全景（東から）
図版20　（１）２次操業面縦断面断割土層（東から）
（２）１次操業面前庭部土坑土層（北東から）
（３）１次操業面前庭部土坑完掘状況（東から）
図版21　（１）１次操業面全景（南東から）
（２）１次操業面窯体内全景（南東から）
図版22　（１）１次操業面右側壁全景（南西から）
（２）１次操業面左側壁全景（北東から）
図版23　（１）１次操業面断割全景（南東から）
（２）１次操業面焚口部断割（東から）
図版24　（１）左側壁断割（１～３次操業面）（東から）
（２）焼成部上半天井部支持材床面検出状況（南東から）

（3）同上完掘状況（南東から）
図版25　（1）灰原検出状況（東から）
（2）灰原１・２区間土層上半（北東から）
（3）灰原１・２区間土層下半（北東から）
図版26　（1）灰原２・３区間拡張部土層（北東から）
（2）灰原４～６区土層（北東から）
（3）調査地の現況（北から）
図版27～40　１号窯跡出土遺物①～⑭

# 挿　図　目　次

第１図　平成18年度上大利北土地区画整理地内調査地および梅頭遺跡４次調査地位置図（1／5,000）…… 2
第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（１／5,000）…… 3
第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図…… 4
第４図　周辺遺跡分布図（１／50,000）…… 5・6
第５図　４次調査地地形測量図（１／400）…… 9・10
第６図　１号窯跡最終操業面実測図（１／80）…… 13・14
第７図　１号窯跡３次操業面実測図（１／80）…… 15・16
第８図　１号窯跡２次操業面実測図（１／80）…… 17・18
第９図　１号窯跡１次操業面実測図（１／80）…… 19・20
第10図　１号窯跡焼成部上半半地下部分完掘実測図（１／80）…… 21・22
第11図　１号窯跡窯体断割実測図（１／60）…… 23
第12図　１号窯跡窯体内土層実測図（１／80）…… 29・30
第13図　１号窯跡灰原土層実測図（１／60）…… 31
第14・15図　１号窯跡最終操業面窯体内埋土出土遺物実測図①② …… 33・34
第16図　１号窯跡最終操業面出土遺物実測図（14は１／６、他は１／３）…… 35
第17図　１号窯跡最終操業面貼床内出土遺物実測図（１／３）…… 36
第18図　１号窯跡３次操業面最終床面貼床出土遺物実測図（１／３）…… 37
第19・20図　１号窯跡２次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図①② …… 38・39
第21図　１号窯跡２次操業面貼床・盛土出土遺物実測図（74は１／６、他は１／３）…… 40
第22・23図　１号窯跡１次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図①② …… 41・43
第24・25図　１号窯跡１次操業面貼床出土遺物実測図①② …… 44・45
第26図　１号窯跡作業路・表採出土遺物実測図（１／３）…… 46
第27図　１号窯跡灰原１区２層出土遺物実測図（１／３）…… 47
第28・29図　１号窯跡灰原１区拡張部８層出土遺物実測図①② …… 49・50
第30～32図　１号窯跡灰原１区拡張部11・12層出土遺物実測図①～③ …… 51～53
第33図　１号窯跡灰原１区拡張部13層・１層・層位不明出土遺物実測図（212・213は１／２、他は１／３）… 54
第34・35図　１号窯跡灰原２区２層出土遺物実測図①② …… 55・56

第36図　1号窯跡灰原2区3－②～⑤層出土遺物実測図（1／3）…… 57
第37・38図　1号窯跡灰原2区3－⑥層出土遺物実測図①② …… 58・59
第39・40図　1号窯跡灰原2区3－⑦層出土遺物実測図①② …… 61・62
第41～43図　1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土出土遺物実測図①～③ …… 64～66
第44・45図　1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図①② …… 67・68
第46～50図　1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土出土遺物実測図①～⑤ …… 69～73
第51図　1号窯跡灰原2区拡張部最下層出土遺物実測図（358は1／6、他は1／3）…… 74
第52・53図　1号窯跡灰原3区2層出土遺物実測図①② …… 75・76
第54図　1号窯跡灰原3区3－②・③層出土遺物実測図（1／3）…… 77
第55図　1号窯跡灰原3区3－④層出土遺物実測図（1／3）…… 78
第56図　1号窯跡灰原3区3－⑤層出土遺物実測図（1／3）…… 79
第57～59図　1号窯跡灰原3区3－⑥層出土遺物実測図①～③ …… 81～83
第60図　1号窯跡灰原3区3－⑦層出土遺物実測図（1／3）…… 84
第61図　1号窯跡灰原3区拡張部黒色土出土遺物実測図（1／3）…… 85
第62・63図　1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土出土遺物実測図①② …… 87・88
第64・65図　1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図①② …… 89・90
第66・67図　1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土出土遺物実測図①② …… 91・92
第68図　1号窯跡灰原3区拡張部最下層出土遺物実測図（1／3）…… 93
第69図　1号窯跡灰原4区2・3・5・7・10層出土遺物実測図（1／3）…… 94
第70図　1号窯跡灰原4区9・9～11層ほか出土遺物実測図（1／3）…… 95
第71図　1号窯跡各操業面出土遺物変遷図（1／8）…… 122

# 表　目　次

表1～23　梅頭遺跡第4次調査出土遺物観察表①～㉓ …… 97～119
表24　1号窯跡各操業面別窯体規模一覧表 …… 120
表25　梅頭遺跡4次1号窯跡出土須恵器数量表 …… 123
表26　窯ごとのロクロ回転方向の割合 …… 126

# 巻　頭　図　版　目　次

巻頭図版　（1）4次調査地全景（調査前）（平成11年撮影）
（2）1号窯跡焼成部上半架構半地下天井壁

# Ⅰ．はじめに

## １．平成18～20年度の調査経過

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第60集）に詳述しているため、以下では平成18年度の埋蔵文化財調査についてまとめておきたい。

平成18年度、上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財調査としては、試掘調査を２ヶ所（69・70次）実施した。試掘調査の方法は、一部トレンチ調査により遺構の有無や削平状況を確認した場所もあるが、基本的には対象となった試掘調査地全体を重機により表土剥ぎを実施している。以下に、試掘調査の概要について記す。

69次試掘調査は平成18年５月８日～６月10日の間に実施した。調査地は平成16年度に実施した55次試掘調査地の北側にあたり、南西側にのびる谷部が確認されていた。今回調査したのは、谷部の北側である。現況では前回試掘調査した分も埋め戻されていたため、未調査部分が生じないように谷部を掘り下げていった。その結果、深い所では５m以上掘り下げをおこなったが、谷部を検出することができた。遺物は須恵器・磁器が若干出土したが、遺構を確認することはできなかった。70次試掘調査は三兼池をまたぐ橋の東西の取り付き部分にあたり、平成18年９月14日に実施した。現況は丘陵斜面であり、この部分に３～４本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出に努めたが、確認することはできなかった。

平成18年度の発掘調査は、平成17年度からの引き続きとして本堂遺跡16次調査を実施した。また、本堂遺跡12次調査として平成17年３～６月に調査した部分と67次試掘調査Ｂ地点を合わせて本堂遺跡17次調査として実施した。調査期間・面積等については下の表のとおりである。

| | 遺跡名 | 試掘調査次数 | 試掘調査期間 | 発掘調査期間 | 調査面積(㎡) | 担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成18年度発掘調査 | 本堂遺跡16次調査 | 67次Ａ地点 | 平成18年２月10日～３月23日 | 平成18年３月８日～４月21日 | 548 | 北川 |
| | 本堂遺跡17次調査 | 67次Ｂ地点 | 平成18年２月10日～３月23日 | 平成18年４月18日～８月１日 | 1,100 | 石木 |

以上の調査をもって、上大利北土地区画整理地内における埋蔵文化財調査のうち、試掘調査・発掘調査を終了した。現地調査終了後は、室内において整理作業を実施し、平成20年度に終了した。

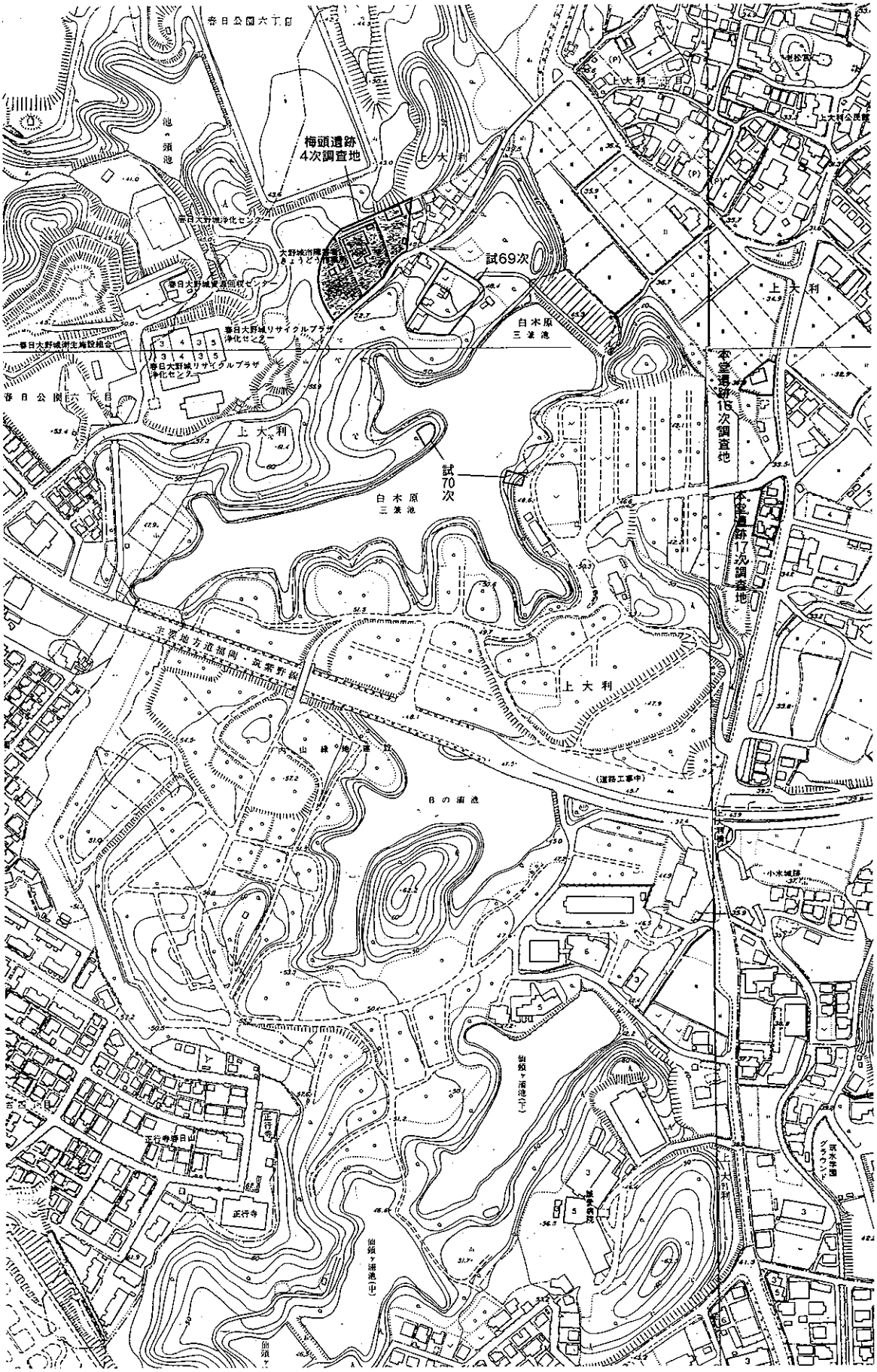
## ２．調査体制

平成14～20年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、整理作業は平成20年度に完了した。

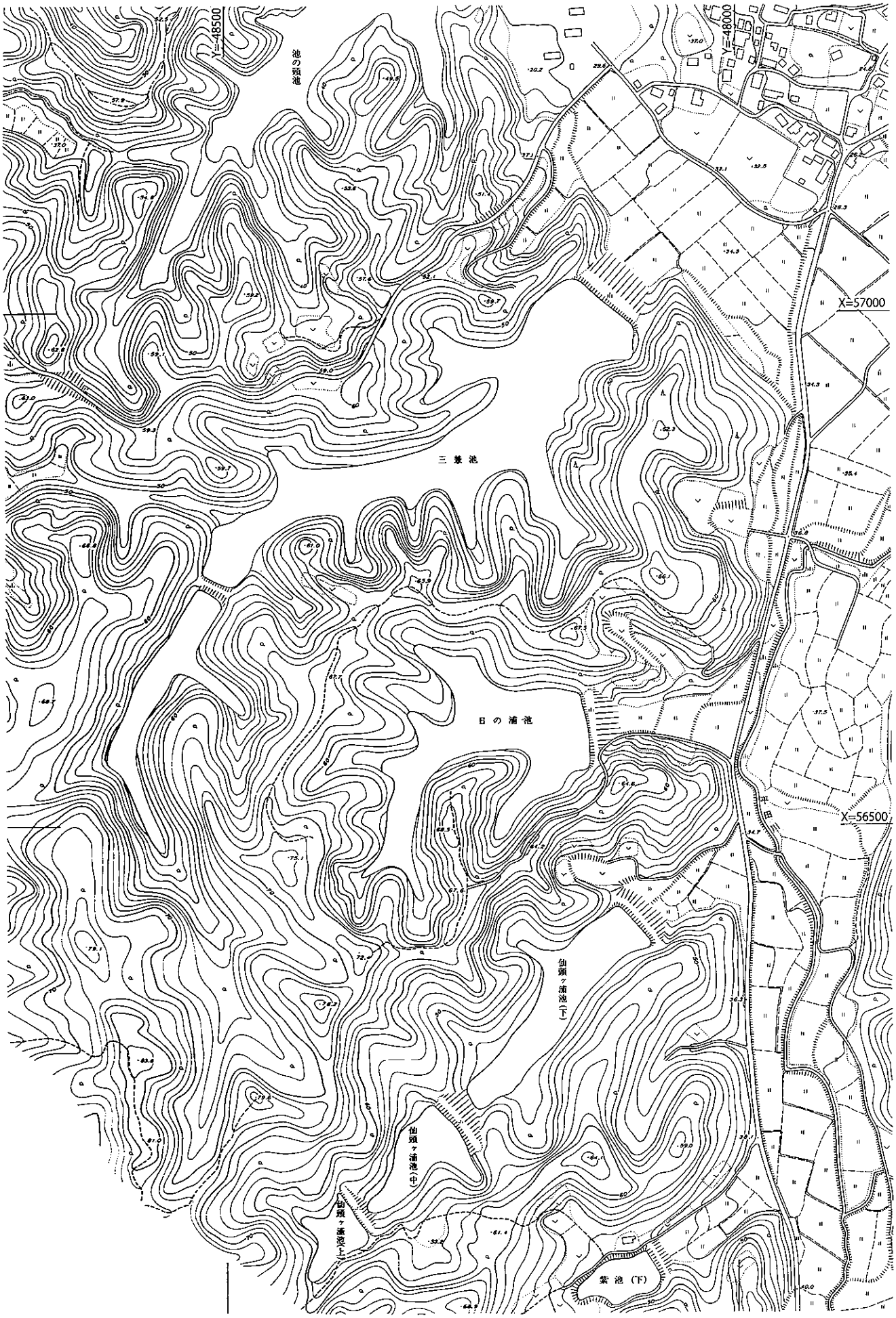
[大野城市教育委員会]

教育長　　堀内貞夫（～15年６月）　古賀宮太（15年６月～）

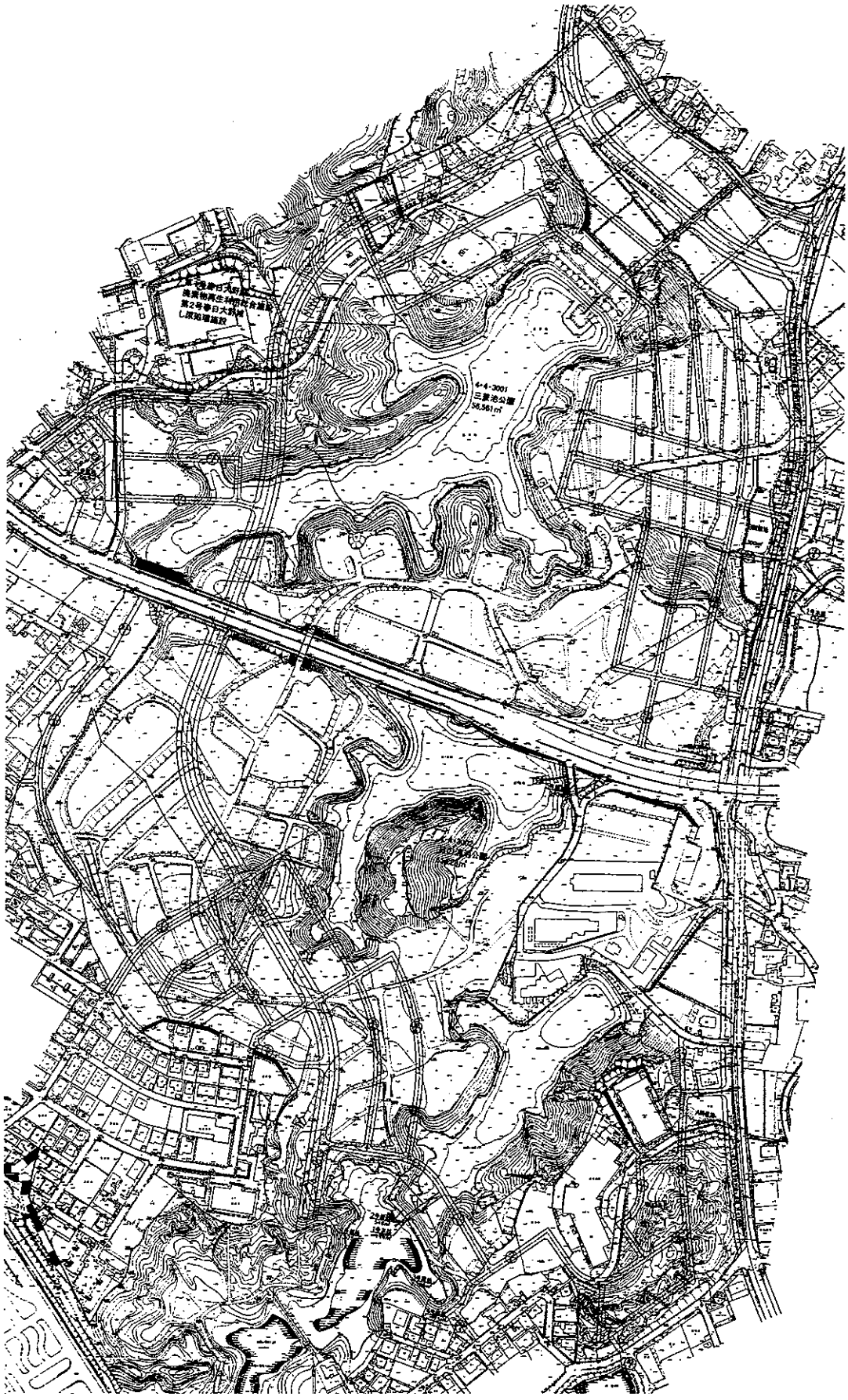
教育部長　　鬼塚春光（14年３月～17年３月）　小嶋　健（17年４月～20年３月）



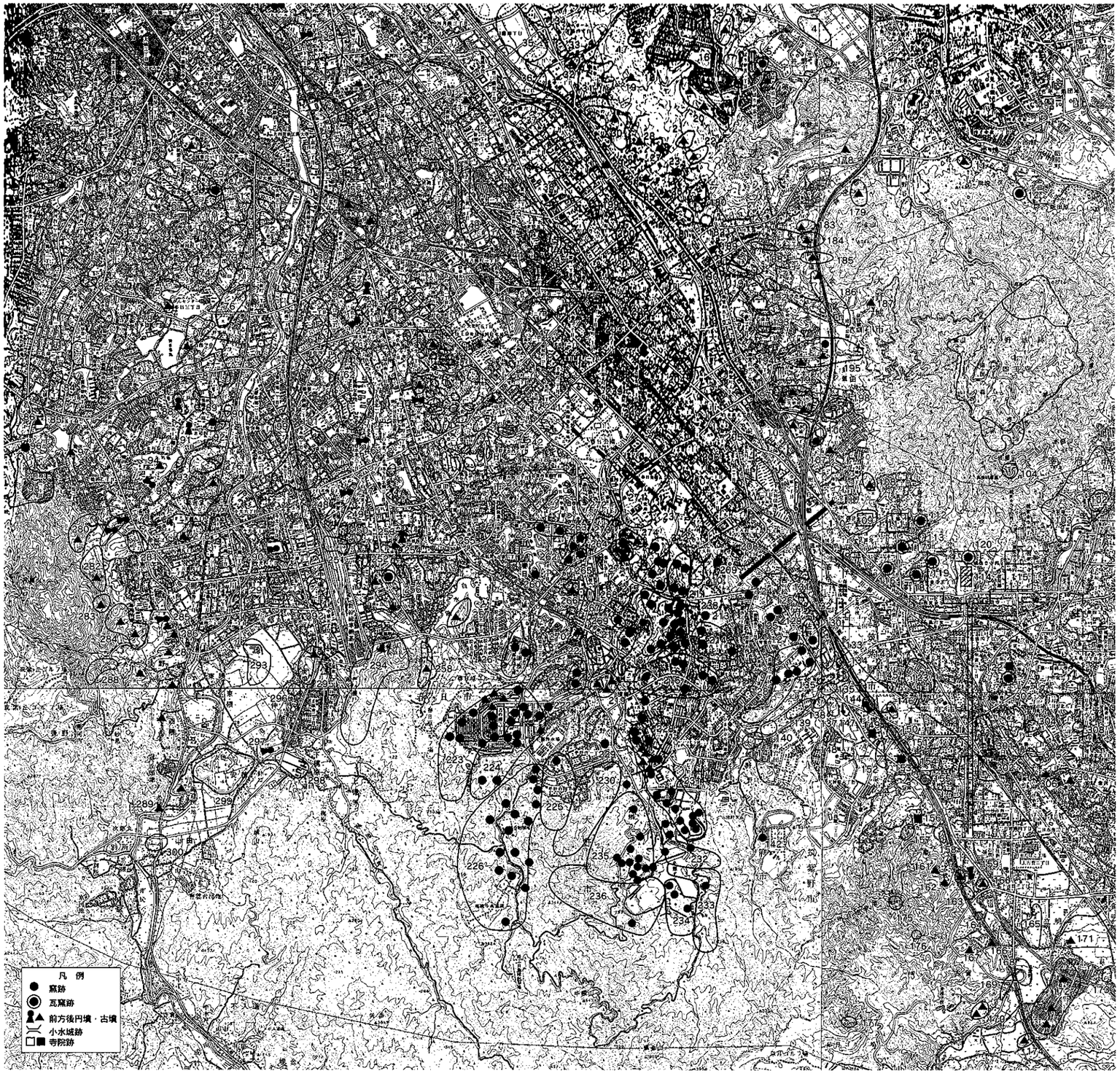

第１図　平成18年度上大利北土地区画整理地内調査地および梅頭遺跡４次調査地位置図（１／5,000）




**第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（１／5,000）**



第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図




第４図　周辺遺跡分布図（１／50,000）

1. 大野城跡
2. 水城跡

**宇美町**

3. 神領・浦尻古墳群
4. 川原田・供田遺跡群
5. 岩長浦古墳群
6. 観音浦古墳群
7. ウソフキ古墳
8. 宇美中学校遺跡
9. 正籠古墳群
10. 湯湧古墳群
11. 花ノ木古墳群
12. 寺浦窯跡
13. 内野谷古墳群

**志免町**

14. 松ヶ上・松ヶ下遺跡
15. 松ノ尾古墳群
16. 桜ヶ丘古墳群

**福岡市**

17. 熊野古墳群
18. 七曲古墳群
19. 金剛山古墳群
20. 持田ヶ浦古墳群A群
21. 持田ヶ浦古墳群B群
22. 持田ヶ浦古墳群C群
23. 持田ヶ浦古墳群D群
24. 持田ヶ浦古墳群E群
25. 持田ヶ浦古墳群F群
26. 今里不動古墳
27. 奥ヶ浦古墳群
28. 影ヶ浦古墳群
29. 丸山古墳
30. 金隈遺跡群
31. 立花寺遺跡群
32. 文殊谷古墳群
33. 上月隈B遺跡
34. 上月隈遺跡群
35. 下月隈C遺跡群
36. 立花寺B遺跡群
37. 井相田D遺跡群
38. 井相田C遺跡
39. 那珂君休遺跡群
40. 板付遺跡
41. 板付八幡古墳
42. 高畑遺跡
43. 麦野A遺跡
44. 麦野B遺跡
45. 麦野C遺跡
46. 南八幡遺跡群
47. 雑餉隈遺跡群
48. 三筑遺跡
49. 笹原遺跡群
50. 諸岡B遺跡
51. 諸岡A遺跡
52. 比恵・那珂遺跡群
53. 那珂八幡古墳
54. 五十川遺跡群
55. 井尻B遺跡
56. 井尻B－1号古墳
57. 寺島遺跡
58. 笠抜遺跡
59. 井尻A遺跡
60. 横手遺跡群
61. 日佐遺跡群
62. 弥永原遺跡群
63. 野間A・B遺跡
64. 中村町遺跡
65. 若久A遺跡
66. 若久B遺跡
67. 大橋B遺跡
68. 大橋C遺跡
69. 大橋D遺跡・三宅瓦窯跡
70. 三宅A遺跡・三宅廃寺
71. 大橋E遺跡
72. 三宅C遺跡
73. 三宅B遺跡
74. 和田A遺跡群
75. 和田B遺跡群
76. 野多目A遺跡
77. 野多目B遺跡・古墳群
78. 野多目浦ノ池遺跡
79. 穴観音古墳
80. 寺塚A古墳群
81. 寺塚B古墳群
82. 屋形原遺跡
83. 花畑C遺跡群
84. 花畑B遺跡群
85. 花畑A遺跡群
86. 三十田古墳
87. 野多目C遺跡群
88. 卯内尺古墳・古墳群
89. 老司A遺跡
90. 老司B遺跡
91. 老司古墳
92. 老松神社古墳群
93. 老司池A・B遺跡群
94. 中尾古墳
95. 浦ノ田古墳群
96. 中島窯跡
97. 箱池古墳
98. 四十塚・大牟田古墳群
99. 警弥郷A遺跡
100. 警弥郷B遺跡
101. 弥永遺跡群

**太宰府市**

102. 浦城跡
103. 原遺跡
104. 岩屋城跡
105. 成屋形古墳群
106. 裏ノ田遺跡
107. 裏ノ田古墳
108. 牌の尾古墳群・遺跡群
109. 筑前国分尼寺跡
110. 国分松本遺跡
111. 筑前国分寺跡
112. 国分瓦窯跡
113. 御笠団印出土地
114. 大宰府政庁跡
115. 観世音寺
116. 松倉瓦窯跡
117. 坂本瓦窯跡
118. 来木古墳群・瓦窯跡
119. 来木北瓦窯跡
120. 都府楼北瓦窯跡
121. 榎寺
122. 般若寺・瓦窯跡
123. 市ノ上遺跡
124. 神ノ前窯跡群
125. 篠振遺跡・窯跡
126. 尊田窯跡
127. 長浦窯跡
128. 宮ノ本遺跡群・窯跡群
129. 日焼遺跡群・窯跡群
130. 前田遺跡
131. 原口遺跡
132. 久郎利遺跡
133. 上川久保遺跡
134. 離川遺跡
135. フケ遺跡
136. 尾崎遺跡
137. 脇道遺跡
138. 殿城戸遺跡
139. 京ノ尾遺跡
140. カヤノ遺跡
141. 長ヶ坪遺跡
142. 野口窯跡

**筑紫野市**

143. 井ノ尻遺跡・古墳
144. 剣塚遺跡・古墳群・瓦窯跡
145. 杉塚大坪遺跡
146. 埴安神社古墳
147. 和久笠城跡
148. 杉塚山の谷遺跡
149. 杉塚廃寺
150. 唐人塚遺跡・古墳群
151. 前田遺跡
152. 脇田遺跡
153. 塔原廃寺
154. 塔原遺跡
155. 樋田山遺跡
156. 武蔵寺跡
157. 武蔵寺経塚群
158. 道場山遺跡
159. 原口古墳・古墳群
160. 鷺田山遺跡・古墳群
161. 八隈裏山古墳
162. 八隈古墳群
163. 畑添遺跡
164. 山の口遺跡
165. 立明寺地区遺跡
166. 扇鶴古墳群
167. 江永浦古墳
168. 貝元遺跡
169. トドキ遺跡
170. 古賀古墳群
171. 厳島神社古墳
172. 上の山古墳群
173. 大牟田西遺跡
174. 萩原古墳群
175. 天判山城
176. 飯盛城跡
177. 博多見城跡
301. 二日市宿跡
302. 堀池遺跡
303. 峯畑遺跡
304. 修理田遺跡
305. 通り浦遺跡
306. 五穀神古墳
307. カケ塚古墳
308. 米噌城

**大野城市**

178. 唐山古墳群
179. 乙金北古墳群
180. 御陵古墳群
181. 塚口遺跡
182. 御陵前の検遺跡
183. 善一田古墳群
184. 王城山古墳群
185. 古野古墳群
186. 原口古墳群
187. 此岡古墳群
188. 松葉園遺跡
189. 森園遺跡
190. ヒケシマ遺跡
191. 中・寺尾遺跡
192. 薬師の森遺跡
193. 銀山遺跡
194. 原門遺跡
195. 雉子ヶ尾遺跡・窯跡
196. 釜蓋原古墳群
197. 金山遺跡
198. 釜蓋原遺跡
199. 仲島遺跡
200. 川原遺跡
201. 御笠の森遺跡
202. 村下遺跡
203. 雑餉隈遺跡
204. 石勺遺跡
205. 原ノ畑遺跡
206. 後原遺跡
207. 御供田遺跡
208. 谷川遺跡
209. 出口窯跡・遺跡
210. 上開遺跡
211. 本堂遺跡群
212. 梅頭遺跡群
213. 谷蟹窯跡
214. 大浦窯跡群
215. 野添遺跡群
216. 平田窯跡群
217. 華無尾遺跡群
218. 屏風田遺跡
219. 塚原遺跡群
220. 畑ヶ坂遺跡群
221. 日ノ浦遺跡群
222. 月ノ浦１号窯跡
223. 後田遺跡群
224. 小田浦遺跡群
225. 大谷窯跡群
226. 石坂窯跡群
227. 東浦窯跡
228. 中通遺跡群・古墳群
229. 城ノ山窯跡群
230. 原窯跡・原浦窯跡群
231. ハセムシ窯跡群
232. 迫ノ下窯跡群
233. 長者原窯跡群
234. 笹原窯跡群
235. 井手窯跡群
236. 足洗川窯跡群
237. 池田・池の上遺跡
238. 上人利水城跡

**春日市**

239. 駿河遺跡
240. 原ノ口遺跡
241. 立石遺跡
242. 須玖・岡本遺跡群
243. 御陵遺跡群・古墳
244. 小倉水城跡
245. 野藤１号墳
246. 下白水大塚古墳
247. 日拝塚古墳
248. 柏田遺跡
249. 辻田遺跡
250. 上白水西遺跡
251. 門田遺跡
252. 天神の木遺跡
253. 天神山古墳
254. 天神山水城跡
255. 大土居水城跡
256. ウトグチ遺跡群
257. 白水池古墳群
258. 西浦古墳群
259. 惣利窯跡群
260. 大牟田窯跡
261. 浦ノ原窯跡群
262. 惣利西遺跡
263. 惣利遺跡
264. 惣利北遺跡
265. 惣利東遺跡
266. 惣利古墳
267. 円入遺跡
268. 春日半田遺跡群
269. 春日平田西遺跡
270. 塚原古墳群
271. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群
272. 春日水城跡
273. 向谷北遺跡
274. 向谷古墳群
275. 春日平田北遺跡

**那珂川町**

276. 野口遺跡群
277. 観音堂遺跡群
278. 井河古墳群
279. 小丸古墳群
280. 浦ノ原古墳群
281. 井河遺跡群
282. 丸ノ口古墳群
283. 白石古墳群
284. 荒平池古墳群
285. 妙法寺古墳
286. 油田古墳群
287. 大万寺前古墳
288. 岡太子古墳群
289. 松尾古墳群
290. 今光栄石遺跡群・貝徳寺古墳
291. 松ノ木遺跡群
292. 中原・塔ノ元遺跡群
293. 仲遺跡群
294. 観音山古墳群・深原遺跡
295. エゲ古墳・カクチガ浦古墳群
296. 炭焼古墳群
297. 安徳大塚古墳
298. 平蔵遺跡群
299. 安徳台遺跡群
300. 山田西遺跡群

森岡　勉（20年４月～）

社会教育課長　秋吉正一（14年４月～17年３月）　水野邦夫（17年４月～18年３月）

ふるさと文化財課長　舟山良一（18年４月～）

文化財担当係長　舟山良一（～18年３月）　中山　宏（18年４月～）

主　　査　徳本洋一　石木秀啓　緒方一幹（16年４月～18年３月）　丸尾博恵

主任主事　大道和貴（～16年３月）

主任技師　林　潤也　早瀬　賢（16年４月～）

技　　師　上田龍児（19年４月～）

嘱　　託　平島義孝（～16年３月）　上田　恵（14年４月～15年４月）　島田　拓（14年４月～15年６月）　岸見泰宏（14年４月～16年３月）　一瀬　智（15年11月～17年７月）　西堂将夫（15年４月～18年３月）　井上愛子（16年４月～20年３月）　北川貴洋（16年４月～19年３月）　城門義廣（18年４月～19年８月）　岡田裕之（18年５月～19年３月）　田尻義了（19年４月～６月）　遠藤　茜（19年４月～）　石川　健（19年７月～）　大里弥生（19年10月～）　甲斐康大（20年４月～）　中島　圭（20年４月～）　粟津剛史（16年４月～18年６月）　能塚由紀（18年８月～20年８月）

整理作業員　松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　城真奈美　橋本悦子　渡辺直美　仲村美幸

発掘作業員

原田敬子　大海雅子　高木幸子　満富スエコ　吉嗣波津子　岩切ふえ　前田チエ子　西田幸子　那波幸子　高木冴子　藤田和子　三原ひろみ　吉田香織　岡本妙子　馬場孝子　田中照子　寺垣みゆき　中垣　親　松山洋子　日野律子　小林敏子　坂本泰子　渡辺久美子　小林久美子　西村清子　貞包由起子　広渡隆子　穴井和子　立石律子　船越桃子　樋之口浩一　深野人美　大薗英美　仲前冨美子　井口るみ子　倉富倫子　釣屋種利　飯田三治　溝口　忍　金澤好子　田浦秀子　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　團野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子　中山文子　牧野和美　川村真樹子　村岡真由美　槙坂陽子　原口美奈子　山口文代　大島五津子　大浦旗江　清成健悟　高木由佳　木村奈津子　織田　徹　松田和美　戸渡京子　野崎美智子　倉住孝枝　稲富久子　山田賢治　松尾純子　末永　勝　安達はるみ　西本福雄　田中悦子　田野和代　吉村秀子　宮原ゆかり　尾ノ口英晴　碓井ふき子　木室友希　川岸昌子

[上大利北土地区画整理組合]

理事長　伊藤雅都

副理事長　樋口敬記　林　尚司

事務局長　平川松丸

技術職　吉次俊二（～19年３月）　林　圭一（～18年３月）　山下　健（16年４月～）　濱本泰司（18年4月～20年３月）

事務職　伊藤衆子　（石木）

# II．調査の結果

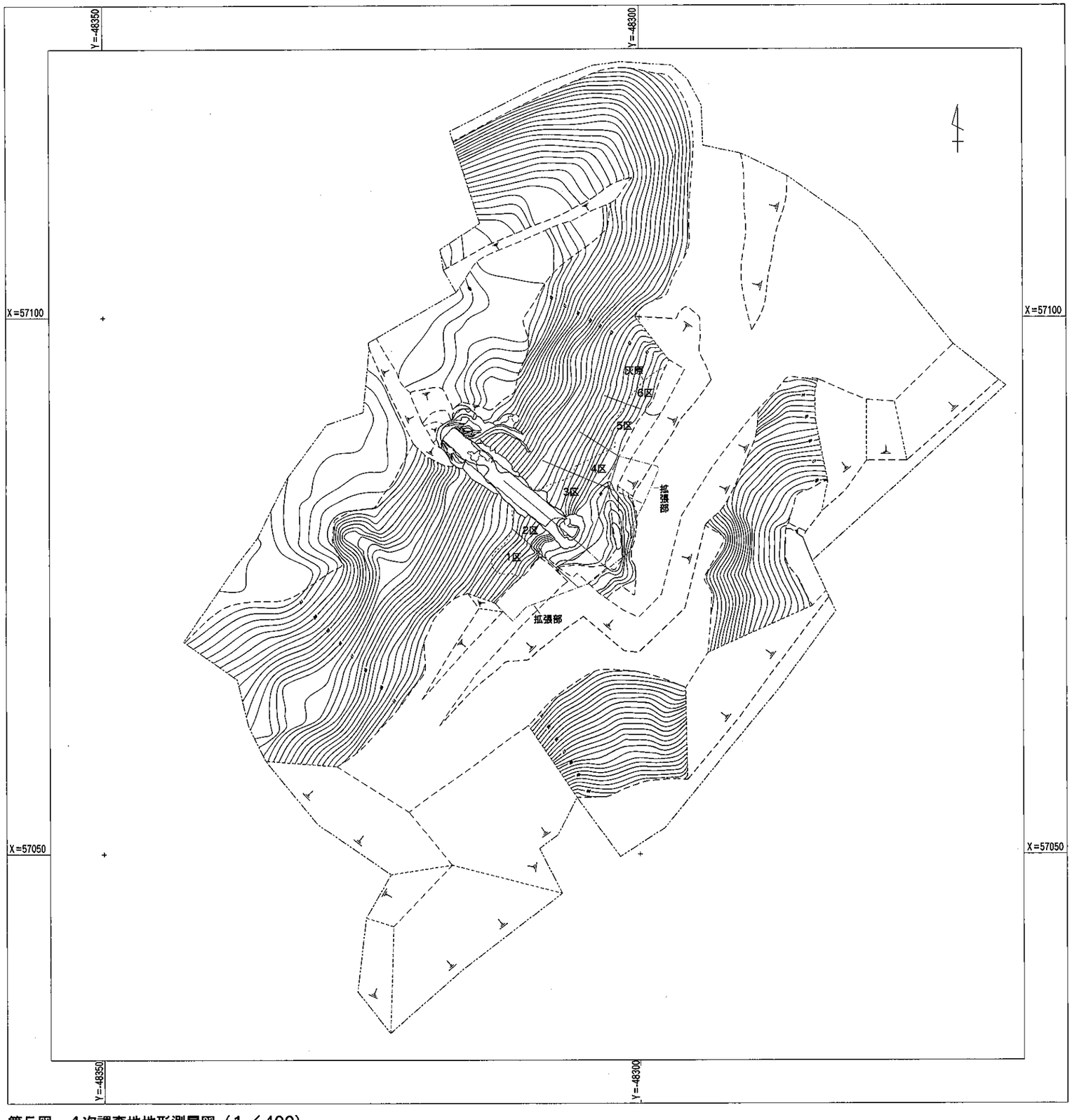
## 1．調査概要（第５図、図版１）

第４次調査地は、三兼池より１本北側の谷部にあたる。大野城市大字上大利588－４の一部他にあたり、調査面積は3,000㎡である。調査前、当地には大野城市障害者きょうどう作業所「まどか作業所」が建設されており、旧地形の把握が困難であったが、平成15年２月より開始した34次試掘調査において、作業所側へむかって下がる谷部があることが判明した。このため、作業所の移転を待って、平成16年12月21日から57次試掘調査として谷部全部の掘り上げを開始した。谷部の埋土はコンクリート片やガラス、はては注射器など産業廃棄物がおびただしく、また作業所にともなうコンクリートパイルが丘陵斜面に打ち込まれ、丘陵頂部などは削平を相当受けていた。さらに谷底部は湧水し、地盤が軟弱であったため、完全に掘り下げをおこなうことはできなかった。

57次試掘調査は平成17年１月10日まで実施したが、谷部は北東方向にのびており、作業所の東側にあった個人住宅下を通ることが予想され、土量も相当な量であることが明らかとなったため、年度内に全掘することができなかった。このため掘り下げを一時中断し、平成17年４月29日に掘り下げを再開し、５月16日に窯の存在を確認した。結局、谷部を全掘するために６月11日まで掘り下げをおこない、確認された遺構は窯跡１基のみであった。窯跡は北東方向にのびる丘陵の南側斜面に位置し、窯体を検出したが、灰原は地盤が軟弱であったことと、谷部がのびた先に池が存在し比高差から池面よりも灰原が低くなることが明らかであったことから、窯体下方の灰原検出をおこないできる限り掘り下げを実施したが、谷底まで完掘することはできなかった。

発掘調査は、平成17年６月22日から11月14日の間実施した。検出段階で長さ10m近い大型の窯であることが判明し、２ヶ月程度の調査期間を想定したが、窯体内・作業路を掘り進めるにしたがい、窯がこれまで牛頸窯跡群で知られていたような地下式構造ではなく、焼成部上半が半地下式構造であることが確認された。また、掘り下げられた作業路の状況により、半地下部分は最終操業段階で窯尻を上方へのばして構築されていることが明らかになった。さらに灰原を検出し、灰層の掘り下げをおこなうと、最終操業面の下に青灰色の層を挟み、その下層に灰層があることが判明した。この段階でようやく操業面のかさ上げがおこなわれていることが判明したが、どの程度の重なりがあるのか判断できなかったため、最終操業面の前庭部を断ち割って確認をおこなった。その結果、最終操業面下に３面の操業面を確認した。また各操業面は灰層を埋めて新たに焚口・燃焼部を設けており、焚口の位置も順次に斜面上方へ移動していることが明らかとなった。

このように、窯は１基であったが４面の操業面が確認され、焼成部上半は半地下式となる構造的にも編年的にも極めて重要な事例であることが判明した。このため、組合に対し保存を打診したが、計画路線下にあたり、周辺街区との比高差が大きく埋め立ては必至であることから記録保存に止めることになった。各操業面は良好な堆積状況を示し、慎重に分層をおこない掘り上げをおこなった。灰原も各操業面に対応する形で掘り下げを実施したが、作業所のコンクリートパイルにより撹乱を受ける部分があった。出土遺物は、須恵器・薪の残片といった窯の操業に関わる遺物のほか、黒色土器など時期の下がる遺物があるが、窯跡以外の遺構は調査地内では認められなかった。（石木）




第５図　４次調査地地形測量図（１／400）

## 2．遺構と遺物

### 1号窯跡

窯跡は、北東方向へのびる丘陵の東側斜面に位置する。主軸はN－43°－W、南東方向に焚口をむける。窯の形態から、牛頸窯跡群特有の多孔式煙道窯にあたるが、これまで群内で確認されている窯跡はほとんどが地下式であるのに対し、本窯跡は焼成部上半を半地下式に改造している。また、前庭部から焼成部下半は灰層を埋めて整地をおこない5次にわたる操業面を造り、焚口部は操業面をかさ上げするたびに前の操業面の焼成部を削って奥へ移動する状況が認められた。このように、本窯跡は特殊な構築がおこなわれており、構造の特徴は各操業面において異なることから、以下では操業面ごとに窯構造について取り上げていくこととしたい。

**（1）最終操業面（第6図・図版1～14）**

最終操業面の窯体の全長は、側壁の酸化焔焼成面の先端から窯尻まで9.99～10.73mと左側壁側が長い。平面プランは、窯尻側が焚口に比べてやや狭くなるが、絞込みはまったく認められない。窯尻には作業路が接続するが、前の操業段階のものを埋めて焼成部上半の窯体を構築した後に掘り込まれている。このため、作業路は最終的に斜面下方は前の操業段階のものを使うが、新たに掘り込まれた部分から大きく方向を変えて窯尻へといたる。

焚口部および焼成部上半は構築材が顕著に確認され、焼成部上半は半地下式、焚口から焼成部下半は地下式となるが、焚口部は貼壁・構築材の残存状況から、掘り抜きの窯体に貼壁を施して前壁を構築している。

貼床は、最終操業面造成時に施されたもの（110・121・123層）が確認され、調査時には灰層（11層）を手がかりにしてこれを除去して確認できた面（60・94層）を最終操業面の最終操業段階にあたると考えた。そして、これを掘り下げて確認できた面（67・108層）を最終操業面造成当初の操業面と考えたが、窯体内縦断土層でも明らかなように、最終操業段階とした層より上層に貼床（10・12層）および操業面を造成した土層（62層）と灰層（63層）が確認されることが整理作業段階で確認された。調査時には操業面は4次と認識し、遺物取り上げも63層は最終操業に伴う層位として斜面下方まで同一の層位として考えていたが、結果的に誤っていることが判明した。なお、最終操業面最終操業段階上に確認された操業面は1.54m水平な面があり、焚口部の位置は最終操業面とほとんど変わらないようである。燃焼部上の灰層の形成が少ないことから、廃窯にあたって片付けなどがおこなわれた可能性がある。なお、最終操業面から3次操業面は最大53cm貼床が確認できる。

窯体内埋土を見ると、焚口部天井の崩落層（8層）が確認され、これより焼成部下半は地山である花崗岩バイラン土の崩落層（6層）が確認される。これらの崩落層は床面直上で確認でき、層位的に見ると操業終了直後に焚口側から崩落がおこったと考えられる。焼成部中位には一部天井部が残っており、床面からの高さ1.24～1.38mであるが、断面見通し図からは1.6m程度が確認できる。焼成部上位にいたると、埋土の様相が大きく変化する。床面直上には10～20cmあまりのにぶい黄橙色土（25層）、その上層には天井壁の崩落土層（39・41層）が確認されることから、焼成部上位は焚口部周辺の崩落後もしばらく天井壁が残存していた状況がうかがえる。また天井壁も通常の

地下式で認められるバイラン土＋窯壁という構成ではなく、汚れた赤褐色土と窯壁が混濁した状態で確認され、まったく異質なものである。

**焚口・燃焼部**　焚口部は、左側壁は側壁と前壁の境が確認されたことから位置が確定できる。この真下には構造材が４本確認され、上部は厚さ30cmほど貼壁が認められる。貼壁は床面から58cmの高さで確認され、前壁の高さは44cm。側壁側しか残存しないが、焚口部天井はまだ高かったものと考えられる。また、前壁より手前側に仮設天井が存在した痕跡は確認できなかった。一方、右側壁では前壁は確認できなかった。しかし、左側壁で確認された前壁と反対側に構築材の集中が認められ、これを境に窯尻側の側壁にアーチが認められる。また、窯体内縦断土層においても天井壁崩落土（８層）がほぼ同じ位置に確認されることから、左側壁と同じ位置に焚口部があったものと考えられる。焚口部の幅は1.78mである。

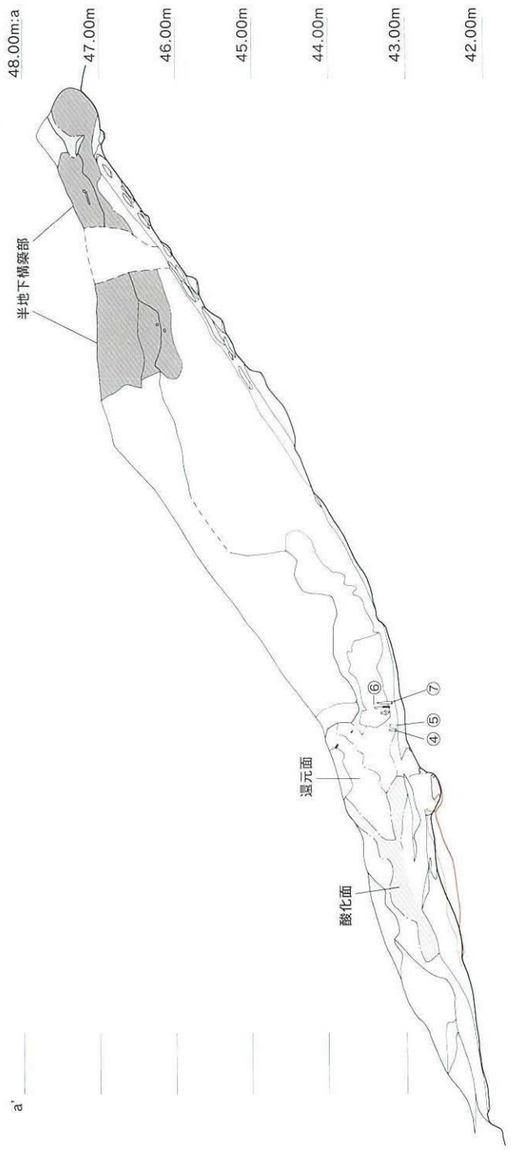
燃焼部は、焚口部の手前側に傾斜変換線が認められる。この変換線は、左側壁は2.45m、右側壁は1.74mと左右で一致しない。また、焚口部から側壁の酸化焔焼成面までは左側壁3.14m、右側壁2.38mと左側壁の被熱範囲の方が右側壁に比べて広いことが確認できる。焚口部より奥では、焚口部より緩やかに上がっているため、焼成部との境と考えられる傾斜変換点は見出しにくい。このため、灰層（11層）の先端を参考にすると、焚口部より奥へ46cmまで確認できる。したがって、灰層の先端から側壁被熱範囲の長さは、左側壁3.60m、右側壁2.84m。焼成部境幅1.91m、燃焼部入口幅は1.47～1.58m、凹凸が著しいが灰層の先端から側壁の被熱範囲までの床面傾斜角度はおおむね10°である。

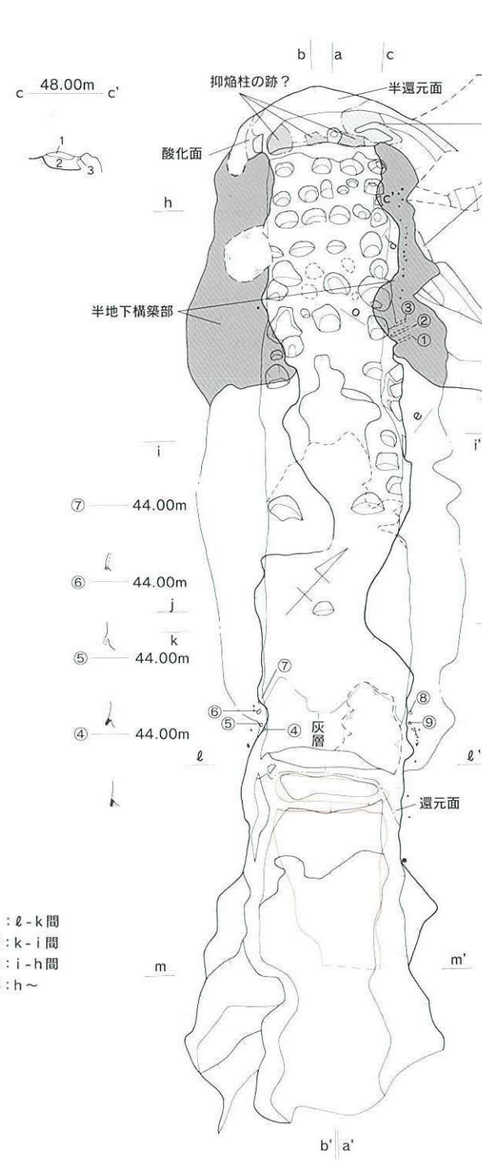
燃焼部の床面には、長さ0.80m、幅1.79m、深さ0.26mの細長い土坑が確認され、窯の主軸に直交する。これは焚口部の手前0.38mの所から掘り込まれており、最終操業面造成当初においても確認することができる。通常、焚口部下には舟底状ピットが掘られることが多いが、検出された土坑は形態が異なっている。また、この土坑より手前側の床面は被熱が弱いが、土坑より窯尻側では床面が還元焔焼成を受けている。

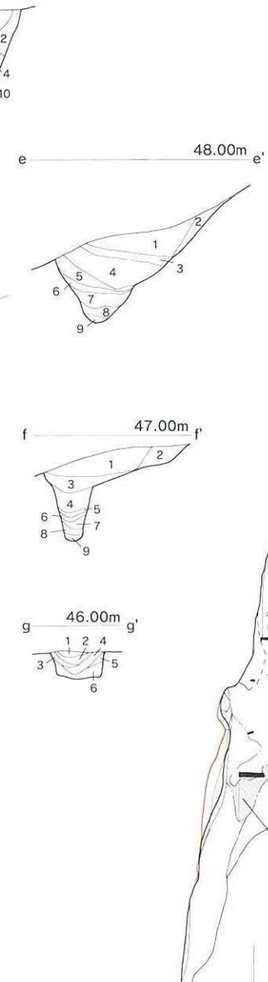
以上は最終操業面最終操業段階床面の状況である。最終操業面造成当初床面は、焚口部より約3.2m手前までしか確認できなかったが、最終操業段階より約20cm下で確認され、横断面は鍋底形で、溝状に近い燃焼部であったようである。

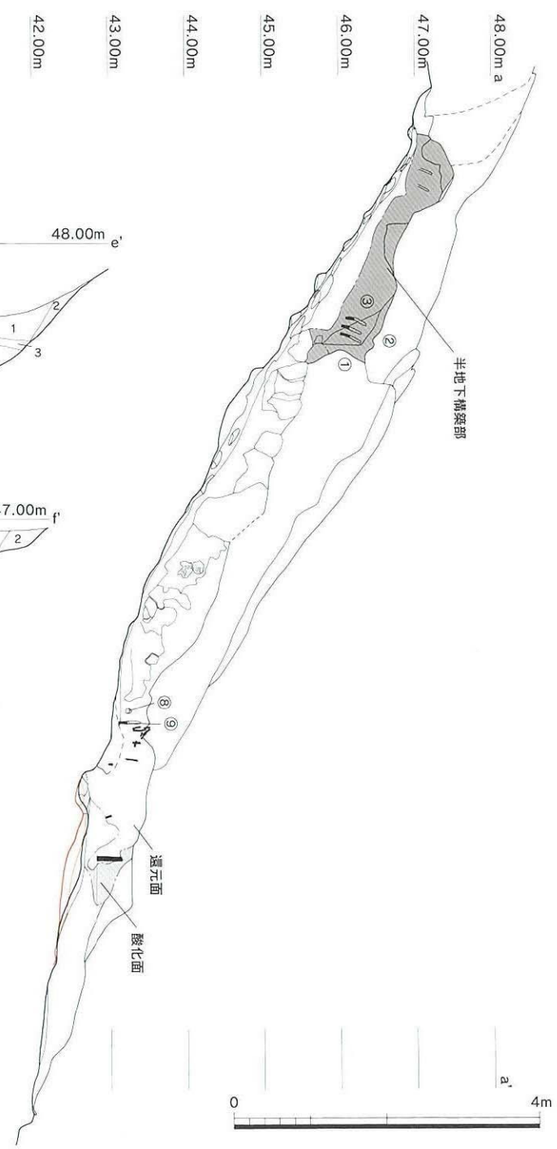
**焼成部**　焼成部は、中位辺りから右側壁の幅を減じており、窯尻側の幅が狭くなっている。最大幅は焚口部に近い所にあり、1.96m、窯尻で幅1.58m、焼成部中位幅1.58m、焼成部長6.91mである。焼成部床面傾斜は焼成部中位までは16～29°と弓なりに上がり、上半は34°で平板になる。床面には、下半は両側壁に沿って置台が掘り込まれているが、上半は階段状に６列確認できる。置台の他、焼成部中位あたりには断ち割りをおこなうと支柱の痕跡が確認できた。貼床は、焼成部下半に確認できる。側壁は焚口部より左側壁で4.52m、右側壁で4.66mの所まで地下式で、これより窯尻側は半地下式になる。半地下部分は、焼成部中位で床面からの高さ左側壁最大72cm、右側壁最大37cmの地山を残す。この地山上に窯壁が構築されるが、窯尻では焼成部床面と地山との比高差はほとんどない。

半地下部分では、窯壁にスサが極めて多く混ぜられていた。土層断面で確認できた範囲では、側




c - c '
1 にぶい黄橙色土10YR6/3　焼土･窯壁を多く含む。
2 にぶい黄橙色土10YR6/4　少量の窯壁屑を含む。
3 灰褐色土5YR6/2　焼土･窯壁を含む。

d - d '
1 黄褐色土10YR6/6　褐色土10YR4/4を含む。
2 浅黄色土2.5Y7/3　バイラン土。にぶい黄色土2.5YR6/4を含む。地山崩落土。
3 浅黄色土2.5Y7/3　バイラン土。
4 にぶい黄色土2.5Y6/4　地山崩落土。
5 褐色土10YR4/6
6 褐色土10YR4/4　にぶい黄褐色土10YR5/4･黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む。
7 にぶい黄褐色土10YR5/4　しまりなし。
8 黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4を含む。
9 にぶい黄褐色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/6を少し含む。
10 浅黄色土2.5Y7/3　バイラン土。褐色土10YR4/4を含む。
11 褐色土10YR4/6
12 褐色土10YR4/6　黄褐色土10YR5/6　しまりなし。
13 にぶい褐色土7.5YR5/3
14 暗褐色土10YR3/3　炭化物多く含む。しまりなし。
15 褐色土10YR4/4　しまりなし。

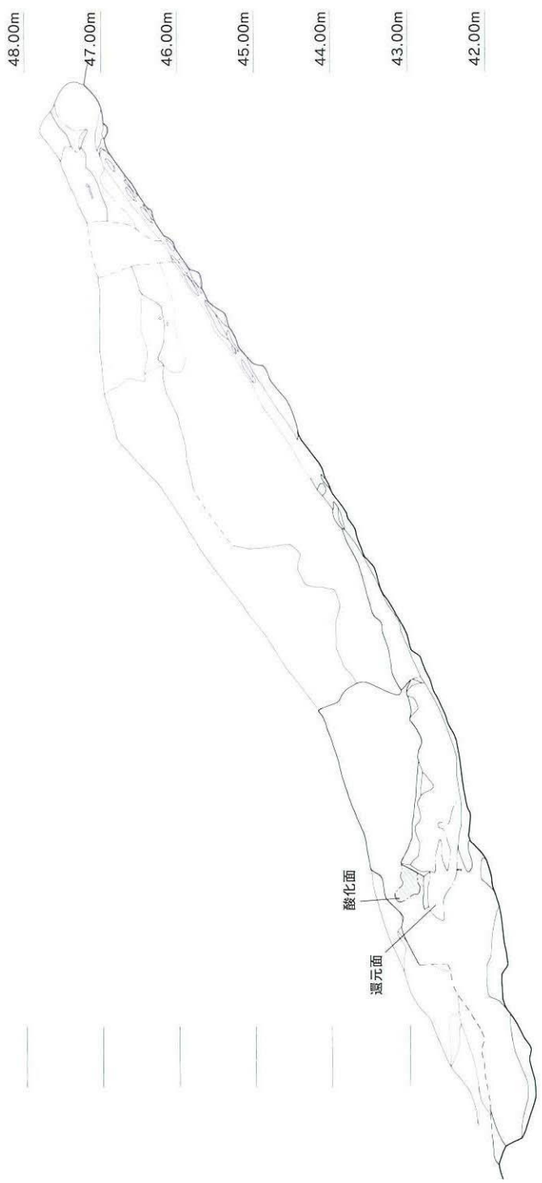
e - e '
1 にぶい黄褐色土10YR5/4　炭をわずかに含む。埋土。f - f 'ベルト1層と同じ。
2 にぶい橙色土7.5YR5/4　しまりなくやわらか。本来は地山。f - f 'ベルトの2層と同じ。
3 褐色土7.5YR4/4　しまりあり。炭をわずかに含む。
4 黄褐色土10YR5/6　炭･焼土を多く含む。崩落時の層位？
5 明褐灰色土7.5YR7/1　しまりなくやわらか。砂質。
6 橙色土7.5YR6/6　しまりありかたい。
7 にぶい黄褐色土10YR5/4　焼土･炭を少し含む。しまりなくやわらか。
8 にぶい橙色土10YR6/4　しまりなくやわらか。
9 明褐色土7.5YR5/6　しまりありかたい。

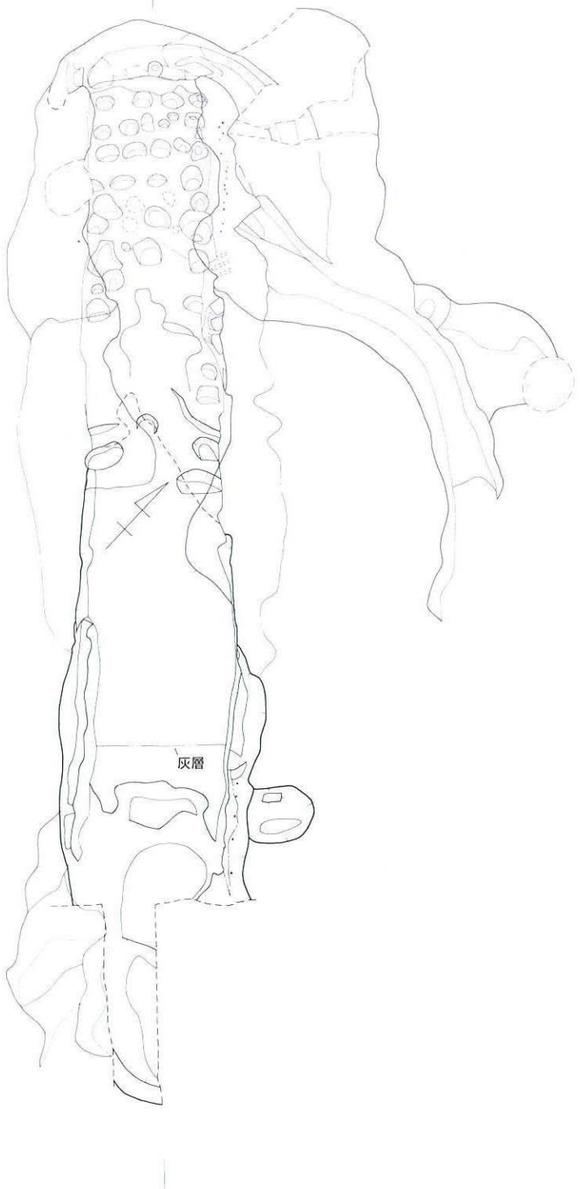
f-f'
1 浅黄色土2.5YR7/3　炭をわずかに含む。埋土。
2 灰白色土2.5Y8/1　にぶい橙色土7.5YR5/4を含む。しまりなくやわらか。本来は地山で風化してやわらかい。
3 灰褐色土7.5YR5/2　炭･焼土を含む。しまりありかたい。埋土。
4 褐色土7.5YR4/4　炭･焼土を多く含む。g - g 'ベルトの4層に近い。
5 明褐灰色土7.5YR7/1　しまりなくやわらか。砂質。崩落初期の層。
6 橙色土7.5YR6/6　しまりありかたい。作業路床面。
7 褐灰色土7.5YR6/1　しまりなくやわらか。8層を含む。作業路床面。
8 にぶい橙色土5YR6/4　しまりなくやわらか。7層を含む。作業路床面。
9 灰褐色土7.5YR6/2　しまりありかたい。作業時床面。

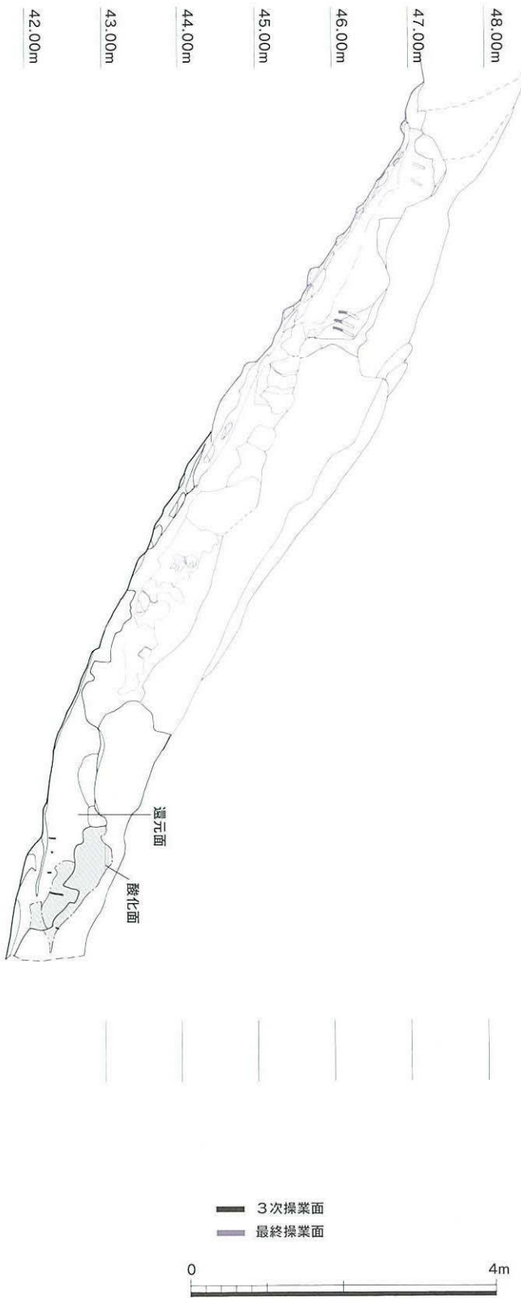
g-g'
1 浅黄色土2.5Y7/4　炭を少量含む。
2 灰黄色土2.5Y7/2　焼土を含む。粗砂混じる。
3 浅黄色土2.5Y8/4
4 褐色土7.5YR4/4　焼土･炭混じる。
5 浅黄色土2.5Y7/3　炭をわずかに含む。
6 暗灰黄色土2.5Y4/2　炭をわずかに含む。

o-o'
1 にぶい黄橙色土10YR7/4　窯壁片等を含む。しまりなくやわらか。
2 灰白色土10YR8/2　砂質土。しまりなくやわらか。
3 にぶい黄褐色土10YR5/3
4 褐灰色土5YR4/1　仮設天井～側壁になり酸化焼成された層。

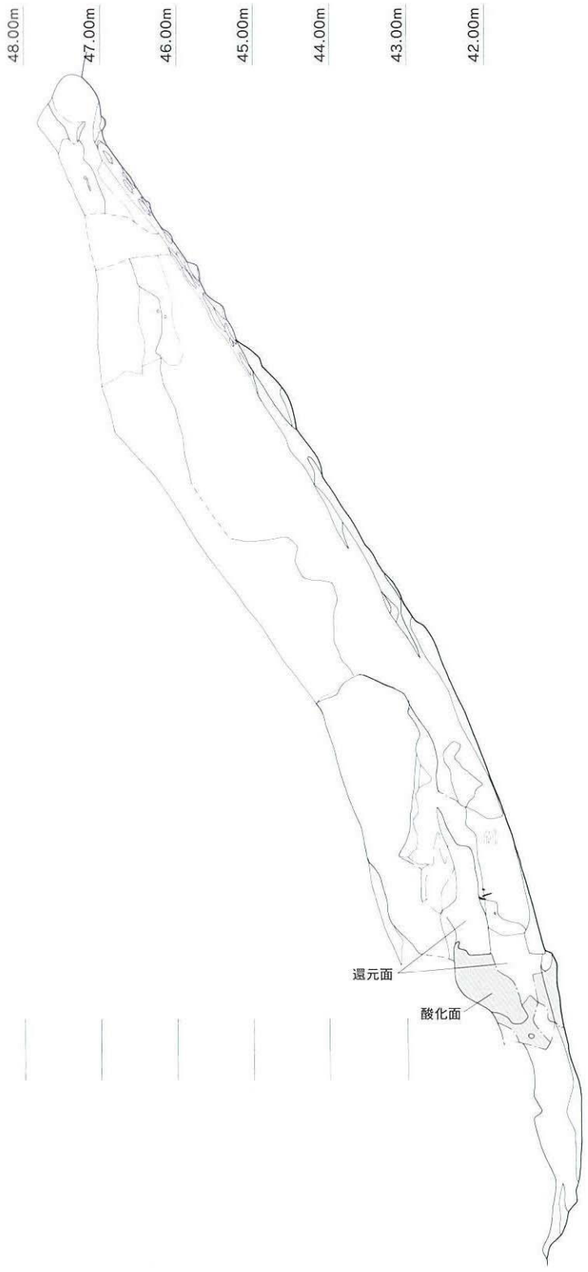
第６図　１号窯跡最終操業面実測図（１／80）

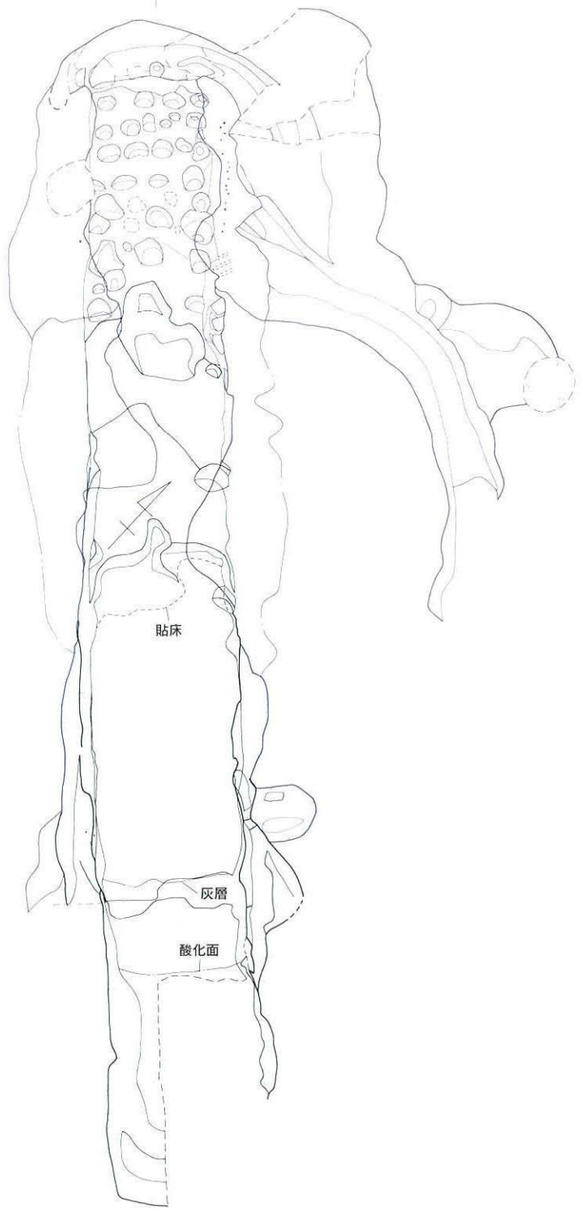


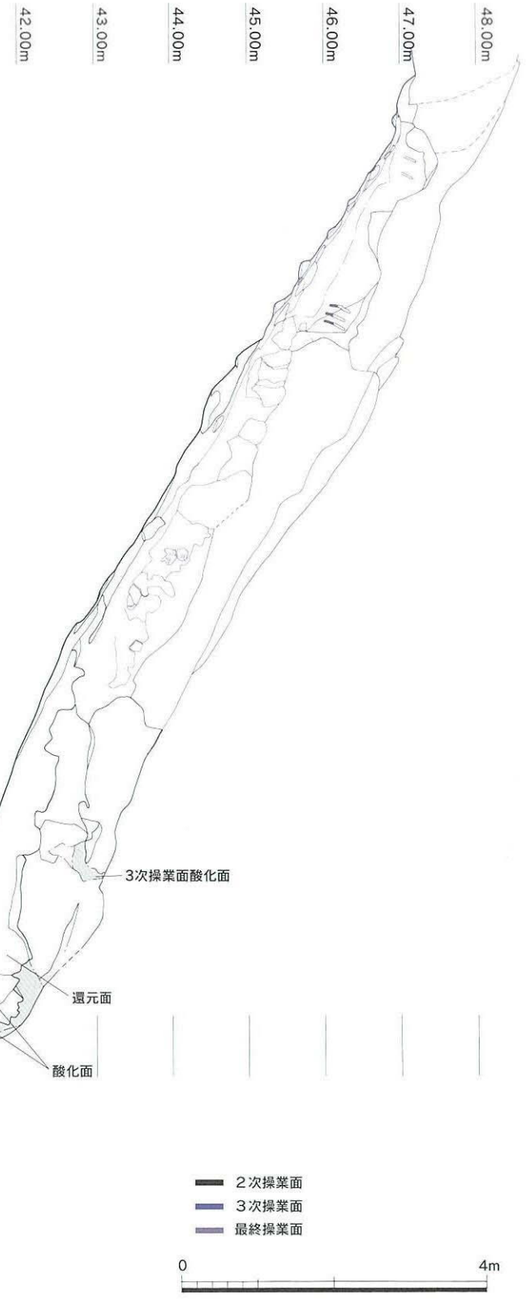




第７図　１号窯跡３次操業面実測図（１／80）



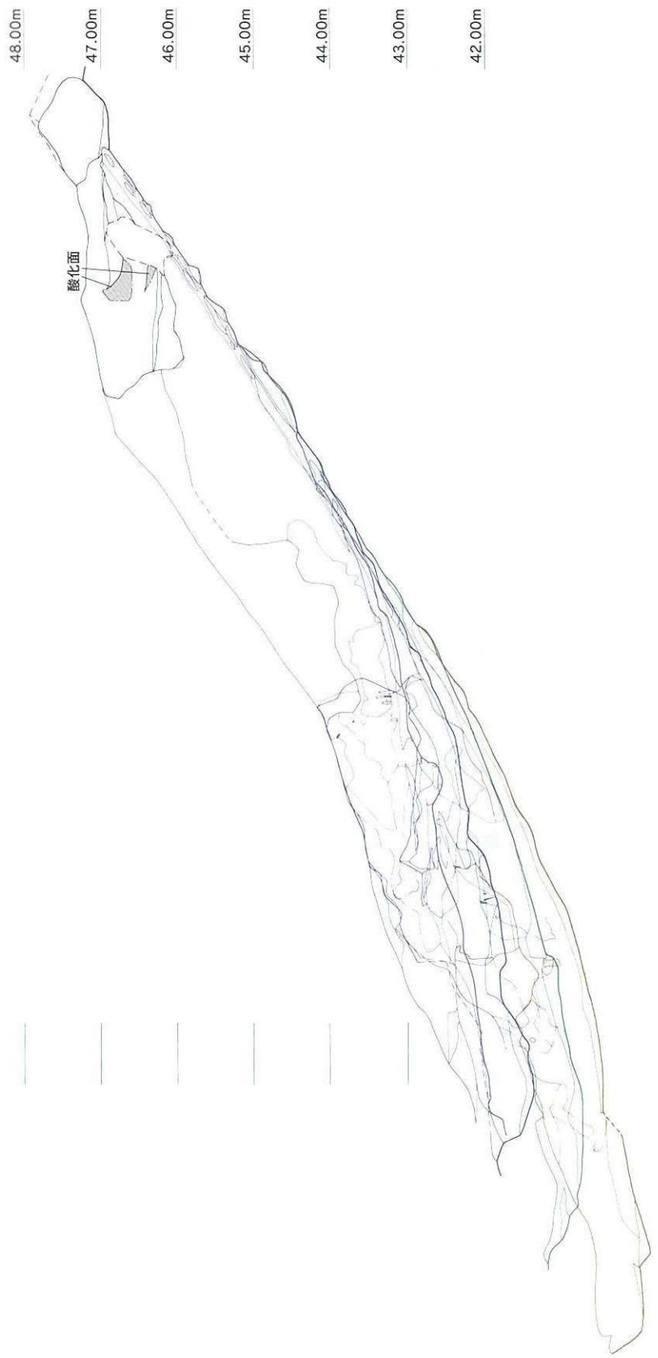



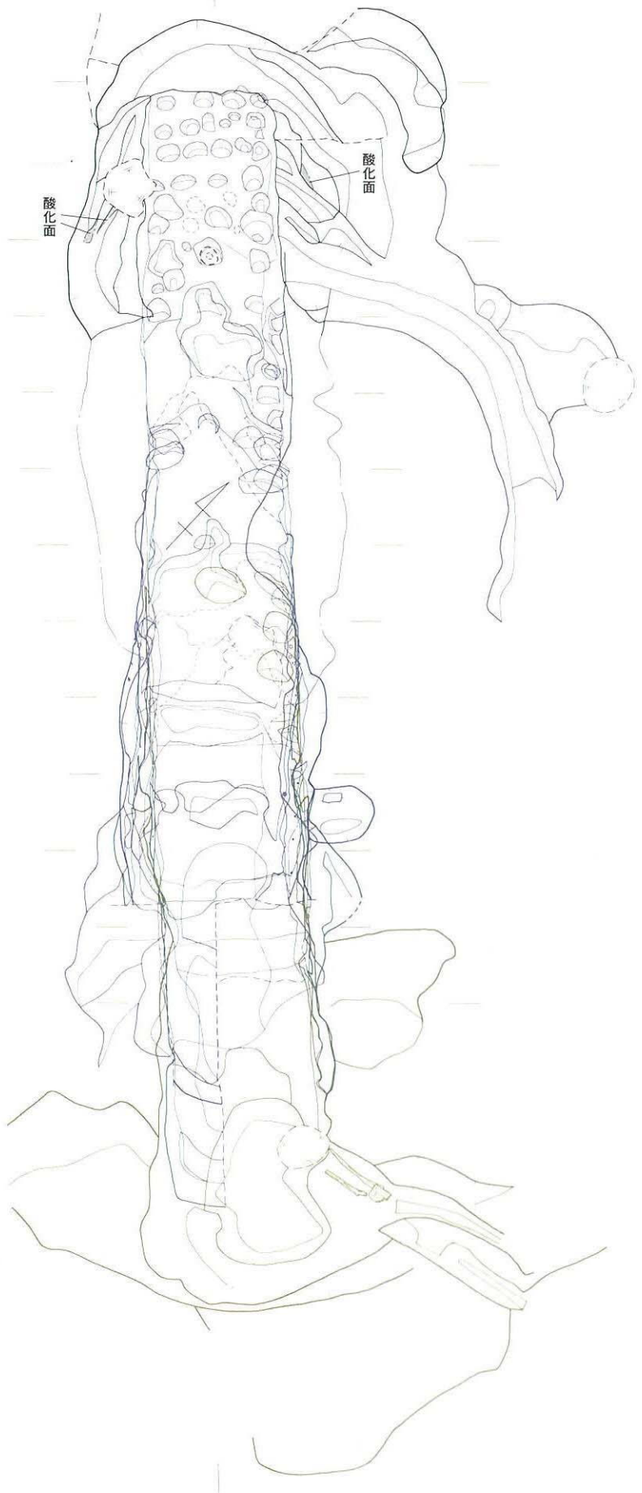




第８図　１号窯跡２次操業面実測図（１／80）




第９図　１号窯跡１次操業面実測図（１／80）

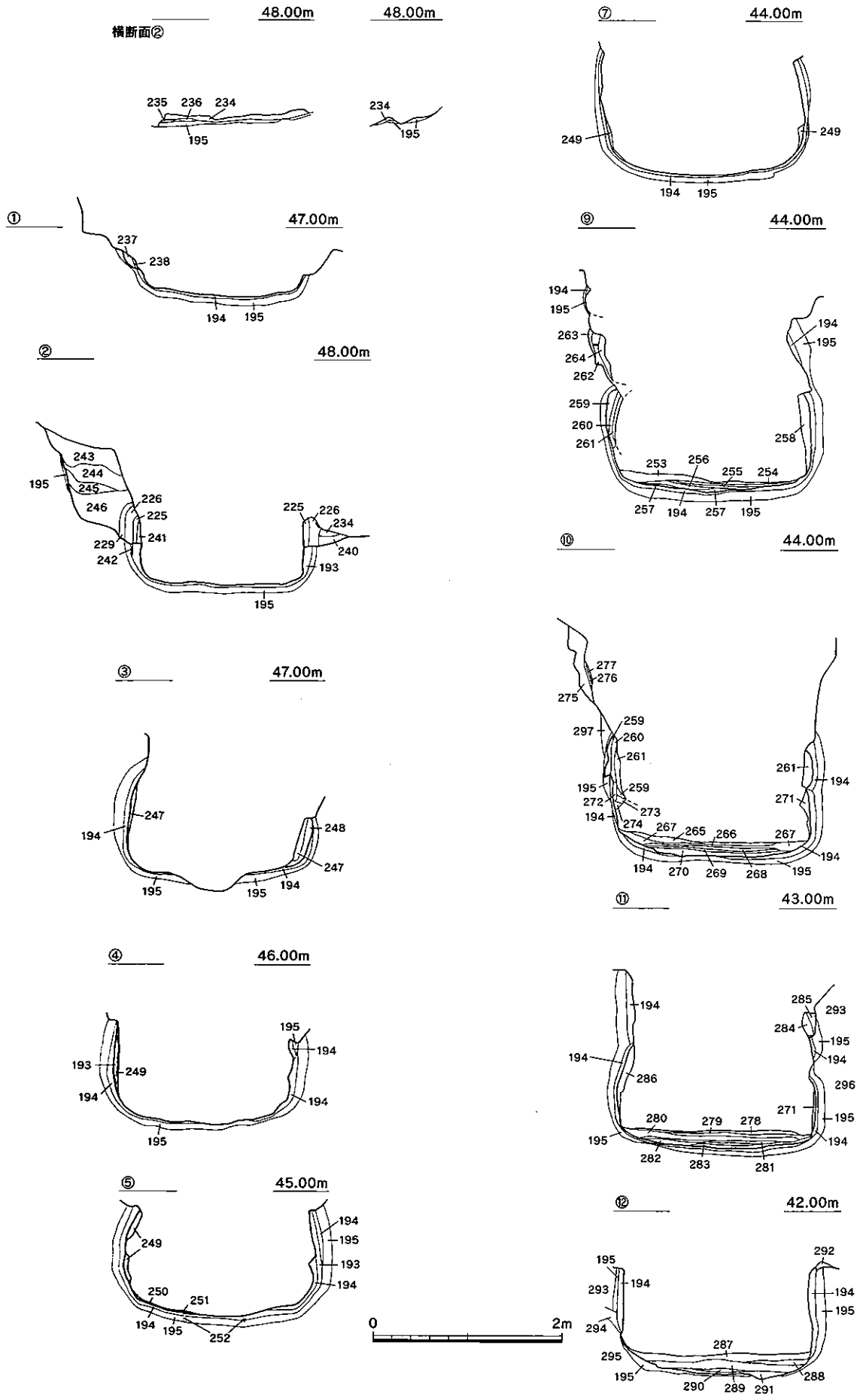






第10図　１号窯跡焼成部上半半地下部分完掘実測図（１／80）




**第11図　1号窯跡窯体断割実測図（1／60）**

壁は20cm前後被熱がおよび、その外側に右側壁は裾部で60cm、中位あたりで25cmの控え積みの土が確認された。これは窯体の保護盛土と考えられる。同様の保護盛土は左側壁でも確認されている。また、最終操業面埋土中から採取された天井壁の破片は、最も厚いもので15cmほどである。内面は崩れるものが多かったが、外面は平滑に仕上げられ、表面は暗赤褐色を呈するものが多数確認された。この面は保護盛土として表面に出ていたものと考えられ、丁寧に整形されるのは首肯されるが、表面のみ色が異なるのは保護盛土に何らかの処置を加えたものと理解されるものの、どのような処置であったのかは判断できない。

窯壁内からは、窯体の構築に関わる構造材が多数検出できた。確認できた構築材は特に右側壁に多く、10～20cm間隔で側壁の内部で確認された。樹立方向が確認できたものでは、焚口部の構築材がほぼ直立するのに対し、側壁ではやや焚口側に傾いた状態であった。また、構築材はいずれも半地下部の窯壁内で止まり、地山には打ち込まれていなかった。太さは直径2～3cmのものが多く、崩落した天井壁にも径3cmほどの構築材が10cmほどの間隔で並べて使われるものがあった。

半地下部を完掘すると、左側壁は、標高46.2～46.3mと46.7～47.0mにテラスを有する。仮にこれを下から1段目・2段目とすると、1段目テラスに面した壁面が弱く酸化焔焼成されている。また、2段目テラス下にも壁面が焼けている。標高は46.6～47.0mにあり、2段目テラスにより削られているように見える。この部分の土層を確認すると、断割②において標高46.6mを境に堆積状況に違いが認められる。これらのことから、左側壁ではテラスと焼成壁面から、①1段目テラスに伴う酸化焔焼成壁面、②2段目テラスに切られる酸化焔焼成壁面、③2段目テラスの3つの段階が確認できる。

右側壁は、作業路が複数確認される。床面の標高は45.9～46.1m、46.35m、46.9mにあたる。仮にこれを下から1～3段目作業路と呼称する。1段目作業路は、床面幅0.35mでのびてきたものが窯に取り付く手前から幅を0.6mに広げる。壁面には標高46.2mにテラスを有する。2段目作業路は長さ0.9mが確認され、上端幅0.35mと細い。壁面には標高46.5mにテラスを有し、斜面上方にややふくらむ。また壁面は焼けており、標高は46.4～46.8mにあたることからこの作業路にともなうものと考えられる。3段目作業路は長さ1.5m、上端幅0.5mで窯尻に向かって直線的にのびる。このほか、最終操業時には3段目作業路は埋まっており、土層断面で外側にさらに作業路が確認される（4段目作業路）。以上のことから、左側壁では1～4段目までの4段階の作業路が確認され、1段目から順次斜面上方にむかって設置される。

**排煙部**　窯尻は、ほぼ地上式に近い状況で多孔式煙道が構築される。右側壁側には排煙口が半分ほど残っており、高さ19cm、長さ32cm、幅は床面の焼け具合から40cmほどであろうか？排煙口の立面形は、横楕円形に近いと考えられる。床面は貼床が認められ、作業路床面まで続く。作業路との連接は、完掘状況ではほぼ水平であるが、貼床が施される時は排煙部側がわずかに上がる。中央には径20cmほどの小穴があり、その周りの貼床は黒く、左側壁側も同様に黒くなっている。この黒化する部分の間には幅20cmほどの還元面が焼成部より続き、ここに排煙口が設けられ、黒化部分は煙道を区切る抑焔柱であった可能性もある。

**作業路**　排煙部から続き、窯の右側にのびる。床面は中央から左側壁にかけては還元状態に近いが、

右側壁は赤く焼ける。上方は大きく削平され、床面近くまで失われているため正確な規模は分からないが、主軸上で焚口部からの残存長は8.30m、焼成部からは残存長0.70m。最終操業段階の作業路は、窯体土層横断面で確認できるとおり、焼成部上半の窯壁を構築した後に窯壁控え積み土を掘り込んでいる。この窯壁構築時には、３段目作業路の右側を１m以上大きく掘り広げ、これを一旦埋めている。作業路の深さは作業路e-e'面土層で0.74m、床面の幅は0.26m、作業路d-d'面土層で最も高い所から1.64m、床面の幅0.21mと幅が狭く、細長い。また、現場では確認できなかったが、他の作業路土層にも通常の自然堆積層とは考えにくい層があり、最終操業段階の作業路が全体を埋めた後に掘り直しをしているものと考えられる。したがって、作業路は斜面下方では浅く広く掘り込まれるのに対し、窯尻に近づくと幅が狭く細くなる状況がうかがえる。また、新しい掘り込みは作業路の右側を通るようであり、蛇行しながら窯尻にいたる。

**前庭部**　前庭部は、両側壁の被熱範囲から斜面下方の部分とした。盛土して造成されており、ほぼまっすぐの溝状を呈するが左側壁はやや広がっている。長さは左側壁で2.12m、右側壁で2.52m。前庭部土坑は確認できなかった。

**灰原**　灰層の上層には谷部の埋没土、窯体崩落後の埋土が確認され、これを１層として取り上げをおこない、灰層を２層とした。前述のとおり、11層が最終操業段階、63層がそれより上層の操業面の灰層であるが、調査時には斜面下方の灰層も最終操業面に伴うものと考え取り上げている。

**（2）３次操業面（第７図・図版14～17）**

３次操業面は、最終操業面の前庭部を断ち割った所で確認された。窯体は焼成部中位まで確認され、焼成部上位は最終操業面に連続することから窯尻の位置は不明であるが、最終操業面の焼成部上位の傾斜角度と３次操業面焼成部傾斜角度がほぼ一致することと、右側壁下に確認された３段目作業路の位置から、最終操業面とほぼ変わらない位置にあった可能性が高い。その場合、窯の全長は側壁の酸化焔焼成面の先端から窯尻まで、左側壁10.28m、右側壁で10.75mである。平面プランは焼成部中位が焚口部に比べてやや狭くなり、最終操業面と同様のプランをとる。焚口部両側壁は、上半を最終操業面側壁構築時に削られることから、この部分が地下式であったか否か判断に躊躇する。しかし、右側壁に構築材が確認され、両側壁とも厚い貼壁が認められることから、部分的には半地下式であった可能性が高い。焼成部は地下式と考えられるが、中位より上方は半地下式と考えられる。

貼床は、焚口部付近は２次操業時の窯壁（150～152層）を多く含み、最大0.57m確認される。前庭部は、盛土をおこなって前庭部土坑を造成する。盛土の最も厚い所では、0.72mである。

**焚口・燃焼部**　焚口部の位置はよく分からない。しかし、右側壁には構築材が確認され、ここから前庭部土坑が始まることと、側壁の被熱状況からこれより窯尻側に焚口部があったと考えられる。

燃焼部は、前庭部土坑より37cm窯尻側で傾斜変換点があり、灰層の先端もほぼ同じ位置にあることから、これから手前とする。したがって、燃焼部の長さは左側壁1.41m、右側壁1.88m、焼成部境幅1.68m、燃焼部入口幅1.80m、床面は水平に近い。この位置は最終操業面と比べて、1.74m前庭部側にあり、0.92m下方にある。

**焼成部**　焼成部は確認された長さは4.72m、最終操業面の窯尻までは8.87m、焼成部中位幅1.79

mで、やや右側に歪んでいる。焼成部床面傾斜は、燃焼部から焼成部下位までは9～23°、焼成部中位までは27～34°と弓なりに上がっていく。床面が確認されたのは、地下式の部分にあたる。床面には置台が確認されるが、焼成部中位以上であり、両側壁に沿った位置にあたる。

**前庭部**　燃焼部から下方には、長さ4.22mの前庭部土坑が確認される。幅は、断ち割り等をおこなったため正確な数値は不明であるが、おおむね燃焼部と同じ幅と考えてよい。テラスを有し、灰原へ向かうにしたがい次第に深くなり、燃焼部床面から0.86m下がる。なお、この土坑床面はまったく還元せず、床面に還元面が認められるのは燃焼部からである。

**灰原**　3次操業面に伴う灰層は、68・113層にあたる。調査時には最終操業面の灰層として斜面下方に下がる灰層を掘り上げたが、整理作業段階に縦断土層図で確認すると、68層の続きが斜面下方にのびていたようである。したがって、3次操業面灰層と最終操業面灰層の遺物が一部混ざった可能性がある。土層断面上で確認された層に関しては層位的に取り上げをおこない、最終操業面盛土・貼床を3－①層、3次操業面灰層を3－②層とした。

**（3）2次操業面（第8図・図版18～20）**

2次操業面は、3次操業面の前庭部を断ち割った所で確認された。窯体は焼成部中位まで確認される。焼成部上位および窯尻は、2次操業面焼成部下位の傾斜角度と最終・3次操業面の焼成部上位傾斜角度が合わないことから、造成時に掘削を受けたものと考えられる。したがって、窯尻の位置は不明であるが、右側壁下に確認された作業路の築造順序から、2段目作業路と考えることも可能である。その場合、窯の全長は側壁の酸化焔焼成面の先端から2段目作業路床面（焚口側）まで、左側壁10.68m、右側壁で10.52mである。平面プランは、焼成部中位が焚口部に比べてやや狭くなるようである。焚口部は、土層および地山の状況から見て地下式であったと考えられる。一方窯尻側については、2段目作業路が1段目作業路よりも床面（焚口側）で長さ1.31m、高さ0.71m斜面上方にあることから、この時点で窯尻は半地下式に改造されていたものと考えられる。

貼床は、大きく分けると2面（158層、178層）が確認できるが、層位から見るとさらに1～2面あった可能性が高い。貼床内には1次操業時の窯壁（171・174層）を含み、厚さは最大0.35m確認される。前庭部は、盛土をおこなって前庭部土坑を造成する。盛土の最も厚い所では、0.60mである。

**焚口・燃焼部**　焚口部の位置については定かではないが、床面に残る段を境に窯尻側は還元を受けることと、灰層が若干先まで伸びることからこの辺りにあったものと考えられる。この場合、左側壁では焚口部より奥壁側で構築材が確認できる。この部分は地下式であったと考えられるが、部分的に天井部を支えていたものであろうか？

燃焼部は、床面が傾斜しているため灰層の先端部を参考にすると、焚口部の段より20cm窯尻側までのびており、ここまでが燃焼部とする。したがって、燃焼部の長さは左側壁1.52m、右側壁1.36m、焼成部境幅1.71m、燃焼部入口幅1.54m、床面は15°の傾斜をもって上がる。この位置は3次操業面と比べて、1.68m前庭部側にあり、0.94m下方にある。

**焼成部**　焼成部は確認された長さは7.8m、2段目作業路まで9.16m、焼成部中位幅1.68mで、最終操業面に比べ主軸が20cmほど右側にある。焼成部床面傾斜は、燃焼部から焼成部下位までは15

～20°、焼成部中位までは23～31°と弓なりに上がっていく。左側壁には構築材の痕跡が認められるが、いずれも側壁の上部にある。この部分は地下式であったと考えられるが、あるいは天井部を補強するためのものであろうか？床面には置台が確認されるが、右側壁にそってわずかに確認されるに止まる。

**前庭部**　燃焼部から前庭部側は、焚口部の段よりそのまま下がる前庭部土坑が確認される。長さは段から4.04m、幅は断ち割り等をおこなったため正確な数値は不明であるが、おおむね燃焼部と同じ幅と考えてよい。床面は平らになり、比較的浅く、段から最大0.47m下がる。なお、この土坑底面はまったく被熱しない。

**灰原**　２次操業面に伴う灰層は、70・74・75層にあたる。燃焼部から続く土坑は73層に埋められる。73層は純粋な灰層というより、土坑を埋めたものと考えることができる。したがって、２次操業面では、最終操業段階にあたってそれ以前の灰層（74層など）を埋めて（73層）、２次操業面の最終操業（70層）がおこなわれたものと考えられる。掘削時には灰層（70層）が薄かったため、確認することができなかった。なお、土層断面上で確認された層に関しては層位的に取り上げをおこない、３次操業面盛土・貼床を３－③層、２次操業面灰層を３－④層とした。

**（4）１次操業面（第９図・図版21～23）**

１次操業面は、２次操業面の前庭部を断ち割った所で確認された。窯体は焼成部中位まで確認される。焼成部上位および窯尻は、２次操業面焼成部下位の傾斜角度と合わないことから、造成時に掘削を受けたものと考えられる。このため、窯尻まで焼成部は連続しないが、作業路の掘削状況から考えると、１段目作業路が１次操業面にともなうものと考えられる。この場合、窯の全長は側壁の酸化焔焼成面の先端から１段目作業路床面（焚口側）まで、左側壁10.67m、右側壁で11.13mである。平面プランは、焼成部中位がややふくらむようである。焚口部は、２次操業面構築時にほとんど壊されるが、両側壁にわずかに残る前壁から、この部分は地下式であった可能性が高く、１次操業面は焚口部から排煙部まで地下式であったと考えられる。

貼床は、３～４cmで重ねられており、間に灰層も確認できることから複数回の操業がおこなわれたものと考えられる。貼床の厚さは約20cm確認される。前庭部土坑内には炭化材が多量に入っており、灰層上に操業面が形成される。周囲からは湧水が著しく、操業には不適であったのではなかろうか？

**焚口・燃焼部**　焚口部は、両側壁に前壁との境が確認されたことから位置を推定できる。ただし、前壁はすべて壊れていることから、一応残存状況のよい右側壁の位置をもって焚口部としたい。焚口部幅は1.84mである。焚口部の周辺では側壁に構築材の痕跡を確認できず、焚口から窯尻まで地下式であった証左となろう。焚口から側壁ののびる方向からすると、１次操業面における窯の主軸は最終操業面の主軸より２°ほど西側にあり、操業当初と終了時点ではわずかながら規格の違いがうかがえる。

燃焼部は、床面の傾斜変換点は0.55m前庭部側にある。一方、灰層の先端部は焚口部の奥側0.28mにあり、先の傾斜変換点は燃焼部と焼成部の境を表さないことから、灰層の先端までが燃焼部とする。したがって、燃焼部の長さは左側壁1.77m、右側壁2.23m、焼成部境幅1.94m、燃焼部入

口幅1.80m、床面は水平な床面から７～13°の傾斜をもって上がる。この位置は２次操業面と比べて、0.78m前庭部側にあり、0.64m下方にある。

また、一部図化できなかったが、貼床をはがすと燃焼部の床面には長さ0.40m、幅1.72m、深さ0.07mの細長い土坑が確認され、窯の主軸に直交する。これは焚口部の手前0.51mの所から掘り込まれている。この溝は、土層縦断面図にも現れており、深さ13cmと浅く、また早い段階で貼床（86層）が施されて埋められていたようである。同じような溝が最終操業面造成当初においても確認することができ、この窯跡の構造の特徴とすることができよう。

**焼成部**　焼成部は確認された長さは4.88m、１段目作業路まで8.62m、焼成部中位幅1.80m。焼成部床面傾斜は、燃焼部から焼成部下位までは15～23°、焼成部中位までは27～34°と弓なりに上がっていく。床面には置台が確認されるが、右側壁にそってわずかに確認されるに止まる。貼床を除去すると、焼成部下位に浅い溝を三又に掘り込んでいた。溝は長さ1.18～1.4m、幅は10cm程度で焚口側へむかって細くなり、深い所でも10cm程度と浅い。焚口部から入って50cm程度の所に位置するが、機能は不明である。

**前庭部**　燃焼部に連接して、幅3.38mの土坑が掘られる。土坑底面には燃焼部から下がる前庭部土坑がある。土坑の右側には、幅20～45cmの溝がつき、溝と土坑の連結部には溝と同じ方向に径４～６cmの自然木などが置かれていた。溝は排水の用途が考えられる。

前庭部土坑は、長さ2.2m、幅1.34mの不整楕円形である。深さ20cm程度。土坑底面はまったく被熱・還元しない。なお、貼床を除去した所、土坑底面へむかってテラスをもちながら次第に下がる様子が認められた。

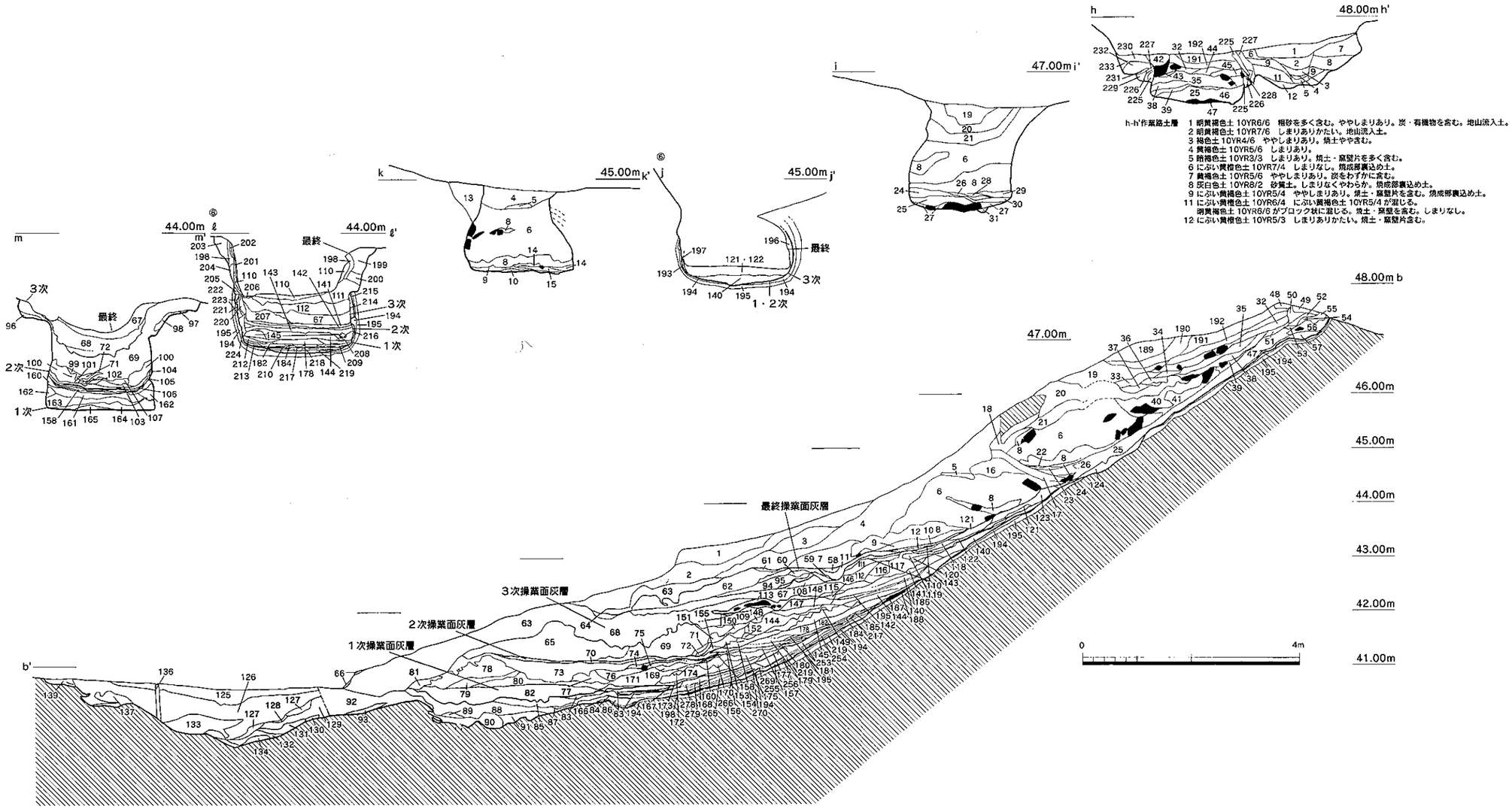
**灰原**　１次操業面に伴う灰層は、82・83層にあたる。88～91層は灰層というより、前庭部を埋めた土である。灰層から出土する炭化材は大きなものが多く、燃えさしもあり生々しい。灰層は谷底へ向かって下るが、前庭部土坑の底面と谷底は35cmほどしか比高差がなく、灰層は斜面下方に広がるよりも前庭部土坑周辺に広がるのであろうか。なお、土層断面上で確認された層に関しては層位的に取り上げをおこない、２次操業面盛土・貼床を３－⑤層、１次操業面灰層を３－⑥層、１次操業面盛土・貼床を３－⑦層とした。

**（5）灰原（第12・13図・図版25・26）**

各操業面の灰層については前述のとおりであるので、ここでは、全体的な灰原について確認しておきたい。

灰原は焚口部から斜面下方にかけて広がる。谷底まで掘り下げる事ができなかったため、長さは不明であるが、検出時には幅24mの範囲に広がることが確認された。灰層は斜面部で50cmほど、谷底には厚く堆積し、１mをこえる。灰原が確認できた幅は広いが、検出できた長さが短かったため、横断面土層をとっていない。このため、各操業面の灰層が横方向へどのように広がるか、図化することはできなかった。

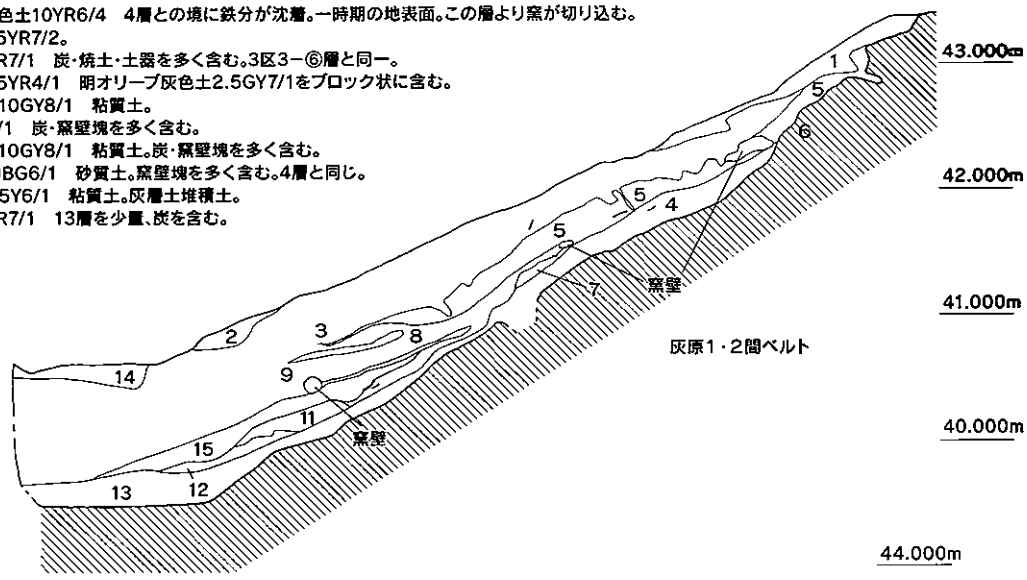
灰原は谷奥部から６区に分けて掘り下げた。このうち、確実な灰層が確認できたのは１～４区までで、５・６区は灰層が流れて堆積したようである。また、図化はできなかったが、各操業面にともなう操業面造成盛土と灰層が確認できたのは２・３区のみであり、１・４区に関しては明らかで

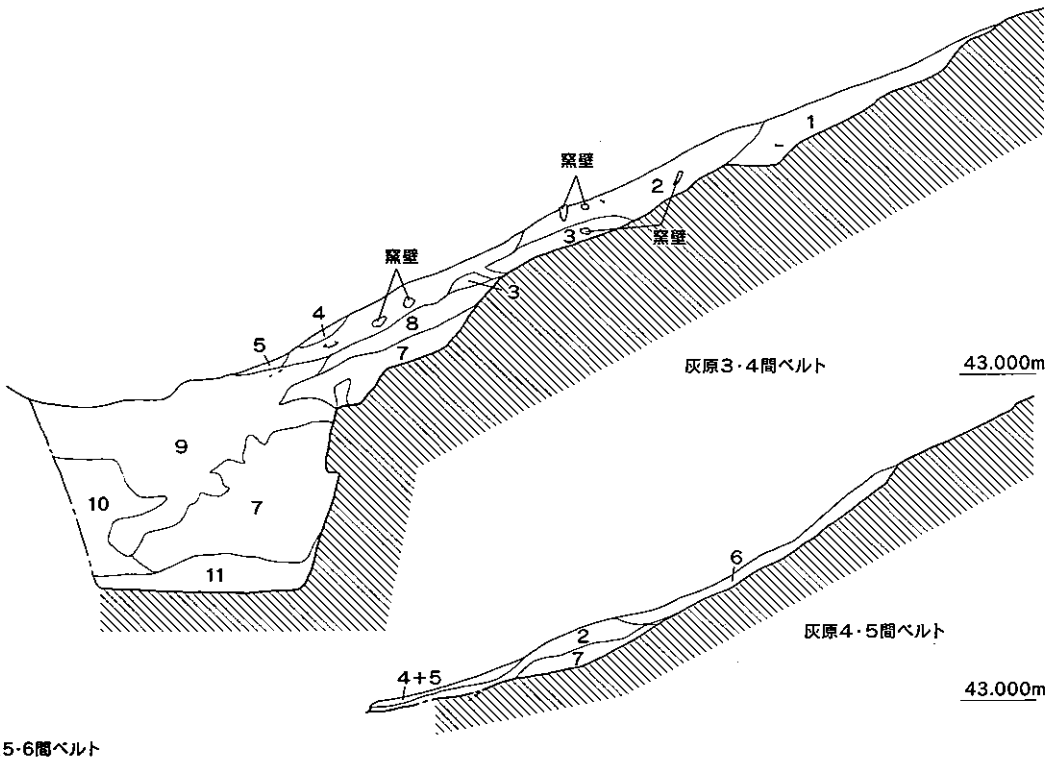



1 灰オリーブ色土 7.5Y6/2 シルト質。谷の埋土。
2 暗褐色土 10YR3/3 炭をわずかに含む。シルト質。窯体焚口部閉塞状況構築。有機質。
3 褐灰色土 10YR4/1 炭・焼土をわずかに含む。窯体焚口部閉塞状況構築。有機質。
4 浅黄色土 5Y7/3 シルト質。炭をわずかに含む。窯体閉塞状況初期構築。地山の流土。
5 にぶい赤褐色土 5YR5/4 焼土・炭を含む。天井壁等が崩れたもの。
6 にぶい褐色土 7.5YR6/4 焼土・炭を含む。地山との混土層。焼土が厚状に入る。
7 にぶい橙色土 7.5YR6/4 焼土・炭を含む。6 層と同じ。
8 天井壁崩落土層。天井壁焼土を含む。天井壁が一気に落ちているので全体的に残存。
9 にぶい橙色土 5YR7/4 砂質。しまりなし。窯体内埋土。
10 浅黄色土 2.5Y7/4 砂質。しまりなし。粘床。
11 黒色土 10YR1.7/1 粘性強い。炭を含む。灰層。
12 灰色土 N6/ しまりありかたい。砂質。粘床。
13 黄褐色土 10YR5/6 ややしまりあり。地山。
14 明黄褐色土 2.5Y7/6 しまりなくやわらか。
15 灰灰色土 2.5Y5/1 砂質。ややしまりあるが層は返切れる粘床の可能性あり。
16 暗赤褐色土 5YR5/6 しまりありかたい。焼土・窯壁片含む。天井壁の焼土が崩れたもの。
17 黄褐色土 10YR5/6 ややしまりあり。粘性が強い。
18 明褐色土 7.5YR5/6 にぶい赤褐色土 5YR5/4 を含む。
19 褐灰色土 10YR4/4 しまりあり。
20 明黄褐色土 10YR7/6 しまりありかたい。にぶい黄橙色土 10YR4/3 を含む。焼土・炭を少しむ。
21 明黄褐色土 10YR7/6 しまりありかたい。
22 黄褐色土 10YR5/6 砂質。しまりなし。
23 にぶい黄橙色土 10YR6/4 粘質土。
24 にぶい黄褐色土 10YR4/5 砂質。しまりなし。
25 にぶい黄橙色土 10YR6/4 砂質土と 23 層の混層。
26 黄褐色土 10YR5/6 粘質土。
27 にぶい黄褐色土 10YR5/4 しまりあり。粘性強い。焼土含む。
28 明黄褐色土 2.5Y7/8 粘質土。
29 褐色土 10YR4/6 砂質。しまりなし。マンガン付着。
30 にぶい黄橙色土 10YR6/4 砂質。しまりなし。
31 褐色土 7.5YR5/6 しまりあり。焼土塊を含む。
32 にぶい黄色土 2.5Y6/3 炭・焼土・窯壁崩れを含む。
33 黄褐色土 2.5Y5/3 焼土をわずかに含む。
34 褐灰色土 10YR4/1 窯壁崩れをわずかに含む。
35 にぶい黄褐色土 10YR5/3 窯壁崩れを多量に含む。
36 浅黄色土 2.5Y7/4 窯壁崩れをわずかに含む。
37 黄灰色土 2.5Y6/1 焼土・炭を含む。
38 暗褐色土 7.5YR3/4 窯壁崩れを含む。
39 黒色土 10YR2/1 しまりなし。砂質（粗砂）。焼土・窯壁崩れを含む。
40 にぶい赤褐色土 2.5YR4/3 しまりあり。天井壁との旅化層を崩したもの。
41 灰白色土 5YR8/1 硬い。天井壁還元層を崩したもの。
42 にぶい黄褐色土 10YR5/3 しまりありかたい。貴込め土。
43 オリーブ褐色土 2.5Y4/3 しまりなくやわらか。
44 にぶい黄褐色土 10YR4/3 炭・焼土をわずかに含む。しまりありかたい。
45 黄褐色土 10YR5/6 しまりありかたい。焼土・窯壁を含む。35 層と同一層の可能性もあが、焼土・窯壁の割合少なく、砂質でやわらかい。
46 褐色土 10YR4/6 しまりなし。38 層と同一層の可能性もあが、焼土・窯壁の割合少なく、砂質でやわらか。
47 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりあり。粘質。最終掻業面直上。焼土塊含む。
48 灰黄褐色土 10YR4/2 しまりあり。有機物を含む。
49 暗灰黄色土 2.5Y5/2 しまりなくやわらか。焼土塊含む。僅位のピットか？
50 黄褐色土 10YR5/4 しまりなし。有機物を含む。
51 褐黄褐色土 10YR5/6 ややしまりあり。48 層よりほった土質。灰黄褐色土 10YR4/2 を含む。
52 黄褐色土 10YR5/6 しまりなし。焼土を含む。
53 黄褐色土 2.5Y5/3 しまりなし。暗灰黄色土 2.5Y5/2 混じる。
54 にぶい黄橙色土 10YR7/2 しまりなくやわらか。
55 にぶい黄色土 10YR5/4 しまりあり。焼土・窯壁片を含む。にぶい黄橙色土 10YR6/3 混じる。
56 暗褐黄土5R5/6 しまりあり。焼土塊・窯壁を多量に含むが、25 層より粒土の割りたい。窯底の酸化層が確認したもの。
57 褐色土 10YR4/6 しまりあり。炭を含む。砂質。窯体内埋土。
58 灰黄褐色土 10YR5/2 粘質。13 層と同一レベルにあり、最終掻業時の掻き出しか？
59 にぶい黄褐色土 10YR5/3 粘質。窯壁含む。
60 褐灰色土 10YR5/1 砂に近い窯壁を含む。
61 暗色土 10YR1.7/1 粘質。炭を含む。
62 褐灰色土 10YR5/1 にぶい黄橙色土 10YR7/2 を含む。焼土・窯壁を含む。
63 黒褐色土 10YR3/1 炭を多く含む。灰層。
64 灰白色土 10YR8/1 粘質土。最終時に近い時期の前庭部基盤層。
65 灰白色土 10YR7/1 粘質土。灰層下窯壁り出し土。
66 黒褐色土 10YR3/1 粘質。灰層表面の粘土化した層。
67 灰黄色土 2.5Y7/2 粘質土。黒褐色土灰層や焼土塊を含む。
68 黒色土 10YR1.7/1 3 次掻業面灰層。焼けた窯壁片・炭・焼土（3 次掻業期自土焼壁）を多量に含む。
69 65 層十にぶい黄褐色土 10YR7/4 粘質土。鉄分の沈着が樹根状にみえる。
70 黒褐色土 10YR2/2 炭・焼土を多量に含む。
71 暗赤褐色土 2.5YR3/3～暗灰色土 2.5Y4/1 窯天井の崩落土。
72 橙色土 5YR6/8 窯天井の崩落土。
73 灰黄褐色土 10YR4/2 炭・焼土・窯壁片を含む。
74 黒色土 10YR1.7/1 ステスリ粘土半源元層。
75 灰黄土 7.5YR1.7/1 炭・焼土・窯壁粒を含む。
76 灰褐色土 5YR4/2 焼土・炭を少量含む。
77 灰黄色土 2.5Y7/2 炭・焼土を含む。
78 灰白色土 10YR7/1 炭・窯壁粒混じる。
79 黄灰色土 2.5Y5/1 窯壁焼・炭を含む。
80 灰白色土 10YR8/1 炭・窯壁焼を含む。
81 褐灰色土 10YR4/1 73・78 層を含む。
82 黒褐色土 10YR3/1 窯壁焼・炭化材・焼土を多量に含む。
83 黒色土 10YR1.7/1 粘質土。炭を含む。1-2 次掻業図灰層。
84 黒色土 10YR1.7/1 うすい層（筋状）。焼土・窯壁粒を含む。
85 浅黄色土 2.5Y7/3 窯壁焼・炭化材を多量に含む。1-2 次掻業図。
86 褐灰色土 10YR6/1 砂質。粘床。1-1 次掻業図。
87 黒色土 10YR1.7/1 粘質土。1-1 次掻業面灰層。
88 黒褐色土 10YR3/1 炭を多量に含む。窯壁焼を含む。1-1 次掻業図。
89 黄灰色土 10BG6/1 炭を多量に含む。
90 明黄灰色土 10BG7/1 炭・窯壁焼を多量に含む。
91 暗褐灰色土 10BG7/1 炭・窯壁焼を多量に含む。
92 褐灰色土 10YR5/1 砂質土。焼土粒を含む。
93 黒褐色土 10YR1.7/1 粘質土。灰層？
94 灰黄褐色土 10YR5/2 焼土・炭を多く含む。最終掻業面粘質層下層。
95 黒色土 10YR1.7/1 炭層。
96 にぶい黄色土 2.5Y6/3 炭・焼土を含む。2 次掻業時埋没土。
97 にぶい黄褐色土 10YR5/3 炭を含む。
98 鉄灰色土 5G6/1 粘質。しまりありかたい。
99 灰褐色土 7.5YR3/3 粘質。
100 黒褐色土 10YR3/2。
102 浅黄橙色土 10YR3/2 粘質土。
103 黒色土 N1.5/ 炭層最終掻業の オキ層。
104 黒色土 N1.5/ 灰層 2 次掻業面最終灰層。
105 褐灰色土 7.5YR5/1 しまりありかたい。2-2 次掻業図。
106 暗色土 10YR3/1 焼土？ 2 次掻業時期焼時の埋土。
107 暗赤褐色土 5YR3/3 焼製の崩れ。
108 赤褐色土 2.5YR4/8 炭を含む。焼土？
109 にぶい褐色土 7.5YR5/4 焼土粒含む。前庭部最下層。
110 にぶい黄色土 2.5Y6/3 かたい。床面。
111 灰白色土 2.5Y8/1 しまりなくやわらか。地山風質土。褐赤褐色土 2.5YR5/6 (焼土) と層混化。
112 にぶい黄橙色土 10YR6/3 しまりなくやわらか。焼土・窯壁を含む。3 次掻業床作埋土。
113 黒褐色土 10YR3/1 3 次掻業面灰層。
114 窯壁。
115 窯壁崩れ。
116 橙色土 2.5YR6/8 焼土と 112 層が混じったもの。
117 窯壁。バイラン土の混元したもの。地山の崩落土。
118 黒色土 10YR7/1 ステスリ粘土半源元層。
119 橙色土 2.5YR6/8 床面（最終床面）。酸化層。
120 浅黄橙色土 10YR8/4 しまりなくやわらか。3 次掻業面覆土。
121 灰白色土 N7/ しまりありかたい。粘床。
122 褐赤褐色土 5YR3/6 しまりなくやわらか。
123 橙色土 5YR7/8 焼土と窯壁片混じる。121 層を含む。粘床。
124 橙色土 2.5YR7/8 しまりありかたい。粘床。
125 紫灰色土 5P6/1 粘質焼・炭を含む。
126 黒色土 10YR1.7/1 窯壁焼などを含む。灰層。
127 にぶい黄橙色土 10YR7/3 しまりありかたい。
128 127 層に 126 層を含む。
129 褐灰色土 10YR5/1 92 層と同じ。
130 緑灰色土 10BG7/1 粘質土。地山と同じ土。黒色土・窯壁粒を含む。
131 黒色土 10YR1.7/1 炭を多量に含む。
132 褐灰色土 10YR5/1 砂質。炭を多く含む。
133 灰黄色土 2.5Y7/2 砂質土。
134 黄灰色土 2.5Y7/2 粘質土。
135 にぶい黄色土 2.5Y6/3 粘質土。
136 浅黄色土 2.5YR8/3 砂質土。125 層上には見えず。
137 明黄灰色土 10BG7/1 粘質土。炭を含む。
138 欠番。
139 灰白色土 7.5Y7/2 谷の埋積土。
140 灰白色土 2.5Y8/1 3 次掻業面粘床。
141 浅黄色土 2.5Y7/4 3 次掻業面粘床。
142 にぶい黄色土 2.5Y6/3 粘床。
143 暗赤褐色土 2.5YR3/6 焼土。酸化層。
144 浅黄橙色土 10YR8/4 地山崩落土。遺跡をあまり含まない。窯壁を多く含む。
145 窯壁崩落土。2 次掻業面。
146 140 層と同じ。
147 橙色土 5YR6/6 酸化層。143 層と同じだが、窯壁崩れを含む。
148 灰白色土 10YR8/2 窯壁粒を含む。砂質。3 次掻業面形成時埋土。
149 橙色土 2.5YR7/8 酸化層。2 次掻業天井壁。
150 暗灰色土 7.5Y5/1 粘質土。2 次掻業時期焼時の埋土。
151 灰黄色土 2.5Y8/4 焼土・150 層を含む。2 次掻業時期焼時の埋土。
152 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土？ 2 次掻業時期焼時の埋土。
153 浅黄橙色土 10YR8/3 154 層・焼土を含む。2 次掻業時期焼時の埋土。
154 黒褐色土 10YR3/1 窯壁・遺物を多く含む。2 次掻業時期焼時の埋土。
155 にぶい黄橙色土 10YR7/3 窯壁を含む。2 次掻業側焼埋土。
156 灰白色土 10YR7/1L 粘床。2 次掻業面最終掻業床面。
157 黄色土 2.5Y8/6 2-2 次掻業面粘床。
158 灰白色土 10YR7/1 2-1 次掻業面粘床。
159 欠番。
160 にぶい赤褐色土 5YR5/4 酸化層。2 次掻業面。
161 橙色土 2.5YR7/8 酸化層。窯壁を含む。1 次掻業天井壁粘焼土の酸化層。
162 明黄褐色土 10YR7/6 砂質。2 次掻業面粘床。
163 褐色土 7.5YR4/3 天井壁崩落土。半焼下？
164 灰白色土 10YR8/1 弱い礫・窯壁を多量に含む。1 次掻業面天井崩落土層。
165 褐灰色土 10YR6/1 砂質。粘床か？
166 浅黄橙色土 10YR8/4 しまりなくやわらか。
167 にぶい黄橙色土 5YR5/4 炭を含む。2 次掻業面貼口部焼土。酸化層。
168 灰白色土 10YR7/1 綿質。しまりなし。粘床？ 165 層と同じ。1 次～最終床面。
169 にぶい橙色土 5YR6/4 炭を含む。2 次掻業面灰口部焼土。酸化層。
170 橙色土 5YR7/8 焼土と窯壁片混じる。121 層を含む。粘床。
171 浅黄橙色土 10YR8/3 80 層と同じ。焼土・炭・窯壁片を含む。
172 にぶい黄橙色土 10YR4/3 粘質土。
173 灰白色土 10YR8/2 砂質。窯壁を多く含む。164 層と同じ。
174 窯壁崩落土。163 層と同じ。
175 褐灰色土 10YR6/1 砂質。窯壁・炭を含む。2-1 次掻業面粘床。
176 黄橙色土 10YR7/8 しまりありかたい。床面還元層。2-1 次掻業面粘床。
177 灰黄色土 2.5Y6/2 砂質。窯壁焼を含む。1 次掻業様構土。
178 灰白色土 N7/ 硝黄褐色土 10YR7/6 相砂を含む。砂質。2 次掻業面粘床。
179 浅黄色土 2.5Y7/3 砂質。窯壁焼を含む。2 次掻業面最終粘床層土。
180 灰黄色土 2.5Y7/2 しまりあり。きめ細かい砂質土。2 次掻業面最終粘床層土。
181 黄色土 2.5Y8/6 しまりありかたい。粘床か？
182 オリーブ灰色土 10Y6/2 しまりありかたい。粘床か？
183 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりありかたい。酸化層か？
184 にぶい褐色土 7.5YR6/3 砂質。しまりありかたい。2 次掻業粘床の層層。
185 黒褐色土 10YR3/1 しまりありかたい。粘床か？
186 にぶい黄橙色土 10YR6/3 しまりあり。2 次掻業面最終粘床。
187 にぶい黄橙色土 10YR5/3 しまりありかたい。細かい砂質土。粘床の酸化層か？
188 黄色土 10YR1.7/1 しまりあり。1 次掻業面粘床。
189 灰黄褐色土 10YR6/2 しまりなくやわらか。
190 褐灰色土 7.5YR6/1 炭・焼土をわずかに含む。
191 にぶい黄褐色土 10YR7/4 炭・焼土をわずかに含む。
192 褐灰色土 10YR6/1 炭・焼土を多く含む。
193 浅黄色土 2.5Y8/3 しまりありかたい。地山遺元層。
194 黄色土 5Y8/8 半遺元層。地山。
195 赤橙色土 10YR6/8 酸化層。地山。
196 黄橙色土 10YR7/8 粘質。
197 灰黄色土 2.5Y6/2 粘質。
198 暗赤褐色土 2.5YR3/6 焼土。酸化層。
199 明黄褐色土 10YR6/6 しまりなくやわらか。4 次掻業側壁裏込め。
200 にぶい黄橙色土 10YR5/3 しまりなくやわらか。4 次掻業側壁裏込め。
201 灰白色土 2.5Y8/1 しまりありかたい。粘質。
202 黄色土 10YR1.7/1 しまりありかたい。粘質の半遺元層。
203 灰黄色土 2.5Y6/2 しまりなくやわらか。4 次掻業時側壁裏込め。
204 にぶい黄色土 2.5Y7/3 酸化層。
205 浅黄色土 2.5Y7/3。
206 褐灰色土 10YR4/1 しまりありかたい。粘床。
207 窯壁（3 次掻業崩落土）。灰層土に崩落。
208 明黄褐色土 10YR7/6 砂質。2 次掻業面粘床。
209 褐灰色土 10YR6/1 しまりありかたい。窯壁を含む。
210 灰白色土 N7/。
211 にぶい黄橙色土 10YR6/3 しまりあり。2 次掻業面粘床。
212 浅黄色土 5Y7/3 しまりありかたい。2 次掻業面粘床。
213 オリーブ黄色土 5Y6/3 砂質。天井壁の崩れたような土。
214 灰白色土 10YR7/1 3 次掻業面粘壁。
215 黄色土 5Y7/8 半遺元層。3 次掻業面。
216 灰色土 N6/ 2 次掻業面粘壁。
217 オリーブ灰色土 2.5GY6/1 1 次掻業面粘床。
218 オリーブ黄色土 10Y3/1 1 次掻業面粘床。
219 灰白色土 N6/ 1 次掻業面粘床。
220 灰色土 N6/ 3 次掻業面粘壁。
221 灰白色土 5Y7/2 3 次掻業面粘壁。
222 オリーブ黄色土 5Y6/4 3 次掻業面粘壁。
223 オリーブ黒色土 5Y2/1 3 次掻業面粘壁。
224 灰白色土 N7/ 2 次掻業面粘壁。
225 灰白色土 10YR7/1 焼けしまりかたい。偶壁遺元層。
226 暗赤褐色土 2.5YR3/2 焼けしまりかたい。偶焼酸化層。
227 橙色土 2.5YR6/6 酸化層。
228 にぶい褐色土 7.5YR6/3 構築材の穴。
229 灰白色土 10YR7/1 粘質。しまりあり。保護土か？
230 にぶい褐色土 7.5YR6/3。
231 淡黄色土 2.5Y8/3 砂質。バイラン土。
232 にぶい褐色土 7.5YR6/3。
233 231 層十褐灰色土 7.5YR6/1 バイラン土。
234 オリーブ褐色土 2.5Y3/3 遺元強。
235 にぶい黄橙色土 10YR6/3 しまりあり。
236 淡黄色土 2.5Y7/3 地山に近い。
237 にぶい褐色土 10YR7/3 最終掻業貼壁裏込め土。
238 にぶい赤褐色土 2.5YR5/4 最終掻業貼壁の酸化層。構築材を含む。
239 淡黄橙色土 10YR6/4 炭・焼土を含む。
240 にぶい黄橙色土 10YR7/3 焼土を含む。
241 灰白色土 10YR7/1 粘質。しまりありかたい。
242 灰褐色土 7.5YR5/2 しまりなくやわらか。
243 にぶい褐色土 7.5YR6/3 焼土を含む。
244 灰白色土 2.5Y8/2 にぶい黄橙色土 10YR7/4 を互層に含む。炭を含む。
245 にぶい黄橙色土 10YR7/3 焼土を含む。地山の崩れた土を含む。
246 にぶい褐色土 7.5YR5/3 焼土・炭・天井壁を含む。
247 灰白色土 10YR8/1 粘質。しまりありかたい。地山と同じような土。
248 橙色土 7.5YR6/6 貼壁の際の煙め土。
249 灰白色土 N7/ 貼壁。かたい。地山と同じような土。
250 明緑灰色土 10GY7/1 しまりあり。サラサラ。貼床。
251 にぶい橙色土 7.5YR7/4 貼床。
252 灰色土 N6/ 焼化材をなむ。構築材？
253 オリーブ灰色土 2.5Y6/1 1 次掻業面最終貼床。
254 黒色土 10YR1.7/1 貼床下層か？
255 にぶい黄褐色土 10YR6/4 貼床の基盤。
256 黒色土 10YR1.7/1 部分的。貼床の下層。
257 灰白色土 N7/ 1-1 次掻業面貼床。
258 灰白色土 10YR7/1 2 次掻業面貼壁。地山に近く均質。
259 オリーブ黒色土 7.5Y3/1 2 次掻業面。
260 灰白色土 N7/ 2-1 次掻業面貼壁。均質に塗られる。
261 灰白色土 N7/ 2-2 次掻業面貼壁。裏面のために粗い。
262 赤褐色土 2.5YR4/8 3 次掻業貼壁酸化層。焼化材を含む。
263 灰白色土 2.5Y7/1 しまりなくやわらか。3 次掻業貼壁。
264 浅黄色土 5Y7/3 3 次掻業貼壁遺元層。
265 灰色土 N6/ 253 層と同じ。1 次掻業面最終貼床。白色石粒多く、やや様子は異なる。
266 赤褐色土 5YR4/8 貼床。
267 褐灰色土 7.5YR6/1 窯壁などを多く含む。
268 灰褐色土 5Y6/2 1 次掻業面貼壁。
269 黒色土 10YR1.7/1 貼床。265 層と同じ。
270 にぶい黄色土 2.5Y6/4 貼床基層。
271 灰白色土 N7/ 261 層によく似た貼壁。1 次掻業面貼壁。
272 褐灰色土 10YR5/1 1 次掻業面貼壁。
273 浅黄色土 2.5Y7/3 しまりありかたい。2 次掻業面貼床。
274 黄灰色土 2.5Y6/2 貼壁の崩れたような土。1 次掻業面埋土。
275 灰黄色土 2.5Y6/2 黒褐色土を含む。3 次掻業面貼壁。
276 にぶい赤褐色土 2.5YR4/4 3 次掻業貼壁半酸化層。
277 浅黄色土 5Y7/4 3 次掻業貼壁半源元層。
278 にぶい黄褐色土 10YR5/4 1 次掻業面貼床。265 層と同じ。
279 にぶい黄橙色土 10YR6/3 貼床。266 層と同じ。
280 灰白色土 N7/ 貼床。268 層と同じ。層砂を含む。
281 黒色土 10YR1.7/1 貼床。269 層と同じ。
282 にぶい黄色土 2.5Y6/4 貼床基層。270 層と同じ。鏡下層灰色土。
283 灰色土 N6/ 貼床。
284 灰白色土 N8/ 貼壁。
285 灰黄褐色土 10YR6/2 2 次掻業面貼壁。
286 灰白色土 10YR7/1 1 次掻業面貼壁。
287 灰白色土 10YR7/1 貼床。窯壁・炭・黄橙色土 10YR8/2 を含む。
288 灰褐色土 10YR5/1 貼床。
289 褐灰色土 10YR5/1 貼床。炭・窯壁・焼土を含む。
290 黒色土 10YR1.7/1 炭層。
291 にぶい黄褐色土 10YR4/3 貼床。
292 にぶい黄橙色土 10YR7/3 焼土を含む。2 次掻業面貼壁。
293 灰白色土 10YR8/1 バイラン土。地山。
294 黄橙色土 10YR7/8 バイラン土。地山。
295 294 層間に褐灰色土 10YR5/1 を含む。バイラン土。地山。
296 黄色土 2.5Y8/8 地山。
297 浅黄色土 2.5Y7/4 しまりなくやわらか。

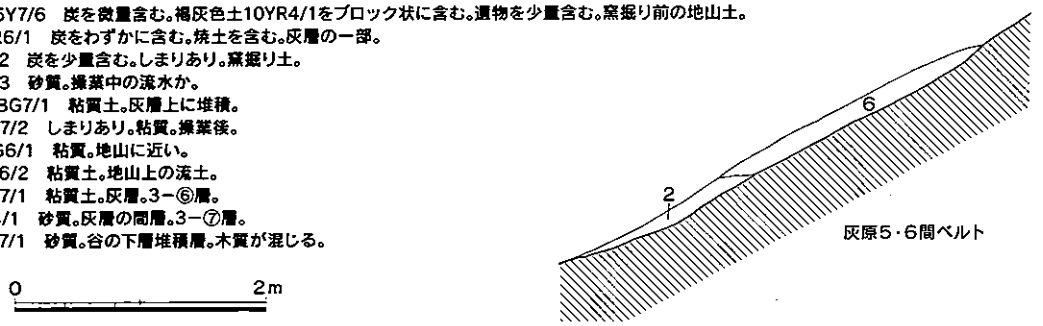
第12図　1号窯跡窯体内土層実測図（1／80）

灰原1･2間ベルト
1　黄褐色土2.5Y5/4　暗灰黄色土2.5Y4/2混じる。砂質土。谷の埋没土。
2　オリーブ黒色土5Y3/1　粘質土。有機物含む。
3　黒色土10YR1.7/1　灰層。焼土塊･窯壁屑･土器を含む。3区3－①層上の最終操業層。
4　明青灰色土5BG7/1　炭を少量含む。下層に窯壁塊･炭を多量に含む。
5　明オリーブ灰色土2.5GY7/1　炭を少量含む。窯壁などを含む。3層の灰層(黒色土)が樹根状にしみ込む。3区3－⑤層と同一。
6　にぶい黄橙色土10YR6/4　4層との境に鉄分が沈着。一時期の地表面。この層より窯が切り込む。
7　灰白色土7.5YR7/2。
8　黒色土10YR7/1　炭･焼土･土器を多く含む。3区3－⑥層と同一。
9　褐灰色土7.5YR4/1　明オリーブ灰色土2.5GY7/1をブロック状に含む。
10　明緑褐色土10GY8/1　粘質土。
11　灰色土5Y4/1　炭･窯壁塊を多く含む。
12　明緑灰色土10GY8/1　粘質土。炭･窯壁塊を多く含む。
13　青灰色土10BG6/1　砂質土。窯壁塊を多く含む。4層と同じ。
14　青灰色土2.5Y6/1　粘質土。灰層土堆積土。
15　黒色土10YR7/1　13層を少量、炭を含む。




灰原3･4間、4･5間、5･6間ベルト
1　明黄褐色土2.5Y7/6　炭を微量含む。褐灰色土10YR4/1をブロック状に含む。遺物を少量含む。窯掘り前の地山土。
2　褐灰色土10YR6/1　炭をわずかに含む。焼土を含む。灰層の一部。
3　灰白色土5Y7/2　炭を少量含む。しまりあり。窯掘り土。
4　浅黄色土5Y7/3　砂質。操業中の流水か。
5　明青灰色土10BG7/1　粘質土。灰層上に堆積。
6　灰黄色土2.5Y7/2　しまりあり。粘質。操業後。
7　青灰色土10BG6/1　粘質。地山に近い。
8　灰黄色土2.5Y6/2　粘質土。地山上の流土。
9　黒色土10YR1.7/1　粘質土。灰層。3－⑥層。
10　褐色土7.5YR4/1　砂質。灰層の間層。3－⑦層。
11　明緑灰色土5G7/1　砂質。谷の下層堆積層。木質が混じる。




0　2m

第13図　1号窯跡灰原土層実測図（1／60）

はない。このため、２・３区は各操業面に伴う遺物を分けて取り上げをおこなったが、コンクリートパイルの打設など、一部撹乱を受ける。（石木）

**（６）出土遺物**

窯体内および各操業面からは、多数の遺物が出土している。そのほとんどが杯Ｈを中心とする古墳時代の須恵器であるが、灰原からはこれらに混じって奈良時代の須恵器（杯Ｂ）・黒色土器・木製品がわずかに出土している。窯体内・各操業面の遺物取り上げについては前述のとおりであり、灰原において層位的に確認できたものは同じ取り上げ層名を用いている。また、最終操業面からは半地下の天井壁も採取された。採取できた分だけでも、重さは48.2kg。元々あった天井壁の１／10もないと思われるが、これほどの重さの天井壁をどのようにして構築したのであろうか？

灰原からは多数の須恵器の他、特に２区の谷底から多数の炭化材が出土した。前述のとおり、燃えさしもあり、操業当時の姿を彷彿とさせる。ただし、出土遺物の整理が進むに従い、須恵器窯に伴わない遺物の存在も明らかになった。このため、灰原出土の炭化材のすべてが須恵器窯に伴わない可能性もあるが、調査地周辺の谷部斜面のほとんどを表土剥ぎした結果、火を使った遺構や他時期の遺構は確認できなかったことから、炭化材は窯にともなう燃料材としての性格を考えておきたい。（石木）

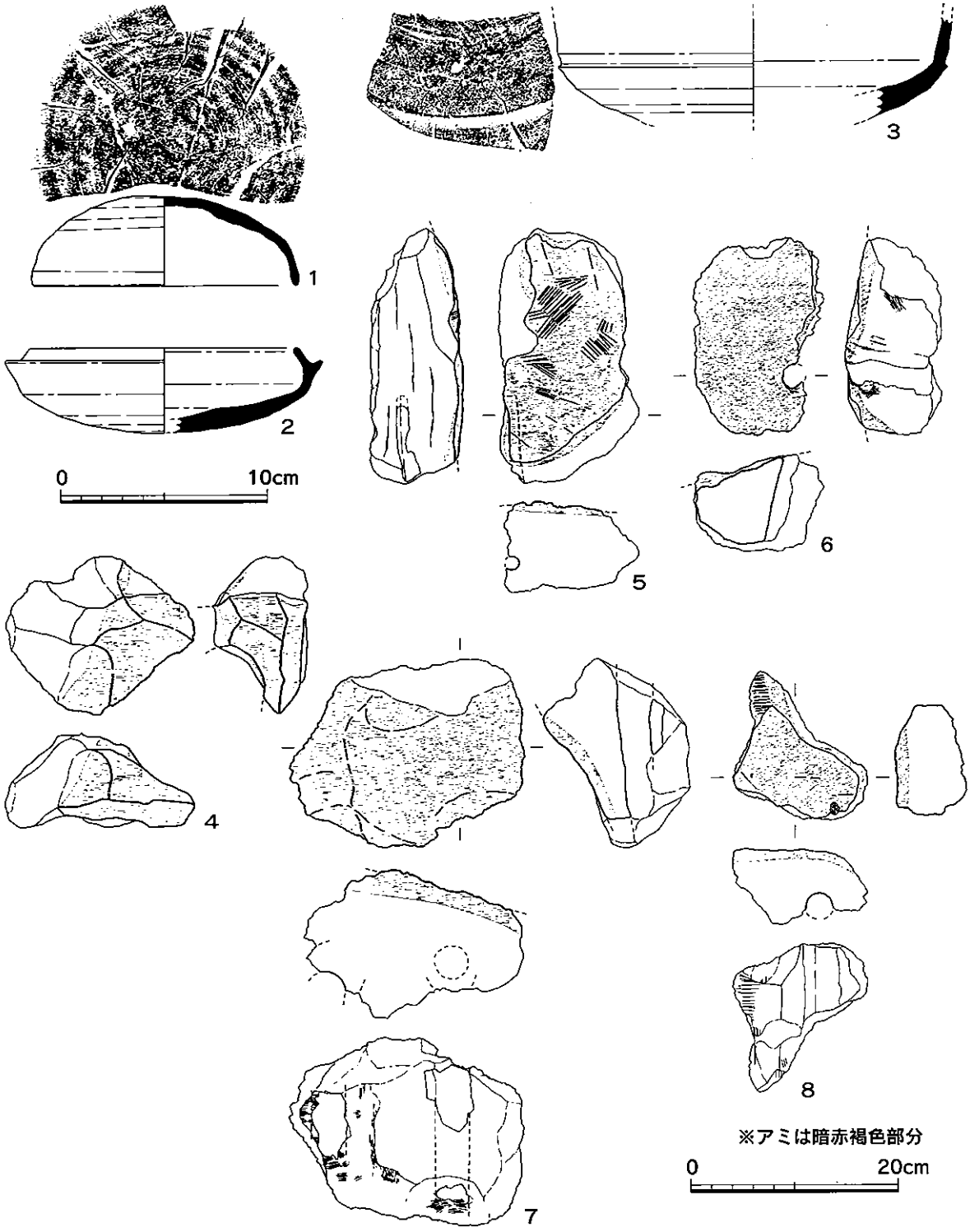
**最終操業面窯体内埋土**（第14・15図）

**須恵器（１～３）**　１は杯蓋。口縁端部は丸く、天井部に右回転の回転ヘラケズリ後ナデを施し、外面頂部にヘラ記号を施す。２は杯身。口縁端部は丸く、底部外面に左回転の回転ヘラケズリ。焼成不良で浅黄橙色を呈す。３は鉢か。小片のため天地不明。体部下位に段を有し、ヘラ記号を施す。右方向の回転ヘラケズリを施す。

**窯壁（４～12）**　４～12は天井壁である。窯体外面にあたる部分は暗赤褐色を呈し、平滑に仕上げられ、断面は浅黄橙色を呈する。内面は還元面が確認できるものもある。壁体にはスサが多く混ぜられる。４は右側壁に接する排煙部の下半で、排煙口が丸く残る。５は厚さ９cm。壁体のほぼ真中に径1.5cmほどの構築材が残り、天井壁と同じ方向にのびる。６は径２cmほどの構築材が、天井壁と直交する方向にのびる。７は厚さ14cm。天井壁と同じ方向に、構築材が２本10cm間隔で並行にのびるが、壁体内における材の位置が異なっている。８は厚さ７cm。径３cmの構築材が天井壁と同じ方向にのびる。９は厚さ10cm。外面は平滑に仕上げられる。10は厚さ10cm。平滑な外面から、やや湾曲する面を有する。11は厚さ11cm。内面の還元面が残り、外面は平滑に仕上げられる。12は厚さ10cm。一部構築材の痕跡が残る。

**最終操業面**（第16図・図版27）

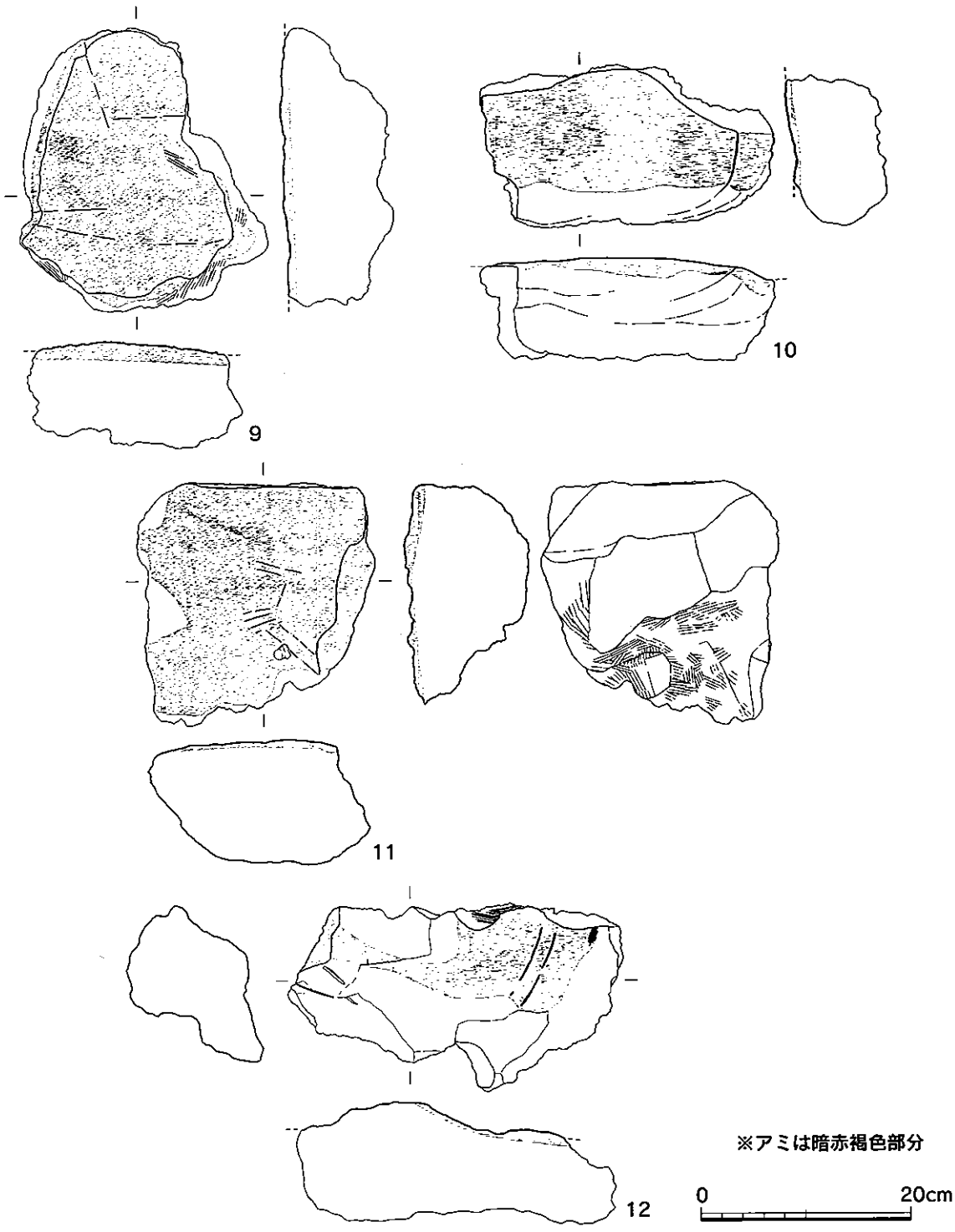
**須恵器（13～15）**　13は杯蓋。天井部の２／３ほどの範囲に右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。口縁は内面でやや屈曲させた後、端部を丸くする。14･15は甕。14は、口縁部は外反し、端部を上方に屈曲させ四角くおさめる。頸部外面にカキメ後、三段にわたって２・２・３条の沈線を巡らせ、間に左下がりの連続斜線文を施す。体部は外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕。焼台として使用された破片がある。15の口縁端部は外側に肥厚させ、四角く仕上げる。口縁部外面は回転ナデ後、沈線を二段にわたって２条ずつ施し、間に左下がりの連続斜線文を施す。




**第14図　１号窯跡最終操業面窯体内埋土出土遺物実測図①（１～３は１／３、他は１／６）**

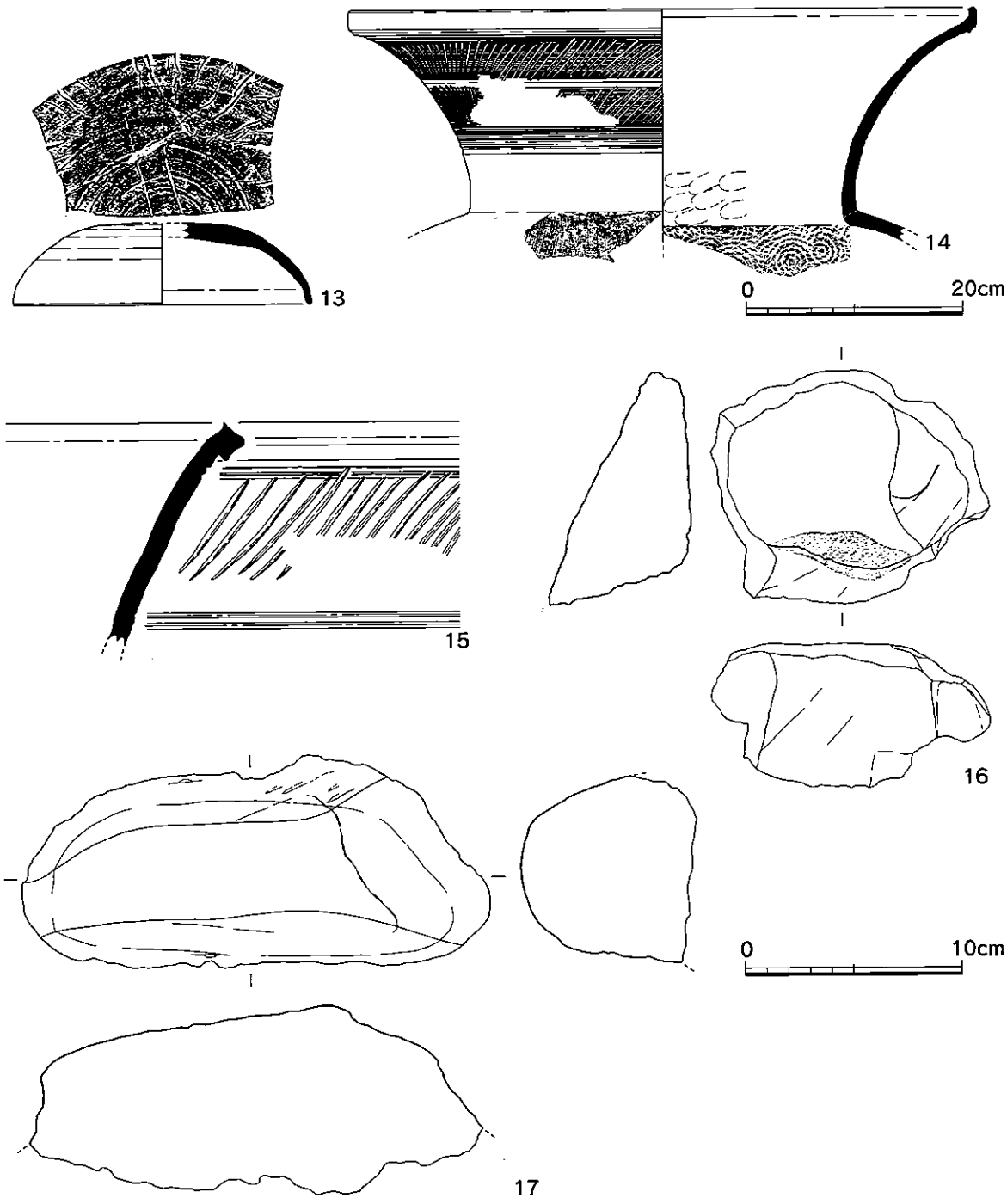
**焼台（16・17）**　16・17はいずれも粘土塊焼台。共に微細な砂粒、小石を非常に多く含む。16はいわゆる馬爪焼台。上面水平な位置で下面は27°の傾斜角度を持ち、焼成部中位あたりで使用されたものか？ 17も焼成部中位から出土したが、長さ20cm、幅10cm程度のパウンドケーキ状を呈する。使用位置はさほど変わらないが、形状が大きく異なり、設置する器種が異なるのであろうか。

**最終操業面貼床内**（第17図）




**第15図　１号窯跡最終操業面窯体内埋土出土遺物実測図②（１／６）**

**須恵器（18～30）**　18～23は杯蓋。口径13.2～14.8cm。天井部は比較的低い。天井部の１／２～２／３の範囲に右回転の回転ヘラケズリを施し、18・19・21・22・23にはヘラ記号を施す。24～26は杯身。いずれも回転ヘラケズリを施し、立ち上がりは低く内傾する。24は外面に自然釉がかかり、杯蓋の口縁端部が釉着する。24・25は底部にヘラ記号を施す。27・28は椀。ともに口縁は直立気味に立ち上がる。27は底部に回転ヘラケズリ、側面にヘラ記号を施す。28は底部付近に手持ちヘラケズリを施す。内面底部にはシッタ痕跡がある。29は高杯。杯部は箱形に近い。




**第16図　１号窯跡最終操業面出土遺物実測図（14は１／６、他は１／３）**

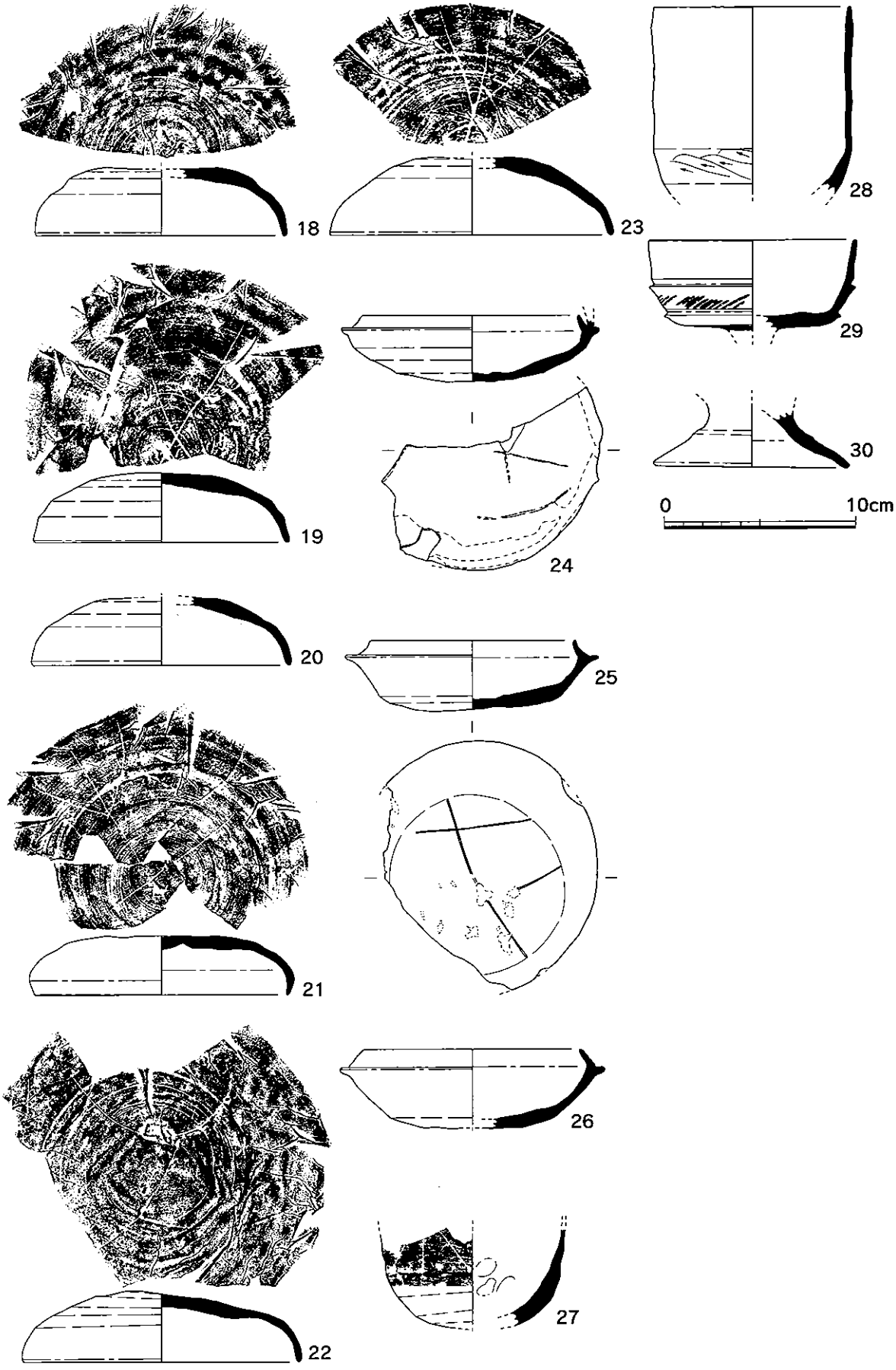
段を二段有し、連続刺突文を施す。30は脚部。浅い屈曲部を有し、脚端部は丸く仕上げる。

**３次操業面最終床面**（第18図）

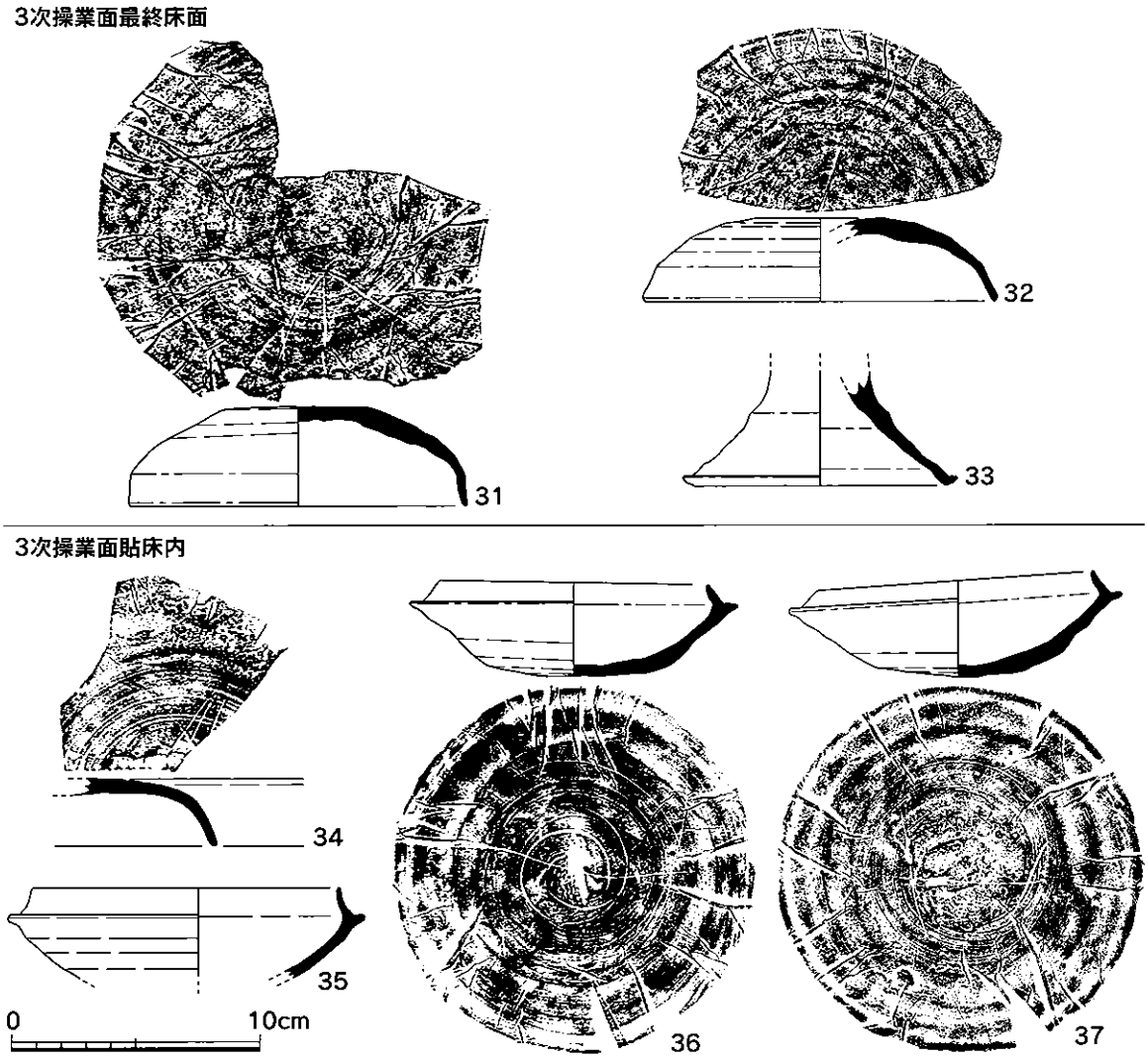
**須恵器（31～33）**　31・32は杯蓋。口径13.6～14.2cm。31は比較的高い天井部を有する。天井部外面１／３～１／２の範囲に右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。32は小片。外面ヘラ記号を施す。33は高杯の脚部。中位で段を持った後、脚端部を跳ね上げる。

**３次操業面貼床**（第18図・図版27）

**須恵器（34～37）**　34は杯蓋。天井部の１／３の範囲に回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。外




第17図　１号窯跡最終操業面貼床内出土遺物実測図（１／３）

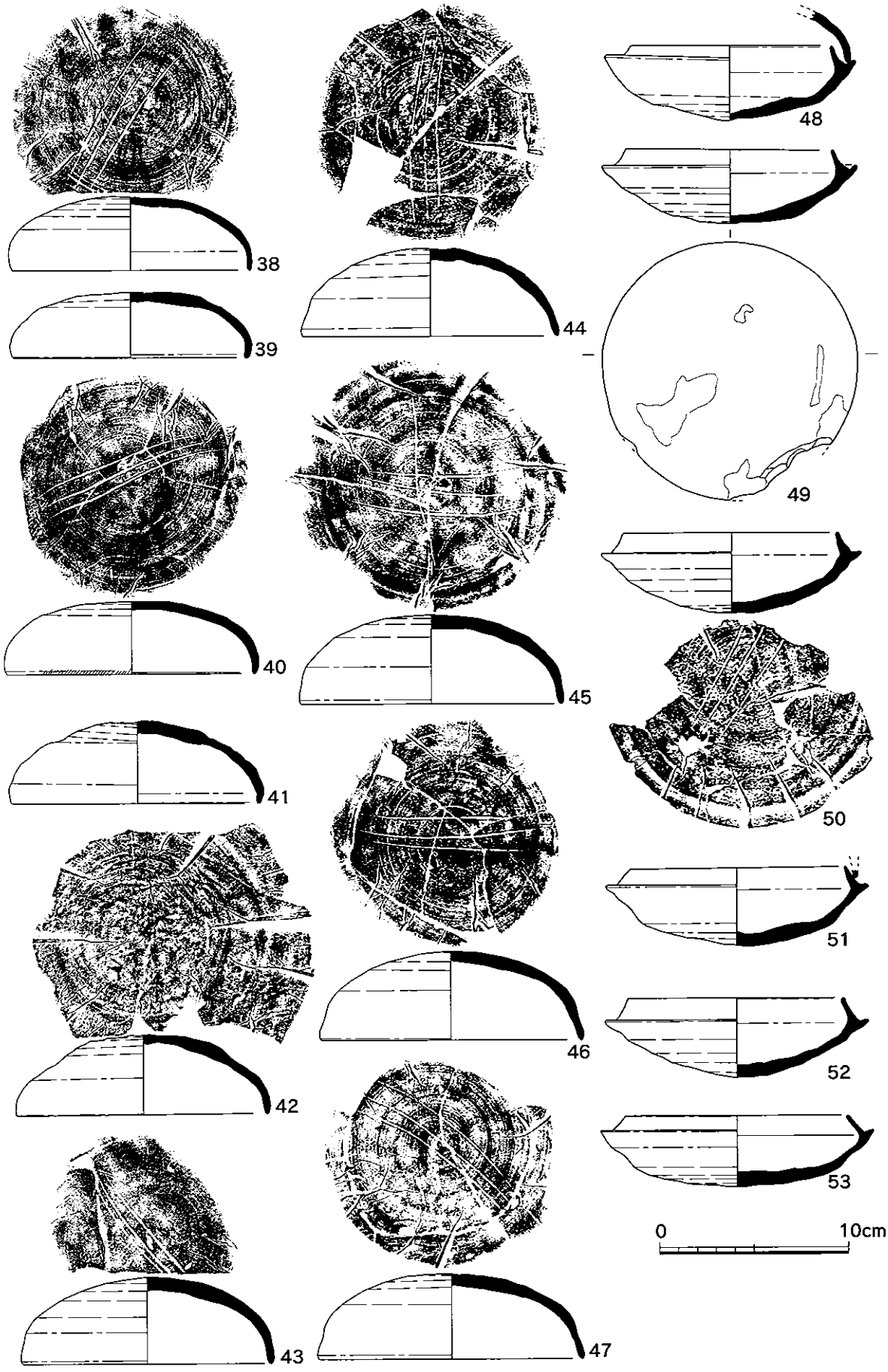



**第18図　1号窯跡3次操業面最終床面貼床出土遺物実測図（1／3）**

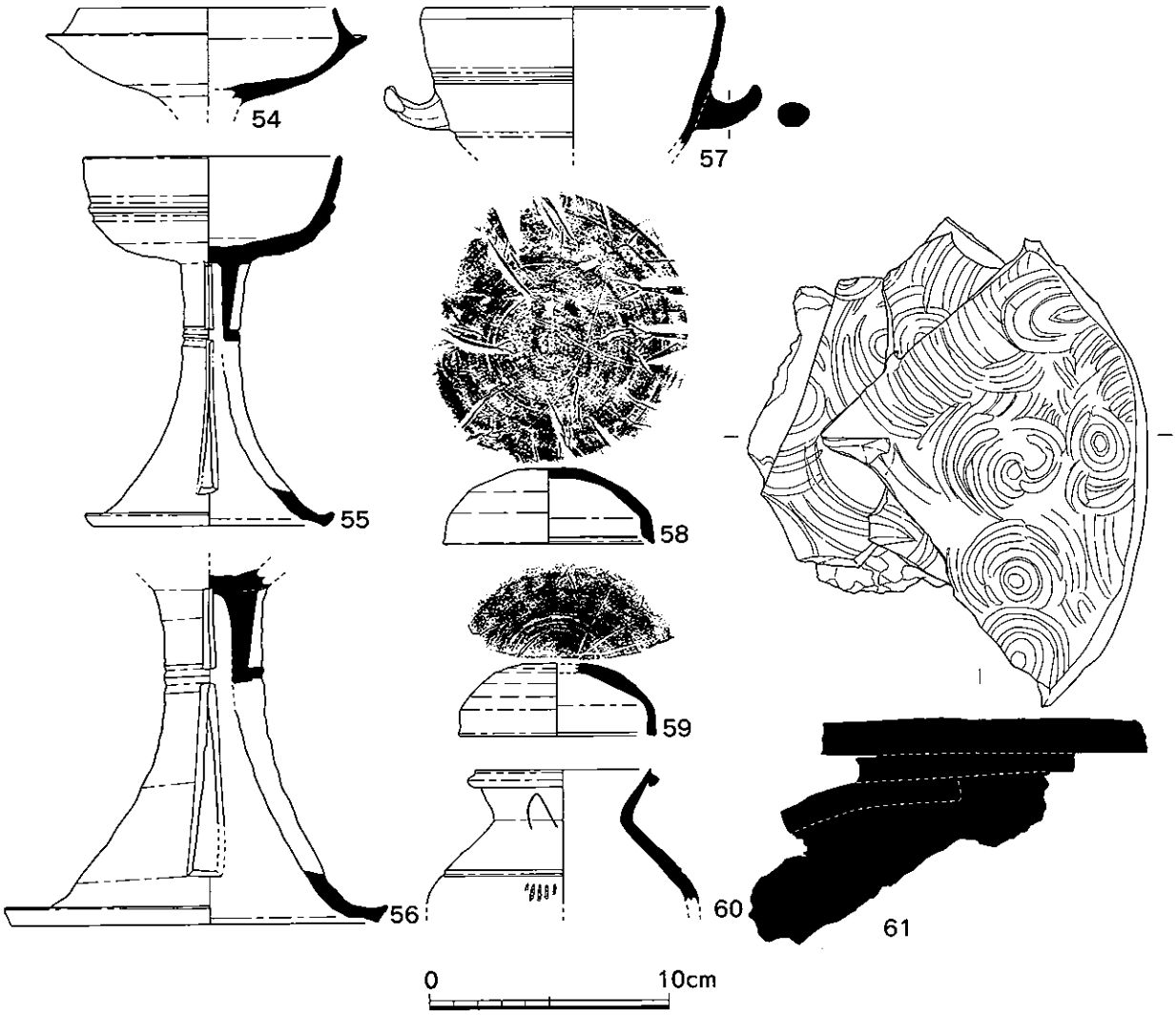
面に降灰。35～37は杯身。35は内傾した後に低く立ち上がる。36・37は完形。口径11.1～11.85cm。杯部は比較的深く、立ち上がりは内傾する。いずれも底部に右回転の回転ヘラケズリを施すが粗い。36・37の底部にはヘラ記号が施される。37は内面に降灰する。

**2次操業面最終床面～崩落土**（第19・20図・図版27）

**須恵器（38～60）**　38～47は杯蓋。口径12.1～13.5cmで天井部が比較的低いもの（38～42）と、口径13.6～14.0cmで天井部が高く丸いもの（43～47）がある。いずれも口縁端部を丸く仕上げ、天井部の1／2～2／3の範囲に右回転の回転ヘラケズリを施す。38・40・42～47にはヘラ記号が施される。40の口縁端部には、ナデつけるようにハケメを施す。45は焼け歪む。38・39は外面に降灰。48～53は杯身。口径10.6～11.9cmで、杯部は比較的浅く、立ち上がりは内傾する。底部に回転ヘラケズリを施し、確認できるものはすべて右回転である。48・51は蓋が釉着。50の底部にはヘラ記号を施す。54～56は高杯。54は有蓋高杯の杯部で、立ち上がりはやや内傾する。杯部外面に回転ヘラケズリを施す。外面に降灰する。55は無蓋高杯で、脚部に方形二段二方向のスカシを入れ、切り込みは断面三角形を呈し、上段は貫通しない。杯部内面、脚部外面に降




第19図　１号窯跡２次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図①（１／３）



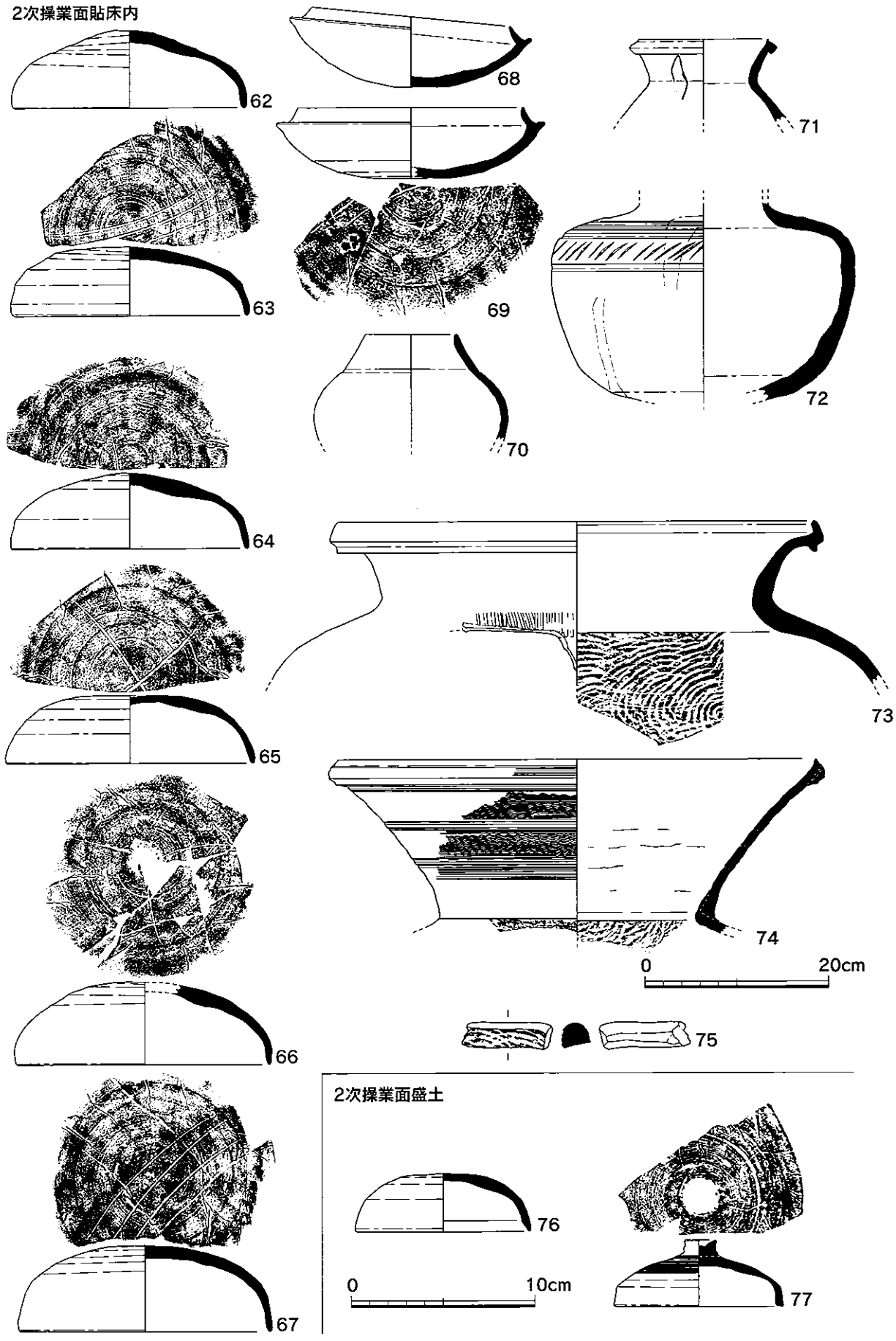

**第20図　１号窯跡２次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図②（１／３）**

灰。56は高杯脚部で、スカシの特徴は55と同じである。焼け歪みし、脚部内面に降灰。57は把手付椀。外面に２・１条の沈線が巡り、小型の牛角状把手が付く。図では反転復元して両把手の様に図化したが片把手の可能性もある。58・59は短頸壺蓋。ともに直立した後に丸い天井部へいたり、口縁端部は段を有す。天井部外面は回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。60は壺。口縁部は丸く、上方にややつまみ上げる。体部外面に沈線、連続刺突文を施し、頸部にヘラ記号を施す。

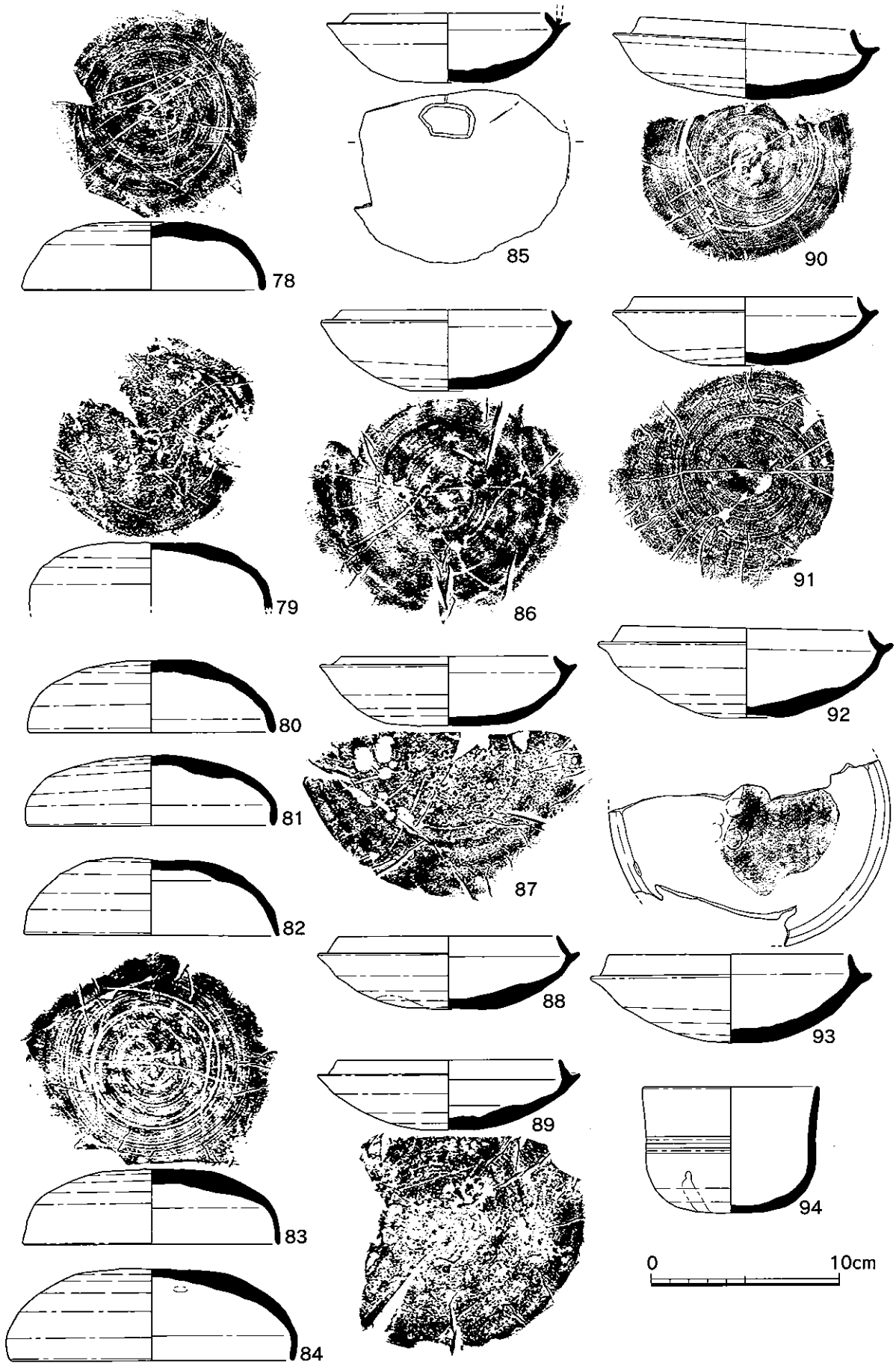
**焼台（61）**　61は焼台。粘土塊上に３片甕の破片を重ねる。粘土塊は1～5㎜大の白色砂粒、スサを非常に多く含み、上面と下面の傾斜角度は26°である。

**２次操業面貼床**（第21図・図版27・28）

**須恵器（62～75）**　62～67は杯蓋である。口径12.7～13.6㎝で天井部がやや高いもの（62～65）と口径13.3～13.9㎝で天井部が高いもの（66・67）がある。天井部１／３～２／３の範囲には右回転の回転ヘラケズリを施す。63～67の外面にはヘラ記号を施す。67は焼成不良で黄灰色を呈す。68・69は杯身。口径10.8～12.35㎝、杯部はやや浅く、口縁部は短く内傾する。68は外面に降灰し、また焼成時の破損のため調整不明。69は外面に回転ヘラケズリ後、ヘラ記号




第21図　１号窯跡２次操業面貼床・盛土出土遺物実測図（74は１／６、他は１／３）




第22図　１号窯跡１次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図①（１／３）

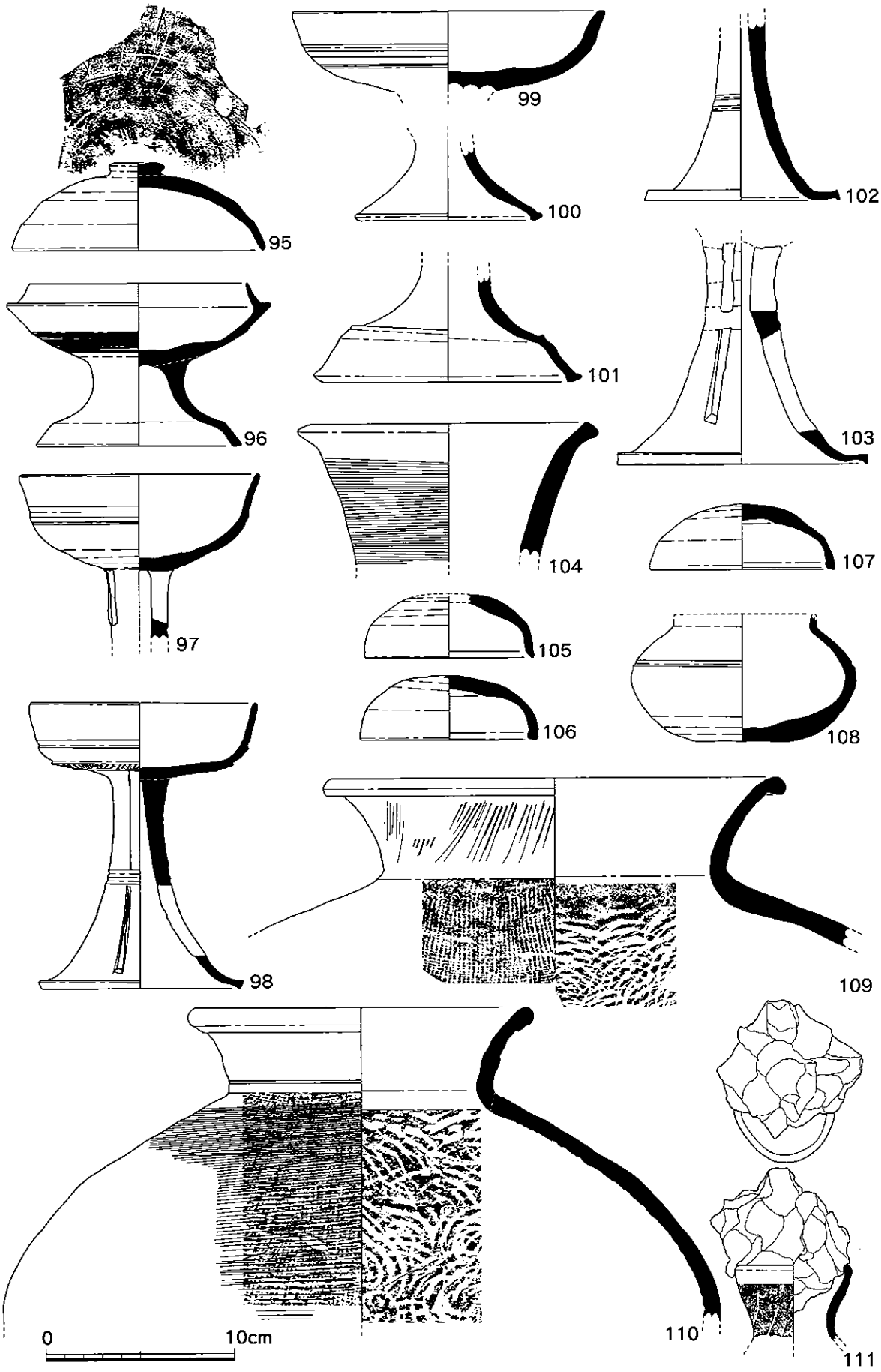
を施す。70～72は壺。70は短頸壺か。頸部は内傾する。71は接合しないが、59と同一個体と思われる。頸部にヘラ記号を施す。72は壺で、肩部にカキメと沈線を２条施し、その間に連続斜線文を施す。底部に降灰が著しい。73・74は甕である。73は口頸部がラッパ状に開き、口縁端部を上部に屈曲させる。体部外面に平行タタキ後カキメ、内面に同心円文の当て具痕が残る。外面降灰が著しい。74は口縁端部を肥厚させ、頸部外面にカキメを施した後、三段にわたって１・１・２条の沈線を施し、その間に波状文を丁寧に施す。体部は外面擬格子タタキ、内面には同心円文当て具痕を残す。75は切削物。甕製作時の切り落とし片で、内面同心円文当て具痕が残る。

**２次操業面盛土**（第21図）

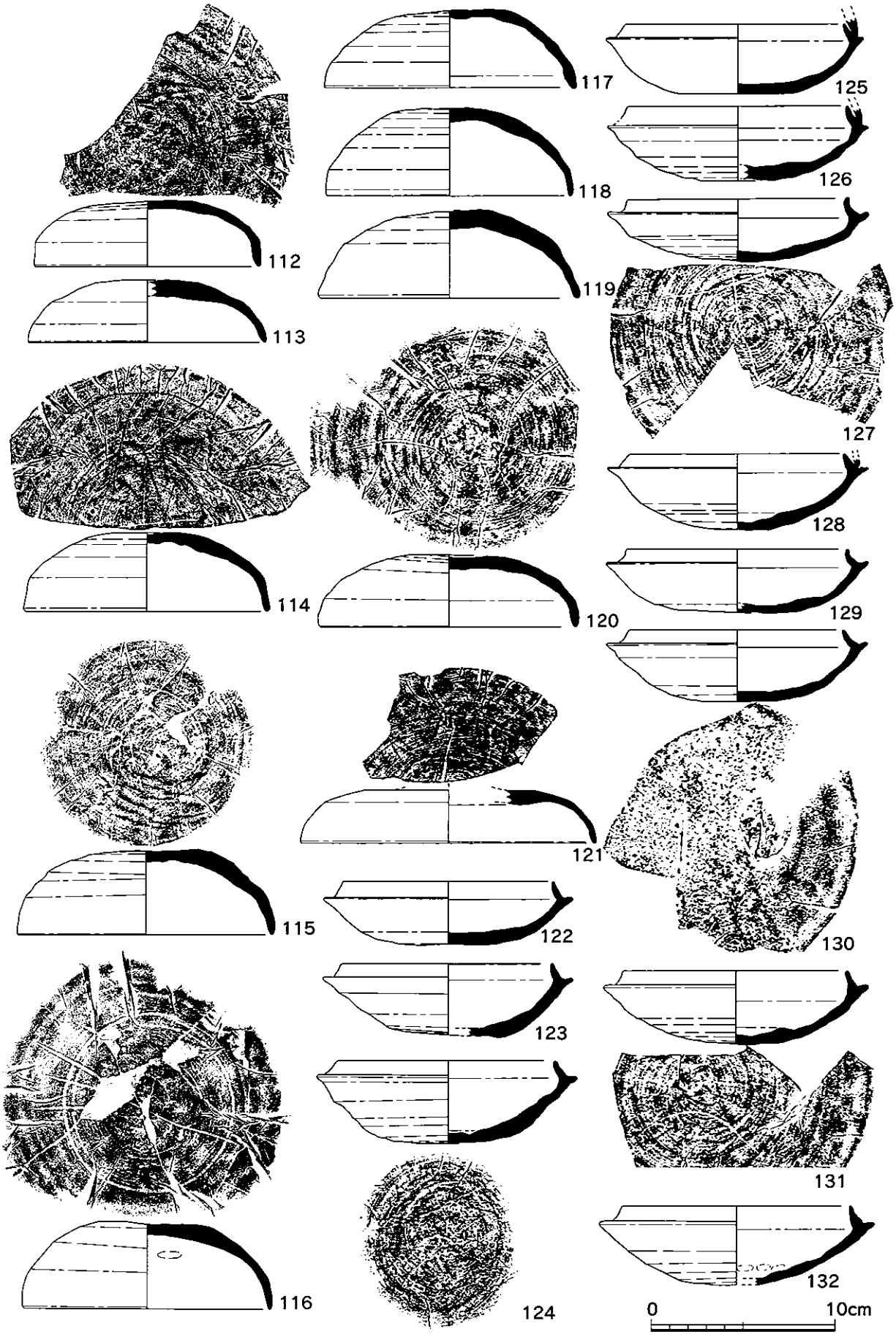
**須恵器（76・77）** 76・77は短頸壺の蓋である。ともに口縁端部に段を有する。76は天井部に右回転の回転ヘラケズリを施す。77は右回転の回転ヘラケズリ後、つまみをつけ、カキメを施した後、複数のヘラ記号を施す。

**１次操業面最終床面～崩落土**（第22・23図・図版28・29）

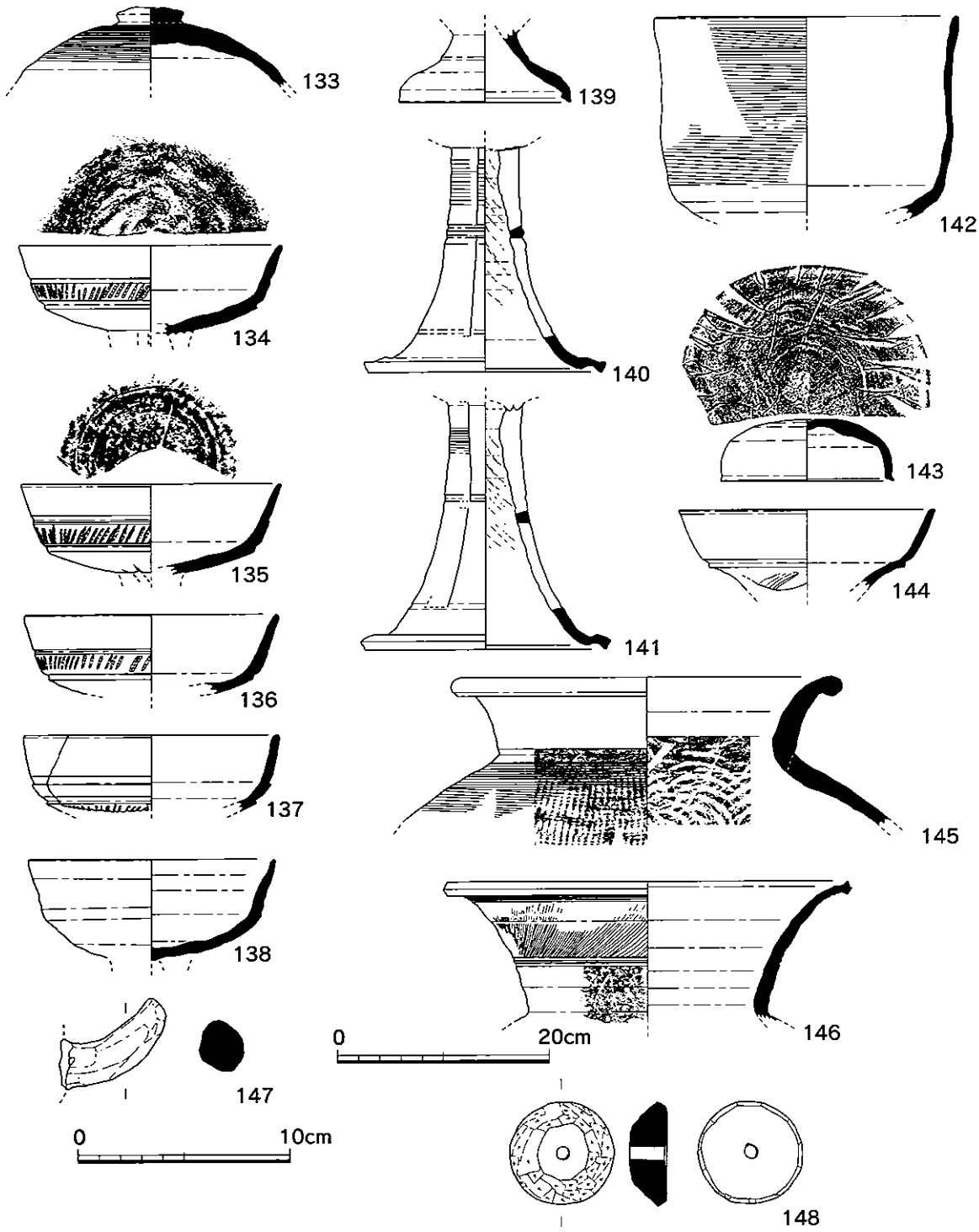
**須恵器（78～111）** 78～84は杯蓋である。口径12.7～13.7cmの天井部は比較的低いもの（78～83）と天井部の高いもの（84）がある。口縁端部を丸く仕上げ、天井部に回転ヘラケズリを施す。78・80～84・86・88は右回転である。78・79・83は外面にヘラ記号を施す。85～93は杯身である。口径10.6～12.0cmで杯部がやや浅いものと、口径12.9～13.15cmで杯部がやや深いものがある。いずれも立ち上がりは低く内傾し、底部に回転ヘラケズリを施す。85・86・87・90・91は底面にヘラ記号を有す。92は底部に脚を接合後取りはずし、粘土を均した痕跡があり、有蓋高杯の杯部の転用である。93は内面底部に黒斑がある。94は椀。底部外面は回転ヘラケズリで、側面に２条の沈線を施す。95～103は高杯である。95は有蓋高杯の蓋。天井部に回転ヘラケズリを施し、ボタン状つまみをつける。側面にヘラ記号を施す。96は有蓋高杯。脚柱は太く短く、裾はラッパ状に開いた後に、屈曲部をもって端部へいたる。脚端部をわずかに窪ませ、杯部外面にカキメを施す。97・98は無蓋高杯。杯部・脚部外面に１本ずつ沈線を巡らす。方形スカシが二段二方向に施される。98は杯底部外面に３条沈線を施し、連続刺突文を施す。脚部は方形二段三方向スカシであるが、上段は切り込みのみである。また、上段のスカシの間に縦方向の沈線を１条施す。99は無蓋高杯の杯部か？厚いつくりで屈曲部に沈線が巡る。100～103は脚部。100はラッパ状に広がり、脚端を内外につまみ出す。101の裾は屈曲して広がり、屈曲した後端部へいたる。脚端部は内外につまみ出す。102は脚部中位に２条の沈線が巡る。脚端は上下につまみ出す。103は方形二段三方向のスカシが入る。裾部はラッパ状に広がり、脚端は下方に鋭くつまみ出す。杯部との接合部には同心円状の圧痕が残る。104はすり鉢である。口縁部にかけてゆるやかに広がり、外面にカキメを施す。105～107は短頸壺の蓋、108は短頸壺である。いずれも外面天井部に回転ヘラケズリを施す。口縁端部は段をなすか、四角く作り、端部をわずかに窪ませる。すべて焼成不良で黄灰色～灰色を呈す。109・110は甕である。109は外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。110は外面擬格子タタキ後カキメを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。111は平瓶である。口縁端部を丸くおさめる。頸部にヘラ記号を施す。口縁部に窯壁が付着し、窯壁は砂粒・スサを多量に含む。




第23図　１号窯跡１次操業面最終床面～崩落土出土遺物実測図②（１／３）



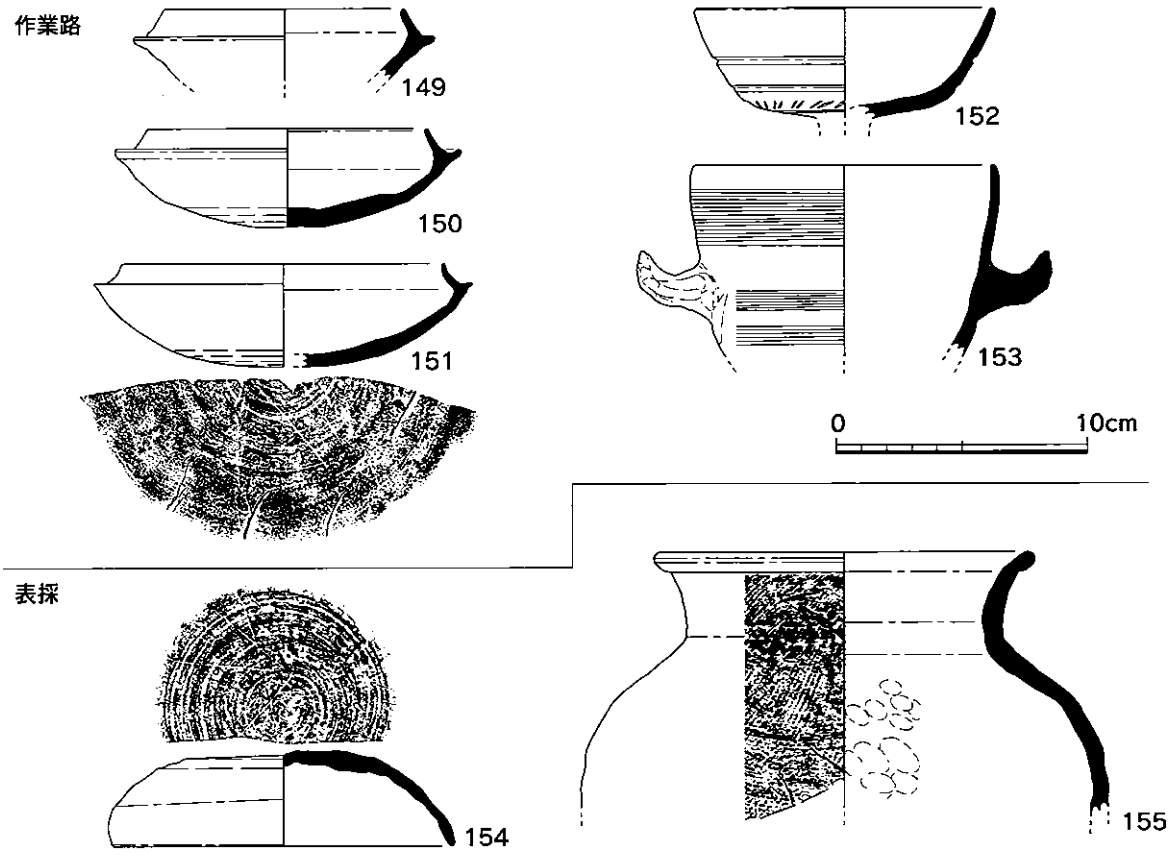

第24図　１号窯跡１次操業面貼床出土遺物実測図①（１／３）




**第25図　１号窯跡１次操業面貼床出土遺物実測図②（146は１／６、他は１／３）**

**１次操業面貼床**（第24・25図・図版29）

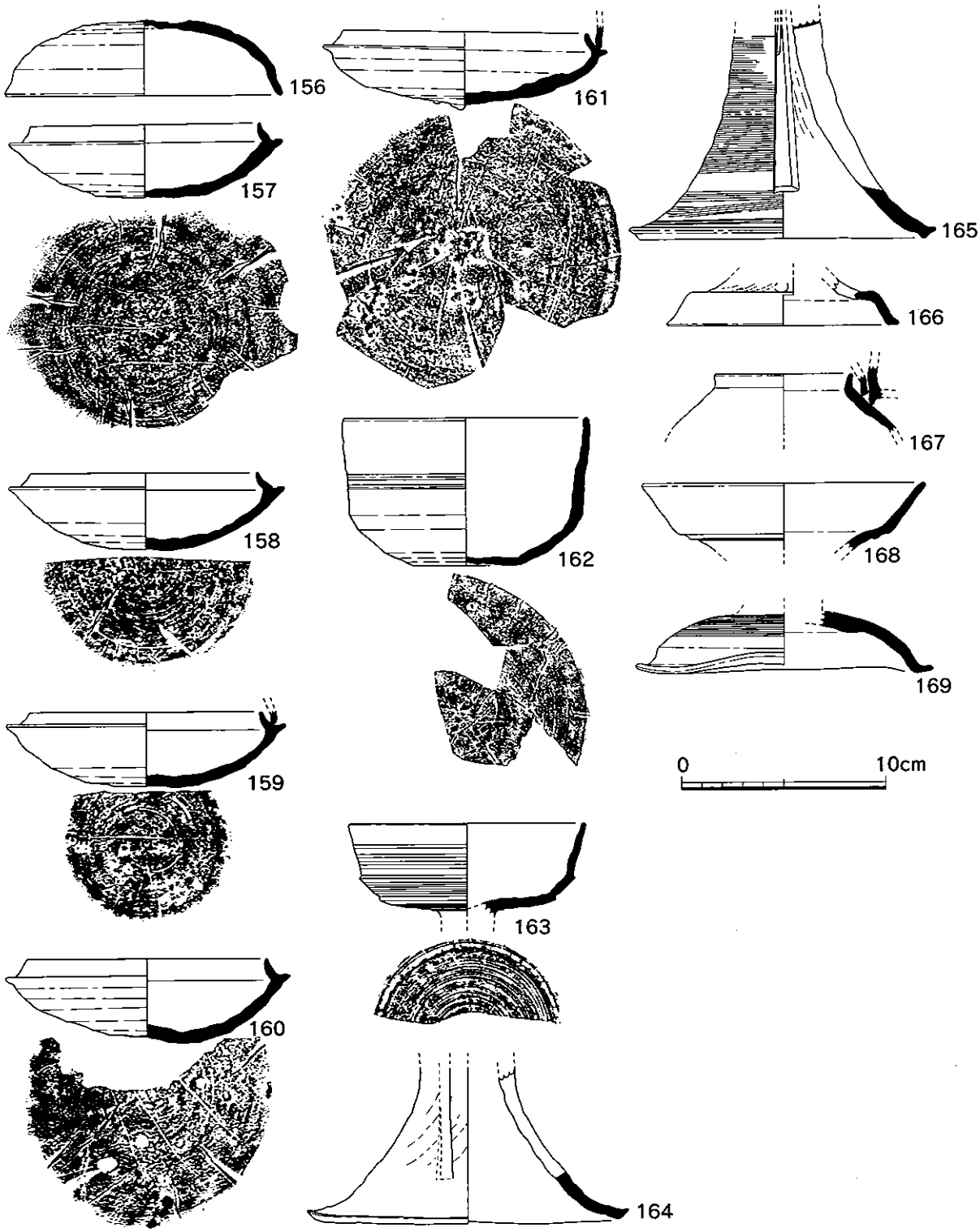
**須恵器（112～148）**　112～121は杯蓋。口径12.4～13.0cmで天井部がやや低いもの（112・113）と、口径13.4～14.2cmで天井部がやや高いもの（114～119）がある。いずれも天井部に回転ヘラケズリを施す。112・114～116・120・121は外面にヘラ記号を施す。115・116・119は焼成不良で黄灰色～灰色を呈し、115・119の天井部外面には黒斑がある。122～132は杯身。口径11.5～12.4cm。立ち上がりは低く、内傾する。外面に降灰しているものは不明であるが、底部の１／３～２／３の範囲に右回転の回転ヘラケズリを施す。124・127・130・131には




**第26図　１号窯跡作業路・表採出土遺物実測図（１／３）**

外面にヘラ記号を施す。125・126・128・129は外面に降灰する。124・132は焼成不良で橙色を呈す。133～141は高杯。133は高杯の蓋。低いボタン状のつまみで、外面にカキメを施す。134～138は無蓋高杯の杯部。134～136は外面に２条の沈線を施し、その間に連続刺突文を施す。また、134・135の内面にヘラ記号を施す。杯底部外面にはスカシをあけた際の痕跡が残る。137は２条の沈線の下に連続刺突文を施す。138は焼成不良。139～141は脚部。139は脚端部を内湾させる。140・141は方形二段三方向スカシで、沈線、カキメを施す。脚裾部は屈曲して端部へいたる。142は椀。口縁から体部はほぼまっすぐ立ち上がる。体部外面にはカキメを施し、底部外面は体部との境付近まで回転ヘラケズリを施す。143は短頸壺蓋。口縁部は少し窪んで鋭くつまみ出し、内側は低い段状になる。天井部外面に回転ヘラケズリを施した後、ヘラ記号を施す。外側上面に降灰する。144は甕の口縁部片。屈曲した後外反し、端部へいたる。屈曲部は断面三角形の突出をもつ。外面にシボリ痕が残る。外面に降灰する。145・146は甕。145は口縁部が外反気味に開き、端部を丸く肥厚させる。体部外面は擬格子タタキを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。146は口頸部を緩やかに外反させて開き、口縁端部は四角く仕上げる。頸部外面には上位と中位に沈線を巡らし、その間に連続斜線文を施す。また、頸基部付近にヘラ記号を施す。147は把手。手づくね・ナデ整形。148は陶製紡錘車。直径4.8cm、厚さ1.8cm。直径６㎜の孔がある。断面台形状であるが、底角部を切りとる。ヘラケズリにより整形。

**作業路**（第26図）




**第27図　１号窯跡灰原１区２層出土遺物実測図（１／３）**

**須恵器（149～153）**　149～151は杯身。いずれも立ち上がりは低く内傾する。150・151は底部に右回転の回転ヘラケズリを外面の１／２～１／３ほど施す。149は焼成不良で黄灰色を呈す。151は底部にヘラ記号を施す。152は無蓋高杯。口縁部は外傾気味に開き、端部を丸く仕上げる。外面に沈線を３ヶ所に巡らし、二段目の沈線間に連続刺突文を施す。153は把手付椀。口縁は緩く内湾気味に立ち上がり、端部を丸くおさめる。外面にはカキメを施した後、沈線を２ヶ所に施し、

その間に把手をつける。図では両把手に復元したが、片把手の可能性がある。

**表採**（第26図）

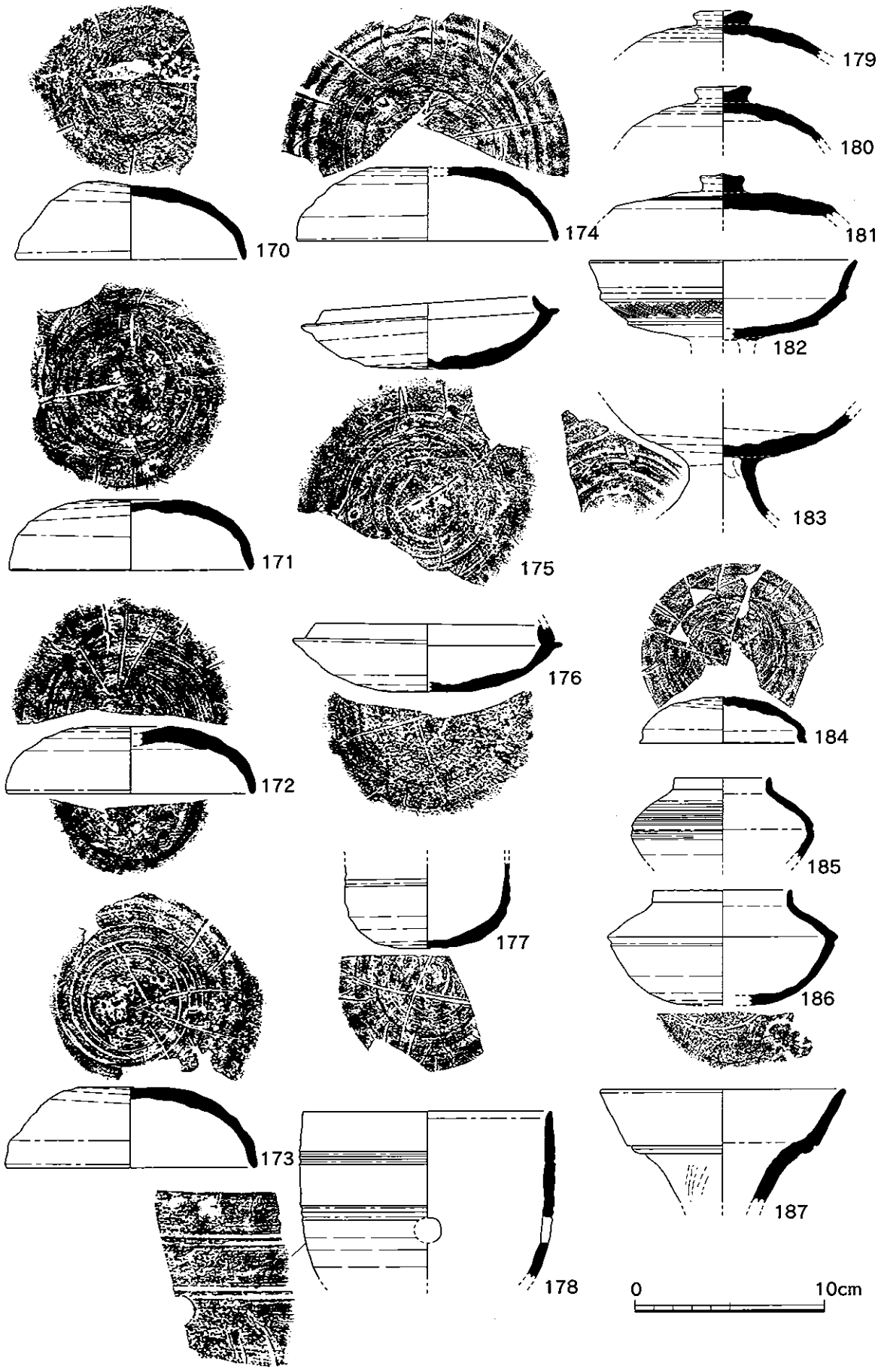
**須恵器（154・155）** 154は杯蓋。口縁端部は丸く仕上げ、天井部には右方向の回転ヘラケズリを外面の１／３ほど施した後、ヘラ記号を施す。155は甕。口頸部は外反して開き、端部は丸く肥厚させる。体部外面平行タタキ後、内面はナデを施す。

**灰原１区２層**（第27図・図版29・30）

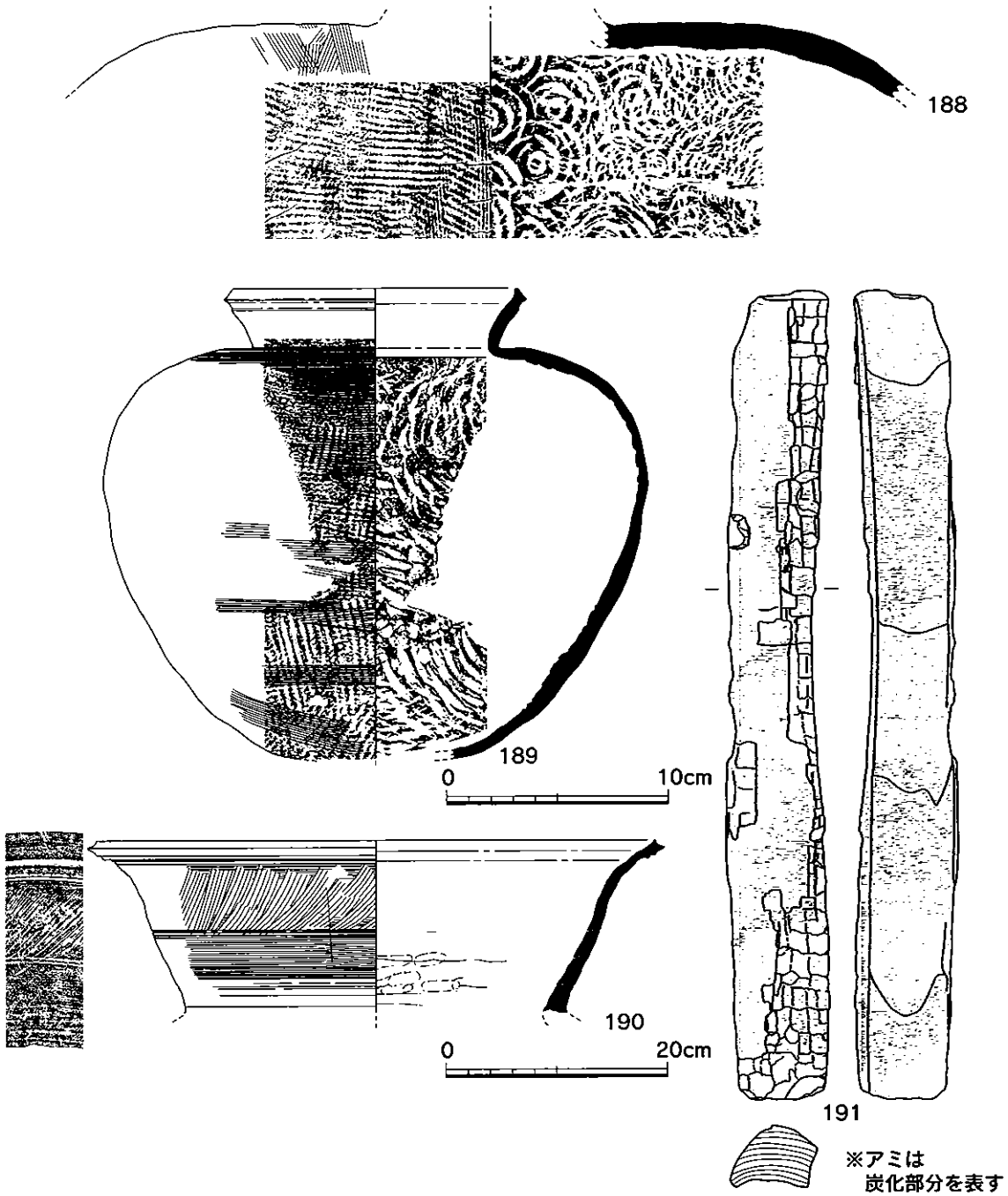
**須恵器（156 ～ 169）** 156は杯蓋。口縁部をわずかに外反させて端部を丸くおさめる。天井部に右方向の回転ヘラケズリを外面の１／２ほど施す。内面に降灰する。157 ～ 161は杯身。いずれも口縁部の立ち上がりは短く内傾し、天井部外面には右回転の回転ヘラケズリを外面の１／３～１／２ほど施し、ヘラ記号を施す。160・161は底部外面に降灰する。162は椀。口縁は直立気味に立ち上がり、端部は丸くする。側面に２条の沈線を巡らす。底部全面に右方向の回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号を施す。163 ～ 166は高杯である。163は無蓋高杯の杯部で、二段の稜を有し、口縁部は外傾気味に広がる。外面にはカキメを施し、脚部は欠損しているが基部にスカシを入れた痕跡が残る。外面に降灰する。164・165・166は高杯の脚部。ともに外湾して開き、脚端をつまみ出す。164は方形スカシを三方向に穿つ。165は外面にカキメを施した後、方形スカシを二方向に穿つ。166は屈曲部をもち、端部をつまみ出す。屈曲部の上位に直径７㎜ほどの円孔を穿つ。167は短頸壺。口縁部はやや外反気味に短く立ち上がる。肩部に短頸壺の蓋片と杯身片が折り重なって釉着する。168は甕の口縁部である。屈曲部には沈線を施し、突出は断面台形状となる稜をなす。内外面ともに降灰する。169は蓋。つまみがつく。口縁部は外方に突出し、端部を跳ね上げる。

**灰原１区拡張部８層**（第28・29図・図版30）

**須恵器（170 ～ 190）** 170 ～ 174は杯蓋。口径12.1 ～ 13.7㎝で、天井部はやや低い。天井部に回転ヘラケズリを施すが、170・173・174は左回転、171は右回転の回転ヘラケズリで外面の１／３ほどの範囲に施す。170・172 ～ 174の外面にヘラ記号を施す。171はヘラ記号というよりは植物質の棒状圧痕状のものが残る。170は天井部に降灰するが、172・173は天井部に向かって自然釉が垂れ、口縁を上にして焼成されたようである。175・176は杯身。口径11.2 ～ 12.0㎝。ともに立ち上がりは短く内傾する。いずれも底部に回転ヘラケズリを施し、175が右回転、176は降灰のため不明。ともに底部に降灰する。177・178は椀。177は体部は直立し、沈線を1条巡らす。底面全体を右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。内面に降灰する。178は体部は丸みをもって直立する。側面の２ヶ所に２条沈線を施し、それより下位から右方向の回転ヘラケズリを施す。体部に９㎜大の円孔を焼成前に穿孔する。179 ～ 183は高杯。179 ～ 181は有蓋高杯の蓋で、回転ヘラケズリ後、ボタン状のつまみを付ける。179・180のつまみ中央部は窪み、181は隆起する。182は無蓋高杯の杯部。二段の稜を有し、口縁部はやや外傾して広がる。稜の間に連続刺突文を施す。杯底部は右回転の回転ヘラケズリ後、脚を付す。183は低脚の有蓋高杯か。ゆるやかに広がる杯部で、杯底部外面に右回転の回転ヘラケズリを施した後、脚を付ける。ヘラ記号を施す。184 ～ 186は短頸壺。184は蓋。口縁端部は斜めに窪む。天井部には右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。185の頸部は短く立ち上がる。上半部にカキメを施し、体部中位に沈線をめぐらす。



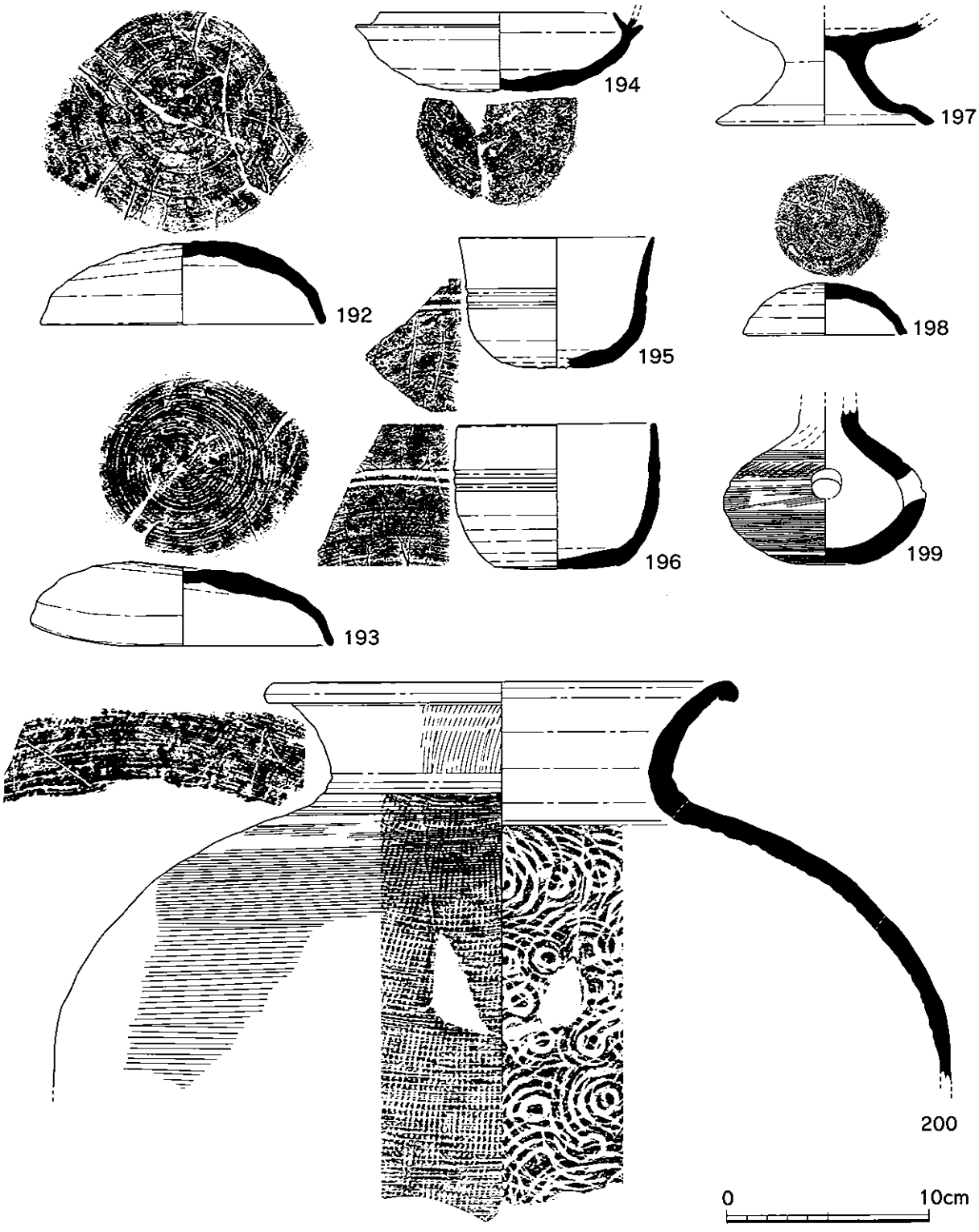

第28図　１号窯跡灰原１区拡張部８層出土遺物実測図①（１／３）




**第29図　1号窯跡灰原1区拡張部8層出土遺物実測図②（190は1／6、他は1／3）**

186は、頸部を短く直立気味に立ち上げる。肩部は角ばり、沈線を施す。底部は回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。外面全体に降灰し、他の須恵器が釉着する。187は甕の口縁部片。屈曲の後外傾して広がる。屈曲部の突出は丸くなる。188は横瓶。外面は擬格子タタキ後、カキメを施す。内面に同心円文当て具痕が残る。189・190は甕。189は肩部が張り、頸部は短く外傾、端部は鋭くつまみ出す。体部外面は擬格子タタキ後カキメを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。190は頸部のみ残存。外傾して立ち上がり、口縁部付近で外湾、端部をつまみ出す。外面はカキメを施した後、沈線を上位に施し、その下に連続斜線文を施した後に中位に沈線を施す。

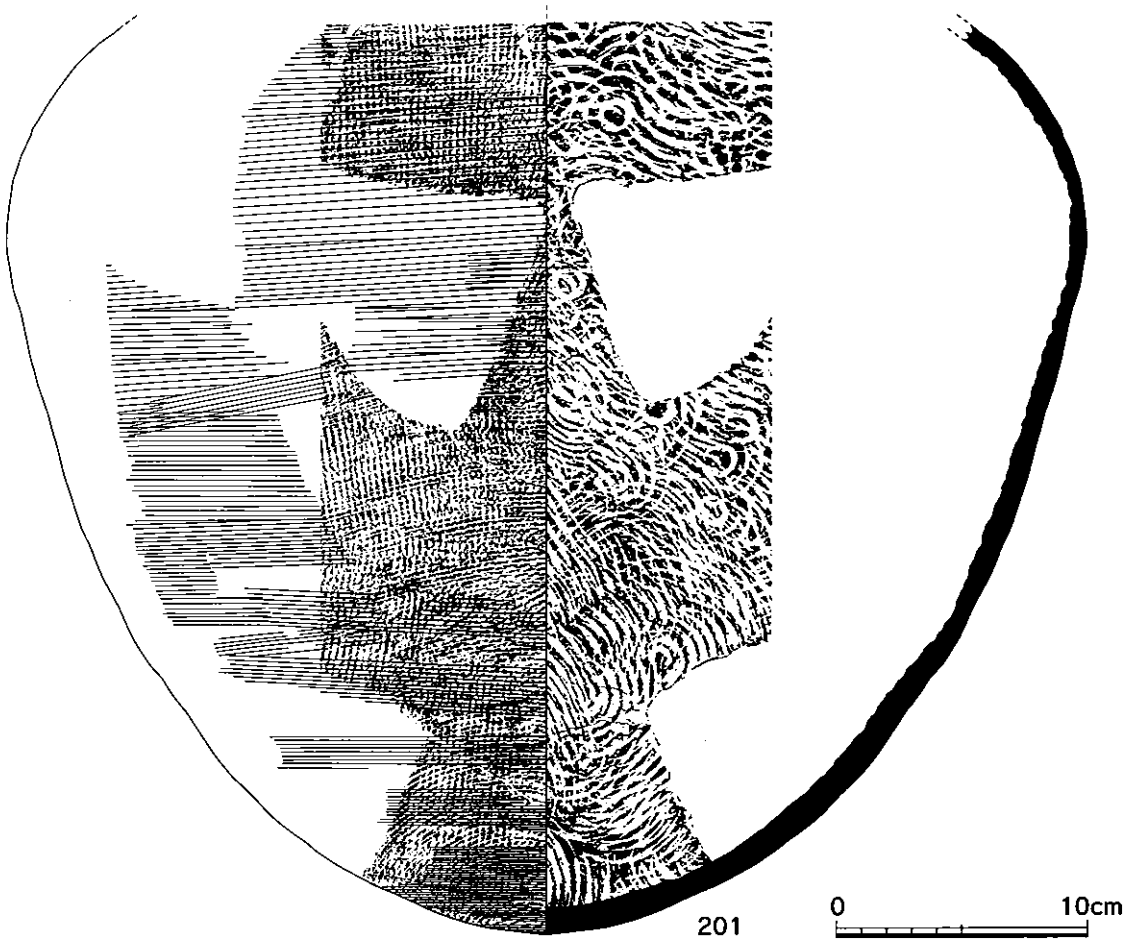
**炭化材（191）**　191は長さ36.6cm、幅4.4cm、厚さ2.8cm。一部樹皮が残存し、全面炭化する。年輪から、細かく割られた燃料材と考えられる。




**第30図　１号窯跡灰原１区拡張部11・12層出土遺物実測図①（１／３）**

**灰原１区拡張部11・12層**（第30～32図・図版30）

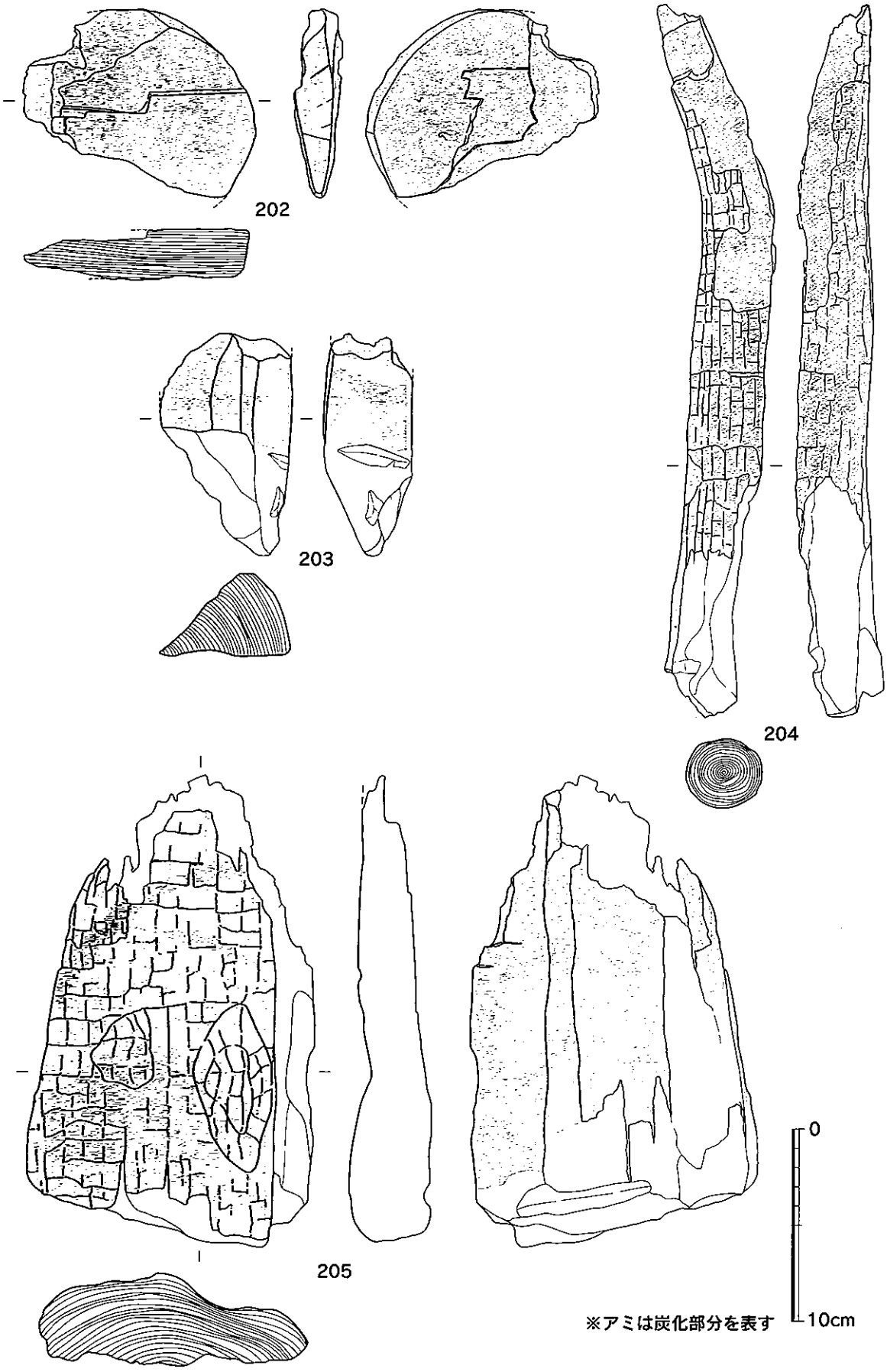
**須恵器（192～201）**　192・193は杯H蓋。口径14.1～14.9cm。天井部はやや低い。天井部外面は右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施し、ヘラ記号をつける。193は焼け歪む。194は杯身。口径11.6cm。立ち上がりは短く内傾する。底部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施す




**第31図　１号窯跡灰原１区拡張部11・12層出土遺物実測図②（１／３）**

が、最下部をケズリ残す。底部に降灰し、受部には蓋の口縁が釉着する。195・196は椀。ともに体部外面中位に２条沈線を巡らす。195は口縁にむかって外反し、底部に右回転の回転ヘラケズリを施した後、ヘラ記号を施す。196は直立気味に立ち上がり、底部から体部外面中位まで左回転の回転ヘラケズリを施した後、ヘラ記号を施す。197は高杯の脚部。屈曲部をもち、脚端部へいたる。198は短頸壺の蓋。口縁端部を斜めに仕上げる。天井部は右回転の回転ヘラケズリを外面の１／２ほど施し、ヘラ記号を施す。199は甕である。体部のみ残存する。最大径が中位に来る玉葱形で、底部回転ヘラケズリ後、全体にカキメを施し、肩部に２条の沈線と連続刺突文、1.1cm大の穿孔を施す。焼成不良で黄橙色を呈す。200・201は甕。同一個体か？ 200は頸部は外湾して開き、端部を丸く肥厚させ、端部の下方を平らにする。頸部外面はナデを施す。体部は外面擬格子タタキの後カキメ、内面に同心円文当て具痕を残す。頸部外面にはヘラ記号を施す。201は体部のみの破片。体部中位上半に最大径をとり、体部外面平行タタキの後、カキメを全体に施し、内面に同心円文当て具痕を残す。

**炭化材（202～205）**　202は残存長9.9cm、残存幅12.1cm、厚さ3.1cmである。一端を円弧状に削り、本来は木製品であったと思われる。203は残存長11.6cm、幅6.9cm、厚さ4.3cmである。工具痕が残る。一端は完全に炭化するが、もう一端は炭化しない。ミカン割りされた燃料材の燃えさ

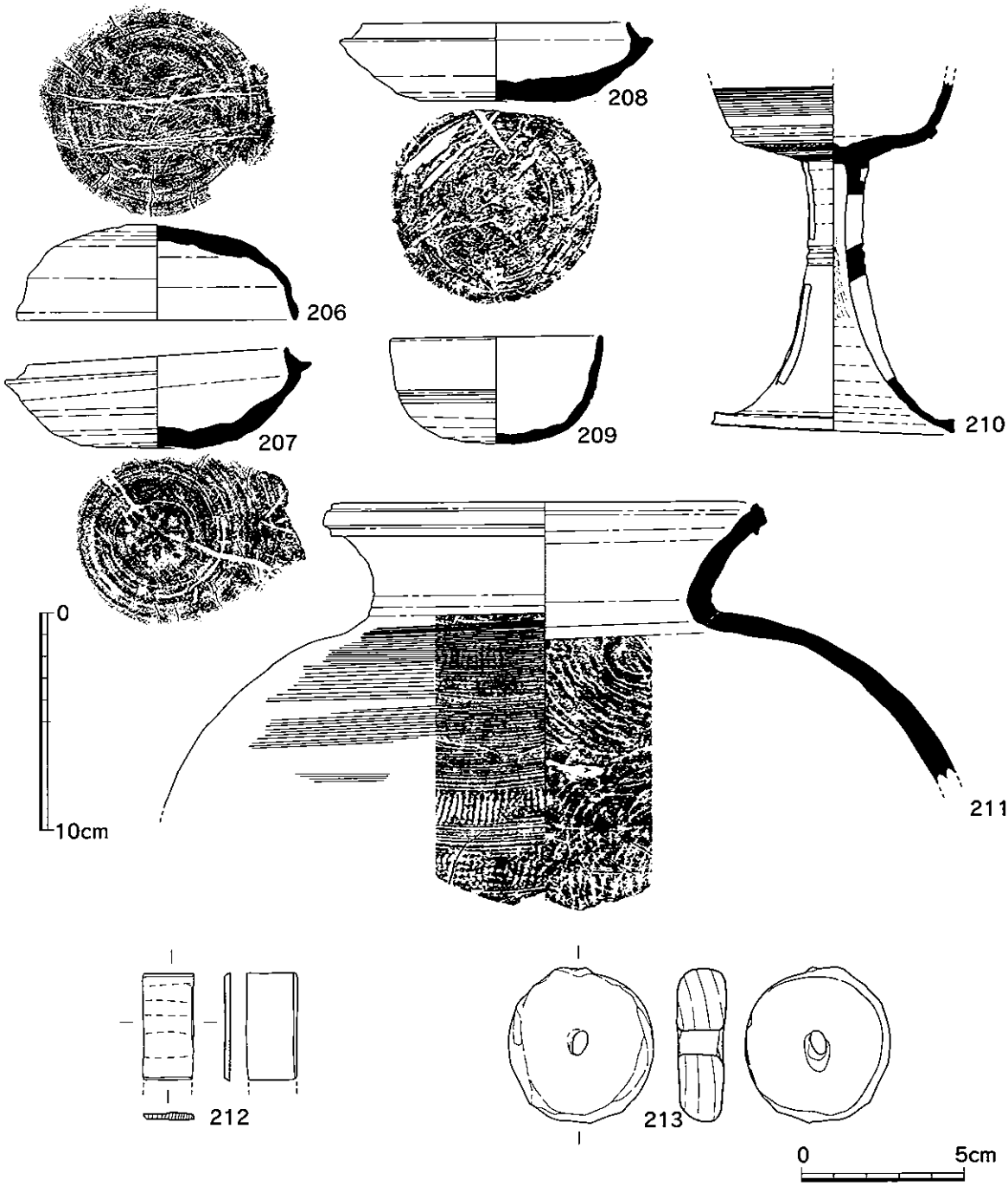



第32図　１号窯跡灰原１区拡張部11・12層出土遺物実測図③（１／３）

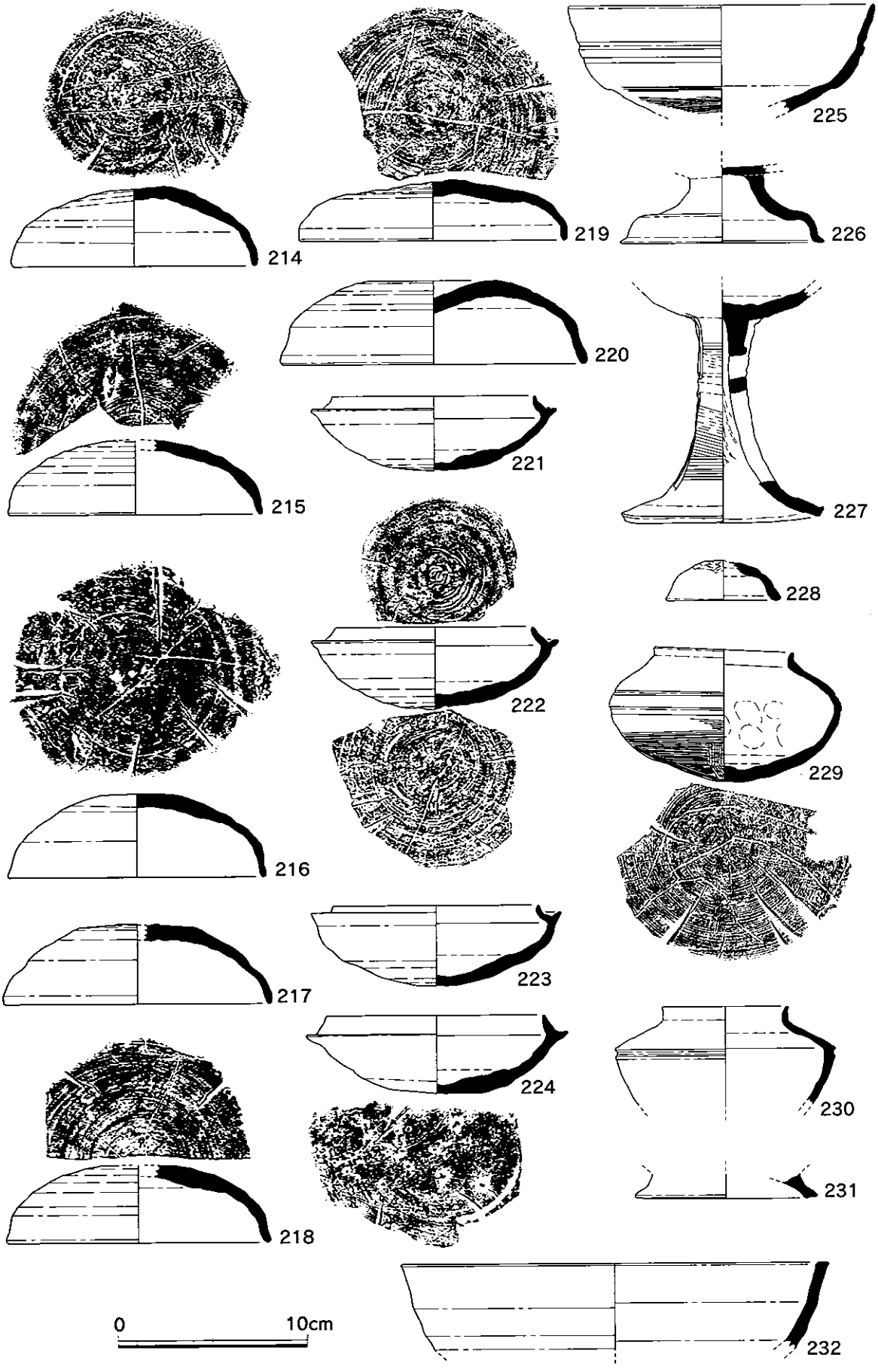
し。204は残存長27.0cm、幅3.9cm、厚さ3.55cmである。棒状で全面炭化する。一端は芯まで炭化するが、一端は表面のみである。枝材もしくは細い幹材の燃料材。205は残存長24.4cm、幅12.0cm、厚さ4.7cmである。表面が全体的に炭化する。大型の幹を割り材にした燃料材。

**灰原拡張部13層・1層・層位不明**（第33図・図版30）

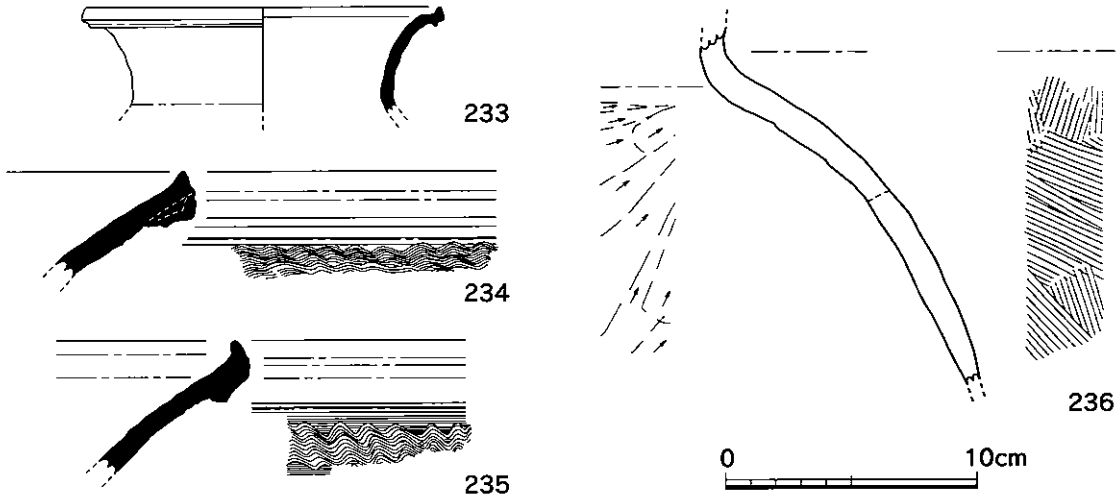
**須恵器（206～211）** 206は杯蓋である。口径13.0cm。天井部は右回転の回転ヘラケズリを1／2ほど施し、ヘラ記号を施す。火だすき状の痕跡がある。207・208は杯身である。口径12.0～12.3cm。口縁部は内傾する。207は底部外面に2／3ほど右回転の回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号を施す。208は底部外面に左回転の回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号を施す。ともに焼成不




**第33図　1号窯跡灰原1区拡張部13層・1層・層位不明出土遺物実測図**
**（212・213は1／2、他は1／3）**




第34図　1号窯跡灰原2区2層出土遺物実測図①（1／3）



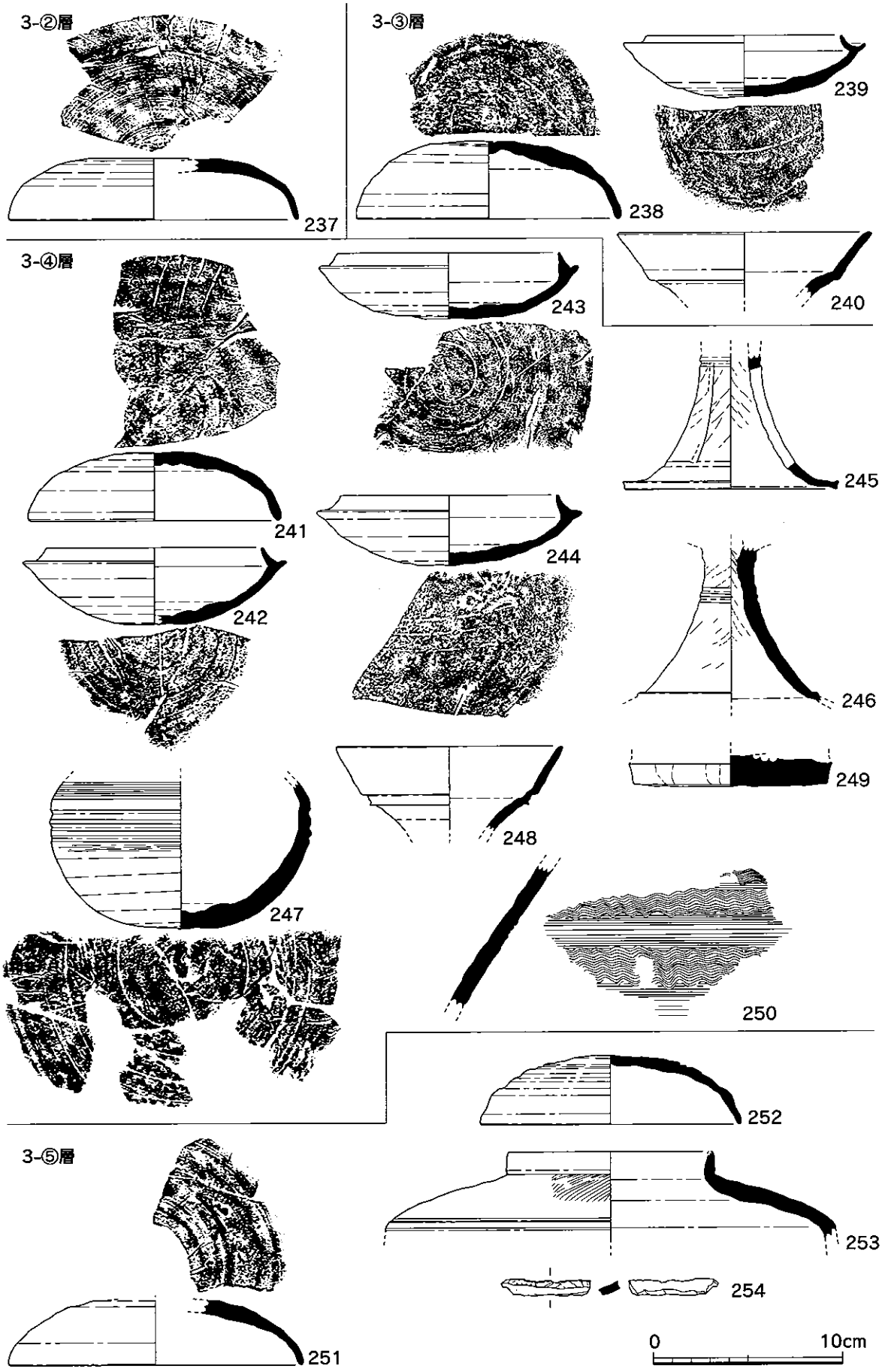

**第35図　１号窯跡灰原２区２層出土遺物実測図②（１／３）**

良で灰白～浅黄橙色を呈す。209は椀である。口縁は緩やかに開きながら立ち上がり、端部は丸くする。側面に２条沈線を施す。底部外面右回転の回転ヘラケズリを施す。210は無蓋高杯。口縁部は欠損する。杯部外面にはカキメ後、杯底部に２条の沈線を施した後、連続刺突文を施す。脚柱部は細く、裾部はラッパ状に開き、脚端部はつまみ出す。中位に２条沈線を施し、方形二段スカシを三方向に施す。211は甕。頸部は短く外反する。体部外面は擬格子タタキ後カキメを施し、内面は同心円文当て具痕後、ヨコナデを施す。

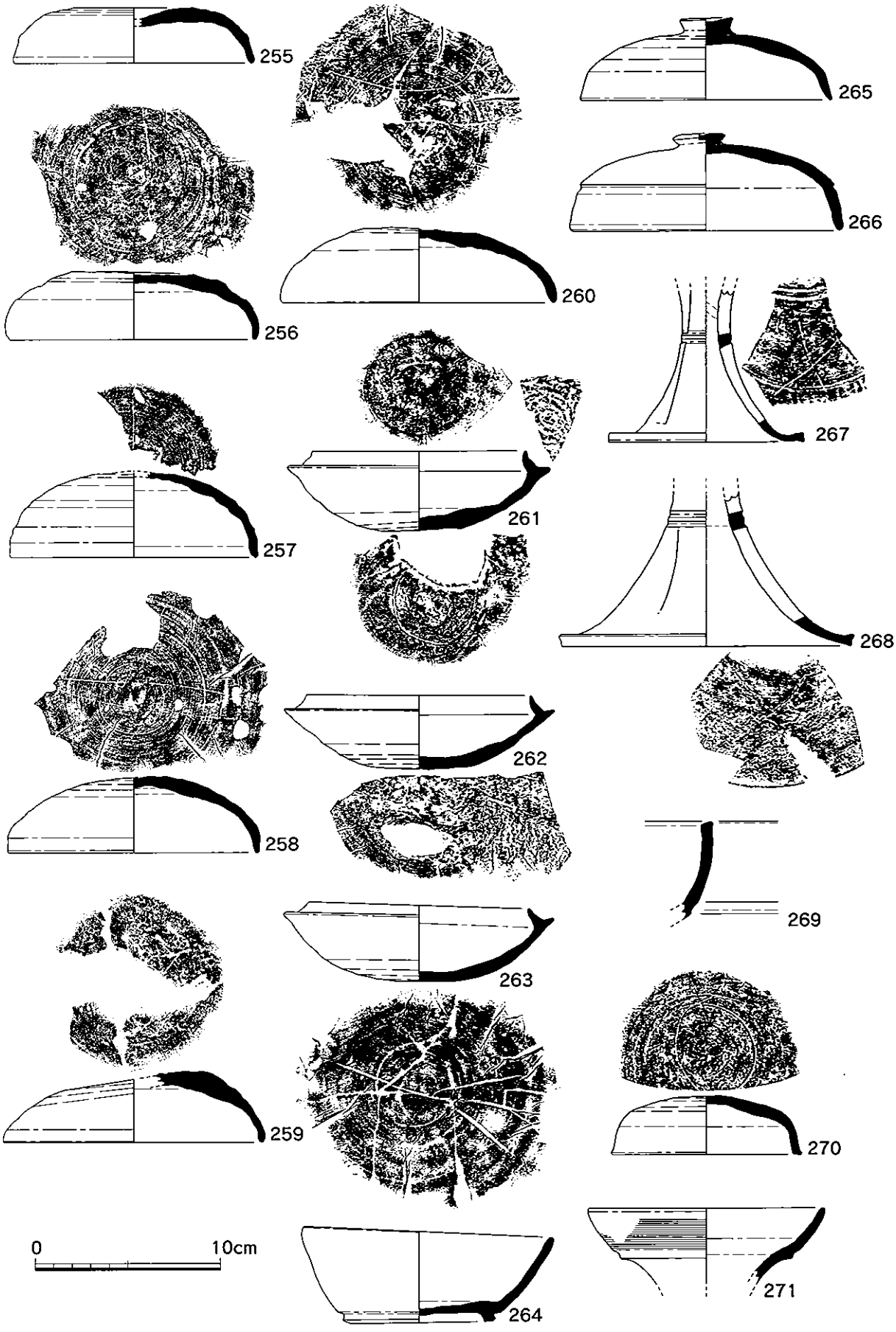
**木製品（212･213）**　212は曲物。残存長は3.3cm、幅1.6cm、厚さ0.2cmの小片で、工具痕が残る。１層からの出土。213は紡錘車。長さ4.7cm、幅4.4cm、厚さ1.5cm。厚みのある円形で、中央に0.7～0.8cmほどの穿孔を施す。層位不明。

**灰原２区２層**（第34・35図・図版31）

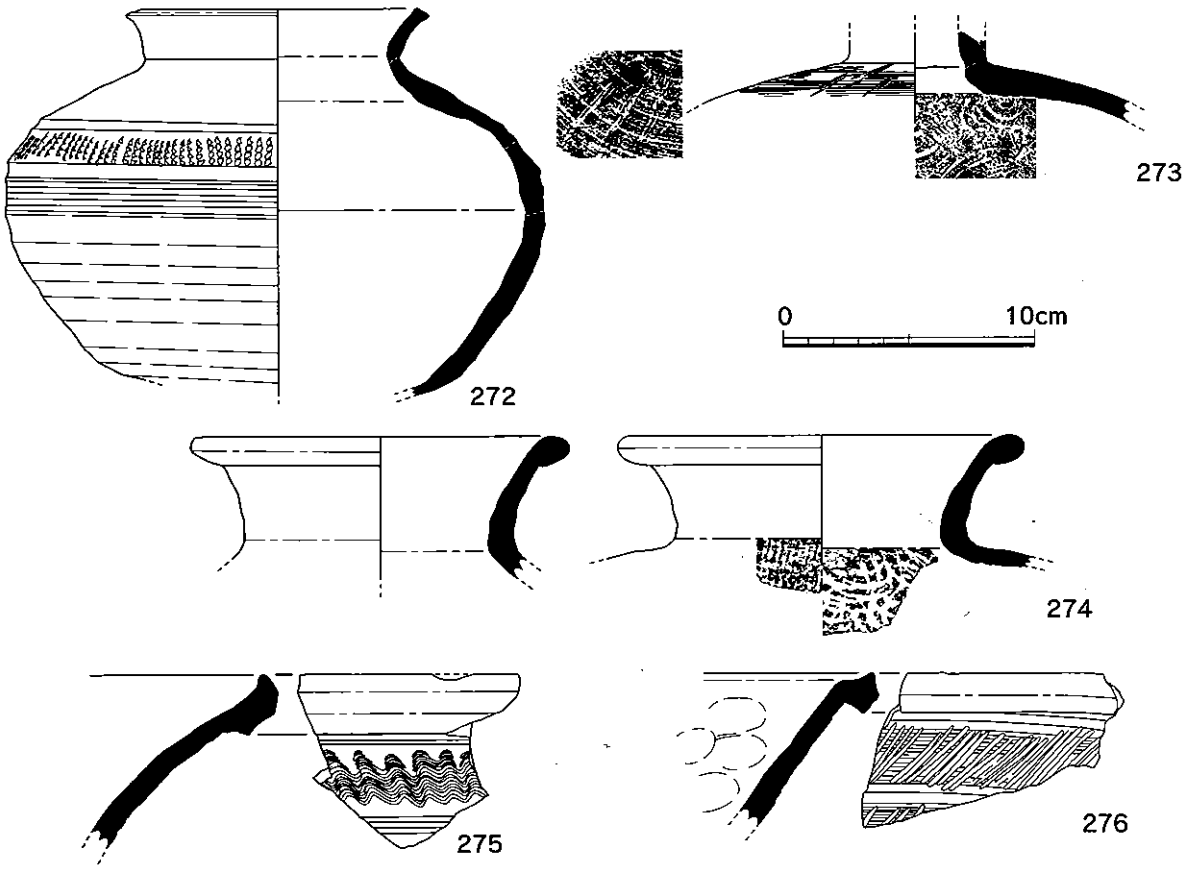
**須恵器（214～235）**　214～220は杯蓋。口径13.0～16.2cm。天井部は比較的低い。いずれも右回転の回転ヘラケズリで、214は外面の１／３ほど、215～217・219・220は１／２ほど、218は外面の２／３ほど施す。214～216・218・219は外面にヘラ記号を施す。214は天井部に降灰、215は天井部側に向かって自然釉が垂れる。221～224は杯身。口径10.6～11.5cm。立ち上がりは内傾し、杯部は比較的浅い。底部外面は回転ヘラケズリを施し、221・222は右回転で、それぞれ外面の１／２・２／３ほど施す。223・224は降灰のため不明。222の内面には同心円文当て具痕が残る。221は内外面、223・224は外面に降灰する。225～227は高杯。225は無蓋高杯の杯部。緩やかに外傾して開く。体部外面に２条沈線を施し、底面にカキメを施す。226は脚部。屈曲して開き、脚端部を外側につまみ出す。227は脚部。細くラッパ状に開き、脚部外面はカキメ後、中位に沈線を施し、方形二段スカシを二方向に施すが、上段のスカシは貫通しない。228～230は短頸壺。228は蓋。口径6.0cmと小型で内面は窪む。天井部に手持ちヘラケズリを施す。229は口縁部を直立させ、端部を丸くする。体部に２条沈線を巡らす。底部外面カキメ後、十字にカキメを施し、ヘラ記号を施す。230は口縁部を直立させ、肩部は鋭く張り、沈線を施す。外面に降灰する。231は椀の高台。短く外側に張り出し、端部下方をやや窪ませる。




第36図　１号窯跡灰原２区３－②～⑤層出土遺物実測図（１／３）




第37図　１号窯跡灰原２区３－⑥層出土遺物実測図①（１／３）




**第38図　１号窯跡灰原２区３－⑥層出土遺物実測図②（１／３）**

232は鉢か？口縁部は内湾気味にひろがり、端部は四角くする。233は甕。頸部の破片で、外湾して開く。234・235は甕。234は端部をつまみ上げる。外面はカキメ後沈線を施し、波状文を施す。235は口縁端に粘土を足し、つまみ上げる。外面はカキメ後沈線を施し、波状文を施す。

**土師器（236）**　236は甕。長胴のもので、体部外面ハケメ、頸部ヨコナデ、内面ケズリを施す。

**灰原２区３－②層**（第36図）

**須恵器（237）**　杯蓋。天井部に右回転の回転ヘラケズリを２／３以上施し、ヘラ記号を施す。

**灰原２区３－③層**（第36図）

**須恵器（238～240）**　238は杯蓋。口径14.0cm。天井部はやや高い。天井部に右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施し、ヘラ記号を施す。239は杯身。口径10.3cm。杯部はやや浅い。口縁部は短く内傾する。底部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施し、ヘラ記号を施す。両面に降灰する。240は甕の口縁部。口縁部は屈曲後外傾して開き、端部は丸い。

**灰原２区３－④層**（第36図）

**須恵器（241～250）**　241は杯蓋。口径13.4cm。天井部はやや低い。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを２／３ほど施し、口縁部にヘラ記号を施す。242～244は杯身。口径11.5～11.8cm。杯部はやや浅い。口縁部は短く、内傾する。天井部外面には回転ヘラケズリを施した後、ヘラ記号を施す。ロクロ回転方向は242が左回転、243が右回転、244は不明。244は外面に降灰する。245・246は高杯の脚部。245はラッパ状に開き、端部を四角くし、やや窪ませる。脚柱部

にはシボリ痕がある。脚部外面には沈線を施し、方形スカシを三方向に穿つ。246は脚柱部にシボリ痕がみられ、ラッパ状に開く。屈曲部をもつようで、稜が付く。内面に降灰する。247は壺。球状で底部外面全体に右回転の回転ヘラケズリを施し、中位に３条の沈線を施す。外面２ヶ所にヘラ記号を施し、黒斑を有する。248は甕の口縁部。屈曲部をもち、屈曲部には沈線と断面三角形の突出がつく。249はすり鉢の底部。底径10.3cm。内外に複数の小さな刺突痕が残る。250は甕。頸部外面にカキメ後、沈線を施し、波状文を施す。

**灰原２区３－⑤層**（第36図）

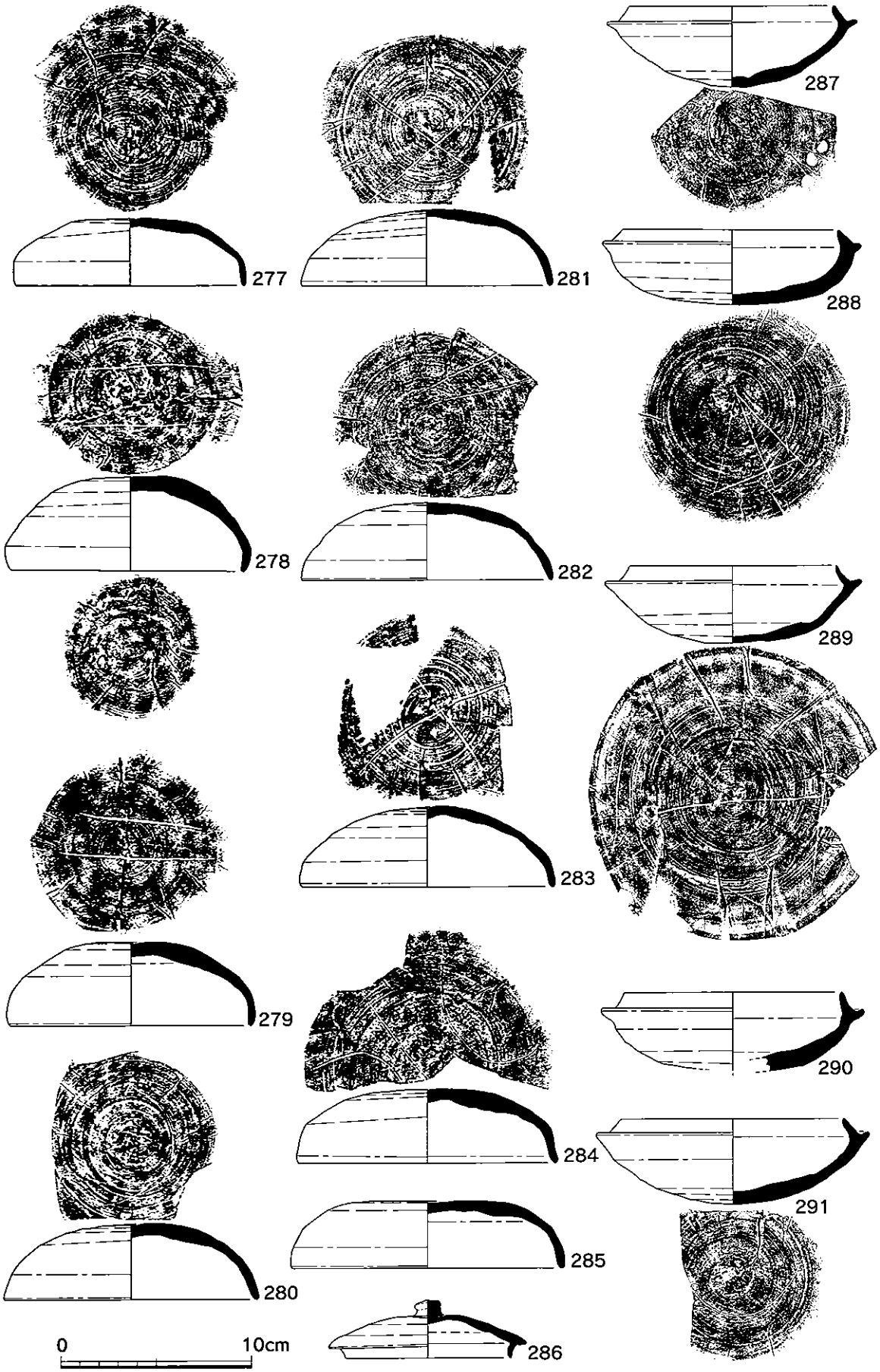
**須恵器（251～254）**　251・252は杯蓋。251は天井部に右回転の回転ヘラケズリを施す。252は口径13.8cm。口縁部を窪ませ、端部を丸くする。天井部は右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施す。非常に多くの砂粒を含む。253は短頸壺。頸部は短く直立し、肩部が張る。肩部はハケメ後回転ナデを施し、沈線を２条施す。254は切削物。外面にタタキの一部が認められる。

**灰原２区３－⑥層**（第37・38図・図版31）

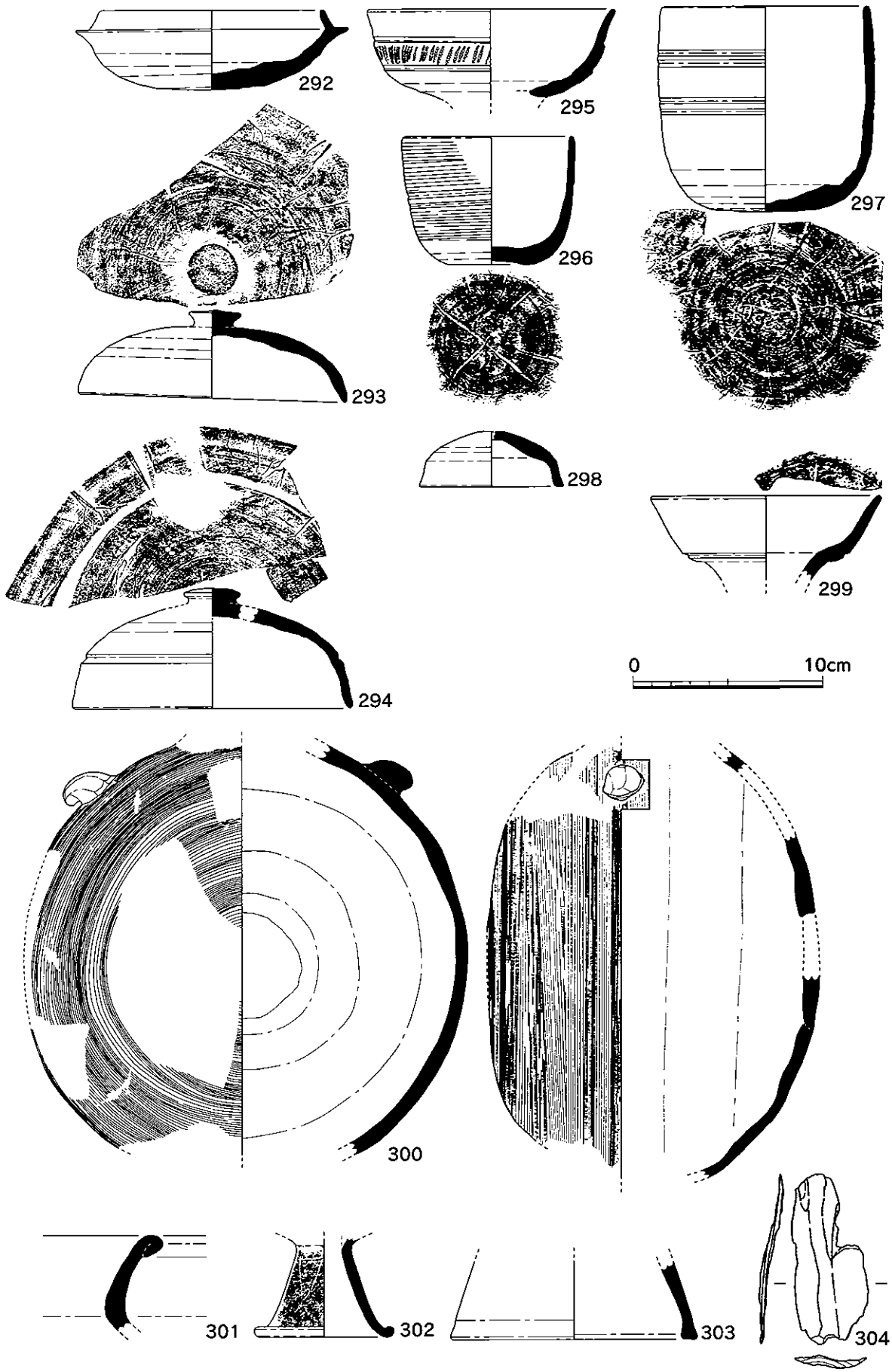
**須恵器（255～276）**　255～260は杯蓋。口径12.9～14.8cmで、天井部はやや低い。257～260は全体的に丸みを帯びる。いずれも天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施す。256～260の天井部外面にはヘラ記号を施す。261～263は杯身。口径11.6～12.2cm。口縁部は短く内傾する。底部外面に回転ヘラケズリを施し、回転の向きは261が右方向、262・263が左方向である。いずれも外面の１／２ほど削る。底面にはすべてヘラ記号を施す。261・262は外面に降灰し、261は蓋や甕片が釉着する。264は杯Ｂ身。口縁は外傾し、端部は丸くする。高台は低く、端部は内傾する。265～268は高杯。265・266は有蓋高杯の蓋で、中央の窪むボタン状のつまみが付く。265はやや屈曲してひらき、口縁部は外反気味である。天井部に左回転の回転ヘラケズリ後、つまみをつける。266は天井部と体部の境に稜を有する。天井部は回転ヘラケズリ後つまみをつけ、回転ナデを施す。267・268はラッパ状に開く。ともに中位に２条沈線を施し、方形二段スカシが二方向に穿たれると思われる。ヘラ記号を267は脚部外面に、268は内面に施す。269は鉢か。内湾気味に立ち上がり、端部はやや四角くする。体部外面に沈線を施す。270は短頸壺の蓋。口縁は湾曲気味に下がり、端部を外側につまみ出す。天井部は回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号を施す。271は甕の口縁部。屈曲部をもち、内湾して端部へいたる。屈曲部には沈線を施す。口縁部外面にはカキメを施す。272は壺。頸部は短く外傾し、口縁端部は平らに仕上げられる。体部下半全体に右回転の回転ヘラケズリを施す。肩部には２条の沈線を施し、その間に連続刺突文を施す。273は横瓶か。頸部は垂直に立ち上がる。外面にカキメを施し、内面は同心円文当て具を施した後ナデ。頸基部付近に数条の線からなるヘラ記号を施す。274は横瓶。頸部は外傾気味に立ち上がり、端部を丸く肥厚させる。外面平行タタキで内面には同心円文当て具痕が残る。275・276は甕の口縁部。275は外湾気味に立ち上がり、端部は折り曲げて肥厚させ、内湾気味に突出させる。外面カキメ後、上下に２条沈線を施し、波状文を施す。276は外傾して立ち上がり、端部を外側に折り曲げ、四角く作り出す。外面はカキメ後、２条沈線を施し、その間に連続斜線文を施す。

**灰原２区３－⑦層**（第39・40図・図版31・32）

**須恵器（277～303）**　277～285は杯蓋。口径12.1～14.4cm。天井部はやや低いものと高いも




第39図　１号窯跡灰原２区３－⑦層出土遺物実測図①（１／３）



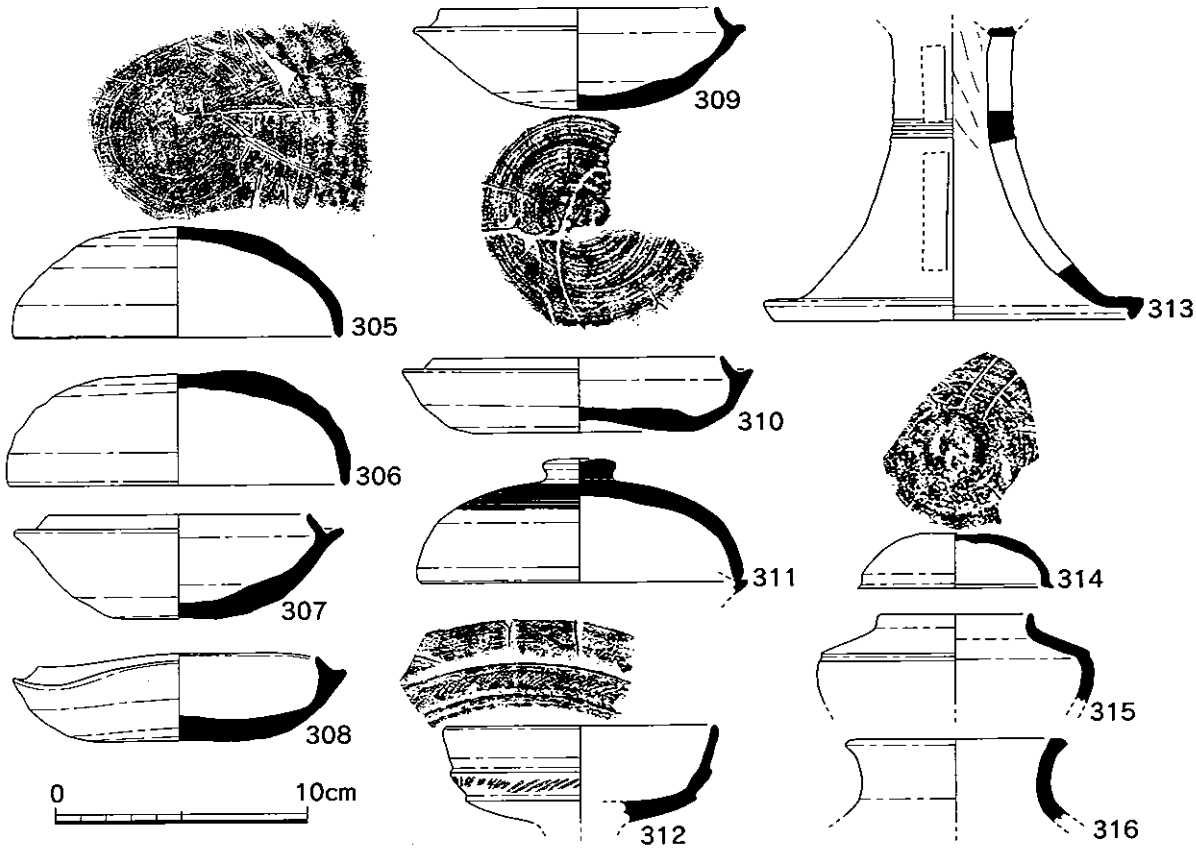

第40図　１号窯跡灰原２区３－⑦層出土遺物実測図②（１／３）

のがある。277～279・285は口縁部が内湾・屈曲気味に下がる。280～283は全体的に丸みを帯び、口縁は緩やかにひろがる。284は端部をやや外反させる。いずれも天井部に回転ヘラケズリを施す。277～284は右回転、285が左回転で、天井部外面の１／２ほどに施す。279の口縁端部外面には、40と同様にハケメ状工具痕がある。277～284の外面にはヘラ記号を施す。286は杯G蓋。かえりは細く高い。天井部には回転ヘラケズリ後、扁平な宝珠形つまみをつける。287～292は杯身。口径10.8～11.9cm。立ち上がりは短く内傾する。底部外面にはすべて回転ヘラケズリを施し、287～289・291は右回転、290・292は左回転である。１／２～２／３ほど施す。288は器壁は厚く、通常の杯H身と形態が異なる。外面にはヘラ記号を施す。288・289は内面にヨコナデを施す。290は底部穿孔される。焼成不良でにぶい橙色を呈す。293・294は有蓋高杯の蓋。293は、口縁がゆるく内湾し、端部は丸い。中央のやや膨らむ扁平なつまみをつける。外面にヘラ記号を施す。294は天井が高く、端部を丸くする。天井部と体部の境に沈線を施し、中央部のやや盛り上がるつまみが付く。外面にヘラ記号を施す。295は無蓋高杯の杯部。口縁部はやや外反する。外面に２条沈線を施し、その間に連続刺突文を施す。底部に右回転の回転ヘラケズリを施し、脚部を付ける。296・297は椀。ともに口縁部は底部から直立する。296は外面にカキメを施し、２条の沈線を施す。底面にヘラ記号を施す。297は２条の沈線を２ヶ所に施す。底面にヘラ記号を施す。298は短頸壺の蓋。口縁部はやや外反し、端部をわずかに窪ませる。天井部に右回転の回転ヘラケズリを施す。299は甕の口縁部。屈曲部をもつ。屈曲部外面には沈線を施し、内面にヘラ記号を施す。300は提瓶。口縁部は欠損する。体部は扁平な球形で側面に鍵状の把手をつける。外面は平行タタキを閉塞面側に施した後、全体にカキメを施す。内面は回転ナデ。円盤閉塞である。301は甕の口縁部。外傾して立ち上がり、端部を折り曲げて丸く肥厚させる。302は高杯の脚部か？小片のため、天地は不明。内傾して広がり、端部を丸く肥厚させる。外面にヘラ記号を施す。303は脚部か。端部はやや肥厚させたのち平たくする。内外面に降灰する。

**炭化材（304）**　304は長さ9.0cm、幅4.0cm、厚さ0.5cm。木材を削った際に出た木片の炭化材か。

**灰原２区拡張部上層黒色土**（第41～43図・図版32）

**須恵器（305～316）**　305・306は杯蓋。口径13.0～13.6cm。天井部はやや高く、口縁部はわずかに内湾する。305は天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施した後、ヘラ記号を施す。306は外面に強い回転ナデを施し、凹凸が激しい。天井部外面に左回転の回転ヘラケズリを１／２ほど施す。307～310は杯身。口径10.4～11.5cm。杯部はやや浅く、いずれも口縁部は低く内傾する。いずれも底部外面には１／２ほどの範囲に回転ヘラケズリを施し、307が左回転、308～310が右回転である。311は有蓋高杯の蓋。中央部が若干窪むボタン形のつまみをつける。天井部にカキメを施し、天井部内面にはヨコナデを施す。外面に降灰する。312は無蓋高杯。口縁部は外傾気味に立ち上がり、外面に二段の稜を有し、その間に連続刺突文を施す。内面に降灰する。313は高杯の脚部。ラッパ状にひらき、脚端を折り曲げる。脚柱部中位に２条沈線を施す。破片のため全容不明であるが、方形二段スカシを三方向に穿っていたものと思われる。314・315は短頸壺。314は蓋である。口縁端部を外側につまみ出す。天井部回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。315は、口縁部は短く直立する。肩部が張り、そこに沈線を施す。外面と内面底部に降灰する。



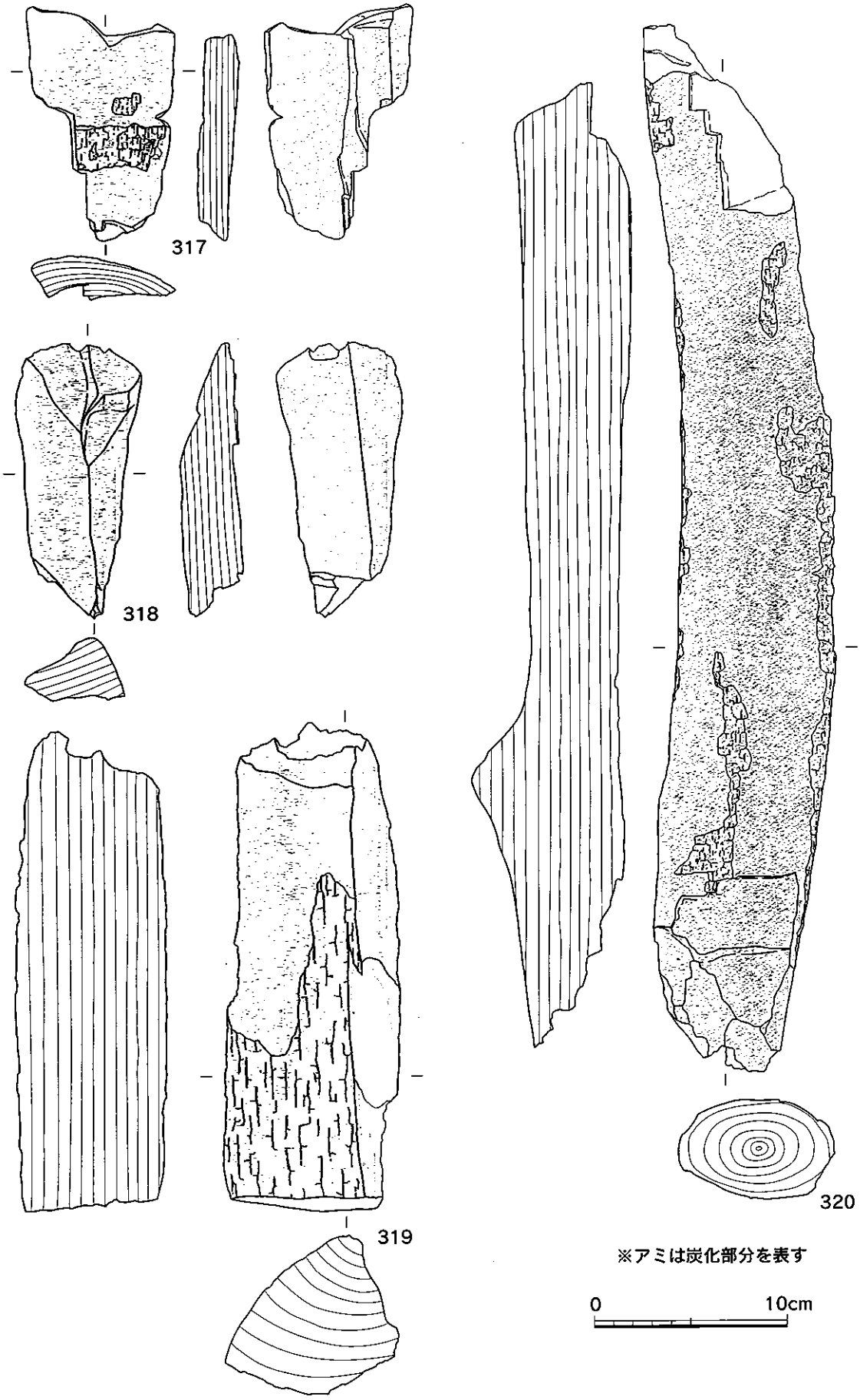

**第41図　１号窯跡灰原２区拡張部上層黒色土出土遺物実測図①（１／３）**

316は壺。口縁部は外反し、端部を外側につまみ出す。

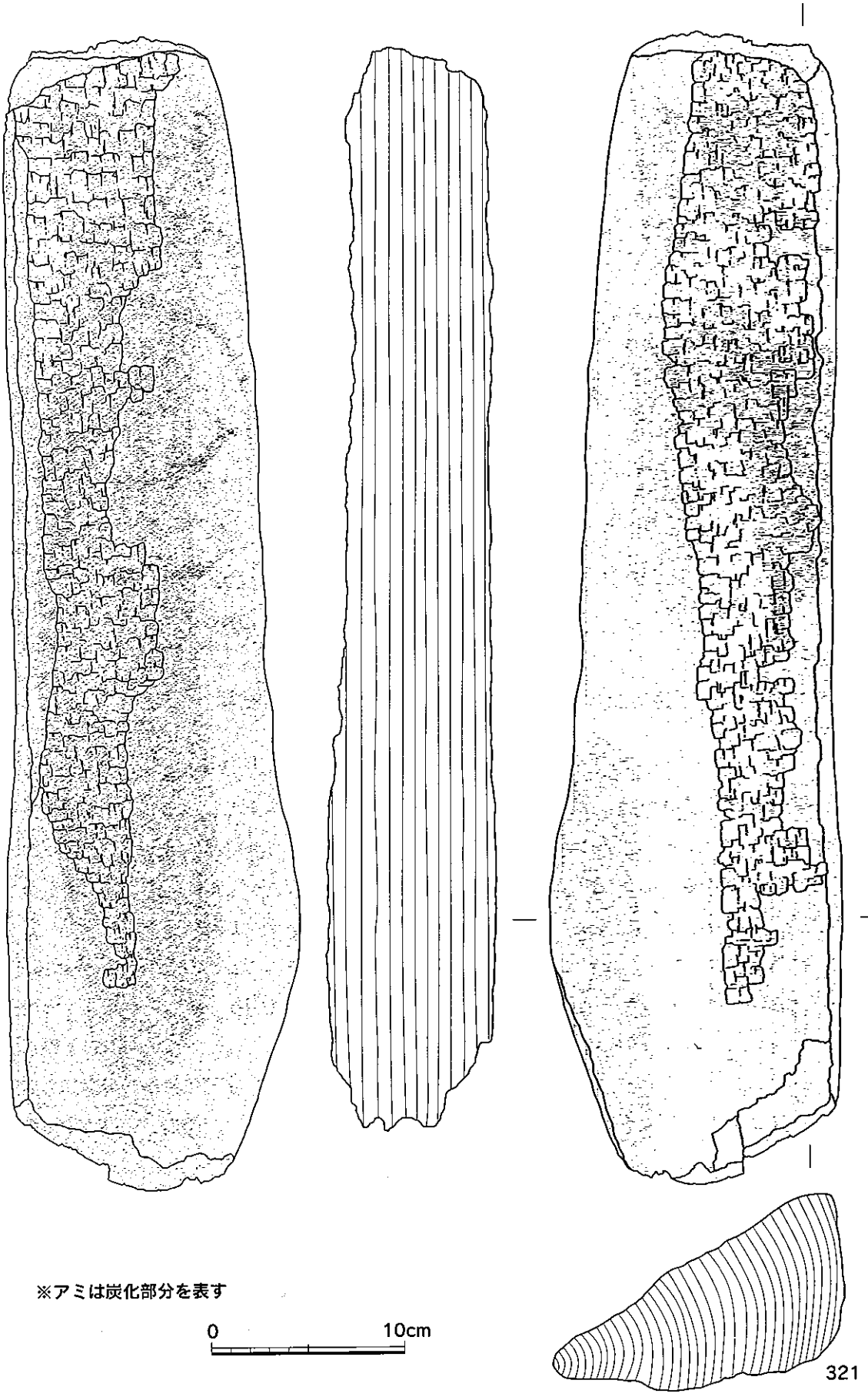
**炭化材（317～321）**　317は長さ11.9cm、幅7.6cm、厚さ2.2cm。全面炭化。樹皮が残る。幹材を割ったものか。318は長さ14.3cm、幅6.2cm、厚さ3.0cm。全面炭化。317と同じく幹材の割り材か？319は丸太材を１／４に縦割りにしたような形状で、長さ25.3cm、幅9.6cm、厚さ8.0cmである。一端に切断面が残り、全面炭化するが内面の一部に生木部分が見られる。320は丸太状で長さ54.4cm、径5.1～8.0cmである。表面のみが炭化する。幹材。321は太い丸太をミカン割りにした形状で、長さ59.8cm、幅15.0cm、厚さ8.7cmである。表面が炭化する。幹材。本来の直径は20cmを超えるか？

**灰原２区拡張部褐色砂質土**（第44・45図・図版32・33）

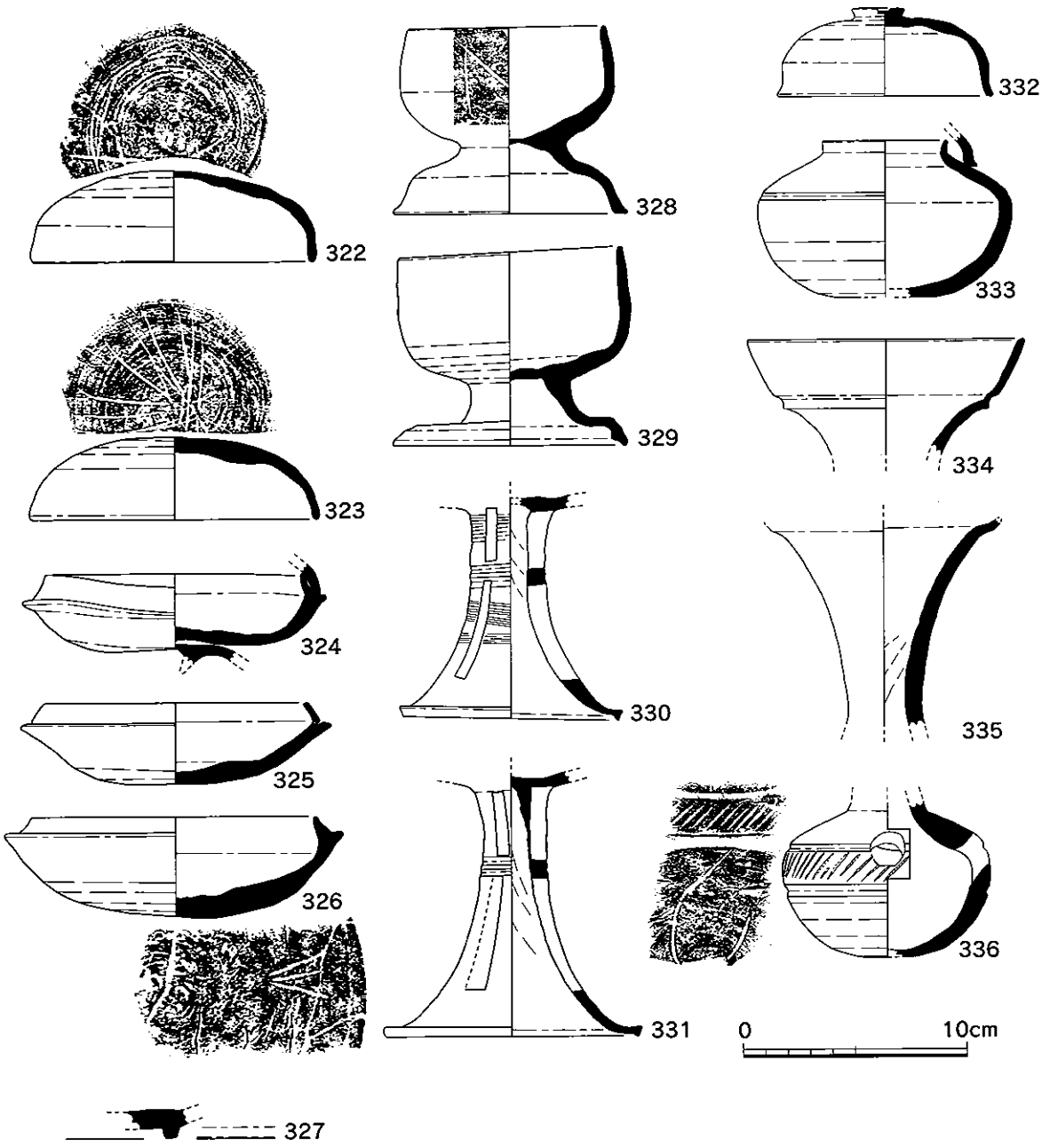
**須恵器（322～339）**　322・323は杯蓋。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２～２／３ほど施し、ヘラ記号を施す。322は外面に降灰する。324～326は杯身。口縁部は短く内傾する。底部外面に２／３ほど回転ヘラケズリを施す。325は左回転、326は右回転、324は降灰のため不明。324は蓋や他の杯身が釉着。326は底部外面にヘラ記号を施す。327は杯Ｂ身。小片で、低い高台をつける。328・329は脚付椀。体部は若干内傾気味に立ち上がる。脚部は屈曲して開き、端部を窪ませて外側につまみ出す。328は椀部外面にヘラ記号を施す。329は椀部内面に降灰し、焼け歪む。330・331は高杯の脚部。ラッパ状にひらき、脚端を下方につまみ出す。330は脚柱部にカキメを施す。ともに２条の沈線を脚柱の中位に施し、方形二段スカシを三方向に穿つ。332・333は短頸




第42図　１号窯跡灰原２区拡張部上層黒色土出土遺物実測図②（１／３）

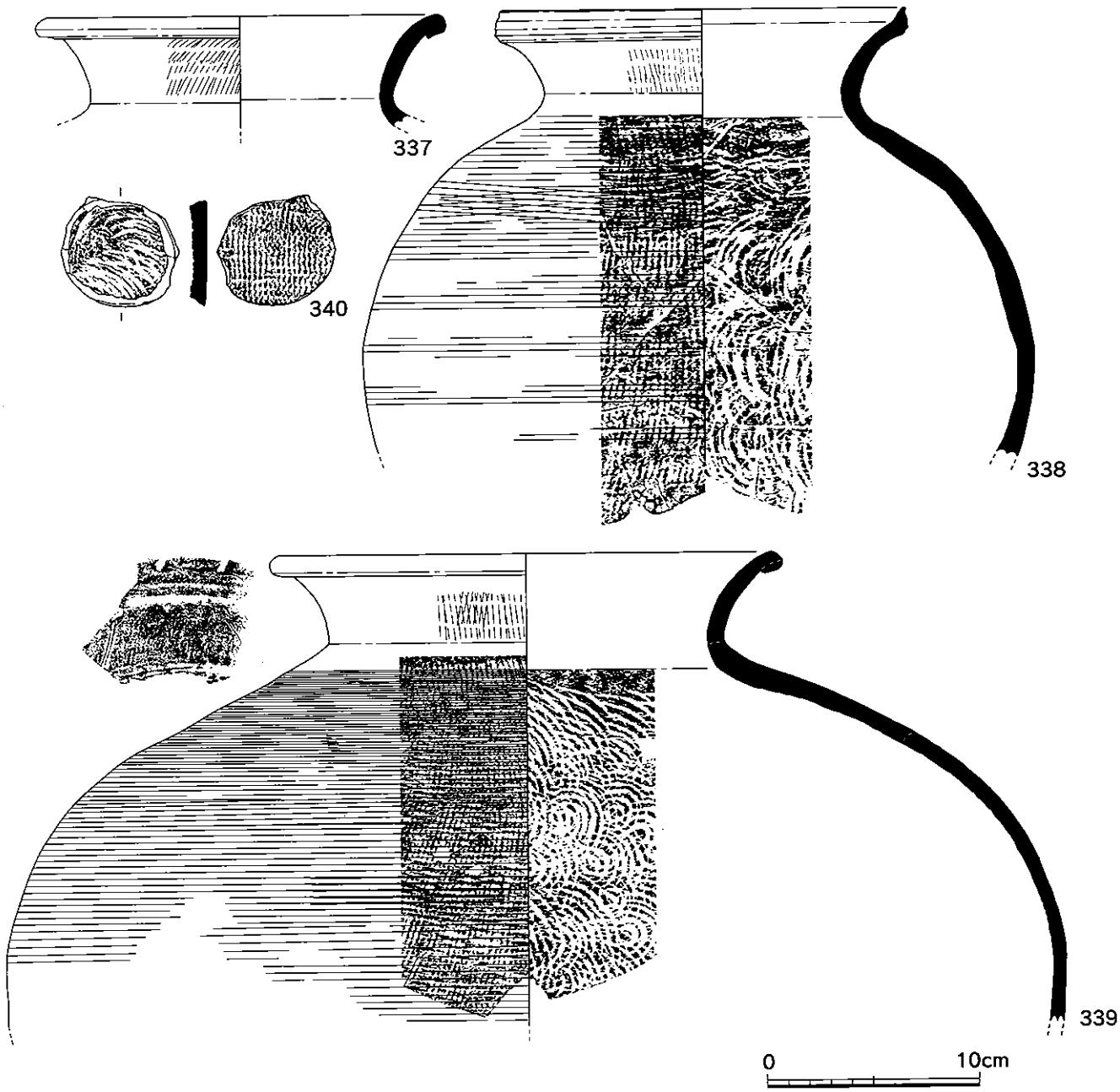



第43図　１号窯跡灰原２区拡張部上層黒色土出土遺物実測図③（１／３）




**第44図　１号窯跡灰原２区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図①（１／３）**

壺。332は蓋か？口縁端部をやや外反させる。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを施し、中央の窪む扁平なつまみをつける。外面に降灰。333の口縁部は外傾気味に短く立ち上がる。肩部に沈線を施す。底部には右回転の回転ヘラケズリ。上面に降灰し、蓋が釉着する。334～336は甕。335は口縁部の破片で、屈曲部に断面三角形の稜を有す。335は頸部、336と同一個体、接合する。336は体部で、右回転の回転ヘラケズリを施す。中位に沈線を２条巡らし、その間に連続刺突文を施す。上の沈線上に円孔を穿つ。337～339は甕。337は口縁部。外反してひらき、端部を丸く肥厚させ、下方を窪ませる。338は口縁部が外反し、端部を上につまみ上げる。体部は外面に擬格子タタキ後カキメを施し、内面は同心円文当て具後、粗くナデを施す。339は口縁部は外反してひらき、端部を丸く肥厚させる。体部は外面に擬格子タタキ後、カキメ。内面には同心円文当て具痕

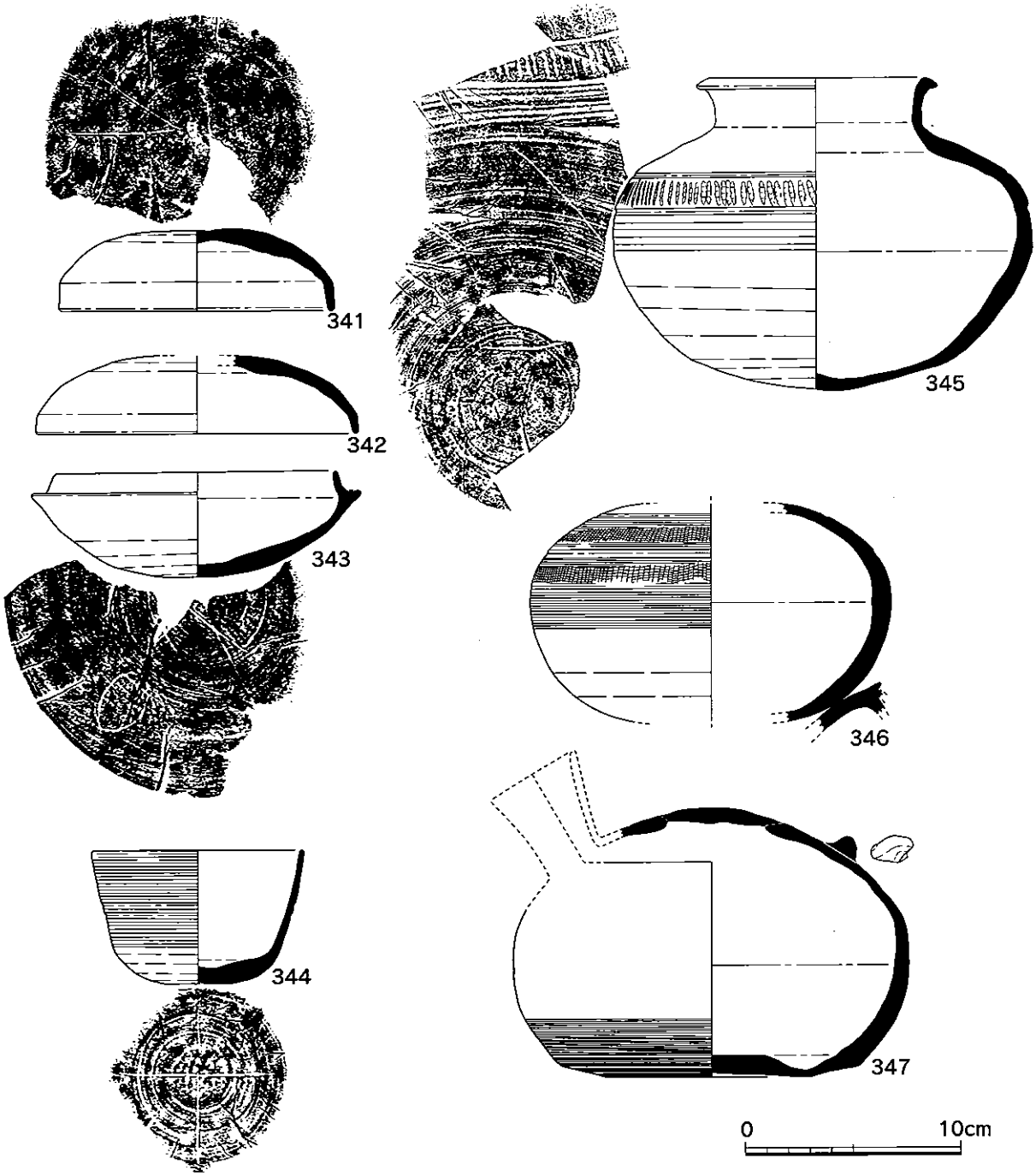



**第45図　１号窯跡灰原２区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図②（１／３）**

を残す。340は切削物。円盤状で外面に擬格子タタキを施し、内面に同心円文の当て具痕が残る。鋭い刃物で切りとったというよりは刃先の鈍い物で円形の溝を掘り、押し取ったようである。

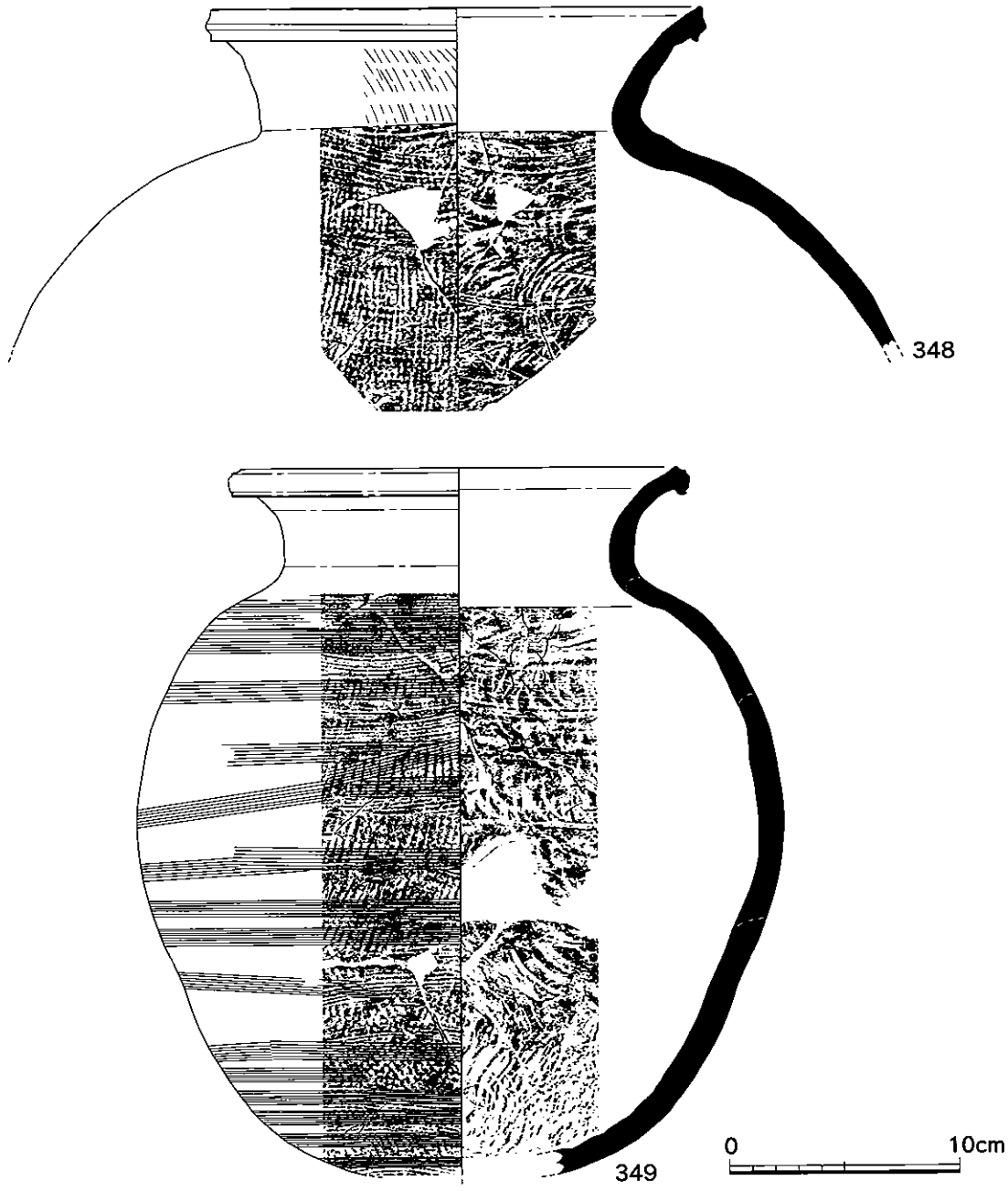
**灰原２区拡張部下層黒色土**（第46～50図・図版33）

**須恵器（341～349）**　341・342は杯蓋。ともに口縁部は下方にやや屈曲し、端部は丸くする。天井部に右回転の回転ヘラケズリを施す。341は天井部外面にヘラ記号を施す。343は杯身。立ち上がりは短く内傾する。底部外面の２／３ほどに右回転の回転ヘラケズリを施した後、ヘラ記号を施す。344は椀。体部は外傾し立ち上がる。外面はカキメ後２条の沈線を施す。底部外面右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。345・346は壺。345の口縁は直立し、端部を外側に折り曲




第46図　１号窯跡灰原２区拡張部下層黒色土出土遺物実測図①（１／３）

げる。下半には右回転の回転ヘラケズリ。肩部はカキメ後２条の沈線を施し、その間に連続刺突文を施す。底部にヘラ記号を施すが欠損のため全容不明。346は体部で底部に回転ヘラケズリを施し、上半部はカキメ後、沈線を２条施し、その間と下方に連続刺突文を施す。外面全体に降灰し、杯身が釉着する。347は平瓶。円盤閉塞がみられ、突起状の把手が付く。底部と下半部に回転ヘラケズリ後カキメを施す。348・349は甕。348は口縁部が外反する。体部外面は擬格子タタキ後カキメ、内面には同心円文当て具後、ナデを施す。349は口縁部が外反し、端部は肥厚する。体部外面は擬格子タタキ後カキメを施し、内面には同心円文当て具後、上半部に粗い回転ナデを施す。

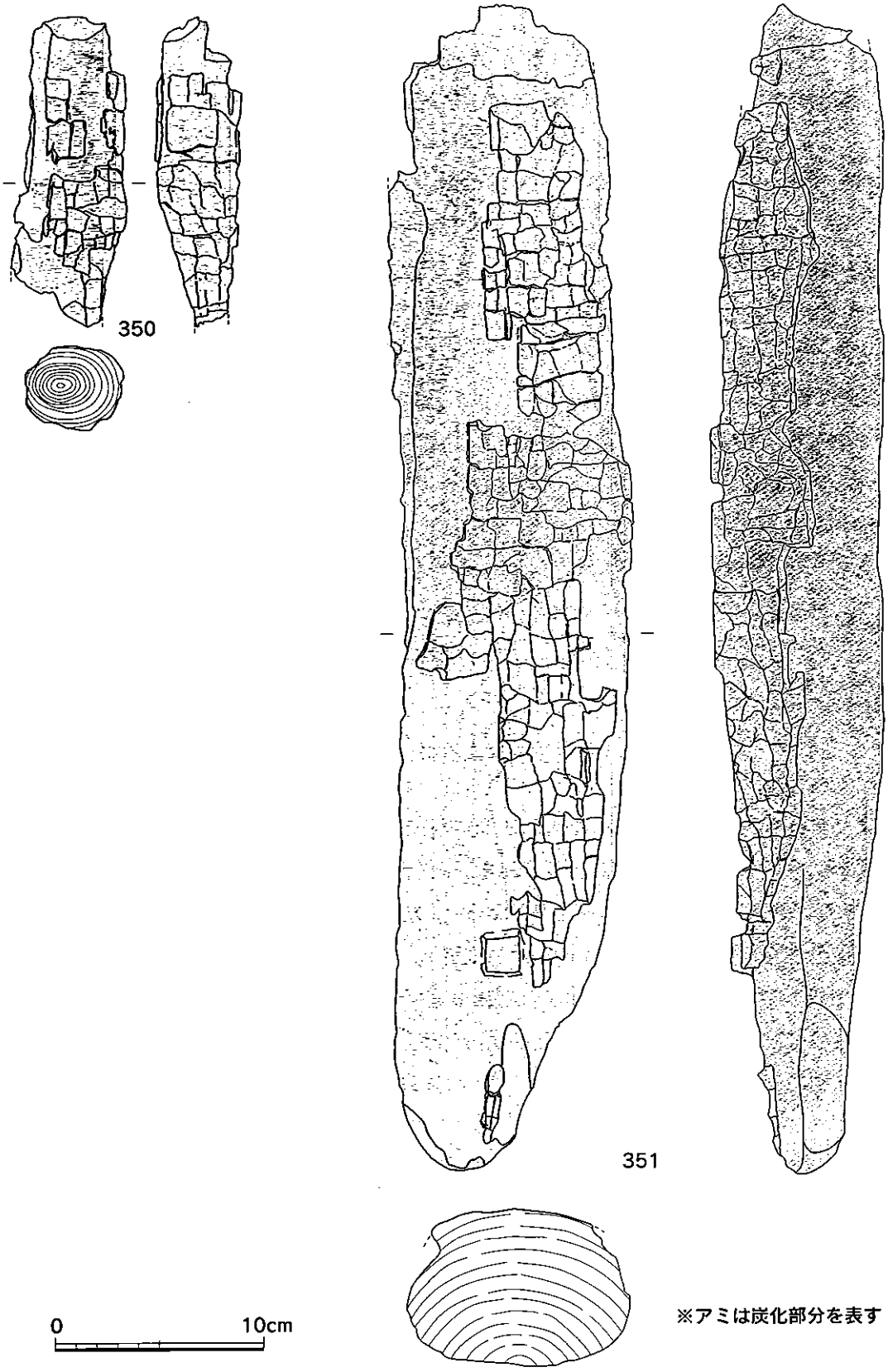



**第47図　１号窯跡灰原２区拡張部下層黒色土出土遺物実測図②（１／３）**

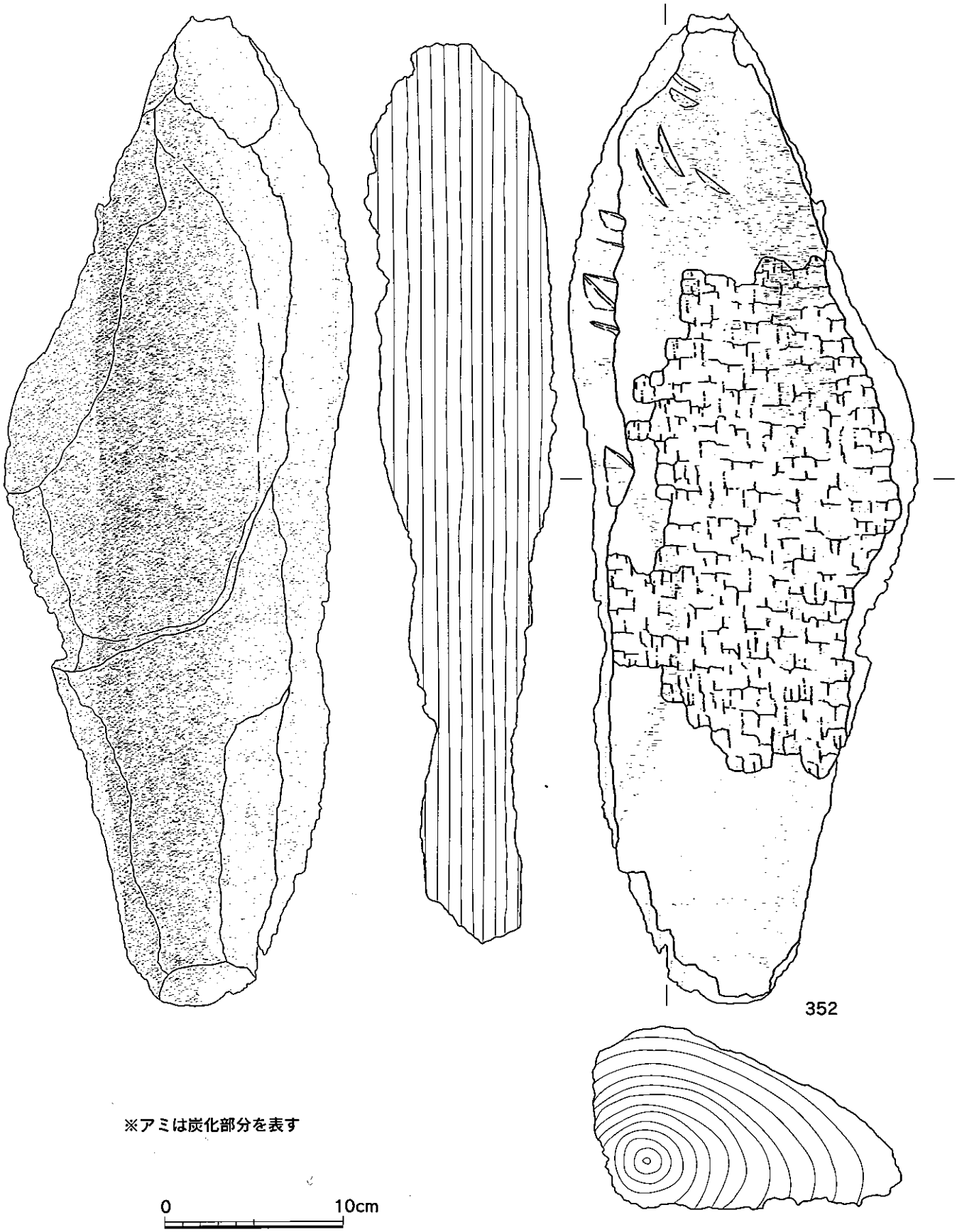
**炭化材(350～353)**　350は長さ15.0cm、最大幅5.6cm、厚さ4.1cmである。全面炭化する。枝材か？351は丸太を縦に半裁したもので、片面に樹皮が残る。長さ56.2cm、幅10.7cm、太さ7.6cm。全体が炭化している。復元すると、径20cmくらいの幹材になろうか？352は丸太を縦に半裁したもので、片面に樹皮が残る。長さ55.4cm、幅18.2cm、厚さ10.0cmで、全体が激しく炭化する。復元すると径30cmを超えるか？353は三又に分かれる枝の基部で、直径が8～14cmほどある。枝は工具により切り落とされ、工具痕が残る。下方の炭化が激しく、上方は生木である。樹皮が残存する。

**灰原２区拡張部最下層**（第51図・図版34）

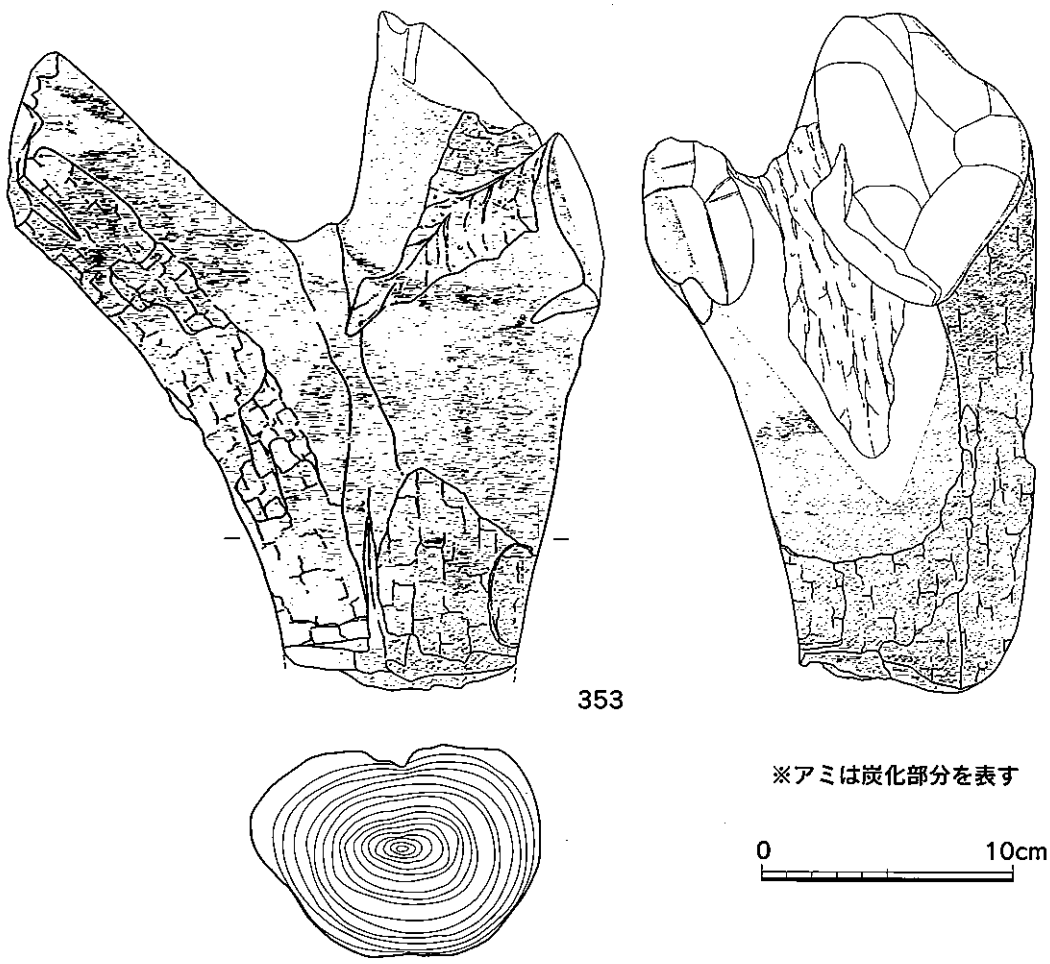
**須恵器（354～359）**　354は杯蓋。天井部に左回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。




第48図　１号窯跡灰原２区拡張部下層黒色土出土遺物実測図③（１／３）




第49図　１号窯跡灰原２区拡張部下層黒色土出土遺物実測図④（１／３）

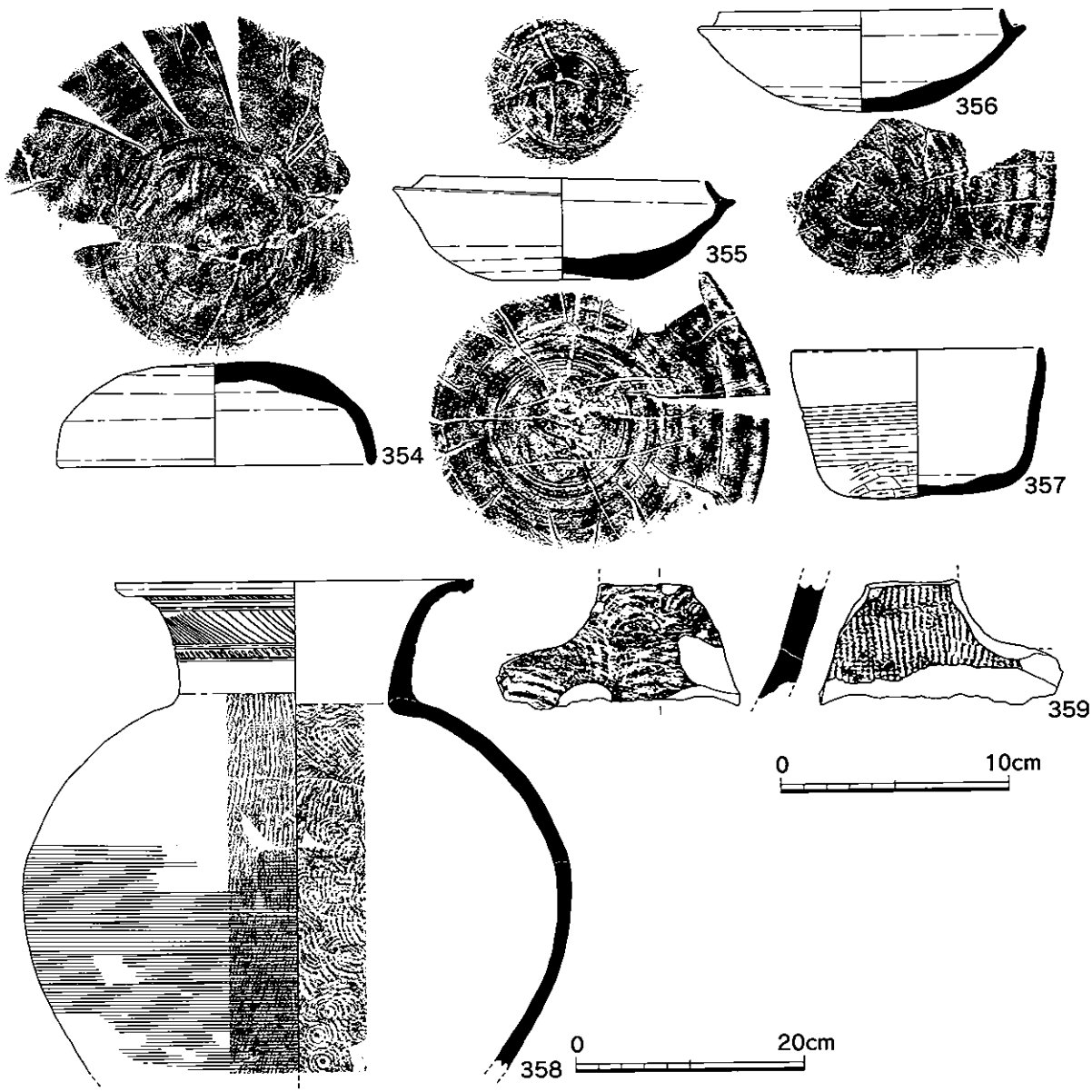



**第50図　１号窯跡灰原２区拡張部下層黒色土出土遺物実測図⑤（１／３）**

355・356は杯身。口縁部は短く内傾する。底部外面１／２ほどに、右回転の回転ヘラケズリを施す。355は底部内面にシッタ痕、外面にヘラ記号。356は体部外面にヘラ記号を施す。357は椀。体部はやや外傾気味に立ち上がる。底部に手持ちヘラケズリを施し、側面にカキメ後、２条の沈線を施す。358・359は甕。358は頸部外反し、外面に右下がりの連続斜線文を二段施した後に、沈線を３条施す。体部外面に擬格子タタキ後カキメを施し、内面には同心円文当て具痕を有するが、放射状に突線が見える。359は体部に穿孔を施し、円形の１／４の弧部分が残存する。外面は擬格子タタキを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。

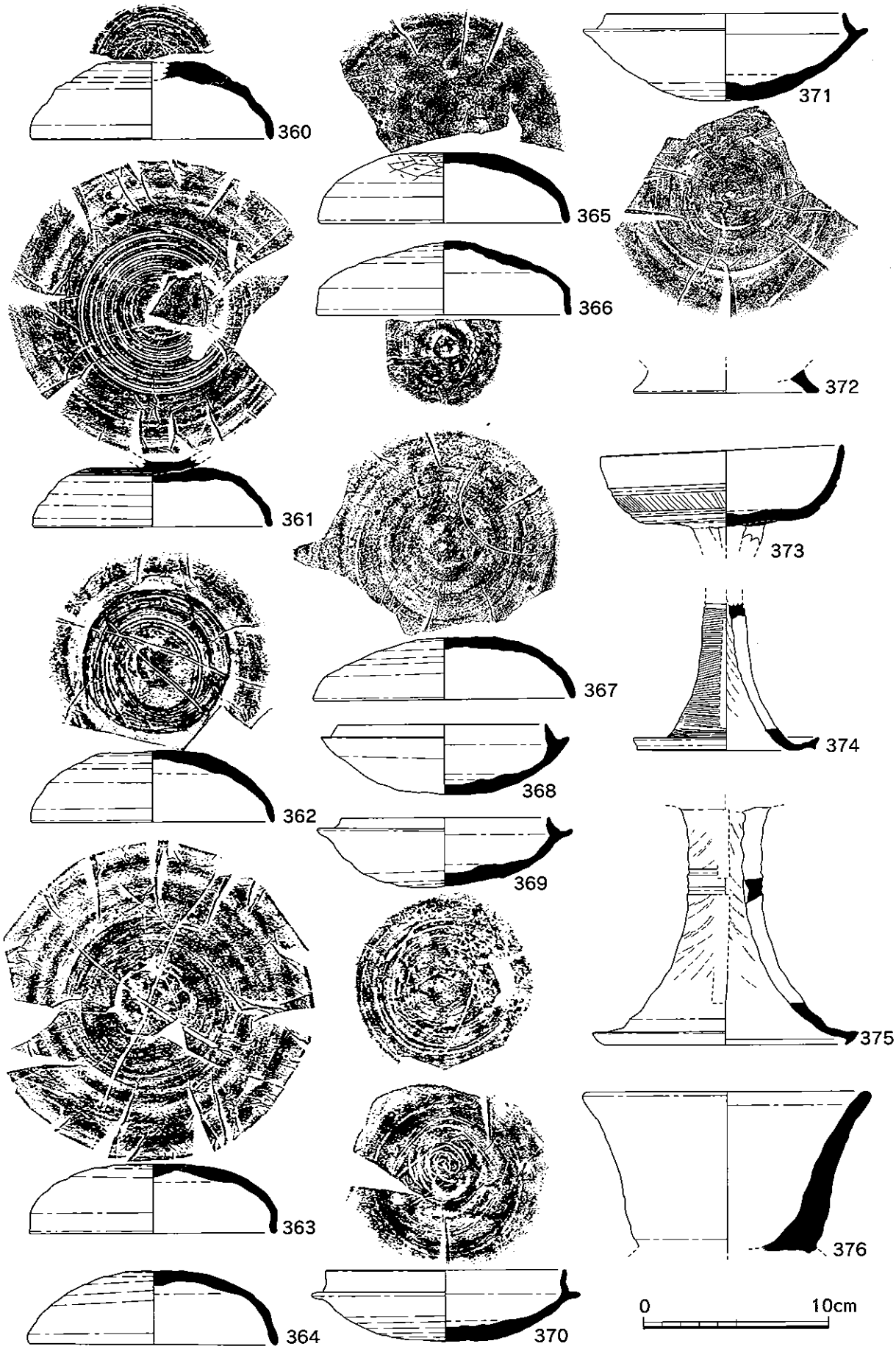
**灰原３区２層**（第52・53図・図版34）

**須恵器（360～390）**　360～367は杯蓋。360～366は口縁部をやや屈曲させて端部を丸くする。367はなだらかに湾曲する。365は天井部に手持ちヘラケズリを施すが、これ以外はすべて右回転の回転ヘラケズリを１／３～１／２ほど施す。366は鋸歯文状の圧痕がある。360～363・365・367は天井部にヘラ記号を施す。365～367は天井部に降灰し、361は天井部に向かって自然釉が垂れ、天井部に他の須恵器が釉着。368～371は杯身。口縁部は短く内傾する。底部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２～２／３の範囲に施す。370は同心円文当て具痕を有す。369・371の外面にはヘラ記号を施す。368・369は底面に降灰する。372は椀の高台。短く外側に張り出し、

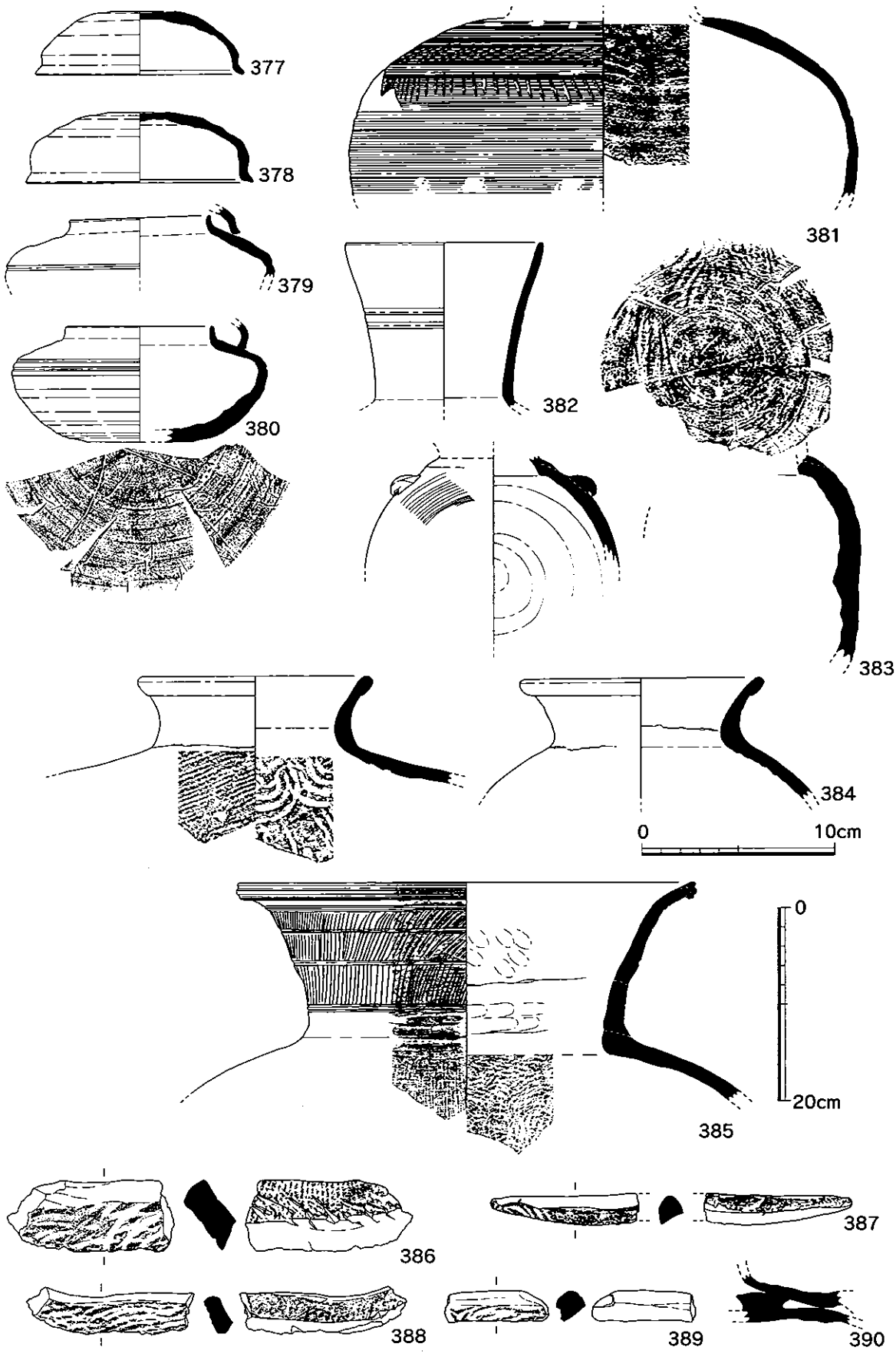



**第51図　1号窯跡灰原2区拡張部最下層出土遺物実測図（358は1／6、他は1／3）**

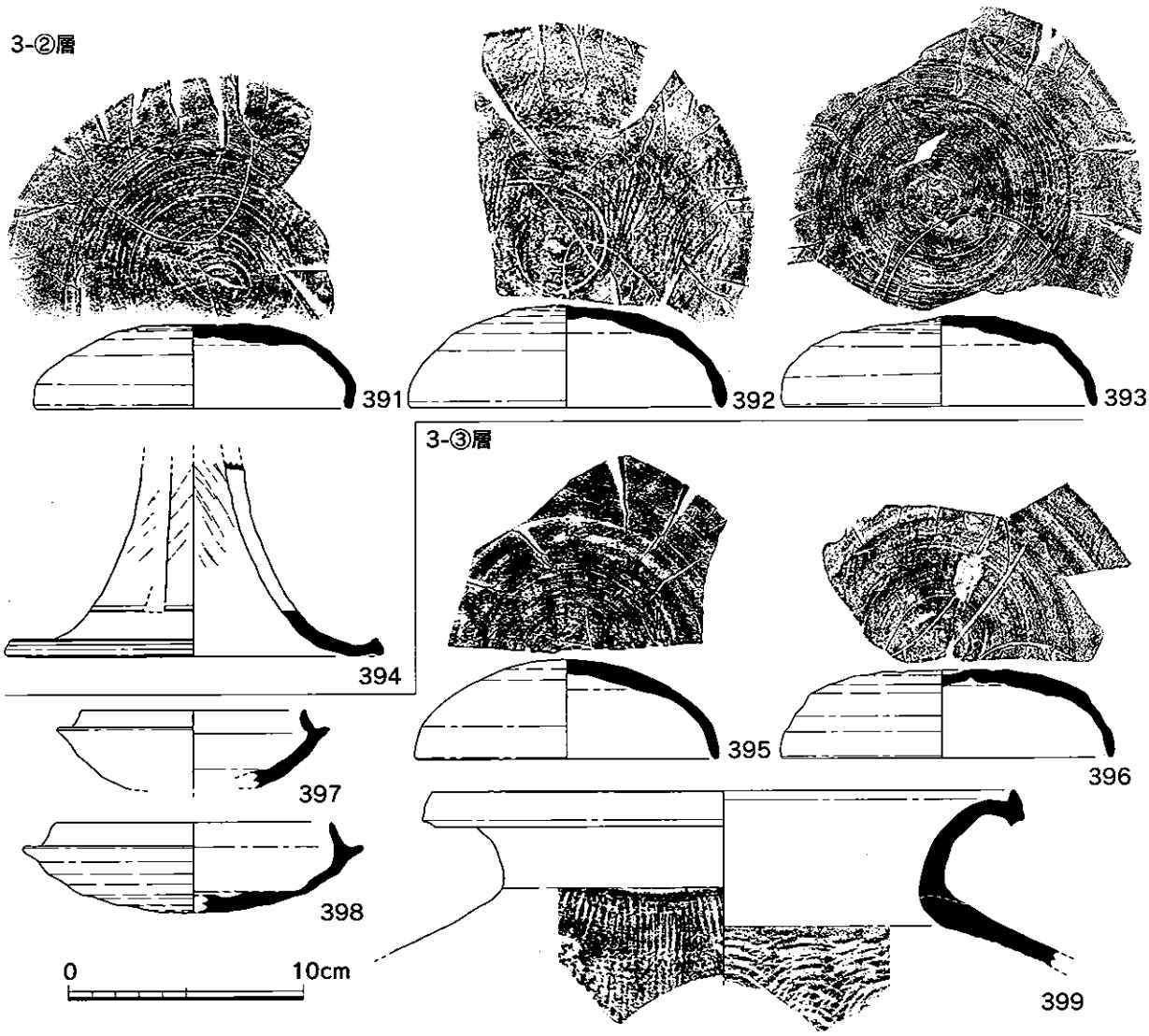
端部下方をやや窪ませる。373～375は高杯。373は無蓋高杯。杯部外面に2条の沈線を施し、その間に連続斜線文を施す。脚部は三方向にスカシを穿つ。374・375は脚部で、ラッパ状にひらく。374は外面にカキメを施し、二方向に方形スカシをいれる。二段スカシであろう。375は脚端部を下方に折り曲げる。中位に2条の沈線がめぐり、方形二段三方向スカシであろう。376はすり鉢。口縁部はやや外反気味にひらく。377～381は短頸壺。377・378は蓋。口縁端部を外方へつまみ出し、内面に斜めに段が付く。ともに天井部に回転ヘラケズリを施す。379・380の口縁部は短く直立する。ともに肩部が張り、沈線を施す。380は下半部に右回転の回転ヘラケズリ後ヘラ記号を施す。蓋が釉着する。381は壺。体部外面全体にカキメを施し、肩部に3条の沈線を施した後、その間に連続刺突文を施す。内面は同心円文当て具痕があり、回転ナデでナデ消す。382～384は瓶類。382は瓶類の口縁部。長く外傾気味に立ち上がる。383は提瓶。退化した鍵状の把手が付く。底部側面は右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。384は横瓶。口縁部は外反し、端部を折り曲




第52図　１号窯跡灰原３区２層出土遺物実測図①（１／３）




第53図　１号窯跡灰原３区２層出土遺物実測図②（385は１／６、他は１／３）




**第54図　１号窯跡灰原３区３－②・③層出土遺物実測図（１／３）**

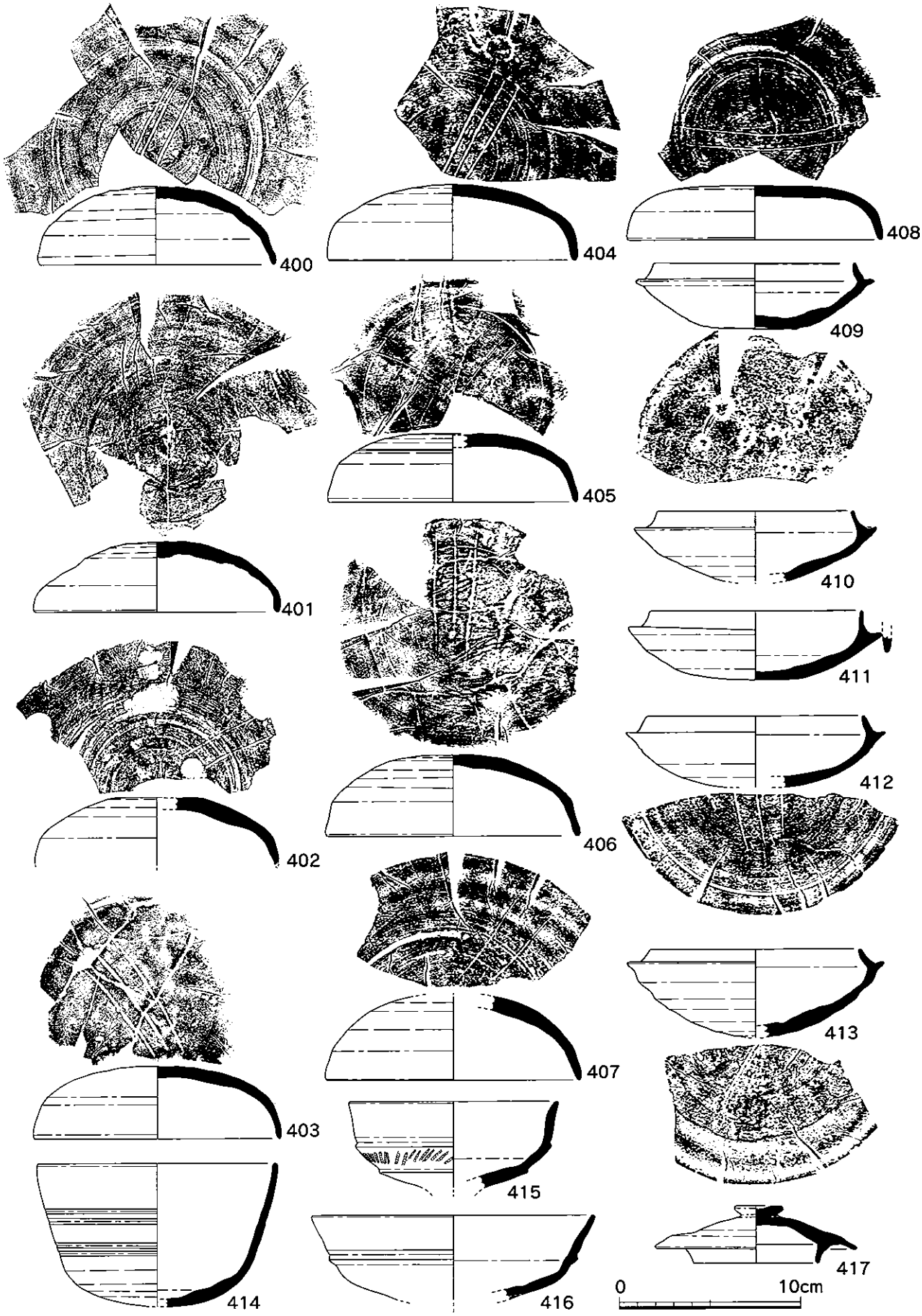
げ丸く肥厚させる。外面擬格子タタキ後カキメを施す。内面同心円文当て具痕が残る。385は甕。頸部は長く外反する。頸部外面にはカキメ後、沈線を２・１・１・２条の四段施し、沈線間の三段に連続斜線文を施す。体部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。386～389は切削物。外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。一方はナデで丸くなり、一方はヘラ状のもので切り取り面をなす。390は重ね焼き資料。いずれも高杯の蓋で、つまみが接しないように組み合わせて焼成される。

**灰原３区３－②層**（第54図）

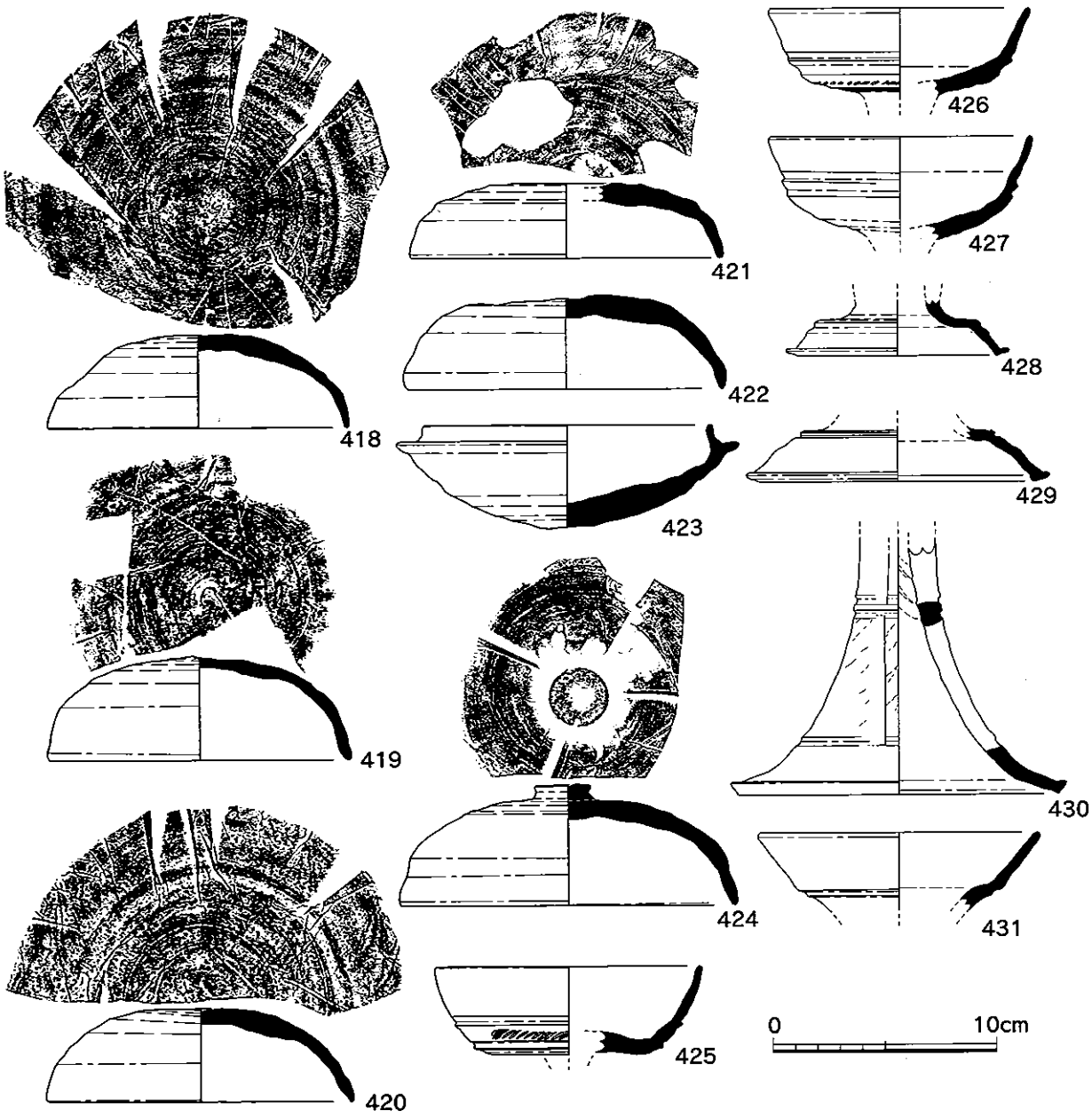
**須恵器（391～394）**　391～393は杯蓋。口径13.4～13.6㎝。天井部はやや低い。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを２／３ほど施す。すべて外面にヘラ記号を施す。394は高杯の脚部。ラッパ状にひらき、脚端部を下方につまみ出す。中位と下位に沈線を施し、方形二段スカシを穿つ。

**灰原３区３－③層**（第54図）

**須恵器（395～399）**　395・396は杯蓋。口径12.8～13.8㎝。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを１／２～２／３ほど施す。397・398は杯身。口径9.5～11.7㎝。397は口縁部が短く外




第55図　１号窯跡灰原３区３－④層出土遺物実測図（１／３）




**第56図　１号窯跡灰原３区３－⑤層出土遺物実測図（１／３）**

反して立ち上がる。底部全面に降灰する。398は口縁部が比較的長く内傾する。底部に右回転の回転ヘラケズリを施す。399は甕。口縁部は外反して端部は上方へ折り曲げる。外面は擬格子タタキで、内面には同心円文当て具痕が残る。

**灰原３区３－④層**（第55図・図版34）

**須恵器（400～417）**　400～408は杯身。口径13.1～14.1cm。天井部外面の１／２～２／３の範囲に回転ヘラケズリを施し、400～402・405・407は右回転、他は不明。すべて外面にヘラ記号を施す。400・404は天井部に降灰。409～413は杯身。口径10.8～11.6cm。立ち上がりは低く内傾する。底部外面に回転ヘラケズリを施す。412・413は右回転で、他は不明。409～411は底面に降灰。411は他の須恵器が釉着する。414は椀。体部は外傾し、端部は丸い。底部外面に

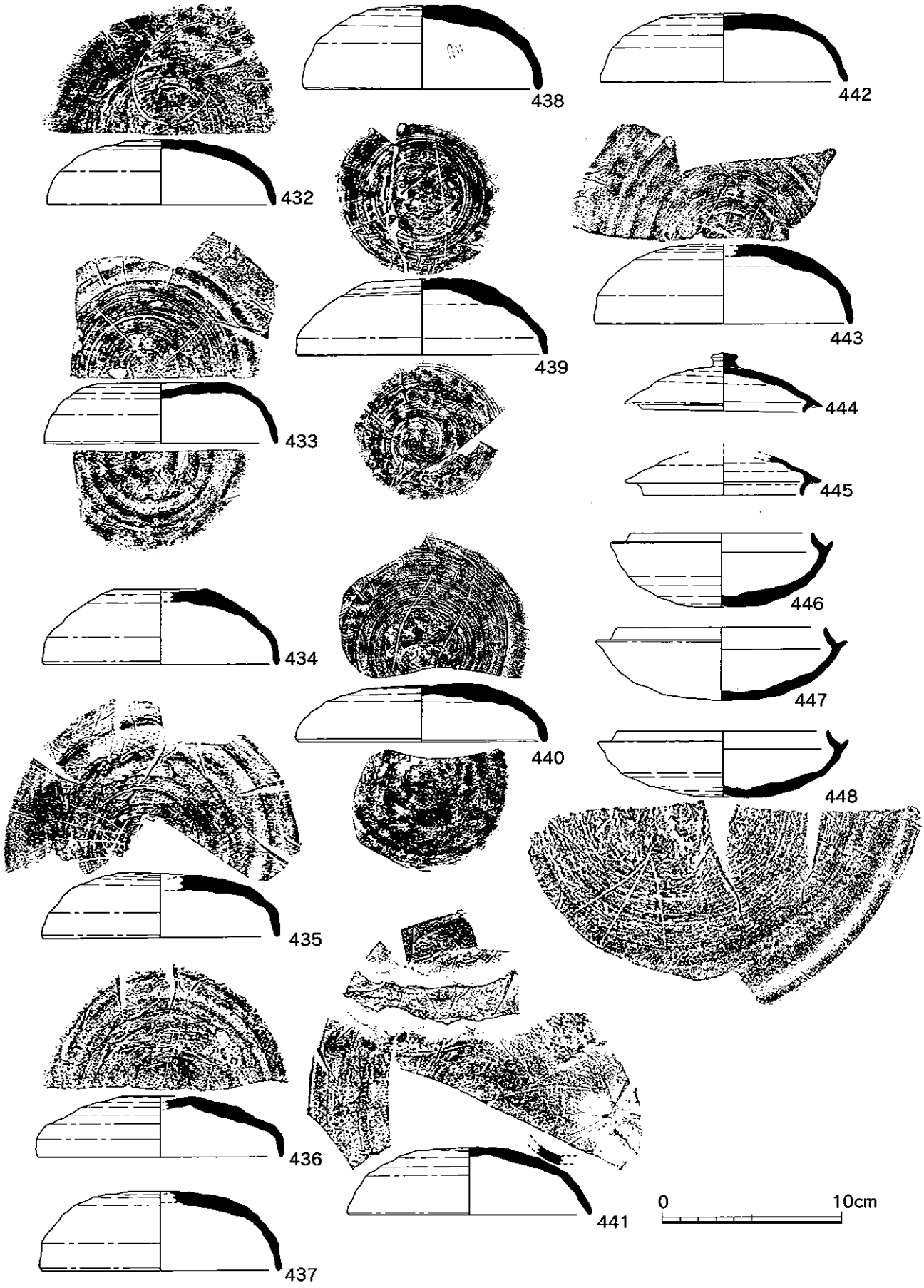
右回転の回転ヘラケズリを施す。内面に降灰する。415・416は無蓋高杯。415は二段の稜を有し、その間に連続刺突文を施す。416は側面に稜が付き、杯底部には回転ヘラケズリを施す。417は壺蓋。受部は長く、ゆるやかに下向し、かえりは短く内傾する。天井部外面回転ヘラケズリ。中央の窪む扁平なつまみが付く。

**灰原３区３－⑤層**（第56図）

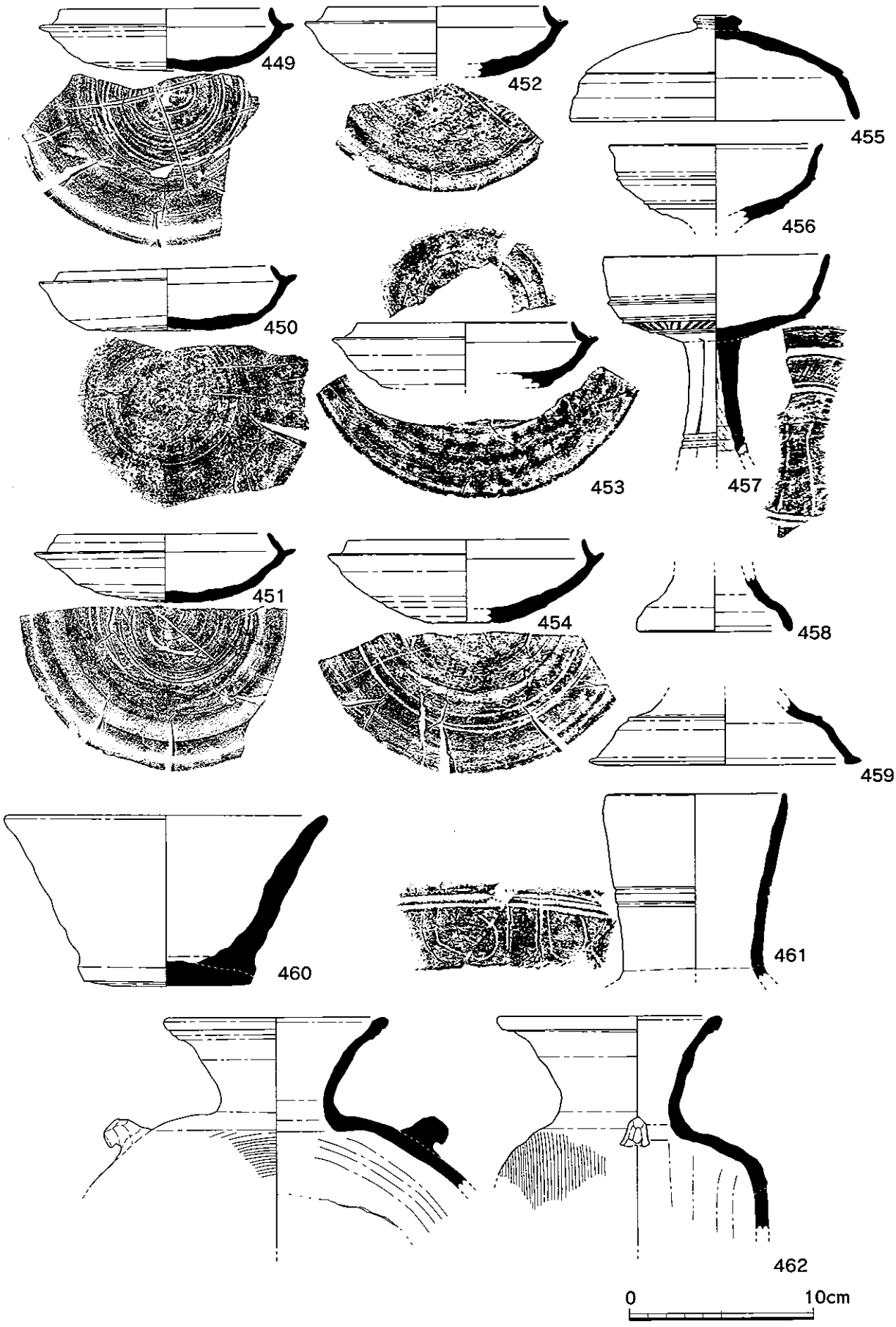
**須恵器（418～431）** 418～422は杯蓋。口径13.6～14.1cm。418～420は天井部がやや高く、丸みを帯びるが、421・422は天井部が低くやや扁平になる。天井部外面１／２～２／３の範囲に回転ヘラケズリ。419～421は右回転で他は不明。418～421の天井部にはヘラ記号を施す。421は表面が弾ける。２次焼成痕。423は杯身。口径13.0cm。口縁部は短く内傾する。底部の器壁が非常に厚い。底部外面の１／２ほどの範囲に左回転の回転ヘラケズリを施す。425～430は高杯。424は有蓋高坏の蓋。口縁は内湾し、端部は丸い。天井部は右回転の回転ヘラケズリ後、中央の窪む扁平なつまみをつける。425～427は無蓋高杯。いずれも口縁部は屈曲後外傾し、端部は丸い。425は二段の稜をつけ、その間に連続刺突文を施す。426は側面に沈線と稜をつけ、杯底部の屈曲部付近にカキメ後、連続刺突文を施す。427は側面に沈線と稜がつく。425と427は内面に降灰。428～430は脚部。屈曲して外傾し、脚端部を外方に突出させる。屈曲部には沈線と稜がつく。428は脚の内面に降灰する。430はラッパ状に広がり、中位に２条、下位に１条の沈線を施す。方形二段三方向スカシであろう。431は臙の口縁部。屈曲して外傾し、端部は丸い。屈曲部外面には沈線と稜がつく。

**灰原３区３－⑥層**（第57図・図版34～35）

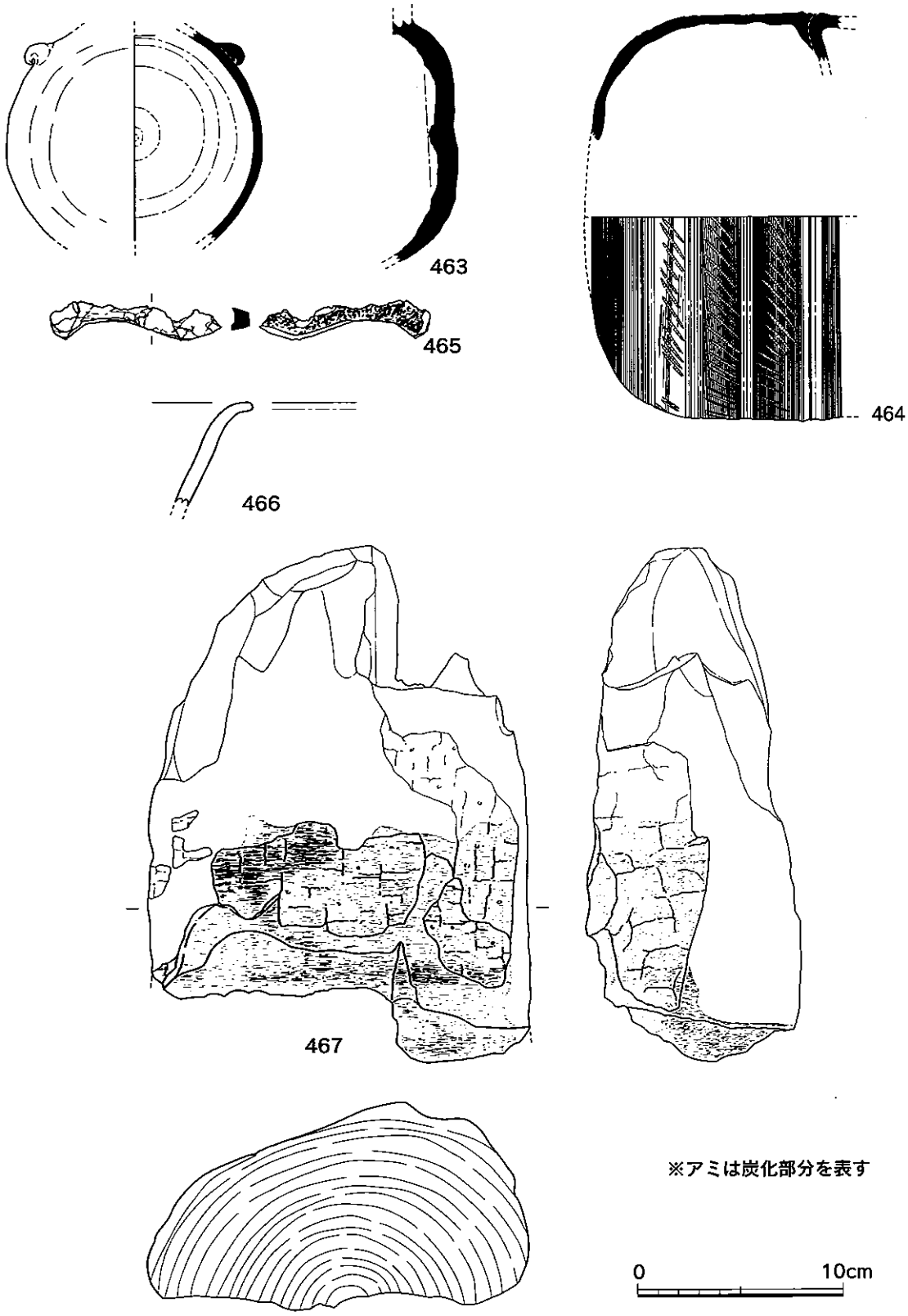
**須恵器（432～465）** 432～443は杯蓋。口径12.8～14.4cm。天井部がやや高いものと低いものとがある。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを施し、434・439・440の頂部のケズリは甘く、ヘラ切り痕が残る。ケズリの範囲も外面の１／３～２／３とばらつきがある。433・439・440にはシッタ痕がある。434・437・442以外は天井部外面にヘラ記号を施す。441は他の須恵器が釉着する。444・445は杯Ｇ蓋。444はかえりが受部よりも突出する。頂部には宝珠形を扁平にしたつまみがつく。天井部に降灰する。445は天井部が欠損する。かえりは受部よりも突出する。上面に降灰する。446～454は杯身。口径10.2～12.8cm。口縁部は短く直立気味になるもの（446～449・452～454）、内傾するもの（450・451）がある。底部外面に回転ヘラケズリを施し、449・450・451・452が右回転、446・448・454が左回転で、447・453は不明である。１／２～２／３の範囲に施す。448～454の底部外面にヘラ記号を施す。446・447・451・452は底部に降灰する。455～459は高杯。455は蓋。口径が大きく、肩部に稜がつく。頂部に中央の窪む扁平なつまみがつく。456・457は無蓋高杯。456の口縁部はやや外反し、端部はつまんで内側に傾斜させる。外面の中位から底部に二段の稜がつく。457の口縁は屈曲後外傾し、端部を丸くする。屈曲部から底面に二段の稜と２条の沈線を施し、稜と沈線の間に連続刺突文を施す。脚部は三方向に切込みが入る。切り込み間にヘラ記号を施す。458・459は脚部。高杯というよりは台付き器種の脚部か。458は内湾気味に屈曲する。459は屈曲し、端部を内外に突出させる。屈曲部外面に稜が付く。460はすり鉢。器壁が厚く、口頸部は大きく外傾する。461は長頸壺



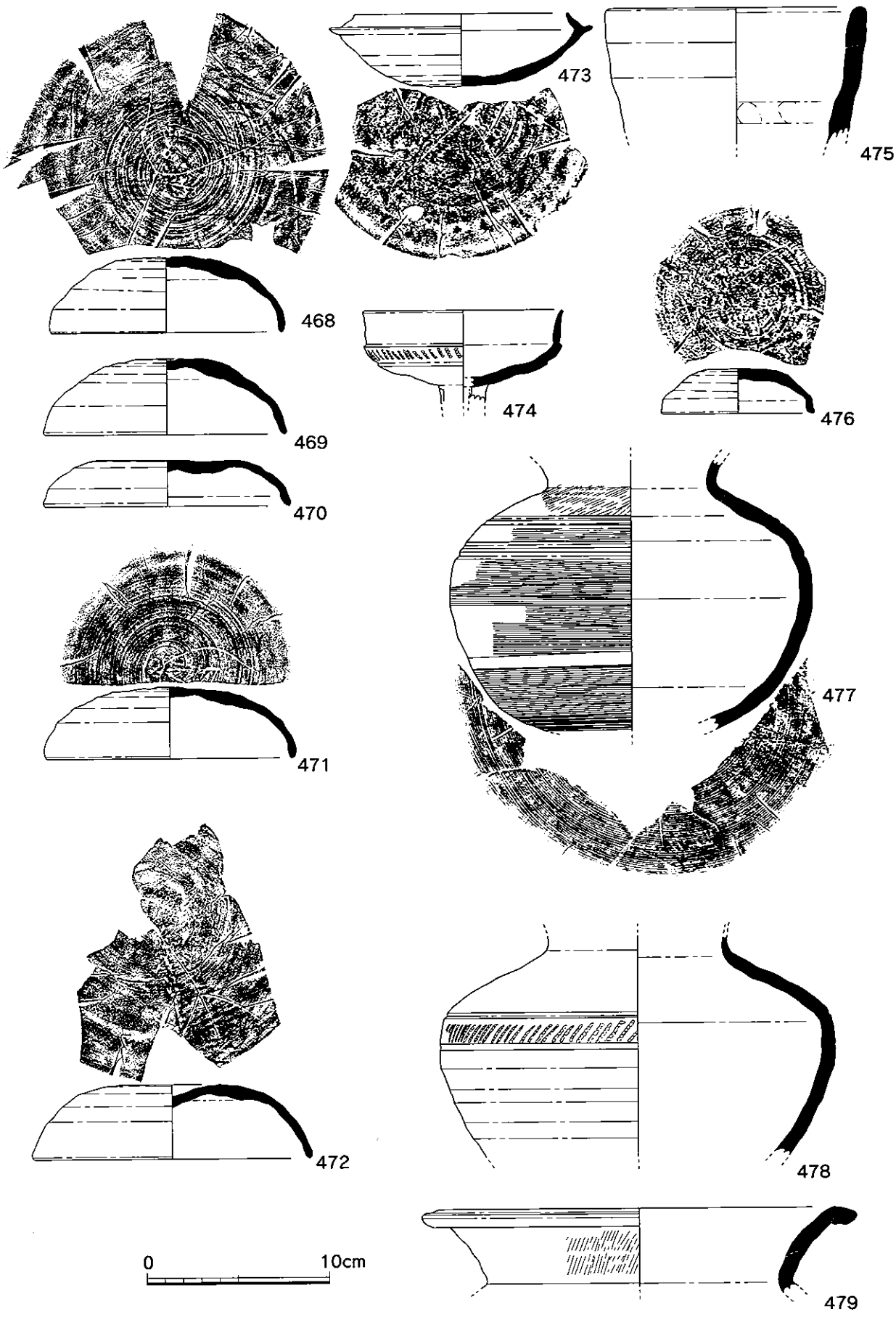

第57図　１号窯跡灰原３区３－⑥層出土遺物実測図①（１／３）



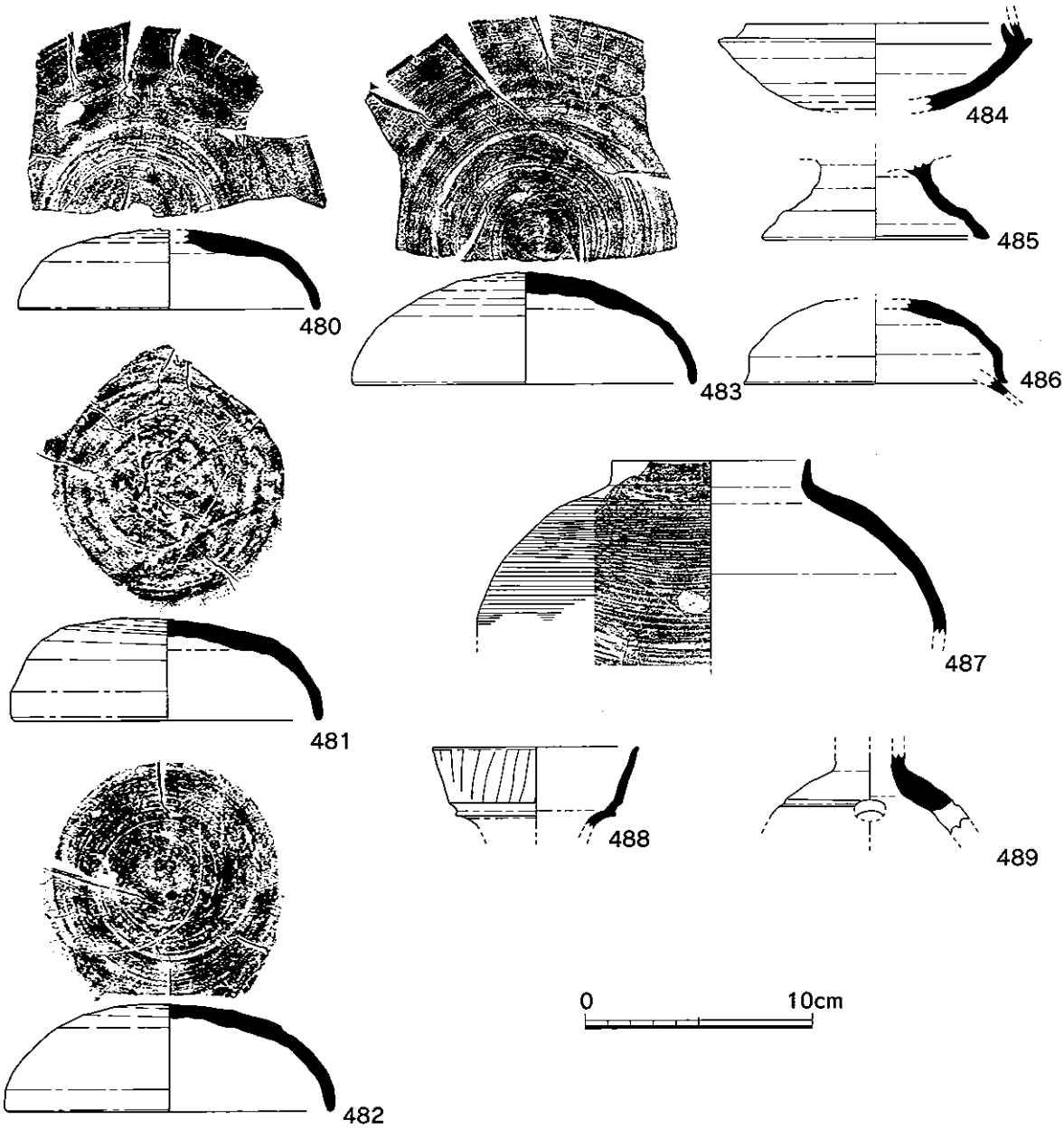

第58図　１号窯跡灰原３区３－⑥層出土遺物実測図②（１／３）




第59図　１号窯跡灰原３区３－⑥層出土遺物実測図③（１／３）




第60図　１号窯跡灰原３区３－⑦層出土遺物実測図（１／３）




**第61図　１号窯跡灰原３区拡張部黒色土出土遺物実測図（１／３）**

の口頸部か？頸部はやや外傾し、中位に２条の沈線を施す。頸基部付近にヘラ記号を施す。462・463は提瓶。462は口縁部が外傾して広がり、端部を肥厚させ、沈線をいれる。体部外面全面にカキメを施す。鍵状の把手がつく。463は体部の一部のみ残存する。鍵状の把手が付き、降灰が著しい。464は横瓶か。体部のみ残存。円盤閉塞の痕跡があり、内部に竹の節状の仕切り板がつく。体部外面はタタキ後、全体にカキメを施し、２条沈線を等間隔にめぐらせ、その間に連続刺突文を施す。体部内面回転ナデ後、指頭痕がつく。タタキの際の指当てか？465は切削物。タタキ後ナデを施し、ヘラで切り取る。

**弥生土器（466）**　甕の口縁部。小片のため傾きに難あり。口縁部に刻目を施す。

**炭化材（467）**　残存長25.1cm、幅18.6cm、厚さ9.2cm。一部樹皮が残存し、部分的に工具痕が認められる。一部炭化する。径20cm程度の幹材か？

**灰原３区３－⑦層**（第60図・図版34）

**須恵器（468～479）** 468～472は杯蓋。口径12.9～15.4cm。天井部はやや高い。天井部外面回転ヘラケズリ、468・470・471は右回転、469は左回転である。外面の１／２ほどに施すが、468・469は頂部のケズリがあまい。468・471・472は天井部にヘラ記号を施す。473は杯身。口径11.3cm。口縁部は短く内傾する。底部に右回転の回転ヘラケズリを２／３ほど施し、ヘラ記号をつける。底部に降灰。474は高杯の杯部。口縁部は屈曲して直立し、端部を外反させる。体部外面に２段の稜を有し、その間に連続刺突文を施す。基部にはスカシを入れた痕跡がある。杯部内面に降灰。475はすり鉢。器壁は厚く、端部を丸くする。476～478は短頸壺。476は蓋で、口縁部を屈曲して下げ、端部を四角くする。天井部外面に右回転の回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号を施す。外面に降灰。477は口頸部は外反気味につく。体部はカキメ、ナデを施し、２条の沈線を肩部に２段施す。478は肩が張り、肩部に２条の沈線を巡らし、その間に連続刺突文を施す。下半部に右回転の回転ヘラケズリを施す。上面に著しく降灰する。479は甕の口頸部。外反し、端部を外方に突出させ肥厚させる。

**灰原３区拡張部黒色土**（第61図・図版35）

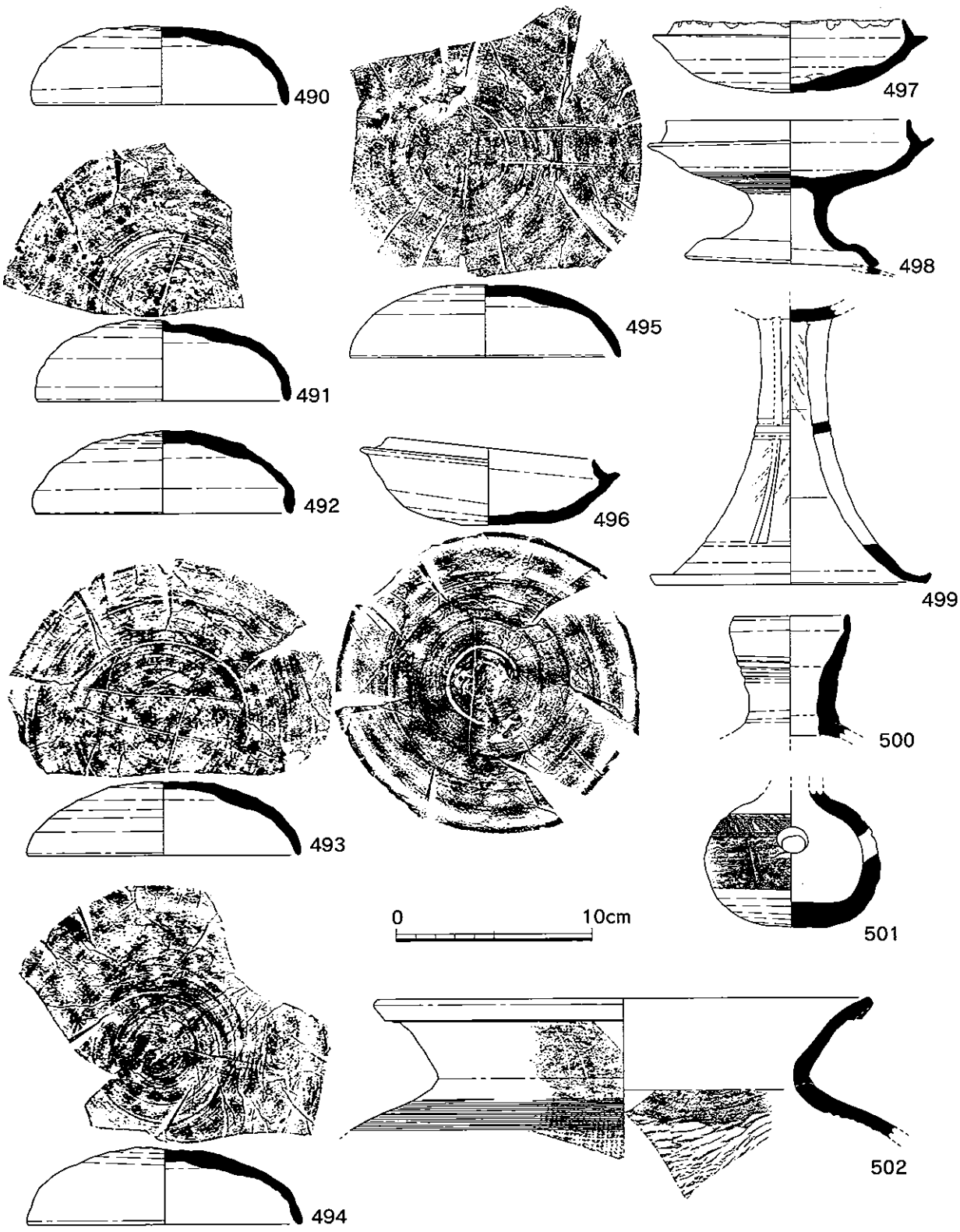
**須恵器（480～489）** 480～483は杯蓋。天井部外面１／２ほどに右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。484は杯身。口縁部は短く、内傾する。底部には右回転の回転ヘラケズリを施す。受部に杯蓋の口縁が釉着、底部に降灰する。485は高杯の脚部。脚は屈曲して開く。486・487は短頸壺。486は蓋で口縁端部は外反する。天井部に降灰し、口縁部には壺の体部片が釉着する。487は、頸部が短く直立し、体部外面中位に一部タタキ痕跡が認められるが、その上にカキメを施す。内面回転ナデ。頸基部に蓋の口縁部が釉着する。488・489は甕。488は口縁部で、屈曲後、外傾して開き、端部をやや外反させる。屈曲部外面に沈線・稜をつける。口縁部外面は連続斜線を施す。489は体部の上半部。頸部はしまり、肩部に沈線を巡らし、穿孔を施す。

**灰原３区拡張部上層黒色土**（第62・63図・図版35・36）

**須恵器（490～502）** 490～495は杯蓋。天井部外面に、右回転の回転ヘラケズリを１／２～２／３ほどの範囲に施す。493はやや広く４／５ほどである。491・493～495は外面にヘラ記号を施す。496・497は杯身。ともに口縁部は短く内傾する。497は端部を細くつまみ出す。底部外面１／２に右回転の回転ヘラケズリを施す。496は底部内面をヨコナデし、外面にヘラ記号を施す。498・499は高杯。498は有蓋高杯。立ち上がりは、内傾後直立する。杯底部外面にカキメを施し、内面はヨコナデ。脚部は屈曲して開く。杯部の外面と脚部内面に降灰する。499は脚部で、ラッパ状に開き、端部を肥厚させ、跳ね上げる。脚部に、方形二段三方向スカシを穿つ。500は提瓶の頸部で、頸部はやや外傾した後に内湾する。頸部に２条沈線を施し、片側のみに降灰する。501は甕。球形の体部で、底部に右回転の回転ヘラケズリ、肩部に沈線、間に連続刺突文を施す。502は甕。口縁部は外反し、端部を肥厚させる。体部外面に擬格子タタキ後、カキメを施す。内面に同心円文当て具痕を残し、頸部外面にヘラ記号を施す。

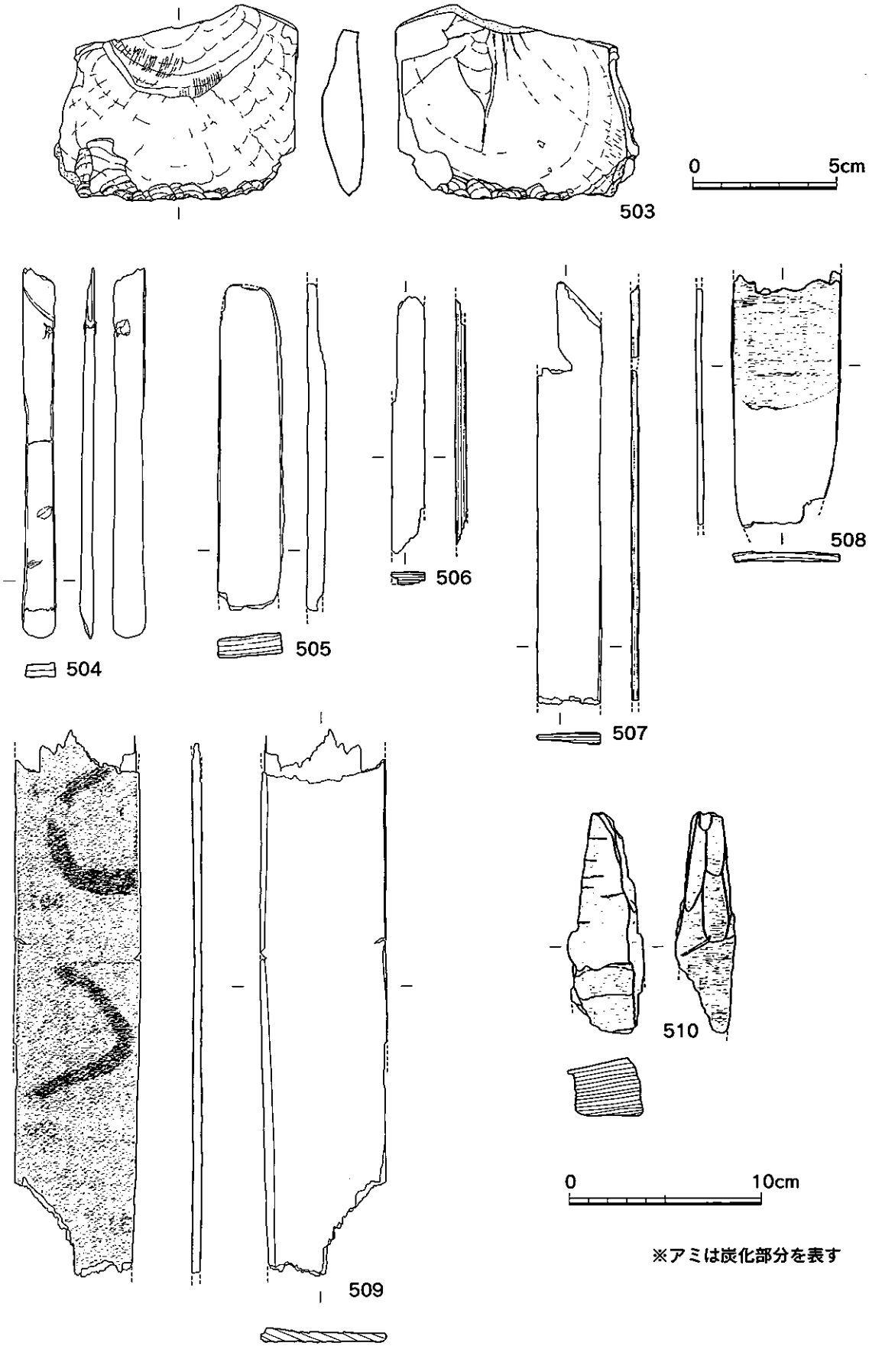
**石器（503）** 安山岩製のスクレイパーである。側縁部に刃部加工を施す。

**木製品（504～509）** 504～505は板材である。504は長さ19.3cm、幅1.65cm、厚さ0.7cmで、

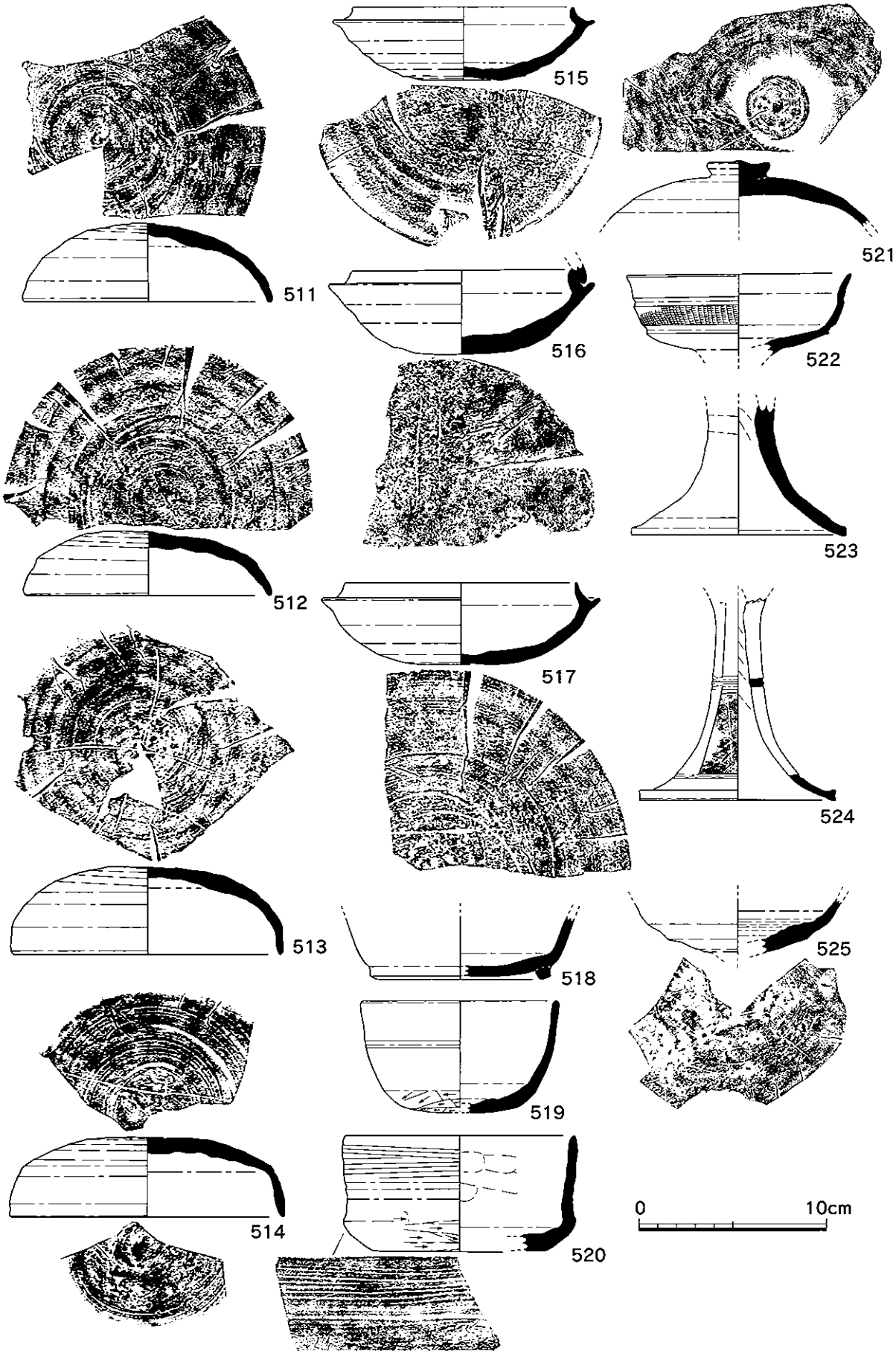



第62図　１号窯跡灰原３区拡張部上層黒色土出土遺物実測図①（１／３）

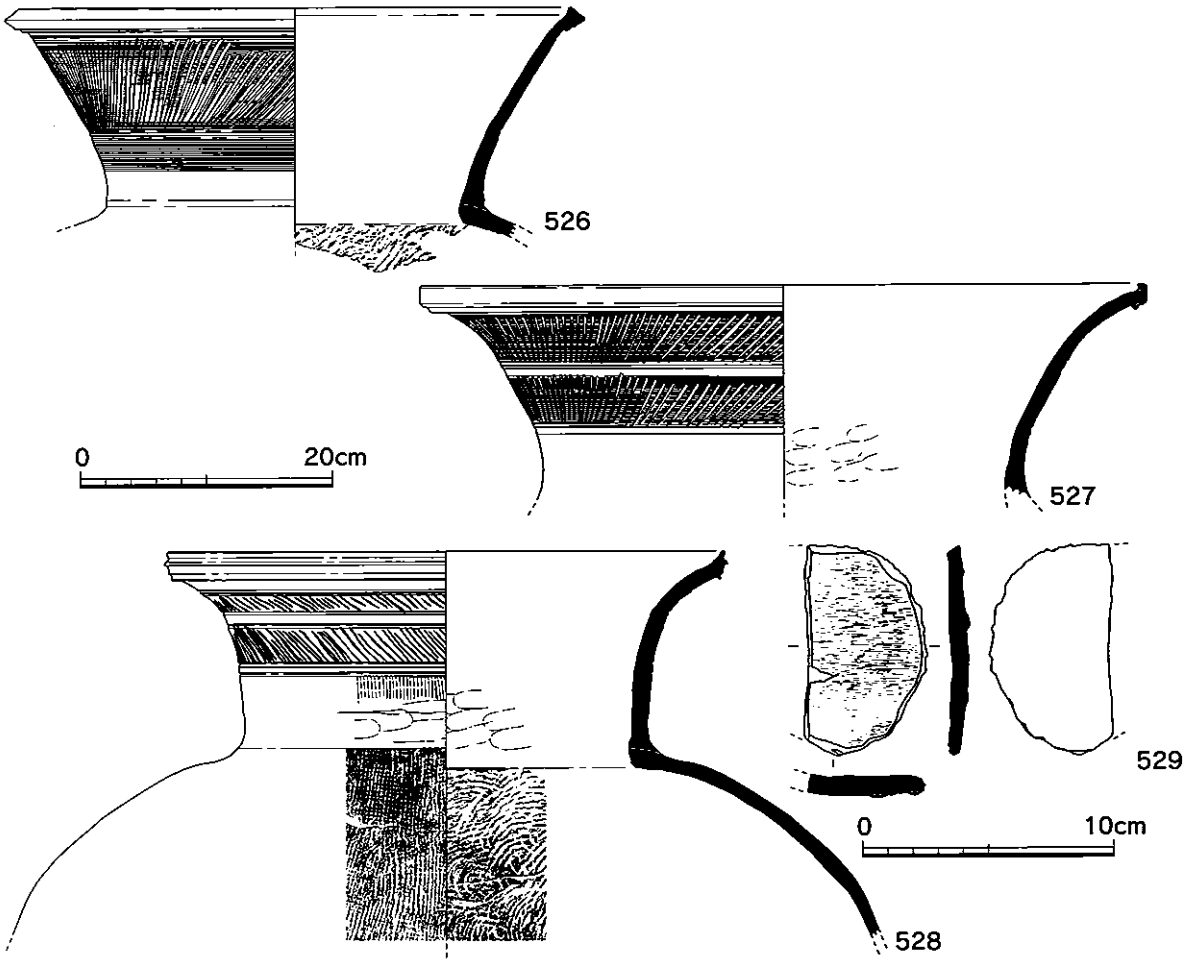
木ベラ状の形態をする。両端に削りが見られ、木釘が残存する。505は残存長17.0cm、幅3.4cm、厚さ1.2cm。削って加工した扁平な板である。506は残存長13.3cm、幅1.75cm、厚さ0.6cmで、削って加工した細く薄い板である。507は残存長17.0cm、幅3.3cm、厚さ0.6cmで薄く加工した板である。




第63図　１号窯跡灰原３区拡張部上層黒色土出土遺物実測図②（503は１／２、他は１／３）




第64図　１号窯跡灰原３区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図①（１／３）



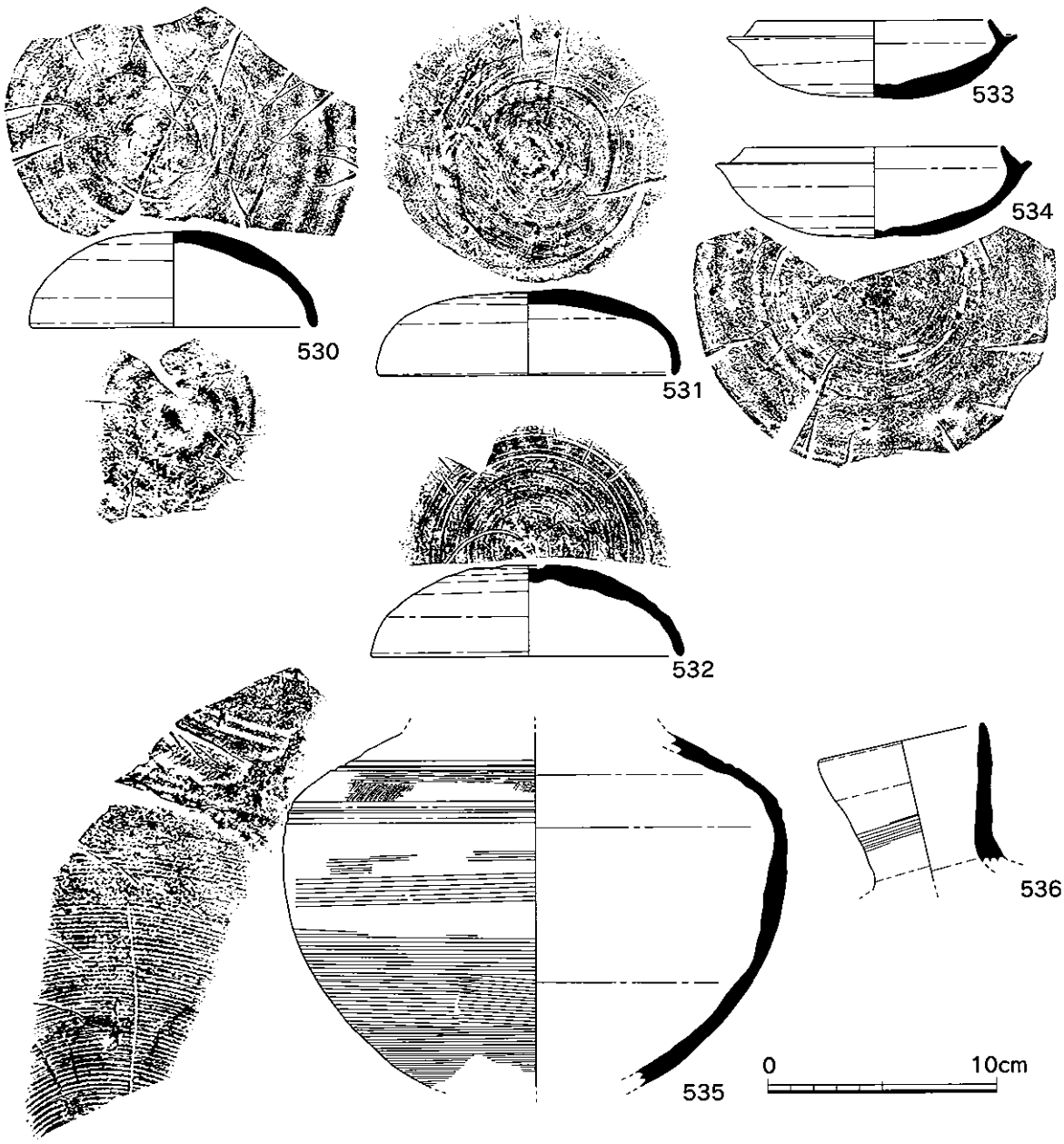

**第65図　１号窯跡灰原３区拡張部褐色砂質土出土遺物実測図②（529は１／３、他は１／６）**

508は残存長13.3cm、幅5.6cm、厚さ0.5cmである。一端の幅を削って幅を狭くするが欠損のため詳細は不明である。削って加工し、表面の１／２が炭化している。509は残存長28.4cm、幅6.6cm、厚さ0.7cm。削って加工した板である。片面が炭化している。

**炭化材（510）**　510は炭化材で先端部を削る。残存長11.5cm、幅4.0cm、厚さ2.7cm。全体が炭化しているが、本来は木杭か。

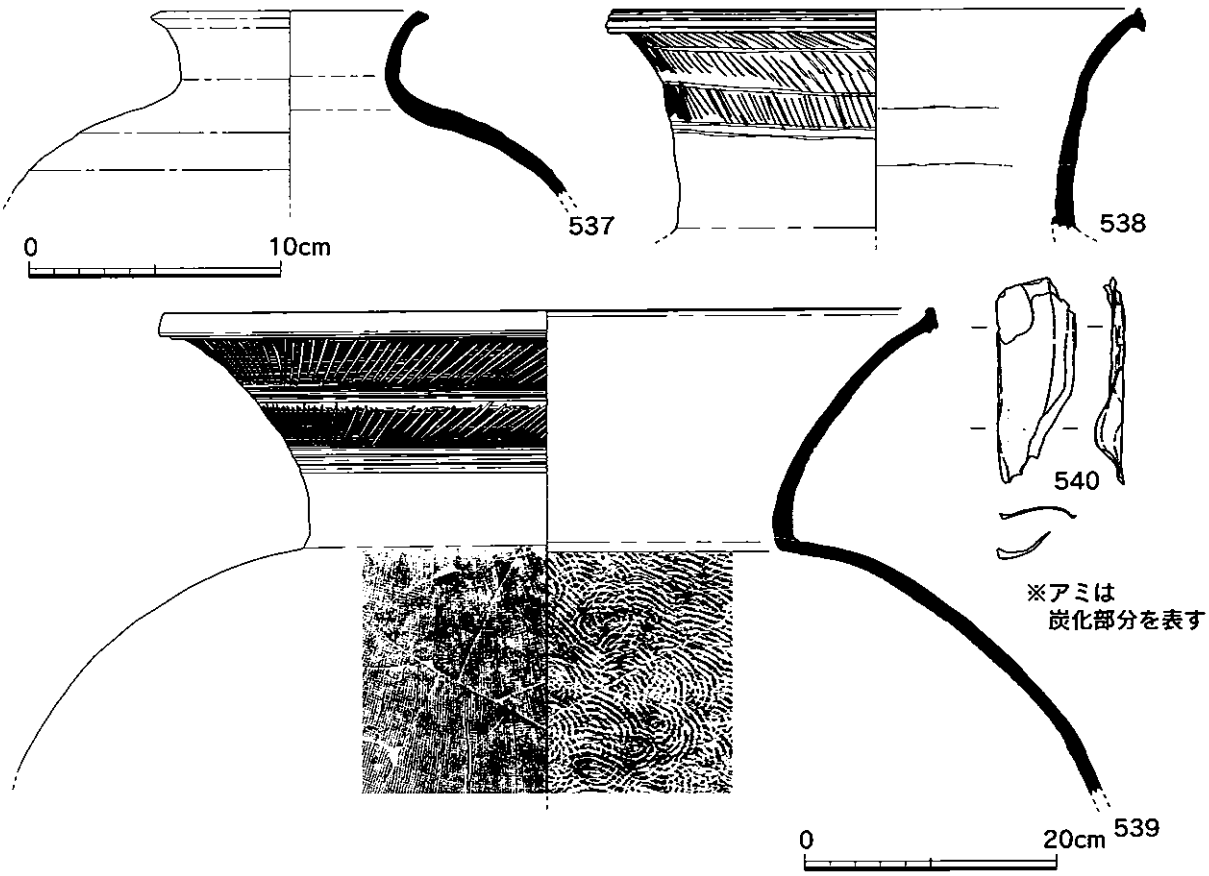
**灰原３区拡張部褐色砂質土**（第64・65図・図版36）

**須恵器（511～529）**　511～514は杯蓋。いずれも天井部に回転ヘラケズリを施し、511・513・514が右回転、512が左回転である。天井部の２／３の範囲に施すが、511は１／３ほどの範囲である。すべて天井部にヘラ記号を施す。513・514はシッタ痕が残る。515～517は杯身。いずれも口縁部は短く内傾し、端部は直立気味になる。515・516は底部外面に降灰する。すべて底部にヘラ記号を施す。516は器壁が厚く、杯蓋の口縁部が釉着する。518は杯Ｂ身。高台は短く、内端部で接地する。519・520は椀。519は体部はほぼ直立する。側面に沈線を巡らし、底部に手持ちヘラケズリを施す。520は体部が直立し、側面にカキメ、底部に手持ちヘラケズリを施す。体部外面に布状圧痕が残る。521～524は高杯。521は蓋。中央の膨らむ扁平なつまみが付く。天井部は回転ヘラケズリ後ナデ、その後ヘラ記号を施す。内面は放射状にナデを施す。522は杯部。




**第66図　１号窯跡灰原３区拡張部下層黒色土出土遺物実測図①（１／３）**

口縁端部を外反させる。体部外面に沈線を２条施し、その間に連続刺突文を施す。内外面に降灰する。523・524は脚部。短くラッパ状に開く。524は端部を窪ませる。中位と下位に２条、１条の沈線を巡らせ、方形二段三方向スカシを穿つ。外面にヘラ記号を施す。525は壺か？底部外面に回転ヘラケズリを施す。内面はラセン状に強い回転ナデを施す。底部外面に降灰が著しい。526～528は甕。526は口縁部が外傾して開く。頸部外面にはカキメ後、連続斜線文を施す。527は頸部上半が外反し、端部を上に折り曲げる。外面はカキメ後、沈線を巡らし、間に連続斜線文を施す。528は口縁部～肩部が残存。頸部上半が外反し、端部を上方につまみ上げる。頸部外面に２条沈線を三段巡らせ、間に二段の連続斜線文を施す。体部は外面に擬格子タタキを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。529は焼成前に丸く整形される。側縁の弧状をなす断面と外面に降灰が著しい。内面は指頭痕が著しく、黒くなっている。転用硯の可能性が高い。




**第67図　１号窯跡灰原３区拡張部下層黒色土出土遺物実測図②（537･540は１／３、他は１／６）**

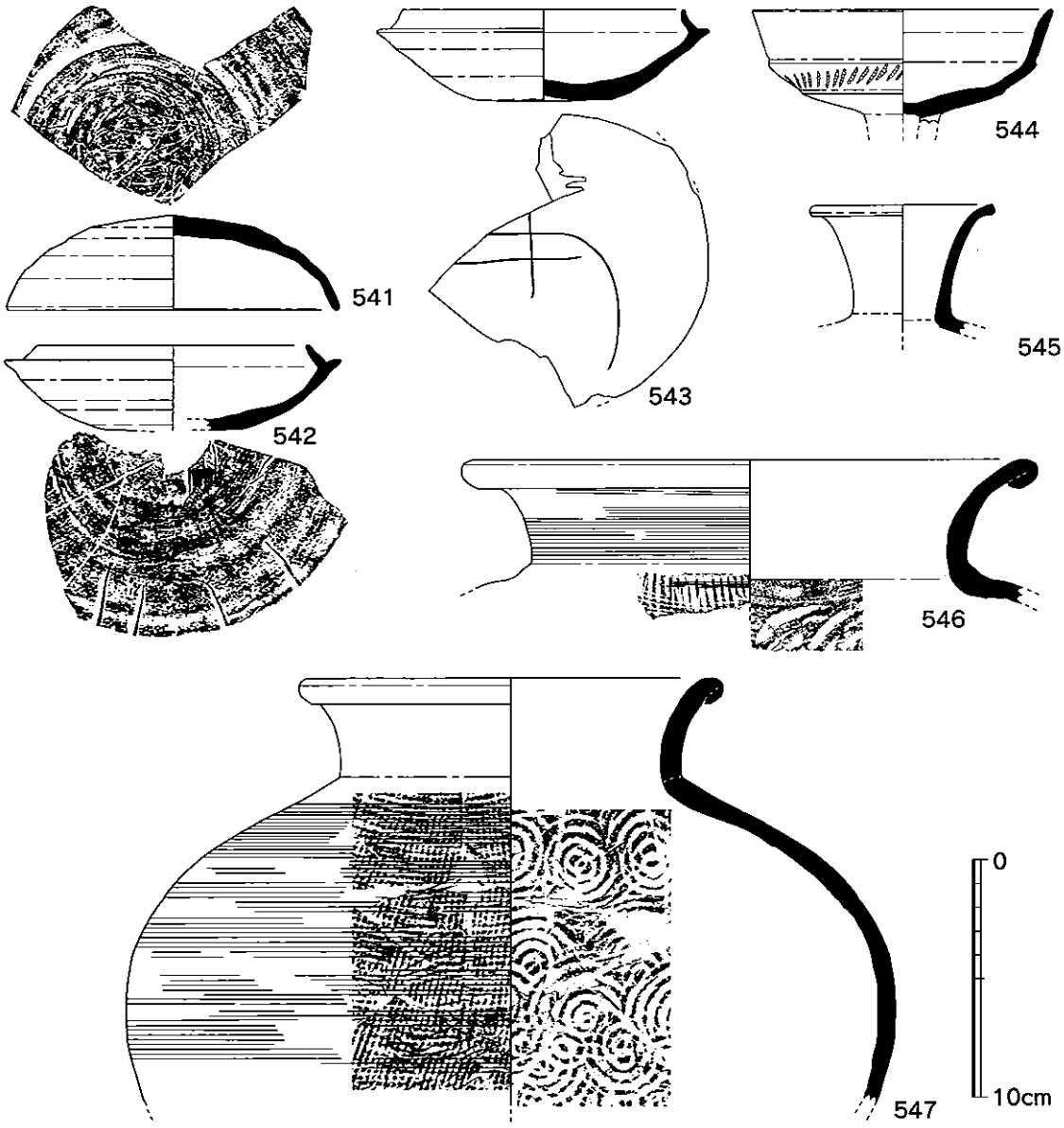
**灰原３区拡張部下層黒色土**（第66・67図・図版36）

**須恵器（530 ～ 539）**　530 ～ 532は杯蓋。天井部外面１／２～２／３の範囲に右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。530は天井部内面にシッタ痕がみられる。533・534は杯身。ともに口縁部は短く内傾し、底部外面１／２に回転ヘラケズリを施す。533が左回転、534が右回転である。534は底部に降灰。535は短頸壺。肩部より下にカキメを施し、肩部に沈線を２条ずつ二段に巡らし、その間に連続刺突文を施す。底部にヘラ記号。肩部に降灰する。536は平瓶の口頸部。外傾し、端部を丸くする。外面にカキメを施す。537は壺。口縁部は外反する。538・539は甕。538は口縁部は外反する。頸部外面には上位から中位にかけて１・１・２条沈線を三段に巡らし、間に連続斜線文を三段施す。539は大甕。口縁部へむかって大きく外反し、端部を上に折り曲げる。頸部外面カキメ後、２・３条の沈線を二段巡らせ、間に連続斜線文を二段施す。体部は外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕を残す。

**炭化材（540）**　薄く扁平な木片で、長さ8.2cm、幅3.1cm、厚さ0.1 ～ 0.35cm。明確な削り痕はないが、木材削り時の木片か。

**灰原３区拡張部最下層**（第68図）

**須恵器（541 ～ 547）**　541は杯蓋。天井部外面１／２ほどに右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。542・543は杯身。口縁部は短く内傾する。底部外面に回転ヘラケズリを施す。542は右回転で、543は付着物のため不明。底部外面にヘラ記号を施す。544は無蓋高杯の杯部。屈曲部




**第68図　１号窯跡灰原３区拡張部最下層出土遺物実測図（１／３）**

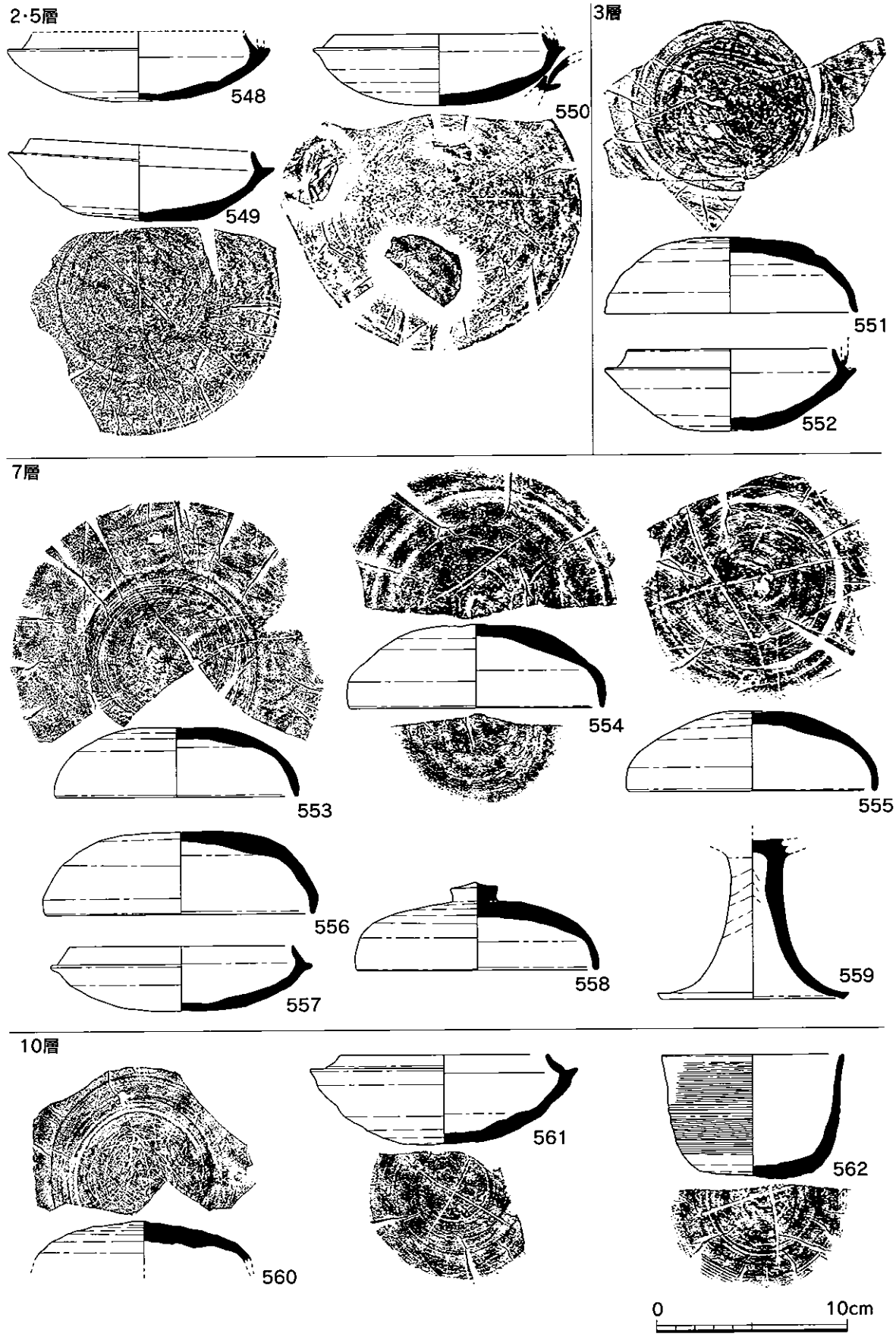
付近に二段の稜を有し、その間に連続刺突文を施す。545は提瓶の口縁部か？外反して広がり、端部を丸くする。頸部外面にヘラ記号を施す。内外面ともに降灰するが、片方に降灰が著しく偏り、横にして焼成したものであろう。546・547は甕。546は口縁部である。短く外反して広がり、端部を折り曲げて丸く肥厚させる。頸部外面にカキメを施す。体部外面は擬格子タタキ後カキメ。内面は同心円文当て具痕を残す。547は甕の上半部。口縁部は外反し、端部を折り曲げて肥厚させる。体部外面は擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕を残す。

**灰原４区２・５層**（第69図・図版36）

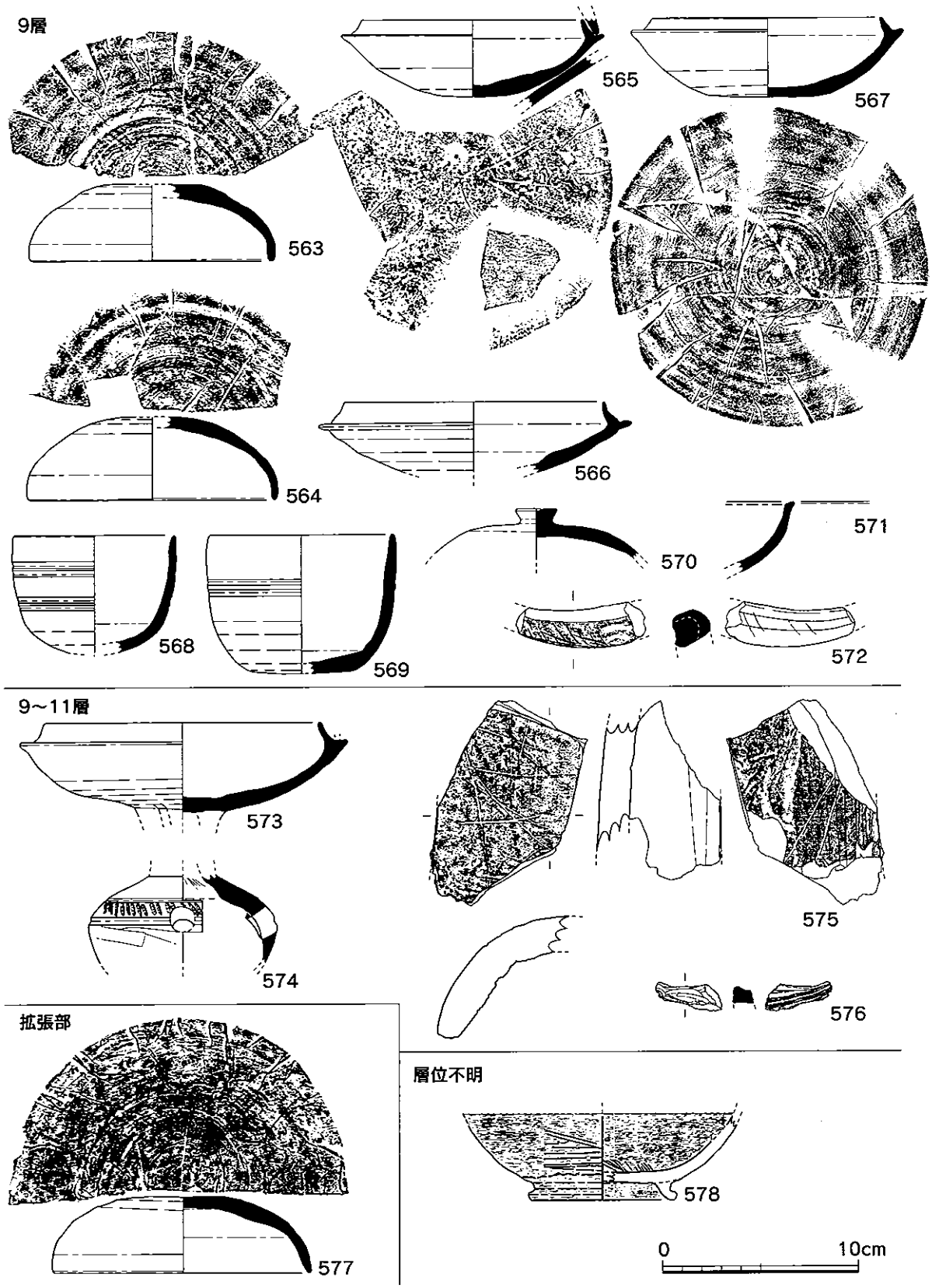
**須恵器（548～550）**　548～550は杯身である。口縁部は短く内傾する。底部外面１／２に回転ヘラケズリを施す。549・550は底部外面にヘラ記号を施す。548は内面にも降灰、550は受部に杯蓋が釉着、底部に他の杯等が釉着する。

**灰原４区３層**（第69図）

**須恵器（551～552）**　551は杯Ｈ蓋である。天井部外面２／３は右回転の回転ヘラケズリ後、ヘ




第69図　１号窯跡灰原４区２・３・５・７・10層出土遺物実測図（１／３）




第70図　１号窯跡灰原４区９・９～11層ほか出土遺物実測図（１／３）

ラ記号を施す。552は杯H身。底部外面１／２に回転ヘラケズリを施す。底部に降灰する。

**灰原４区７層**（第69図）

**須恵器（553～559）** 553～556は杯H蓋。天井部１／２～２／３は右回転の回転ヘラケズリ。554は天井部内面にシッタ痕、556には細かい同心円文当て具痕が残る。553～555の天井部にはヘラ記号を施す。557は杯身。口縁部は短く内傾する。底部に回転ヘラケズリを施すが、降灰のため回転方向不明。558・559は高杯。558は蓋。頂部に中央の盛り上がるつまみが付く。天井部は回転ヘラケズリ後、カキメを施す。559は脚部でラッパ状に広がり、端部は鋭く仕上げる。内外面すべてに降灰する。

**灰原４区10層**（第69図）

**須恵器（560～562）** 560は杯蓋。天井部の破片で、外面は右回転の回転ヘラケズリ後ヘラ記号を施す。561は杯身。口縁部は短く内傾する。底部外面２／３は右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。562は椀。口縁部はやや外反する。体部外面はカキメ後、２条の沈線を施す。底部外面は右回転のヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。

**灰原４区９層**（第70図・図版36）

**須恵器（563～572）** 563・564は杯蓋。天井部外面１／２ほど右回転の回転ヘラケズリ。564は天井部外面にヘラ記号を施す。565～567は杯身。立ち上がりは短く内傾する。566の口縁部は内傾した後直立する。底部外面回転ヘラケズリ、566が右回転、567が左回転、565は底部に降灰するため不明。565・567は底部外面にヘラ記号を施す。566は口径が大きく、高杯の可能性がある。568・569は椀。体部は直立気味に立ち上がる。568は側面に２条の沈線を二段に施し、その間に連続刺突文を施す。底部外面に右回転の回転ヘラケズリを施す。569は体部外面に２条の沈線を巡らし、下半に左回転の回転ヘラケズリを施す。570は有蓋高杯の蓋。頂部に中央の窪む逆台形のつまみが付く。天井部外面に降灰する。571は鉢または盤であろう。口縁端部を外側につまみ出し、内傾する。572は切削物。内面に同心円文当て具痕が残る。

**灰原４区９～11層**（第70図・図版37）

**須恵器（573～576）** 573は高杯の杯部。立ち上がりは短く内傾し、端部は丸い。底部外面２／３に回転ヘラケズリを施した後、三方向にスカシのある脚をつけるが欠損する。受部に蓋の口縁が釉着する。574は甕の体部。体部下半に手持ちヘラケズリを施す。肩部に２条の沈線とその間に連続刺突文を施す。575は丸瓦。厚さ1.7～1.8㎝、端部ヘラケズリ。内面には布目が残り、外面ヘラケズリを施す。内外面ともにヘラ記号を施す。576は切削物。内面同心円文の当て具痕の一部が見られる。

**灰原４区拡張部**（第70図）

**須恵器（577）** 杯蓋。天井部１／２ほど右回転の回転ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。

**灰原４区層位不明**（第70図・図版37）

**黒色土器（578）** Ｂ類の椀である。高台は外反し、端部を丸くする。内外面にミガキを施す。

（中島）

# 表１　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表①

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡左焼成部1窯体内埋土 | ①12.9 ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 2 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡燃焼部右上部5層 | ①(13.2) ②4.1+α<br>受部径(14.8～15.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.1㎜ほどの白色砂粒、金雲母を微量に含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内鈍い橙7.5YR7/3。 | 回転方向左。 |
| 3 | 須恵器 | 鉢？ | 1号窯跡焼成部1縦断ベルト天井壁崩落土上 | ②4.8+α | 底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰N4/～N6/。 | 外面にヘラ記号？<br>回転方向右。 |
| 4 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡窯尻右側架設天井材 | 長15.3 幅18.3 厚9.1<br>重量1.15kg | | A：0.5～2.0mmの白色砂粒を多量に含む。C：にぶい黄橙10YR7/2 表面 褐灰10YR4/1、にぶい橙2.5YR6/4。 | 煙道部の一部。 |
| 5 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部2右半地下部 | 長24.7 幅13.6 厚9.0<br>重量2.05kg | | A：微細な砂粒、小石を多く含む、微細な金雲母を少量含む。C：にぶい黄橙10YR7/2 表面黒褐10YR3/1。 | |
| 6 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部4左架設天井崩落(構築材) | 長19.2 幅12.6 厚9.3<br>重量1.35kg | | A：0.5～3.0mmの白色砂粒、スサを多量に含む。C：浅黄橙10YR8/4 表面褐灰7.5YR4/1。 | 壁中に構築材の痕跡。 |
| 7 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部3左40層 | 長18.2 幅22.5<br>厚14.4 重量3.15kg | | A：0.5～2.0mmの白色砂粒をやや多量、スサを多量に含む。C：浅黄橙10YR8/4 表面褐灰5YR5/2。 | 壁中に構築材の痕跡。 |
| 8 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部3左35層(天井壁崩落)(構築材？) | 長14.35 幅13.0<br>厚7.4 重量0.55kg | | A：3㎜以下の砂粒、小石、金雲母をやや多く含む。C：にぶい黄橙10YR7/3 表面黒褐10YR3/1。 | |
| 9 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部3左35層(天井壁崩落)(構築材？) | 長27.1 幅23.6 厚4.15<br>重量4.15kg | | A：微細な砂粒、小石、微細な金雲母を多く含む。C：浅黄橙10YR8/4 表面褐灰7.5YR4/1。 | |
| 10 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部3左35層天井壁崩落(構築材？) | 長15.6 幅28.0 厚9.8<br>重量2.9kg | | A：0.5～2.0mmの白色砂粒をやや多量、スサを多量に含む。C：にぶい黄橙10YR7/3 表面黒褐10YR3/1。 | |
| 11 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部3左35層(天井壁崩落)(構築材？) | 長23.2 幅23.3 厚11.9<br>重量4.15kg | | A：微細な砂粒、小石を多く、微細な金雲母を含む。C：浅黄橙10YR8/4 表面にぶい黄橙10YR6/3。 | |
| 12 | 窯壁 | 天井壁 | 1号窯跡焼成部4左天井崩落構築材 | 長17.9 幅31.9 厚13.0<br>重量4.075kg | | A：0.5～2.0mmの白色砂粒をやや多量、スサを多量に含む。C：浅黄橙10YR8/4 表面褐灰7.5YR4/1。 | |
| 13 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内№19 | ①(13.8) ②3.8+α | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共灰N6/～N5/。 | 外面ヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 14 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部2最下層<br>1号窯跡焼成部3右最終操業面直上(同一個体接合不可) | ①(58.2) ②21.6+α | 口縁部外面カキメ後2カ所に2条・3条沈線。その後沈線上位に連続斜線文。体部外面擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:内外共黄灰2.5Y6/1～灰5Y6/1。 | 沈線上位に連続斜線文。 |
| 15 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡焼成部3右最終操業面直上<br>1号窯跡焼成部3右天井壁崩落土上 | ②10.3+α | 口縁部回転ナデ後下位内面ナデ。口縁部外面2カ所に2条沈線施文後連続斜線文。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多く、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 沈線間に連続斜線文。 |
| 16 | 須恵器 | 焼台 | 1号窯跡窯体内置き石？(天井壁崩落の可能性あり)(№23・24の横) | 長10.75 幅12.9 厚6.7<br>重量0.5kg | | A：微細な砂粒、小石を多く含む、微細な金雲母をやや多く含む。B：良好。C：灰褐5YR6/2。 | |
| 17 | 須恵器 | 焼台 | 1号窯跡窯体内№33 | 長9.8 幅21.7 厚8.7<br>重量1.3kg | 側面中央に穿孔か？ | A：3㎜以下の砂粒、小石を多く含む。1㎜以下の金雲母をやや多く含む。B：良好。C：にぶい黄橙10YR7/2。 | |
| 18 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(13.2) ②3.5+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒をわずかに含む。B：良好。C：内外共灰白5Y7/2～灰5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 19 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左67層(3-①層)(最終操業面基盤層) | ①(13.4) ②3.65 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C:外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1、内灰白10Y7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 20 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(13.6) ②3.6+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面一部回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外明オリーブ灰2.5GY7/1～オリーブ灰2.5GY6/1、内灰N6/～オリーブ灰2.5GY6/1。 | 内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 21 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(13.3) ②3.1 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、2～3.5㎜の白色砂礫をわずかに含む。B:良好。C：内外共灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 22 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左110～123層(3-①層)（最終操業基盤層） | ①14.65 ②3.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗青灰5PB3/1～明青灰5PB7/1～2.5Y7/2、内青灰5B5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に自然釉。<br>回転方向右。 |
| 23 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(14.8) ②4.0+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、2～3㎜の白色砂礫をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～浅黄橙10YR8/4、内灰白2.5Y8/2～灰白2.5Y7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 24 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左110～123層(3-①層)（最終操業基盤層） | ①(11.25) ②3.45<br>受部径(13.45) | 外面自然釉のため調整不明。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外暗褐7.5YR3/3～暗灰N3/～(釉)灰白7.5Y8/2、内褐7.5Y4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に自然釉。<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向不明。 |
| 25 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左110～123層(3-①層)（最終操業基盤層） | ①(10.65) ②3.6<br>受部径(13.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～暗青灰5B3/1～オリーブ灰2.5GY6/1～灰褐7.5YR5/2、内オリーブ灰2.5GY5/1～暗オリーブ灰2.5GY3/1、断面暗赤灰7.5R4/1～オリーブ灰2.5GY5/1。 | 外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 26 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(11.5) ②4.15+α<br>受部径(13.8) | 外面1/4不定方向ナデ、1/4回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む微細な黒色粒をわずかに含む。B：良好。C：外オリーブ灰2.5GY6/1、内灰10Y6/1。 | |

# 表2　梅頭遺跡第4次調査出土遺物観察表②

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層(最終操業面基盤) | ②5.1+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後不定方向ナデ、体部中位指頭痕。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～暗オリーブ灰2.5GY3/1～暗灰N3/、内灰N6/。 | 体部外面にヘラ記号。 |
| 28 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤) | ①(10.4) ②9.8+α | 体部下位外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外青灰5B5/1～オリーブ灰2.5GY6/1、内オリーブ灰2.5GY6/1～灰N5/、断面オリーブ灰2.5GY6/1～灰褐7.5YR5/2。 | 底部内面にシッタ痕？ |
| 29 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層)(最終操業面基盤)<br>1号窯跡焼成部1右110～123層(3-①層)最終操業面基盤層 | ①(10.9) ②4.8+α | 底部外面カキメ。他は回転ナデ。体部下位外面連続刺突文施文後2カ所に1条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5B5/1～暗灰5B4/1、内オリーブ灰2.5GY6/1～暗オリーブ灰2.5Y4/1、断面青灰5B5/1～橙5YR6/6。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 30 | 須恵器 | 高杯？ | 1号窯跡焼成部1左67層(3-①層)最終操業面基盤層 | ②3.4+α 脚部径10.3 | 脚部上位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C:外青灰5B5/1、内灰N6/～オリーブ黒7.5Y3/1。 | 外面に自然釉。 |
| 31 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡3次操業面焚口部最終床面上～焼成部1 | ①13.6 ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：4.5㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～暗青灰5P5/1、内青灰5PB6/1～5PB6/1。 | 外面ヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>内面に黒斑。<br>回転方向右。 |
| 32 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡3次操業面焚口部最終床面上～焼成部1 | ①(14.2～14.6)<br>②3.3+α | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜ほどの白色砂粒、角閃石を少量含む。B：良好。C：内外共灰N5/～N6/。 | 外面ヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 33 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡3次操業面焚口部最終床面上～焼成部1 | ②4.6+α<br>胴部径(11.0) | 脚部回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C:外灰黄2.5Y6/2～黒褐2.5Y3/1、内灰黄2.5Y6/2。 | |
| 34 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③奥140層 3次操業貼床 | ②2.7 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/、降灰褐灰10YR6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。 |
| 35 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左横断③奥3次操業左側壁内 | ①(12.3) ②3.6+α<br>受部径(14.4) | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～灰白7.5Y8/1、内灰5Y5/1～灰白7.5Y7/1。 | 回転方向右。 |
| 36 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1 3次操業面貼床内 | ①11.85 ②3.85～3.6<br>受部径13.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰オリーブ5Y6/2～淡黄2.5Y8/3、内灰10Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 37 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1 3次操業面貼床内 | ①11.1 ②2.5～4.25<br>受部径13.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰10Y5/1～灰N4/、内灰5Y4/1～5/1～灰白2.5Y8/2。 | 外面ヘラ記号。<br>内面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 38 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層最終床面～崩落土内 | ①12.1 ②3.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N5/～N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 39 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層最終床面～崩落土内 | ①12.4 ②3.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒と1㎜以下の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～にぶい黄橙10YR7/3～暗灰N3/、内灰N4/～暗灰N3/。 | 外面に降灰。 |
| 40 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前69・150層周辺2次操業崩落土層<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前103層2次操業面最終床面上 | ①13.1 ②3.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後不定方向ナデ。口縁端部ハケ状工具痕。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B:良好。C:外灰白7.5Y7/1～灰N6/(変色部)緑灰7.5GY5/1～暗紫灰5P4/1、内灰7.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 41 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①13.2 ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2。 | 回転方向右。 |
| 42 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右67層(3-①層) | ①(13.5) ②4.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面調整不明。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：不良。C:外灰白5Y8/2～淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR7/6。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 43 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断手前③手前154・155層最終床面上～崩落土内 | ①(13.4) ②4.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む微細な雲母をわずかに含む。B：良好。C：内外共灰白2.5Y8/1～淡黄2.5Y8/3～黄灰2.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 44 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①13.6 ②4.65 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外灰白7.5Y7/1～青灰5PB5/1、内灰白7.5Y7/1～灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 45 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断手前③手前154・155層最終床面上～崩落土内 | ①(14.0) ②4.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面4/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白7.5Y8/1、内灰N5/～灰白7.5Y7/1。 | 焼き歪む。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 46 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前69・150層周辺2次操業崩落土層 | ①(13.85) ②4.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C:外灰白2.5Y8/1～橙7.5YR6/6～褐灰10YR6/1、内灰黄褐10YR6/2～灰白2.5Y8/1～にぶい褐7.5YR5/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 47 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左灰原基準横断ｓｅｃ前2次操業面灰層<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前103層2次操業面最終床面上 | ①14.0 ②4.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外共灰白2.5Y8/2～にぶい褐7.5YR6/3～灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 48 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①10.6 ②4.0<br>受部径13.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰白N7/～明青灰5PB7/1。 | 外面に降灰。<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向右。 |

# 表３　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表③

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層終床面～崩落土内 | ①11.0 ②4.0<br>受部径13.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒と微細な黒色粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | 口縁部に焼きムラ。<br>回転方向右。 |
| 50 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①(11.4) ②4.25<br>受部径 (13.8) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内灰N6/～青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 51 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前　69・103・150層2次操業面最終床面上～崩落土層 | ①11.5 ②4.05<br>受部径13.75 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青黒5PB1.7/1～（釉）にぶい黄2.5Y6/4、内青黒5PB2/1、断面紫灰5PB6/1。 | 外面に降灰。<br>口縁部外面に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向不明。 |
| 52 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①(11.4) ②4.2<br>受部径(14.0) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N5/、内灰N6/～5Y5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 53 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断手前③手前154・155層最終床面上～崩落土内 | ①(11.9) ②3.75<br>受部径(14.4) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N5/。 | 回転方向右。 |
| 54 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前69・150層周辺2次操業崩落土層 | ①10.8 ②4.1+α<br>受部径13.45 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N4/、内灰5Y5/1～明黄褐10YR6/6～にぶい赤褐5YR4/4。 | 外面に降灰。 |
| 55 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①(10.8)<br>②(15.4)<br>脚部径(10.4) | 底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部中位外面に2条沈線。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/～青灰5B6/1。 | 内外面に降灰。<br>脚接合部付近に別個体釉着。<br>二方向に二段スカシ。 |
| 56 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ②14.9+α<br>脚部径(16.0) | 底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部中位外面に2条沈線。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/、内青灰5PB6/1。 | 内外面に降灰。<br>二方向に二段スカシ。 |
| 57 | 須恵器 | 把手付椀 | 1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層 | ①(12.4) ②5.9+α | 把手部ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/～N6/、内灰N4/。 | 内外面に降灰。 |
| 58 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断手前③手前154・155層最終床面上～崩落土内<br>1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層(3-④層)2次操業面最終床面上 | ①8.8 ②3.2 | 外面3/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗オリーブ灰2.5GY4/1～黒N2/、内灰10Y4/1～暗灰N3/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 59 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前103層2次操業面最終床面上<br>1号窯跡焼成部1左灰原基準横断ｓｅｃ前2次操業面灰層 | ①(8.0) ②5.6+α | 口縁部～体部回転ナデ。体部上位外面に1条沈線、沈線下に連続刺突文。 | A：2㎜以下の白色砂粒と微細な赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外緑黒5G1.7/1、内緑黒5G1.7/1～（釉）灰オリーブ5Y5/2、断面赤灰10R6/1。 | 内面に自然釉。<br>沈線下に連続刺突文。<br>No.71と同一個体（接合しない）。外面にヘラ記号。 |
| 60 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層最終床面～崩落土内 | ①(8.3) ②3.0 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C:外暗灰N3/～灰N4/、内暗灰N3/、断面暗赤灰5R4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向不明。 |
| 61 | 窯道具 | 焼台 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前69・150層周辺2次操業崩落土層 | 縦20.5 横16.7<br>厚さ9.5 | | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な黒色粒を少量含む、焼台0.5～6㎜の白色砂粒を多く含む、スサを多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/～黒N5/、内灰5Y4/～黒7.5Y2/1。 | 壺破片3片が内面を上向きに釉着。 |
| 62 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層 | ①12.7 ②4.2 | 外面1/3回転ヘラケズリ、1/3未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒とI～4㎜の石英を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1、内暗青灰5B3/1、断面紫灰5P5/1。 | 内面に自然釉？ |
| 63 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面上<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層<br>1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72(3-④層)2次操業面最終床面上 | ①(12.9) ②3.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰7.5Y6/1～オリーブ黒5Y3/1、内にぶい黄橙10YR6/3～黒褐10YR3/2～灰白5Y7/2～灰7.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 64 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層 | ①(12.95) ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共暗青灰5PB3/1、断面暗赤灰5R4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に自然釉か？<br>回転方向右。 |
| 65 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前105層2次操業面貼床 | ①(13.6) ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～赤褐10R5/4、内灰赤褐10YR5/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 66 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前178層2次操業面貼床 | ①(13.9) ②4.5 | 外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰白5Y7/1～灰5Y5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 67 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層最終床面～崩落土内<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層 | ①13.3 ②4.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な黒色粒をやや多く含む。B:良好。C:内外共浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 68 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前178層2次操業面貼床 | ①10.8 ②3.25～4.35<br>受部径13.1 | 外面自然釉のため調整不明。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗青灰5PB4/1～（釉）灰黄2.5Y6/2、内青黒5PB2/1～暗紫灰5P3/1～暗赤灰5R4/1。 | 外面に自然釉。<br>外面の残存部約2/3に破損がみられる（二次焼成）。 |
| 69 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層 | ①(12.35) ②3.9<br>受部径(14.55) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜ほどの白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～にぶい黄橙10YR7/3、内灰7.5Y6/1～灰褐7.5Y4/2～にぶい褐7.5YR5/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 70 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前154・155層最終床面～崩落土内<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前105層2次操業面貼床 | ①(5.1) ②5.85+α | 口縁部～体部回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N4/～黒N2/。 | 外面に降灰。 |

# 表4　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表④

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 71 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前2次操業面貼床上層 | ①(8.0) ②4.4+α | 口縁部～体部回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外緑黒5G1.7/1、内緑黒5G1.7/1～（釉）灰オリーブ5Y5/2、断面赤灰10R6/1。 | №59と同一個体（接合しない）<br>内面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。 |
| 72 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡焼成部1左2次操業面貼床<br>1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層(3-④層)2次操業面最終床面上<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前69・150層周辺2次操業崩落土層<br>1号窯跡焼成部1左68層(3-②層)(3次操業灰層) | ②10.7+α ③(10.2) | 肩部外面カキメ。体部下位～底部外面降灰のため調整不明。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部上位外面2カ所に1条沈線、沈線間に連続斜線文。 | A：0.5～3㎜の白色砂粒を多く含む微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰黄2.5Y6/2～灰白2.5Y7/1～暗赤褐2.5YR3/6、内灰N4/、断面灰黄褐10YR6/2。 | 沈線間に連続斜線文。<br>外面に降灰。 |
| 73 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡焼成部1右横断手前③手前154・155層<br>最終床面上～崩落土内1号窯跡焼成部1右横断面③手前71・72層<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前178層2次操業面貼床<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前2次操業面貼床上層 | ①(25.8) ②9.0+α | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕後一部回転ナデ。 | A：0.5～1.0㎜の白色砂粒をやや多く含む、0.5㎜の黒色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/～暗灰N3/、内黒N2/～暗灰N3/～灰7.5Y5/1。 | 砂粒、粘土が多量に付着。 |
| 74 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡焼成部1左横断③奥144・145層 2次操業崩落土<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前105層2次操業面貼床 | ①(54.0) ②18.9+α | 口縁部上位～下位外面カキメ後3カ所に1条・2条沈線、沈線間に波状文。体部外面タタキ、内面は同心円文当て具痕。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む、小石粒やや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/～N4/、内青灰5B5/1～灰N5/。 | 沈線間に波状文。 |
| 75 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前105層 2次操業面貼床 | 長さ4.9 幅1.2<br>厚さ1.5 | 端部～外面ヨコナデ。内面同心円の当て具痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 硬製作時の切り落とし片。 |
| 76 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前171層1次操業面崩落土 | ①(9.6) ②3.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む微細な黒色粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰N6/～N5/、内灰N5/。 | 回転方向右。 |
| 77 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前171層1次操業面崩落土 | ①(9.2) ②3.6 | 外面1/4カキメ、1/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む微細な黒色粒をわずかに含む。B:良好。C:外灰7.5Y6/1～オリーブ灰5GY6/1、内にぶい赤褐5YR5/3～灰N6/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 78 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土<br>1号窯焼成部1左灰原横断手前171層1次操業面崩落土<br>1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ①12.7 ②3.6 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青黒5PB1.7/1～青灰5B6/1～灰N4/、内青灰5PB6/1～灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 79 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左灰原横断手前83層(1次操業灰原)<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土<br>1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土 | ②3.4+α | 外面1/4回転ナデ後回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ・一部指頭圧痕。他は回転ナデ。 | A：2.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～青黒5PB2/1～灰白2.5Y8/1、内青灰5PB5/1～灰N5/。 | 外面に降灰。<br>内面にシッタ痕か？<br>外面にヘラ記号。 |
| 80 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①13.3 ②3.85 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多く含む。B：良好。C：外暗オリーブ灰2.5GY3/1～灰N3/、内灰N4/～N3/。 | 外面他の土器の粘土が付着。<br>回転方向右。 |
| 81 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①13.35 ②3.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、2～4㎜の砂礫をわずかに含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 回転方向右。 |
| 82 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土 | ①(13.65) ②4.05 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天井部不定方向ナデ。内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～暗灰N3/、内灰N5/～N4/。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 83 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①13.7 ②4.0 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、1㎜以下の雲母、黒色粒をわずかに含む。B：良好。C：内外共灰白2.5Y7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 84 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡　焼成部1右　横断③手前163～165層<br>1次操業崩落土 | ①(15.2) ②4.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な雲母、黒色粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰白10YR8/1～灰N5/～黒褐10YR3/2、内灰白10YR8/1～灰N5/～明黄褐10YR6/6。 | 回転方向右。 |
| 85 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡　焼成部1左　横断③手前174層<br>1次操業面崩落土 | ①(10.6) ②3.7<br>受部径(13.0) | 外面1/2降灰のため調整不明。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～明オリーブ灰2.5GY7/1、内灰N3/。 | 外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号？<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。 |
| 86 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土<br>1号窯跡焼成部1左灰原横断手前168層1次操業面最終床面 | ①11.25 ②4.4<br>受部径13.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒と1～3㎜の石英、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰白2.5Y8/1～灰白10YR8/2～にぶい橙7.5Y6/4～灰N6/、断面にぶい赤褐5YR5/3～オリーブ灰5GY6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 87 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①(11.4) ②3.7<br>受部径(13.7) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/2～暗灰N3/、内灰N4/～暗灰N3/。 | 外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 88 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①(11.8) ②3.9<br>受部径(14.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ後不定方向ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、2～4㎜の砂礫をわずかに含む。B：良好。C：外灰N5/～N4/、内灰N4/～3/。 | 外面に自然釉か？<br>回転方向右。 |
| 89 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土 | ①(12.0) ②3.7<br>受部径(14.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～4/、内紫黒5P1.7/1～青黒5B2/1～黒褐10YR3/2。 | 内面に降灰。<br>外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 90 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ①(11.2)<br>②(3.7～4.4)<br>受部径(14.3) | 外面2/3ヘラ切り後ナデ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒と1～2㎜の石英、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C：内外共灰白5Y7/1～灰7.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 91 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土 | ①11.9 ②3.65<br>受部径14.05 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共青灰5PB5/1～明青灰5PB7/1～暗青灰5PB4/1。 | 内外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |

# 表5　梅頭遺跡第4次調査出土遺物観察表⑤

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 92 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土 | ①13.15 ②4.75<br>受部径15.5 | 外面1/2回転ナデ後不定方向のケズリ。他は回転ナデ。 | A：1～3㎜の白色砂粒と微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1～黒N2/、内暗青灰5PB4/1。 | 外面に自然釉。<br>高杯杯部の転用か？<br>回転方向不明。 |
| 93 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前灰層(1次操業崩落土) | ①12.9 ②4.7<br>受部径15.0 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む、外面底部に0.5～2㎜の赤褐色粒をわずかに含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3～にぶい褐7.5YR5/4、内にぶい橙7.5YR7/4～にぶい黄橙10YR6/4。 | 内面に黒斑。<br>回転方向右。 |
| 94 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①(9.4) ②6.7 | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1、断面青灰5PB5/1～暗灰黄2.5Y4/2。 | 外面に自然釉。<br>回転方向右。 |
| 95 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①(13.4) ②4.7 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～黒N2/、内灰N4/～暗灰N3/、断面灰N4/～暗灰黄2.5Y4/2。 | 内外面に自然釉。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 96 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土<br>1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土 | ①(11.6) ②8.7<br>受部径(14.0)<br>脚部径(10.9) | 杯部外面1/2カキメ。杯部内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共青灰5B5/1～にぶい褐7.5YR5/3。 | |
| 97 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土 | ①(12.8) ②8.9+α | 底部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向ナデ。脚部内面ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A：5㎜以下の白色砂粒と微細な赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1～オリーブ黒5GY2/1～青灰5B5・1、内緑灰10G5/1～紫灰5P6/1～青灰5B5/1～灰白N7/。 | 内外面に自然釉。<br>二方向にスカシ。 |
| 98 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断奥170層1次操業面崩落土<br>1号窯跡焼成部1右横断③奥1次操業崩落土<br>1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層 1次操業崩落土<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前178層2次操業面貼床<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土 | ①12.15 ②15.1<br>脚部径10.55 | 杯部・脚部回転ナデ。体部下位～底部外面3カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共青灰5B6/1～青黒5B2/1。 | 底部外面沈線間に連続刺突文。<br>三方向に二段スカシ。 |
| 99 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土 | ①(16.6) ②4.25+α | 体部下位外面カキメ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に1条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒と微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y8/1～青灰5B6/1～にぶい褐7.5YR6/3、内灰白5Y8/1～青灰5B5/1～にぶい黒褐5YR5/3。 | |
| 100 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土)<br>1号窯焼成部1左灰原横断手前171層 1次操業面崩落土 | ②4.3+α<br>脚部径(9.05) | 脚部回転ナデ。 | A：2.5㎜以下の白色砂粒と1～3㎜の石英、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰白7.5Y7/1～にぶい黄褐10YR5/3。 | |
| 101 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1左灰原横断手前173・174層1次操業面崩落土<br>1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ②5.9+α<br>脚部径14.3 | 脚部回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共暗青灰5PB4/1。 | |
| 102 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ②9.5+α<br>脚部径10.3 | 脚部回転ナデ。脚部中位外面2条沈線。 | A：4㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内青灰5B6/1～青黒5B2/1。 | |
| 103 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ②11.9+α<br>脚部径13.35 | 脚部回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰N6/～黒N1.5/～オリーブ黄7.5Y6/3、内灰N6/～オリーブ黒7.5Y3/1～灰オリーブ7.5Y6/2。 | 外面に降灰。<br>三方向に二段スカシ。 |
| 104 | 須恵器 | すり鉢 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土)<br>1号窯跡焼成部1左灰原横断手前173・174層 1次操業面崩落土 | ②7.3+α<br>脚部径16.1 | 口縁部上位～中位外面カキメ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む1㎜以下の黒色粒を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y4/1～灰白2.5Y8/1～オリーブ褐2.5Y4/3内灰白5Y8/1～灰5Y6/1～褐灰7.5Y4/1～にぶい褐7.5Y5/4。 | |
| 105 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ①9.0 ②3.35+α | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒と石英、微細な黒色粒、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：良好C：内外共灰白7.5Y8/1～灰N6/～にぶい黄褐10YR5/3～橙5 YR7/8。 | 回転方向右。 |
| 106 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①9.5 ②3.4 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒、微細な黒色粒を少量含む。B：良好。C：外灰白10YR8/I～黄橙10YR8/6、内灰白10YR8/1～明黄褐10YR6/8～にぶい黄橙10YR5/4。 | 回転方向不明。 |
| 107 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡焼成部1右横断③手前163～165層1次操業崩落土 | ①9.8 ②3.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む微細な黒色粒、赤褐色粒をわずかに含む。B：良好。C：外灰白2.5Y8/1～灰黄2.5Y6/2～にぶい黄2.5Y6/3、内灰白2.5Y8/1～灰黄2.5Y7/2。 | 回転方向不明。 |
| 108 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ②6.75+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。肩部外面に1条沈線。 | A：4㎜以下の白色砂粒と2㎜以下の石英、炭化物を少量含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1～浅黄橙10YR8/3、内灰白2.5Y7/1～浅黄橙10YR8/3～灰白N7/。 | 内面に付着物。<br>回転方向右。 |
| 109 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡焼成部1左横断③手前174層1次操業面崩落土 | ①(24.5) ②9.1+α | 口縁部～頸部回転ナデ。頸部外面ナデ。体部外面平行タタキ後ナデ・カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/～にぶい赤褐5YR4/3～暗灰N3/。 | |

# 表６　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑥

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 110 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層　(1次操業崩落土) | ①(18.3) ②16.7+α | 口縁部回転ナデ。体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/（口縁～頸部）～灰N4/（体部）。 | 口縁部内面に降灰。 |
| 111 | 須恵器 | 平瓶 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前161・164層(1次操業崩落土) | ①6.2 ②4.1 | 口縁部～頸部回転ナデ。 | A：0.5～2㎜の白色砂粒をやや多く含む、焼台1～5㎜の白色砂粒を多く含む。B：良好。C：外灰N6/～暗灰N3/、内暗灰N3/。 | 口縁部に窯壁付着。<br>外面にヘラ記号。 |
| 112 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割9・10間右貼床 | ①(12.4) ②3.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N6/～N4/、内灰N6/。 | 外面ヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向左。 |
| 113 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割9・10間右貼床 | ①(13.0) ②3.4 | 外面1/3・内面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。 | A：1mmほどの白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/～明黄褐10YR7/6、内灰白2.5Y8/2～明黄褐10YR7/6。 | 内外面に降灰。<br>回転方向不明。 |
| 114 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割9・10間右貼床 | ①(13.4) ②4.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外明青灰5BG7/1～暗緑灰10G3/1、内青灰5B5/1。 | 外面ヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 115 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①14.0 ②4.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：外灰白5Y8/1～灰白10YR8/2、内灰白2.5Y8/1～8/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 116 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左灰原横断手前168層<br>1次操業面最終床面日付なし | ①13.6 ②4.65 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な雲母をやや多く含む、2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白2.5Y8/2～橙5YR7/6～にぶい黄褐10YR5/3、内灰白2.5Y8/2～にぶい黄橙10YR6/4～黄灰2.5Y5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 117 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割11右上層灰色土 | ①(13.7) ②4.2 | 外面3/4回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N4/～暗青灰5B3/1、内灰N4/。 | 回転方向右。 |
| 118 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割10・11間右貼床 | ①(13.4) ②4.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1mm以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共灰白N7/～灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 119 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①(14.2) ②4.8 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面中央部不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:外灰白2.5Y8/1～8/2、内灰白2.5Y8/1。 | 内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向左。 |
| 120 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①14.1 ②3.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～にぶい黄橙10Y7/3、内灰7.5Y6/1～灰白N7/。 | 内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 121 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡1次操業面最終床面 | ①(16.1) ②2.9+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面一部ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰10Y4/1、内灰10Y5/1。 | 外面ヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 122 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割9・10間右25層 | ①(11.7) ②3.6+α<br>受部径(13.4) | 外面2/3降灰のため調整不明。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1～2㎜ほどの白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共暗青灰10BG4/1。 | 内外面に降灰。<br>受部に杯蓋口縁釉着。<br>回転方向不明。 |
| 123 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①11.5 ②4.0 ③6.3<br>受部径13.6 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1～灰白7.5Y7/1～灰白10YR8/2、内灰N5/。 | 受部に重ね焼き痕。<br>内面に内面にシッタ痕。 |
| 124 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割11・12間右貼床<br>1号窯跡断割11右最下層灰色土 | ①11.9 ②4.5<br>受部径14.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：内外共灰白5Y8/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 125 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右灰原横断手前1次操業面<br>最終床面中 | ①(11.9) ②3.8<br>受部径(14.1) | 外面降灰のため調整不明。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒と黒色粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～明紫灰5P7/1、内青灰5PB5/1。 | 外面に降灰。<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向不明。 |
| 126 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割10・11間左貼床 | ①(12.0) ②4.1<br>受部径(14.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共灰白2.5Y8/1。 | 外面に降灰。<br>別個体釉着。<br>回転方向不明。 |
| 127 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割11・12間貼床 | ①12.0 ②3.4<br>受部径14.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外青灰5PB6/1～明青灰5PB5/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 128 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割9・10間下層黒色土 | ①(11.6) ②4.2<br>受部径(14.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共黄灰2.5Y6/1～灰5Y5/1。 | 外面に降灰。<br>受部に杯蓋口縁釉着。<br>回転方向不明。 |
| 129 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①(12.2) ②3.5<br>受部径(14.2) | 外面降灰のため調整不明。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内青灰5PB6/1。 | 外面に降灰、別個体釉着。<br>回転方向不明。 |
| 130 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割12下右貼床 | ①(11.6) ②3.9<br>受部径(14.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N4/～明青灰5PB7/1、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰、別個体釉着。<br>内面に内面にシッタ痕。 |
| 131 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割12下右貼床 | ①(12.2) ②4.05<br>受部径(14.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR5/1～4/1、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 132 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ①(12.4) ②4.3<br>受部径15.0 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C：外浅黄橙10YR8/4～橙5YR7/6、内橙5YR7/6～橙7.5YR8/4。 | 回転方向右。 |
| 133 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡断割10・11間左貼床 | ②3.8+α<br>つまみ径3.2 | 外面3/4カキメ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰白7.5Y7/1～灰N6/。 | |
| 134 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割12下右貼床 | ①(12.5) ②4.3+α | 底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR6/3～灰白5Y7/1、内褐灰5YR5/1。 | 内面にヘラ記号？<br>沈線間に連続刺突文。<br>三方向にスカシ。 |
| 135 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割10・11間右貼床 | ①(12.2) ②4.4+α | 底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部外面2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外黄灰2.5Y5/1～灰黄2.5Y6/2～一部明赤褐2.5YR5/6、内黄灰2.5Y5/1～6/1。 | 沈線間に連続刺突文。<br>内面に内面にシッタ痕。 |
| 136 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割11・12間下層黒色土<br>1号窯跡断割12下右貼床 | ①(12.0) ②3.8+α | 杯部回転ナデ。体部外面2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/3、内灰褐7.5YR6/2。 | 沈線間に連続刺突文。 |

# 表７　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑦

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割10左2次操業壁内右 | ①(12.1) ②3.6+α | 底部外面回転ヘラケズリ後連続刺突文施文。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A:0.2～2㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰白5Y7/1 ～緑灰5G6/1、内灰7.5Y5/1 ～暗灰黄2.5Y5/2。 | 底部外面に連続刺突文。 |
| 138 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割11・12間左貼床<br>1号窯跡断割11右最下層灰色土 | ①11.6 ②4.8+α | 底部内面は不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3 ～灰白5Y8/1。内灰白10YR8/2。 | スカシ。 |
| 139 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割10・11間右貼床 | ②3.4+α<br>脚部径(8.2) | 脚部回転ナデ。 | A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N5/ ～黒N2/。内灰N5/ ～黒N2/。 | 内外面に降灰。 |
| 140 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割11・12間右貼床 | ②10.7+α<br>脚部径(11.4) | 脚部上位外面カキメ、他は回転ナデ。内面シボリ痕。 | A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外褐灰5YR4/1 ～灰7.5Y6/1、内にぶい赤褐5YR5/4 ～褐灰5Y4/1。 | 三方向に二段スカシ？ |
| 141 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡断割12右上層灰色土 | ②11.7+α<br>脚部径(11.8) | 脚部上位外面カキメ。他は回転ナデ。内面シボリ痕。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外にぶい橙5YR6/4 ～にぶい赤褐5YR5/3、内にぶい橙5YR6/4。 | 三方向に二段スカシ。 |
| 142 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡断割12左上層灰色土<br>1号窯跡断割10・11間左貼床<br>1号窯跡断割11・12間右貼床<br>1号窯跡断割12下左貼床<br>1号窯跡断割12左最下層灰白色土～茶色土 | ①(14.4) ②9.5+α | 口縁部～体部中位カキメ。体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外にぶい橙5YR6/4、内にぶい赤褐5YR5/3。 | 回転方向右。 |
| 143 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡断割10・11間右貼床 | ①4.2 ②2.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:1～2㎜の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外暗灰N3/、内灰N6/ ～暗灰N3/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 144 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡断割9・10間左貼床 | ①(12.1) ②3.8+α | 口縁部～頸部回転ナデ。口縁部下位外面に1条沈線。頸部外面にシボリ痕。 | A:1mmほどの白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰白5Y4/1、内緑灰5G5/1 ～オリーブ黒7.5Y3/1。 | 外面に降灰。 |
| 145 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡断割11・12間左貼床<br>1号窯跡断割12下右貼床 | ①(18.5) ②7.0+α | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C：外にぶい褐7.5YR5/3 ～灰5Y6/1、内にぶい褐7.5YR5/3 ～灰7.5Y6/1。 | |
| 146 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡断割10・11間右貼床<br>1号窯跡断割11・12間貼床<br>1号窯跡断割11・12間左貼床 | ①(38.6) ②13.3+α | 口縁部上位～下位外面2カ所に3条・2条沈線施文後斜線文。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内暗灰N3/。 | 頸部外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。 |
| 147 | 須恵器 | (把手) | 1号窯跡断割12右下層灰白色土 | ②4.2 幅 2.1 厚 2.3 | 把手部ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：にぶい橙7.5YR5/3。 | 把手。 |
| 148 | 須恵器 | 紡錘車 | 1号窯跡断割12下右貼床 | 長4.8 幅4.9 厚1.8 | 側面ヘラケズリ。上面・底面ヘラケズリ後ナデ。 | A：0.5㎜以下の砂粒を少量含む。B：良好。C：にぶい橙7.5YR6/4 ～浅黄橙10YR8/3。 | |
| 149 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡窯尻部作業路床面貼床(左半部) | ①(9.5) ②2.85+α<br>受部径(11.95) | 口縁部～底部回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒と雲母、1㎜の赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR5/4 ～灰白2.5Y8/2 ～明褐7.5YR5/6、内にぶい黄橙10YR7/4 ～明黄橙10YR6/6。 | |
| 150 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡作業路 | ①(11.2) ②3.9<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/、断面暗赤灰10R4/1。 | 焼き歪む。<br>回転方向右。 |
| 151 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡作業路 | ①(12.8) ②4.1<br>受部径(15.0) | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒をやや多く含む、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 152 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡作業路 | ①(11.95) ②4.35+α | 底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部中位～底部外面3カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A:1 ～2㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰7.5Y6/1 ～灰N6/、内灰7.5Y6/1。 | 底部外面沈線間に連続刺突文。 |
| 153 | 須恵器 | 把手付椀 | 1号窯跡作業路 | ①(12.0) ②7.25+α | 体部上位～中位外面カキメ。把手部ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N4/ ～暗灰N3/、内黒N2/ ～灰N6/、断面紫灰5P5/1 ～青灰5PB5/1。 | |
| 154 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡重機検出中表採 | ①(13.6) ②3.8 | 外面1/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。 C：内外共灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面2/3・内面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 155 | 須恵器 | 広口壺 | 1号窯跡重機検出中表採 | ①(15.2) ②10.6+α | 口縁部～頸部内面回転ナデ。口縁部下位～体部外面平行タタキ後回転ナデ。体部内面指頭圧・タタキ後回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。 C：外灰白N6/、内灰N5/。 | |
| 156 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(13.6)②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。 C：外灰N4/、内灰N5/。 | 内面降灰。<br>回転方向右。 |
| 157 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区2層灰(黒色土) | ①11.3 ②3.65<br>受部径13.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外内共青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>受部に重ね焼き痕。<br>回転方向右。 |
| 158 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①11.1 ②3.8<br>受部径13.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。 B：良好。 C：内外共灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 159 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1・2区間ベルト灰層(図の3層) | ①11.4 ②3.7<br>受部径13.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>焼成粘土付着。<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向右。 |
| 160 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①11.8 ②4.1<br>受部径13.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 161 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(12.0) ②(3.9)<br>受部径(14.0) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。 B：良好。 C：外灰N7/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>受部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向右。 |

# 表8　梅頭遺跡第4次調査出土遺物観察表⑧

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 162 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(11.9) ②7.25 | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部中位外面に2条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 163 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(11.6) ②4.6+α | 杯部外面カキメ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>外面にヘラ記号。 |
| 164 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(15.8) ②7.7+α | 脚部外面シボリ痕。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。　C：外青灰10BG5/1/、内灰N6/。 | 三方向にスカシ。 |
| 165 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ②10.8+α<br>脚径(15.0～15.6) | 脚部外面カキメ。内面にシボリ痕。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。　C：外灰白7.5Y7/1、内灰白N7/。 | 二方向にスカシ。 |
| 166 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(11.4) ②2.4+α | 外面シボリ痕。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 脚部に穿孔。 |
| 167 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(6.8) ②2.9+α | 口縁部～肩部回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 外面に降灰。<br>別個体片(蓋、受身)が肩部に釉着。 |
| 168 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(13.8) ②3.3+α | 降灰のため調整不明。 | A：5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 内外面に降灰。 |
| 169 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①14.6 ②3.0+α | 外面1/2カキメ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外共灰白N7/。 | |
| 170 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①12.1 ②4.15 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向左。 |
| 171 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①12.8 ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 外面に降灰。<br>外面棒状圧痕。<br>回転方向右。 |
| 172 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(13.0) ②3.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ、シッタ痕。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N6/、内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 173 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①13.3 ②4.25 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3ナデ？他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内褐灰7.5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向左。 |
| 174 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①13.7 ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 175 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①11.2 ②3.9<br>受部径13.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰<br>回転方向右。 |
| 176 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①12.0 ②3.65<br>受部径14.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内褐灰10YR6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>受部に別個体片釉着。<br>回転方向右。 |
| 177 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ②4.5+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面は降灰のため調整不明。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内.降灰のため観察不能。 | 外面にヘラ記号。<br>内面降灰。<br>回転方向右。 |
| 178 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(13.2) ②8.9+α | 体部下位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部中位に穿孔。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>体部中位に穿孔。<br>回転方向右。 |
| 179 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ②2.5+α<br>つまみ径3.2 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面2/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/～N5/。 | 別個体片釉着。 |
| 180 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ②3.0+α<br>つまみ径3.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 181 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ②2.3+α<br>つまみ径2.3 | 外面1/4回転ヘラケズリ、1/4カキメ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共灰N6/～N5/。 | 内外共降灰？ |
| 182 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(14.2) ②4.2+α | 底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。体部下位外面に櫛描刺突文。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>スカシは三方向？<br>体部下位外面に連続刺突文。 |
| 183 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ②5.7+α | 体部下位外面回転ヘラケズリ。脚部内面指頭圧。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C:外灰N5/,内黄灰2.5Y6/1。 | 杯部底部ヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 184 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①8.8 ②2.45 | 外面は1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 185 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(5.1) ②4.4+α | 肩部～体部中位外面カキメ、下位回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部屈曲部に1条沈線。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内.灰N4/。 | 沈線。 |
| 186 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(7.0) ②6.1+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>口縁部～肩部外面に降灰。<br>体部外面に二次焼成・付着物。 |
| 187 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(13.0) ②6.0 | 内外面回転ナデ。頸部外面シボリ痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/～N5/。 | |
| 188 | 須恵器 | 横瓶 | 1号窯跡灰原1区拡張部15層 | ②3.5+α | 頸部外面回転ナデ。体部外面平行タタキ後一部カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：不良。C：内外共灰白5Y8/1。 | |
| 189 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土<br>1号窯跡灰原1区2層灰層(黒色土) | ①(13.6) ②21.2+α | 口縁部ヨコナデ。体部外面擬格子タタキ後一部カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1、内青灰5PB5/1。 | 口縁部・体部下半から底部に降灰。 |
| 190 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土 | ①(5.2) ②15.6+α | 口縁部上位～中位外面カキメ後櫛描文後1条沈線、下位は平行タタキ後カキメ。頸部外面付近は平行タタキ後ヨコナデ。内面は指頭痕後ヨコナデ・ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内明青灰5PB7/1。 | 内外面に降灰か。 |

# 表9　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑨

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 191 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原1区拡張部8・15層 | 長36.6 幅4.4 厚2.8 | | | 樹皮残存。 |
| 192 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ①14.1 ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰白10Y7/1 ～にぶい黄燈10YR7/3、内灰10Y6/1 ～褐灰10YR6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 193 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ①14.9 ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後弱いナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:やや良好。C：外灰10Y6/1、内オリーブ灰2.5GY6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 194 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ①11.6 ②3.95<br>受部径14.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/ ～灰N6/、内灰N5/ ～灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>受け部に杯蓋口縁部釉着。<br>回転方向右。 |
| 195 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ①(9.6) ②6.5 | 体部下位～底部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 196 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ①(9.9) ②7.2 ③6.2 | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N6/。 | 外面体部ヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 197 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | ②5.2＋α<br>脚径(10.8) | 底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N7/ ～灰N6/、内灰N6/。 | 外面に降灰・付着物。 |
| 198 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | ①8.1 ②2.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/ ～灰N5/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 199 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ②7.8＋α ③3.1 | 体部～底部外面カキメ後体部上位2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。頚部にシボリ痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。微細な赤褐色粒を微量含む。B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内浅黄燈10YR8/3。 | 沈線間に連続刺突文。<br>体部中位外面に穿孔。 |
| 200 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下<br>1号窯跡灰原1区3層(青灰色土)<br>1号窯跡灰原1・2区間ベルト2層灰層 | ①(21.4)<br>②20.0＋α | 口縁部上位～頚部外面タテハケ後ヨコナデ、内面回転ナデ。体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/ 一部明青灰10B7/1、内灰N4/ ～灰N5/。 | 外面頚部ヘラ記号。 |
| 201 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下<br>1号窯跡灰原1区3層(青灰色土)<br>1号窯跡灰原1・2区間ベルト2層灰層(13層)<br>1号窯跡灰原1区拡張部11層灰色土 | ②36.2＋α ⑤(43.0) | 体部～底部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A:微細～ 2mmの白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 底部に焼きムラ。 |
| 202 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | 残存長9.9＋α<br>残存幅12.1＋α 厚3.1 | 削り。 | | 元は木製品。 |
| 203 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | 残存長11.6＋α<br>残存幅6.9 厚4.3 | 削り。 | | 工具痕。 |
| 204 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | 残存長37.0＋α<br>幅3.9 厚3.55 | 一端部に削り。 | | |
| 205 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | 残存長24.4＋α<br>最大幅15.0 厚4.7 | | | 敲打痕？ |
| 206 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区拡張部13層 | ①(13.0) ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N4/ ～灰5Y6/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 207 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部13層 | ①12.0 ②4.65<br>受部径14.1 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。外面棒状圧痕。 | A：微細な雲母・赤褐色粒を微量、1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄燈10YR7/2、内灰白10YR8/2。 | 外面体部ヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 208 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部13層 | ①(12.3) ②3.65<br>受部径(14.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ、1/4ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面に棒状圧痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、微細な赤褐色粒微量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄燈10YR7/3、内浅黄燈10YR8/3。 | 回転方向左。 |
| 209 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原1区拡張部13層 | ①9.8 ②5.0 | 底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共にぶい橙2.5YR6/4 ～ 5YR6/4。 | 回転方向右。 |
| 210 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区拡張部13層 | ②16.3＋α<br>脚部径11.2 | 体部外面カキメ。底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部内面にシボリ痕。底部外面2カ所に2条・1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：杯外面にぶい赤褐色2.5YR5/4、杯内面赤褐10R4/3、脚外面浅黄橙7.5YR8/3 ～赤10R5/6、脚内面にぶい橙7.5YR7/4。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 211 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下<br>1号窯跡灰原1区拡張11層灰色土 | ①20.4 ②13.0＋α | 口縁部ヨコナデ。体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具後回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒、小石粒をやや多量に含む。B:やや不良。C:内外共.浅黄橙10YR8/3 ～にぶい橙5YR7/3。 | |
| 212 | 木製品 | 曲物？ | 1号窯跡灰原1区拡張部上層黒色土(緑灰色土に近い) | 長3.3 幅1.6 厚0.2 | 削り。 | | 紐もしくは工具痕あり。 |
| 213 | 木製品 | 木製紡錘車 | 1号窯跡灰原1・2区間ベルト清掃中 | 長4.7 幅4.4 厚1.5 | 削り。 | | |
| 214 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①13.0 ②4.2 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/ ～灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 215 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(13.4) ②3.9＋α | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/、内褐灰10YR6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>別個体片釉着。<br>回転方向右。 |
| 216 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(13.6) ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：内外共灰白2.5Y8/1。 | 外面にヘラ記号。 |
| 217 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(14.1) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1 ～灰白N7/、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 回転方向右。 |
| 218 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(14.0) ②4.1＋α | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量、1㎜以下の赤褐色粒を微量に含む。B：やや良好。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい褐7.5YR6/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |

# 表10　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑩

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 219 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(14.1) ②3.2 | 外面2/3は回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰赤2.5YR5/2～明オリーブ灰5GY7/1、内赤灰2.5YR5/1～青灰10BG5/1。 | 外面にヘラ記号，回転方向右。 |
| 220 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(16.2) ②4.4 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、0.5㎜以下の赤色粒を微量含む。B：やや不良。C：外浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/4。 | 回転方向右。 |
| 221 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(10.6) ②3.95<br>受部径(13.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ。<br>他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 内外面とも降灰，<br>外面に付着物。<br>回転方向右。 |
| 222 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(10.3) ②4.4<br>受部径(13.0) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ・当て具痕，他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N4/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>別個体片釉着。<br>回転方向右。 |
| 223 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(10.8) ②4.25<br>受部径(13.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N4/。 | 外面に降灰・付着物。<br>回転方向不明。 |
| 224 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(11.5) ②4.15<br>受部径(13.8) | 外面2/3調整不明。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共灰N6/。 | 外面ヘラ記号？<br>外面に降灰。<br>受部に別個体片釉着。 |
| 225 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(16.2) ②5.7+α | 底部外面カキメ。底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰白N7/。 | |
| 226 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ②4.1+α<br>脚部径(10.8) | 底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。脚部外面回転ナデ、内面調整不明。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 脚内面全面降灰。 |
| 227 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ②12.3+α<br>脚部径10.6 | 底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。脚部上位～中位外面カキメ、内面シボリ痕。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外青灰5B6/1～灰N4/、内青灰5B6/1。 | 内外面わずかに降灰。<br>二段スカシ。 |
| 228 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原2・3区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①6.0 ②2.0+α | 外面1/2は手持ちヘラケズリ。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。　C：外灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | |
| 229 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(7.4) ②6.8+α | 体部中位～底部外面カキメ・櫛描後中位外面に2条沈線。底部内面は降灰のため調整不明。体部中位内面指頭圧・回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 230 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(6.8) ②5.2+α | 口縁部～体部回転ナデ。肩部外面に1条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内暗灰N3/。 | |
| 231 | 須恵器 | 椀(高台) | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ②1.3+α<br>高台径(9.6) | 高台回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N5/、内黄灰2.5Y6/1。 | |
| 232 | 須恵器 | 鉢形土器 | 1号窯跡窯体内焚口部11層(図表記) | ①(22.6) ②4.6+α | 口縁部～体部回転ナデ。 | A：0.1～0.2㎜の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共灰N6/。 | 焼きムラあり。 |
| 233 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ①(14.4) ② 4.2+α | 口縁部回転ナデ。内面は一部ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共青灰5PB7/1。 | 口縁部端部付近に降灰。 |
| 234 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区2層灰層<br>1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ②4.3+α | 口縁部回転ナデ。口縁部上位外面1条沈線、沈線下に波状文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外暗赤灰10R3/1～青灰5B5/1、内赤灰2.5YR5/1～青灰5B5/1。 | 内面に別個体片釉着。<br>口縁部外面に波状文。 |
| 235 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土) | ②5.3+α | 口縁部回転ナデ。口縁部外面カキメ後1条沈線、沈線下に波状文。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 口縁部外面に波状文。 |
| 236 | 土師器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区(前庭部・焚口側)2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層 | ②14.3+α | 体部上位外面ナナメハケ、中位1/4タテハケ。体部内面ヘラケズリ。頸部ヨコナデ。 | A：2.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:やや良好。C:外にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4。 | 外面2/3スス付着。 |
| 237 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1左68層(3-②層)(3次操業灰層) | ①(15.4) ②3.25 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 238 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-③層 | ①(14.0) ②4.15 | 天井部外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:やや不良。C：内外共灰白7.5Y7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 239 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-③層 | ①(10.3) ②3.3<br>受部径(12.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外明青灰5PB7/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 240 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-③層 | ①(13.2) ②3.5+α | 内外面回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N6/～青灰5B6/1。 | |
| 241 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ①13.4 ②3.65 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰白N7、内灰白N7/～灰N6/。 | 口縁部外面部ヘラ記号。<br>外面に降灰・付着物。<br>回転方向右。 |
| 242 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ①(11.5) ②4.05<br>受部径(14.0) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～灰N6/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 243 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ①(11.8) ②3.5<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1～青灰5PB5/1。 | 口縁部外面部ヘラ記号。<br>底部外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 244 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ①(11.6) ②3.7<br>受部径(14.0) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰・付着物。<br>受部に別個体片釉着。<br>回転方向不明。 |

# 表11　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑪

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 245 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ②7.2＋α<br>脚部径(11.4) | 脚部回転ナデ、内外面共シボリ痕。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内(脚内面)青灰5PB6/1。 | 内外面に降灰。<br>スカシは三方向か？ |
| 246 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ②8.15＋α | 脚部回転ナデ、内外面共シボリ痕。脚部外面に2条沈線。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C:外青灰5PB6/1、内(脚内)灰N5/。 | 内面に降灰・付着物。 |
| 247 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ②7.85＋α | 体部上位～中位外面カキメ、下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に3条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外共灰黄2.5Y7/2。 | 外面にヘラ記号。 |
| 248 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ①(12.0) ②4.5＋α | 口縁部回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰褐5YR6/2、内赤灰2.5YR6/1。 | 内面に降灰。 |
| 249 | 須恵器 | すり鉢 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ②1.6＋α ③(10.3) | 底部部外面工具ナデ。底面ナデ。底部内面ナデ。 | A：微細な石英、長石粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白10YR8/2～にぶい橙7.5YR7/3、内灰黄2.5Y6/2。 | |
| 250 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-④層 | ②7.5＋α | 外面カキメ後2条沈線上下位に波状文。内面回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B:良好。C：内外共灰N6/。 | 内外面にわずかに降灰。<br>別個体片釉着。<br>口縁部外面に波状文。 |
| 251 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑤層 | ①(15.6) ②3.5＋α | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、0.5㎜以下の茶褐色粒を微量に含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 252 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑤層 | ①(13.8) ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒、小石粒をやや多量に含む。B：良好。C:外灰N5/、内青灰5PB5/1。 | 外面に降灰・付着物。<br>回転方向右。 |
| 253 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区3-⑤層 | ①(10.8) ②4.8＋α | 肩部外面ナナメハケメ後回転ナデ、内面ヨコナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/、内灰白7.5Y7/1～灰N6/。 | |
| 254 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原2区3-⑤層 | 長0.9 幅4.7 厚0.4 | 内外面ナデ。ヘラ切り。 | A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C：表青灰5PB5/1。裏青灰5PB6/1～灰白N7/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 255 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(12.9) ②3.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 回転方向右。 |
| 256 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(13.3) ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の小石粒をやや多量に含む。B：良好。C：外褐灰5YR4/1～灰N6/、内青灰5B5/1～赤灰2.5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 257 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(13.4) ②4.6＋α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A:微細な白色砂粒、石英を微量含む。B:やや不良。C：内外共浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 258 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(13.6) ②4.1 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>口縁部内外面付近に降灰。<br>回転方向右。 |
| 259 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(14.1) ②3.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:不良。C：内外共灰白2.5Y8/1～7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 260 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(14.8) ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒、微細な茶褐色粒を微量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5YR8/2～10YR8/2、内灰白7.5YR8/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 261 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(11.6) ②4.35<br>受部径(14.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>内面にシッタ痕。<br>受部に別個体片釉溜。<br>回転方向右。 |
| 262 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(13.2) ②4.05 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～灰N6/、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向左。 |
| 263 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1左灰原横断手前83層(1次操業灰原) | ①11.9 ②4.1<br>受部径14.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3磨滅のため調整不明。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒と1～4㎜の石英、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：外にぶい橙7.5YR6/4～灰白10YR8/2～にぶい黄褐10YR5/4～暗灰N3/、内にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR6/4。 | 外面に黒斑。<br>外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 264 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | | 底部外面回転ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。 | A:2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。：外灰N5/～灰白7.5Y7/1、内灰N5/。 | |
| 265 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(13.6) ②4.35<br>つまみ径(2.9) | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1、内灰N6/。 | 外面に降灰。 |
| 266 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原2･3区ベルト82-91層(3-⑥層) | ①(14.65) ②5.3<br>つまみ径2.8 | 内面1/4ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 天井部内面にシッタ痕。 |
| 267 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ②8.25+α<br>脚部径(10.6) | 内外面回転ナデ。内面にシボリ痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、脚部内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>3カ所に二段スカシ。 |
| 268 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原2･3区ベルト82-91層(3-⑥層) | ②8.4+α<br>脚部径(16.0) | 脚部回転ナデ、外面に2条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N6/～灰N5/。 | 内外面に降灰。<br>内面ヘラ記号。<br>二段スカシ三方向か？ |
| 269 | 須恵器 | 不明 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ②5.35+α | 内外面回転ナデ。 | A:2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：内外共灰N5/。 | 鉢形。 |
| 270 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(10.3) ②3.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。外面に降灰。回転方向右。 |
| 271 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①(12.8) ②4.1+α | 口縁部上位外面1/2カキメ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C:内外共灰白5Y8/1～青灰5B5/1～青灰5B6/1。 | |

# 表12　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑫

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 272 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土<br>1号窯跡灰原1区3層(青灰色粘質土)<br>1号窯跡灰原2区3-⑥層<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(12.0) ②15.4＋α | 体部中位～下位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部中位外面連続刺突文、カキメ？ | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/～5Y8/1、内灰白5Y8/1。 | 体部外面に連続刺突文。 |
| 273 | 須恵器 | 横瓶？ | 1号窯跡灰原2区3-⑥層<br>1号窯跡灰原2区3-⑤層 | ②3.6＋α 頸部径5.9 | 頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ後カキメ、内面同心円当て具痕。 | A：3㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N5/～青灰10BG5/1。 | |
| 274 | 須恵器 | 横瓶 | 1号窯跡灰原1区拡張部8層黒色土<br>1号窯跡灰原2区3-⑥層<br>1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下 | ①15.0～(16.2)<br>②5.7＋α | 体部外面平行タタキ、内面同心円当て具痕。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外青灰5B5/1、内灰N5/。 | 口縁部に降灰。 |
| 275 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ②6.9＋α | 口縁部端端部～内面回転ナデ。口縁部上位外面カキメ後2カ所に2条沈線、沈線間に波状文施文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外青灰10BG5/1～赤灰5R5/1、内灰N4/～赤灰5R5/1。 | 沈線間に波状文。 |
| 276 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ②6.1＋α | 口縁部端端部～内面指頭圧痕・回転ナデ。口縁部上位外面カキメ後2カ所に1条沈線、沈線間に連続斜線文施文。 | A:3㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外灰N5/、内N4/。 | 外面に降灰。<br>沈線間に連続斜線文。 |
| 277 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(12.1) ②3.55 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒やや多量に含む。B：良好。C：外灰N4/～5/、内灰N4/、断面紫灰5P6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 278 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(12.3) ②5.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部ケズリ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な砂粒、雲母を微量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 279 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①12.8～13.5 ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外褐灰10YR5/1～灰白10YR7/1、内褐灰10YR5/1～灰白2.5Y7/1、断面青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 280 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(13.4) ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、黒褐色粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N5/、断灰褐7.5Y6/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 281 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(13.2) ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量、赤褐色粒、雲母を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2～にぶい褐7.5YR6/3、内浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 282 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①13.2 ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 283 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①13.4 ②4.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の砂粒、赤褐色粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい黄橙10YR6/3～にぶい赤褐2.5YR5/3、内にぶい橙5YR6/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 284 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①13.7 ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：4㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外緑灰7.5GY6/1～暗青灰5B4/1、内灰N5/～6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 285 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(14.4) ②3.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共灰N6/。 | 回転方向左。 |
| 286 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①8.75 ②3.0<br>受部径10.4<br>つまみ径1.4 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：外にぶい橙5YR6/3～灰N5/、内にぶい橙5YR6/3。 | 回転方向右。 |
| 287 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(10.8) ②4.3<br>受部径(13.1) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:2㎜以下の砂粒をやや多量に含む。B:やや良好。C：外灰N4/～灰白N7/、内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 288 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層日付なし | ①11.4 ②4.0<br>受部径13.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：3㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 289 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①10.9 ②4.05<br>受部径13.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の砂粒を少量、雲母を微量含む。B：やや不良。C：外灰N4/～にぶい黄褐10YR5/3、内灰褐7.5YR5/2～灰褐7.5YR4/2。 | 外面にヘラ記号。<br>内面内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 290 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(11.5) ②4.1＋α<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の砂粒、赤褐色粒やや多量に、雲母を微量含む。B：不良。C：外灰N6/～にぶい橙7.5YR7/4、内灰N4/～黄灰2.5Y6/1。 | 回転方向左。 |
| 291 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(11.8) ②4.5<br>受部径14.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外青灰5B6/1～青灰5PB5/1、内灰白N7/～灰白5Y7/1、断にぶい褐7.5YR6/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 292 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(11.9) ②4.2<br>受部径14.4 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：5㎜以下の砂粒を多量に、赤褐色粒を少量、雲母を微量含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/2～灰白10YR8/1。 | 回転方向左。 |
| 293 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(14.2) ②4.9<br>つまみ径2.75 | 外面2/3回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面1/5回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外明オリーブ灰2.5GY7/1～灰N5/、内青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。 |
| 294 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層<br>1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(14.8)<br>②5.3+0.95+α | 体部外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒、赤褐色粒、微細な雲母を少量含む。B：良好。C：外にぶい褐7.5YR7/4～にぶい褐7.5YR6/4、内にぶい褐7.5YR7/4。 | 外面にヘラ記号か？ |
| 295 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層<br>1号窯跡灰原2区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原2区3-⑥層 | ①13.1 ②4.8+α | 底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部外面2カ所に2条沈線、沈線間に連続刺突文施文。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～灰N5/、内灰N6/～灰N5/。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 296 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層<br>1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(9.0) ②6.75 ③4.6 | 口縁部～体部中位外面カキメ。体部下位～底部外面回転ヘラケズリ底部中央部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A：1㎜以下の砂粒、赤褐色粒、微細な雲母を少量含む。B：やや不良。C：内外共灰白10YR8/2～灰白2.5Y8/2。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |

# 表13　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑬

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 297 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層<br>1号窯跡灰原2区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(11.0) ②10.85 | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部外面2カ所に2条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/～灰N5/。断灰褐5YR5/2。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 298 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(7.6) ②2.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外青灰5B5/1、内灰N4/。 | 回転方向右。 |
| 299 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ①(12.2) ②4.5+α | 内外面回転ナデ。 | A：2㎜以下の砂粒をやや多量に、雲母を微量に含む。B：良好。C：外灰N5/～褐灰7.5YR5/1、内灰N6/～暗灰N3/、断面灰褐7.5YR7/3。 | 外面に降灰。<br>内面ヘラ記号か？。 |
| 300 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原3区拡張部2下層黒色土<br>1号窯跡灰原2区3-⑦層<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト下層黒色土<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3区拡張部2最下層 | ②22.6+α<br>胴部最大径(23.4) | 体部外面カキメ後一部ナデ・タタキ後カキメ、内面回転ナデ。把手部ナデ。円盤閉塞。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N6/～灰N5/。 | 外面に降灰。 |
| 301 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ②5.0+α | 内外面回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を多量に、微細な赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/～明オリーブ灰5GY7/1、内灰N5/、断面にぶい橙7.5YR7/3。 | |
| 302 | 須恵器 | 高杯？ | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ②5.2+α 脚径(7.4) | 内外面回転ナデ。 | A：1㎜以下の砂粒を微量に含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～暗青灰5PB4/1、脚部内灰N6/～灰N5/、断面灰黄褐10YR6/2。 | 外面脚部ヘラ記号。 |
| 303 | 須恵器 | 脚部 | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | ②4.15+α ③(13.0) | 降灰のため調整不明。 | A：1.5㎜以下の砂粒を少量含む。B：やや不良。C：内外共灰N5/、断面黄灰2.5Y5/1。 | 内外面に降灰。 |
| 304 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区3-⑦層 | 長9.0 最大幅4.0<br>厚0.5 | | | 木材削り時の木片か？ |
| 305 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(13.0) ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 306 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(13.6) ②4.6 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面中央部不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。微細な石英を多量に含む。B:不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内浅黄橙7.5YR8/4。 | 回転方向左。 |
| 307 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(10.4) ②4.15<br>③3.25<br>受部径13.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部ケズリ後ナデ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：外にぶい橙10YR7/4～にぶい黄橙5YR7/4、内橙7.5YR7/6。 | 回転方向左。 |
| 308 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①10.2～11.2 ②3.5<br>③8.8<br>受部径12.4～13.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：やや良好。C：内外共灰N4/～暗灰N3/。 | 回転方向右。 |
| 309 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①11.1 ②4.1<br>受部径(13.2) | 外面1/2回転ヘラケズリの後回転ナデ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰N6/～灰5Y6/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 310 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①11.55 ②3.0 ③8.9<br>受部径13.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5以回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内暗紫灰5RP4/1。 | 外面に降灰。<br>内面内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 311 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(12.8) ②4.9<br>つまみ径(2.9) | 外面1/2カキメ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に小石粒を微量に含む。B：やや良好。C：外灰N5/～灰N4/、内灰N5/。 | 外面に降灰。<br>口縁部に杯身釉着。 |
| 312 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(10.9) ②3.9+α | 杯部回転ナデ。体部外面に櫛描文施文。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：やや良好。C：外青灰5PB5/1、内灰N6/。 | 内外面に降灰。<br>体部外面に櫛描文。 |
| 313 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ②11.45+α<br>脚部径(15.0) | 脚部回転ナデ。内面にシボリ痕。脚部外面に2条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共青灰5PB5/1。 | 内外面に降灰。<br>三方向に二段スカシ。 |
| 314 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(7.8) ②3.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ、1/3摩耗のため調整不明瞭。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰白N7/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。 |
| 315 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(6.1) ②3.6+α | 口縁部～体部回転ナデ。肩部外面に1条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰黄2.5Y6/2、内褐灰10YR5/1～灰N6/。 | 外面に降灰。 |
| 316 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ①(8.8) ②3.35+α | 口縁部回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや少量含む。B：良好。C：内外共灰N6/～N5/。 | 内外面に降灰。 |
| 317 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | 長11.9 最大幅7.6<br>厚2.2 | | | |
| 318 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | 長14.3 最大幅6.2<br>厚3.0 | | | |
| 319 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | 長25.3 幅9.6 厚8.0 | 一端部に切断面。 | | 生木部残存。 |
| 320 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | 長54.4 幅8.0 厚5.1 | | | 表面部のみ炭化 |
| 321 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | 長59.8 幅15.0 厚8.7 | | | 一部に樹皮残存。 |
| 322 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①12.8 ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内青灰5PB5/1～暗青灰5PB4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 323 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(13.0) ②3.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 324 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①11.6 ②3.5<br>受部径13.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰白N7/～灰白10YR7/1、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>別個体釉着。<br>回転方向右。 |

# 表14　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑭

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 325 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(11.9) ②3.55<br>受部径(13.9) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰N6/～灰N5/。 | 回転方向左。 |
| 326 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①12.9 ②4.55<br>受部径15.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な金雲母、長石を少量含む。B:不良。C：内外共浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 327 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②1.3+α | 高台回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外共灰白10YR7/1。 | |
| 328 | 須恵器 | 脚付椀 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(8.8) ②8.4<br>脚部径10.5 | 底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む、微細な石英、長石を微量に含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰N6/、内灰黄2.5Y7/2。 | 外面にヘラ記号。 |
| 329 | 須恵器 | 脚付椀 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(10.0) ②8.9<br>脚部径(10.6) | 体部下位回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部外面ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR5/1～褐灰10YR4/1、内青灰5PB5/1～褐灰10YR4/1。 | 内外面に降灰。 |
| 330 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②10.1+α<br>脚部径(10.0) | 脚部回転ナデ。脚部外面に2条沈線。内面シボリ痕。部分的にカキメ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外共明青灰5PB7/1～青灰5PB6/1。 | |
| 331 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②11.85+α<br>脚部径11.6 | 脚部回転ナデ。脚部外面に2条沈線。内面シボリ痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N6/、内灰N6/～灰白N7/。 | 内外面に降灰。 |
| 332 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②9.2+α | 脚部回転ナデ。内面シボリ痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む、微細な石英、長石を微量、赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：内外共にぶい橙7.5YR7/4。 | |
| 333 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①9.7 ②3.95<br>つまみ径2.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C：外灰N5/、内灰N6/～灰N5/。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 334 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(5.6) ②7.05+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>口縁部に蓋口縁部釉着。<br>回転方向右。 |
| 335 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①(12.4) ②5.2+α | 口縁部回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰褐5YR5/2～灰褐5YR6/2、内 紫灰5RP5/1～褐灰7.5YR6/1。 | |
| 336 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②6.95+α | 体部上位内面ナデ。体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部中位外面2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文施文。 | A:1㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の砂粒、微細な石英、長石、赤褐色粒をやや多量に含む。B：不良。C：内外共にぶい橙7.5YR7/4。 | 外面にヘラ記号。<br>穿孔あり。<br>沈線間に連続刺突文。 |
| 337 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①19.4 ②5.3+α | 口縁～頚部外面ハケメ後回転ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を多量に、微細な石英、長石を微量に含む。B:不良。C:内外共灰N5/～灰黄2.5Y7/2。 | |
| 338 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①19.1 ②21.2+α<br>⑤胴部(31.7) | 体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を多量に含む、微細な赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：内外共浅黄橙10YR8/3～灰白10YR8/2。 | |
| 339 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯灰原3区拡張部黄色土<br>1号窯跡灰原3区前庭土壙中～東側3-⑥<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰原～灰層下<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①24.2 ②22.3+α<br>⑤体部(50.0) | 体部外面擬格子タタキの後カキメ、内面同心円当て具痕。口縁部上位～頚部外面ハケメ後回転ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N5/～灰N4/、内灰N4/。 | 頚部ヘラ記号。 |
| 340 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | 長5.1 幅5.6 厚0.8 | 外面は擬格子タタキ。内面は同心円当て具痕、一部ナデ。 | A：0.5㎜以下の砂粒を微量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内褐灰10YR5/1。 | 甕製作時の切り落とし片。 |
| 341 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ①12.85 ②3.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、2㎜以下の砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外青灰5B5/1～灰白2.5Y8/1、内青灰5B5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 342 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ①(15.0) ②3.65+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ | A：1㎜以下の砂粒を少量、微細な石英を多量に含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR7/3、内灰白10YR8/2。 | 内面に墨痕？ |
| 343 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ①13.1 ②4.9<br>受部径15.3 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰N5/～灰白2.5Y7/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 344 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ①(9.8) ②6.2 ③3.0 | 口縁部～体部中位外面カキメ後2条沈線。体部下位～底部外面回転ヘラケズリ後底部中央部ナデ。底部内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む、1.5㎜以下の砂粒を微量に含む、微細な石英を微量に含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 345 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①11.1 ②14.6<br>⑤胴部19.5 | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部中位外面カキメ後2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文施文。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/～灰白N7/、内灰N6～灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>沈線間に連続刺突文。<br>回転方向右。 |
| 346 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ②10.05+α<br>⑤胴部(16.8) | 体部上位～中位外面カキメ後上位2カ所に1条沈線、下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に、微細な石英を微量に含む。B:やや不良。C:外灰N6/～灰N5/、内褐灰5YR4/1。 | 外面に降灰。<br>底部に杯釉着。 |
| 347 | 須恵器 | 平瓶 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ②12.5+α ③12.8 | 底部～体部下位カキメ。底部内面ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～暗灰N3/、内褐灰10YR5/1。 | 外面に降灰。 |

# 表15　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑮

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 348 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①21.75 ②14.9+α | 口縁部上位外面ハケメ後回転ナデ、口縁端部～内面回転ナデ。体部外面擬格子タタキ後回転ナデ、内面同心円文当て具痕後回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む、微細な石英、赤褐色粒を微量に含む。B：良好。C：外灰N6/～にぶい橙7.5YR7/3、内にぶい橙7.5YR6/4～にぶい橙7.5YR7/4。 | |
| 349 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | ①(20.0) ②30.75+α<br>⑤体部(28.2) | 体部外面擬格子タタキの後カキメ、内面1/2同心円文当て具痕。口縁部回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に、2㎜以下の砂粒、小石を少量、1㎜程の赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/4、内浅黄橙7.5YR8/6～浅黄橙10YR8/4。 | |
| 350 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | 長15.0+α 最大幅5.6<br>厚4.1 | | | |
| 351 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | 長56.2+α 幅10.7<br>厚7.6 | | | 樹皮残存。 |
| 352 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | 長55.4 幅18.2<br>厚10.0 | | | |
| 353 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土 | 残存長27.0+α | 工具による切断。 | | 樹皮残存。 |
| 354 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層 | ①14.1 ②4.55 | 外面2/3回転ヘラケズリ、天頂部ケズリ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒、1.5㎜以下の砂粒を少量含む、微細な雲母、石英、赤褐色粒をやや多量に含む。B:不良。C:外浅黄橙10YR8/4～浅黄橙10YR8/3、内浅黄橙10YR8/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 355 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層 | ①12.4 ②4.6 ③6.1<br>受部径14.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ、底部中央部削り後ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外灰N4/～灰N6/、内灰N5/～灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 356 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層 | ①(12.4) ②4.45<br>受部径14.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 357 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土 | ①11.0 ②6.6<br>③(7.5) | 体部中位外面カキメ・2条沈線施文。体部下位～底部外面手持ちヘラケズリ後底部中央部ナデ。底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:2㎜以下の砂粒をやや多量に含む。B:良好。C：内外共灰N4/。 | 口縁部内外面部降灰。 |
| 358 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層<br>1号窯跡灰原2区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | ①(31.4) ②43.1+α<br>⑤体部(48.0) | 体部外面は擬格子タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具痕。口縁部外面は端部下、中位にそれぞれ2条の沈線、その間にヘラ描き文他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒、小石粒を多量に、1㎜以下の赤褐色粒、微細な雲母を微量に含む。B：良好。C：外灰褐5YR5/2～褐灰5YR5/1、内褐灰5YR4/1～にぶい橙5YR6/4。 | |
| 359 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2区拡張部最下層 | ②5.0+α | 体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。体部に穿孔。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量、微細な雲母を微量に含む。B：良好。C：外暗青灰5PB4/1、内灰N4/。 | |
| 360 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区2層灰層(黒色土) | ①(13.0) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 天井部外面ヘラ記号？<br>回転方向右。 |
| 361 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①13.0 ②3.2 | 外面1/2カキメ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>別個体片釉着。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 362 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(13.2) ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 363 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①13.4 ②3.75 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外灰N6/～N5/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 364 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①13.5 ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外褐灰5YR4/1、内褐灰7.5YR5/1。 | 回転方向右。 |
| 365 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層 | ①(13.6) ②3.8 | 外面1/2手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外暗紫灰5P4/1～暗青灰5PB4/1、内暗紫灰5P4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。 |
| 366 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区2層灰層(黒色土) | ①(13.8) ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1、内灰N6/。 | 外面～内面口縁部降灰。<br>回転方向右。 |
| 367 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①14.2 ②3.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N8/～灰N6/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 368 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(11.3) ②3.8<br>受部径13.4 | 外面1/2降灰のため調整不明。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内青灰5PB5/1～6/1。 | 底部外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 369 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(11.3) ②3.8<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 370 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(13.1) ②3.9<br>受部径(14.5) | 外面1/2回転ヘラケズリ、底部中央部未調整。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C：外灰白7.5Y7/1、内灰白10Y7/1～灰10Y6/1。 | 回転方向右。 |
| 371 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(13.0) ②4.7<br>受部径(15.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：内外共浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 372 | 須恵器 | 脚部片？ | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層 | ②1.25+α ④(10.0) | 高台回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | |
| 373 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(13.2) ②5.4+α | 体部下位外面回転ヘラケズリ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部内面シボリ痕。体部下位外面2カ所に1条沈線、沈線間にヘラ描文。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N6/。 | 沈線間にヘラ描文。 |
| 374 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2・3区2層灰層(黒色土) | ②8.0+α<br>脚部径(10.0) | 脚部外面カキメ、内面シボリ痕。他は回転ナデ。外面に1条沈線。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | |

# 表16　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑯

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 375 | 須恵器 | 高杯(脚) | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ②12.9+α<br>脚部径(14.4) | 脚部回転ナデ。内外面シボリ痕。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/～N5/。 | 内外面に降灰。 |
| 376 | 須恵器 | すり鉢 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(15.6) ②8.7+α | 底部内面ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外灰白5Y8/1、内灰白2.5Y8/1。 | |
| 377 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | ①(10.8) ②3.3 | 外面2/3降灰のため調整不明。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向不明。 |
| 378 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(11.8) ②3.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内N6/～N5/。 | 回転方向右。 |
| 379 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①7.3 ②3.2+α | 口縁部～体部上位回転ナデ。肩部外面に1条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/～N6/。 | 外面に降灰。<br>肩部に蓋口縁部釉着。 |
| 380 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(7.6) ②6.05+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。肩部外面に2条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N6/～N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>肩部に蓋口縁部釉着。 |
| 381 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層<br>1号窯跡灰原3区2層灰層黒色土 | ②9.4+α ⑤(26.4) | 肩部～体部外面カキメ後4か所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。体部上位内面同心円文当て具後回転ナデ、中位～下位回転ナデ。 | A：1～2㎜の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 382 | 須恵器 | 長頸壺？ | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層 | ①(10.2) ②8.5+α | 口縁部回転ナデ、中位外面に2条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：内外共灰N5/。 | |
| 383 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ②9.8+α | 体部外面ヘラケズリ後一部ナデ。把手部ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/～明青灰5PB7/1、内灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 384 | 須恵器 | 横瓶 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①12.2～12.7<br>②6.1+α | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。 | A:1～2㎜の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：内外共灰N6/。 | |
| 385 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層<br>1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト下層黒色土<br>1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土)<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(47.8) ②22.6+α | 口縁部上位～下位外面4カ所に2条・1条沈線施文後沈線間に連続斜線文。頸部指頭圧後回転ナデ。体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。 | A:4㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰N4/～青灰5PB5/1。 | 沈線間に連続斜線文。 |
| 386 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | 長3.8 幅8.65 厚1.6 | 内面同心円当て具痕、外面平行タタキ痕。端部は回転ナデ？ | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外淡黄2.5Y8/3、内にぶい黄橙10YR6/3～灰白7.5Y8/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 387 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | 長2.4 幅8.7 厚1.0 | 外面回転ナデ。内面同心円文当て具。ヘラ切り。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR5/1～6/1、内褐灰5YR5/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 388 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト63層 | 長7.7 幅1.6 厚0.8 | 内外面一部タタキ、一部ナデ。ヘラ切り。 | A：微細な白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外共褐灰7.5YR5/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 389 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | 長1.7 幅5.4 厚1.5 | 内面同心円文当て具、端部～外面は磨耗のため調整不明。ヘラ切り。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C：内外共灰白10Y8/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 390 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ②1.5+α<br>つまみ径2.5 | つまみ部回転ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N6/。 | 重ね焼。つまみ部～外面体部にかけて別個体片釉着。<br>外面に降灰。 |
| 391 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-②層 | ①(13.6) ②3.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。　C：外灰N6/、内灰N6/～N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 392 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-②層 | ①(13.6) ②4.35 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰白N7/～灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 393 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-②層 | ①13.4 ②3.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外青灰5PB6/1、内灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 394 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-②層 | ②8.3+α<br>脚部径(16.1) | 脚部回転ナデ。内外面にシボリ痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰10Y6/1～N6/、内灰白N7/～灰N6/。 | |
| 395 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト65・69層(3-③層) | ①(12.8) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量、1.5㎜以下の砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外暗青灰5PB4/1～灰N5/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 396 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-③層 | ①(13.8) ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/5回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好(赤焼)。C：外にぶい褐7.5YR6/3～褐灰5YR5/1、内青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面赤焼<br>回転方向右。 |
| 397 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-③層 | ①(9.5) ②3.3+α<br>受部径(11.6) | 外面1/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N6/、内灰白N7/。 | 外面に降灰。<br>回転方向不明。 |
| 398 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-③層 | ①(11.7) ②3.85<br>受部径(14.4) | 外面3/4回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰N5/、内灰白N7/～灰N6/。 | 内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 399 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト65・69層(3-③層)<br>1号窯跡焼成部1左横断③手前69・103・150層2次操業面最終床面上～崩落土<br>1号窯跡焼成部1左110～123層最終操業基盤層(3-①層) | ①(25.6) ②7.55+α | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に、微細な石英を多量に含む。B:やや不良。C:外灰N6/～灰N5/、内褐灰7.5YR4/1～褐灰10YR4/1。 | 口縁部内外面部降灰。 |
| 400 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-④層 | ①13.1 ②4.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1～5/1、内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |

# 表17　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑰

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 401 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-④層 | ①(13.6) ②3.9 | 天外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外緑灰10G5/1～灰白5Y7/1、内緑灰7.5GY6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 402 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ②3.75+α | 外面2/3回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に、微細な石英、雲母を微量に含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面2次焼成痕。<br>回転方向右。 |
| 403 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右70・74・75層(2次操業面灰層) | ①(13.8) ②4.0 | 外面2/3摩滅のため調整不明。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。B：不良。C：外灰白10YR8/2～明黄褐10YR7/6、内灰白10YR8/2～8/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 404 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト71・72層(3-④層) | ①(13.7) ②4.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向不明。 |
| 405 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焼成部1右70・74・75層(2次操業面灰層) | ①(13.8) ②3.75 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/～灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 406 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-④層 | ①(14.0) ②4.5 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2調整不明。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい黄橙10YR6/4、内浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 407 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(14.1) ②4.6+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を多量に、微細な石英、赤褐色粒をやや多量に含む。B：不良。C：内外共にぶい橙5YR6/4～橙5YR6/6。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 408 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(14.1) ②3.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～紫灰5P6/1、内紫灰5P6/1～紫灰5RP6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 409 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-④層 | ①(11.2) ②3.7<br>受部径(13.2) | 外面3/4調整不明。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共褐灰7.5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。 |
| 410 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(10.8) ②3.9+α<br>受部径(13.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N6/～黄灰2.5Y6/1<br>内青灰5PB5/1。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 411 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡焼成部1右70・74・75層(2次操業面灰層) | ①(11.8) ②3.8<br>受部径14.0 | 外面自然釉のため調整不明。内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む、黒色粒を多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/～灰N5/、内灰N5/。 | 外面に自然釉。<br>受け部に杯蓋に緑部釉着。 |
| 412 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(11.8) ②3.95+α<br>受部径(14.3) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外青灰5PB6/1、内紫灰5P6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 413 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト81層(3-④層) | ①(11.6)②4.8+α<br>受部径(14.1) | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外にぶい赤褐2.5YR5/3～灰褐5YR5/2、内にぶい赤褐2.5YR5/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 414 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(12.2) ②7.9+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面降灰により詳細不明。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰N5/～灰N4/、内灰N4/。 | 内面降灰。<br>回転方向右。 |
| 415 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(11.6) ②6.65+α | 体部下位～底部外面3回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部下位外面に連続刺突文施文。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：外灰赤2.5YR4/2、内にぶい赤褐2.5YR4/3。 | 体部下位外面に連続刺突文。 |
| 416 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①(15.6) ②4.65+α | 底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N4/～暗灰N3/、内灰N4/～灰N5/。 | 内面一部降灰。 |
| 417 | 須恵器 | 壺蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト70～77層(3-④層) | ①7.0 ②3.2<br>受部径(11.1)<br>つまみ径2.7 | 外面は降灰により調整不明瞭。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒、微細な石英、雲母を少量を含む。B：やや良好。C：外灰N5/～灰N4/、内青灰5PB5/1～青灰5PB6/1。 | 外面に降灰。 |
| 418 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(13.6) ②4.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1～青灰5B6/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 419 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①13.6 ②4.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好(酸化焼成)。C：外浅黄橙10YR8/3～にぶい橙5YR6/4、内にぶい黄橙10YR7/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 420 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①13.8 ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N5/～明青灰5B7/1、内灰10Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 421 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト78～80層(3-⑤層) | ①(14.0) ②3.4 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 422 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(14.1) ②4.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。 | 回転方向右。 |
| 423 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(13.0) ②4.65<br>受部径(15.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:やや良好。C：外灰白5Y7/1～灰N5/、内灰白N8/～灰N6/。 | 回転方向左。 |
| 424 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(15.2) ②5.4<br>つまみ径2.5 | 外面1/4回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰赤2.5YR5/2～灰N6/、内灰N5/～灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 425 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(12.0) ②3.9+α | 底部内面ナデ。他は回転ナデ。体部外面に連続刺突文施文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰白N7/。 | 体部外面に連続刺突文。<br>内外面に降灰。 |

# 表18　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑱

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 426 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(11.7) ②4.1+α | 体部下位外面カキメ、内面ナデ。他は回転ナデ。底部外面に連続刺突文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白5Y8/1、内灰N5/。 | 内外面に降灰。<br>底部外面に連続刺突文。 |
| 427 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層<br>1号窯跡灰原3区3-③層<br>1号窯跡灰原3区3-④層 | ①(11.8) ②4.6+α | 底部外面回転ヘラケズリ、内面はナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1 ～灰N6/、内灰N6/ ～灰N5/。 | 内外面に降灰。 |
| 428 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト78 ～ 80層(3-⑤層) | ②2.5+α<br>脚部径(10.0) | 脚部外面回転ナデ。内面は降灰のため調整不明。 | A:1㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B:良好。C:外灰N6/、脚内は不明、内不明。 | 内面降灰。 |
| 429 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト78 ～ 80層(3-⑤層) | ②2.5+α<br>脚部径(13.6) | 脚部回転ナデ。外面に1条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、脚内褐灰5YR5/1。 | |
| 430 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ②11.5+α<br>脚部径(15.0) | 脚部回転ナデ。内外面シボリ痕。 | A：微細～小石粒を微量含む。B：良好。C：外青灰5B5/1、内明青灰10BG7/1 ～青灰10BG5/1。 | 三方向に二段スカシ。 |
| 431 | 須恵器 | 鉢 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(12.6) ②3.6+α | 口縁部外面回転ナデ。内面降灰のため調整不明。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1 ～灰5Y6/1、内不明。 | 内外面に降灰。 |
| 432 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壙中 | ①(12.8) ②3.6 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 433 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(13.0) ②3.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/ ～灰N6/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 434 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壙中～東側 | ①(13.2) ②4.2 | 外面1/4回転ヘラケズリ、天頂部未調整。他は回転ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:やや良好。C：外明青灰5PB7/1、内青灰5PB6/1 ～ 5/1。 | 回転方向右。 |
| 435 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層キカイ掘り | ①13.2 ②3.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/ ～灰N6/、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 436 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(13.6) ②3.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1、内褐灰7.5YR5/1 ～暗青灰5PB4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 437 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(13.5) ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:やや良好。C：外灰N5/ ～灰白5Y8/1、内灰白N7/。 | 回転方向右。 |
| 438 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト82 ～ 91層(3-⑥層) | ①(13.4) ②4.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰黄褐10YR6/2 ～灰N5/ ～灰褐7.5YR5/2。 | 内面にヘラ記号？<br>回転方向右。 |
| 439 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壙中～東側 | ①14.0 ②4.25 | 外面1/3回転ヘラケズリ、天頂部未調整。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 440 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壙中～東側 | ①(14.0) ②3.3 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N3/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 441 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(13.6) ②3.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/ ～灰N4/、内褐灰5YR4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>別固体釉着。<br>回転方向右。 |
| 442 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層キカイ掘り | ①(13.8) ②3.8 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C:外灰N6/ ～灰白2.5Y8/1、内灰白N7/ ～灰N6/。 | 回転方向右。 |
| 443 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト85層下(3-⑥層) | ①(14.4) ②4.4+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む、0.5㎜～小石粒大の茶褐色粒と砂粒を微量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2 ～ 2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 444 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区前庭土壙中～東側3-⑥層 | ①(8.9) ②3.3<br>つまみ径(1.5)<br>受部径(11.0) | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5B6/1、内灰N4/。 | 外面に降灰。 |
| 445 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壙中～東側 | ①(9.0) ②2.2+α<br>受部径(11.0) | 口縁部～天井部回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 外面に降灰。 |
| 446 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(10.2) ②4.1<br>受部径(12.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外灰白N7/ ～灰N6/、内灰N4/。 | 口縁部外面に降灰。<br>回転方向左。 |
| 447 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(11.6) ②4.1<br>受部径(14.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共灰N5/ ～灰N6/。 | 口縁部別個体釉着。<br>回転方向不明。 |
| 448 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(11.8) ②3.7<br>受部径(14.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ後底部中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/1、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 449 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(11.4)②3.4<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4 ～褐灰7.5YR6/1、内灰赤2.5YR5/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 450 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト82層以下(3-⑥層) | ①11.55 ②3.5<br>受部径14.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外明青灰5PB7/ ～灰白N7/、内灰N6/ ～ N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 451 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(11.5) ②3.7<br>受部径(14.2) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 452 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト82 ～ 91層(3-⑥層) | ①(11.8) ②3.8+α<br>受部径(14.2) | 外面1/2は降灰のため調整不明。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |

# 表19　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑲

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 453 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土壌中～東側 | ①(11.8) ②3.6+α<br>受部径(14.4) | 外面1/6回転ヘラケズリ。内面1/6一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰白10Y7/1、内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 454 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(12.8) ②4.5<br>受部径(15.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：外灰5Y6/1、内灰白2.5Y7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 455 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①15.7 ②5.7<br>つまみ径(2.6) | 内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外暗青灰5B4/1、内灰赤2.5YR5/2。 | |
| 456 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層キカイ掘り | ①(11.6) ②4.3+α | 杯部回転ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B:良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | |
| 457 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(12.3) ②11.0+α | 杯部・脚部回転ナデ。底部外面に連続刺突文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N5/～青灰5B6/1、内灰N5/。 | 底部外面に連続刺突文。<br>外面に降灰。<br>外面ヘラ描？。<br>三方向に二段スカシ。 |
| 458 | 須恵器 | 脚部 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ②3.1+α<br>脚部径(8.4) | 脚部回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外にぶい橙5YR6/4～灰白5Y7/1、内にぶい黄橙10YR7/2。 | |
| 459 | 須恵器 | 脚部 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ②3.6+α<br>脚部径(14.8) | 脚部回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共青灰5B6/1。 | |
| 460 | 須恵器 | すり鉢 | 1号窯跡灰原3区3-⑤層<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ①(17.6) ②(9.3)<br>③9.1 | 底部外面回転ヘラケズリ、底面・底部内面ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：不良(還元不足)。C：外灰白N8/～灰N6/、内灰白5Y8/1。 | |
| 461 | 須恵器 | 長頸壺 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区3-④層<br>1号窯跡灰原3区3-⑤層 | ①(9.8) ②10.1+α | 口縁部～頸部回転ナデ。口縁部外面に沈線2条。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2～にぶい黄橙10YR7/3、内灰白10YR8/2～7/1。 | 頸部外面ヘラ記号。 |
| 462 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層(3・4区間ベルト9層)<br>1号窯跡灰原3区拡張部3褐色砂質土 | ①(12.2) ②12.5+α | 肩部外面回転ナデ後カキメ、一部回転ヘラケズリ。体部中位内面一部ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共灰N6/～N5/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 463 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ②11.8+α | 体部下位外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 外面に降灰。 |
| 464 | 須恵器 | 横瓶 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層 | ②(19.9) 幅12.3+α | 体部外面カキメ後4カ所に2条沈線、沈線間に連続刺突文。体部内面指頭圧痕後回転ナデ。 | A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y5/1、内灰白N7/～灰N6/。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 465 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原2・3区間ベルト82層以下(3-⑥層) | 長1.9 幅8.3 厚0.9 | 外面はタタキ痕。内面はナデ。ヘラ切り。 | A:微細な砂粒を微量含む。B:良好。C:内外共暗赤灰7.5R4/1～10R4/1。 | 窯製作時の切り落とし片。 |
| 466 | 土師器？ | 鉢？ | 1号窯跡灰原3区3-⑥層キカイ掘り | ②5.0+α | 摩滅のため調整不明。口縁端部に刻目？ | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に、微細な金雲母、石英を微量に含む。B：やや不良。C：外灰白10YR8/2～灰黄褐10YR6/2、内灰白10YR8/2。 | |
| 467 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原3区3-⑥層前庭土坑中 | 残存長25.1+α<br>幅18.6 厚9.2 | | | 一部樹皮が残る。<br>一部工具による切断痕。 |
| 468 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①12.9 ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰褐5YR5/2～褐灰5YR4/1、内灰赤2.5YR5/2～赤灰2.5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 469 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(13.4) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒、金雲母粒、赤褐色粒を少量含む。B：不良。C：外浅黄橙7.5YR8/3、内浅黄橙7.5YR8/4～10YR8/3。 | 回転方向左。 |
| 470 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(13.6) ②2.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 471 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(13.7) ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜以下の砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N6/～N4/～一部にぶい赤褐5YR5/3、内明オリーブ灰5GY7/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 472 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(15.4) ②4.1 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外明緑灰10G7/1～緑灰10G6/1、内明オリーブ灰5GY7/1～緑灰10G6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 473 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(11.8) ②4.0<br>受部径(14.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/、一部灰黄褐10YR4/2。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 474 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(11.0) ②5.1+α | 杯部外面回転ナデ。内面は降灰のため調整不明。体部外面に連続刺突文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N4/。 | 杯部内面に降灰。<br>2カ所にスカシ。<br>体部外面に連続刺突文。 |
| 475 | 須恵器 | すり鉢 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(14.2) ②7.5+α | 口縁部回転ナデ。内面一部に指頭圧痕。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N8/～灰白10YR8/2、内にぶい黄橙10YR7/4。 | |
| 476 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①8.4 ②2.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5不定方向ナデ。他は回転ナデ。天頂部は降灰のため調整不明。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>天井部内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 477 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡断割12右下層灰白色土<br>1号窯跡灰原2区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部2下層黒色土<br>1号窯跡灰原3区3-⑦層(3・4区間ベルト10層)<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土 | ②14.8+α | 肩部外面ハケメ後回転ナデ。体部中位外面～下位タタキ後カキメ。体部下位内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部上位2カ所に2条沈線。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/～灰7.5Y6/1～灰黄褐10YR5/2、内灰褐5YR5/2～にぶい橙5YR6/4。 | 外面にヘラ記号。 |

# 表20　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表⑳

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 478 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層(3・4区間ベルト10層)<br>1号窯跡灰原3区3-⑤層<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区拡張部2褐色砂質土<br>1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | ②12.1+α | 頸部～肩部外面降灰のため調整不明。体部外面回転ヘラケズリ、上位2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。体部下位内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外暗灰N3/～黒N2/、内暗灰N3/。 | 内外面に降灰。<br>沈線間に連続刺突文。 |
| 479 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区3-⑥層<br>1号窯跡灰原3区3-⑦層 | ①(23.8) ②4.7+α | 口縁部上位～下位外面ハケメ後回転ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共青灰5PB6/1～暗青灰5PB4/1。 | 内面に降灰。 |
| 480 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(13.3) ②3.5+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：内外共灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 481 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(13.6) ②4.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2～灰白10YR8/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 482 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(14.4) ②4.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒、茶褐色粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰白5Y7/1～灰5Y6/1、内灰褐7.5YR6/2～褐灰10YR6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 483 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(15.1) ②4.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む、微細な茶褐色粒を微量含む。B：やや良好。C：外浅黄橙7.5YR8/3～黄灰2.5Y6/1、内にぶい黄橙10YR7/3。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 484 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(11.4) ②3.8+α<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N5/、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>口縁部に別個体釉着。<br>回転方向右。 |
| 485 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ②3.5+α<br>脚部径(10.0) | 脚部回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好(赤焼)。C：外灰褐5YR5/2～にぶい赤褐2.5YR5/4、内灰白10Y7/1。 | |
| 486 | 須恵器 | 短頸壺蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(11.6) ②3.7+α | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外不明、内黄灰2.5Y4/1。 | 外面に降灰。<br>口縁部に別個体釉着。 |
| 487 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(8.8) ②7.7+α | 肩部～体部外面タタキ後カキメ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰白N7/、内褐灰7.5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>口縁部に重ね焼きの痕跡。 |
| 488 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ①(9.0) ②3.6+α | 口縁部～頸部回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB6/1、内暗灰N3/。 | 口縁部外面施文？ |
| 489 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土 | ②3.6+α | 頸部～体部回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：内外共灰白7.5Y8/1。 | 体部上位に穿孔。 |
| 490 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①13.1 ②4.0 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:やや良好。C：外にぶい橙5YR6/4、内にぶい橙5YR6/3～6/4。 | 回転方向右。 |
| 491 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①(13.0) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天井部内面回転ナデの後一定方向ナデ、他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外暗灰N3/、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。 |
| 492 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①13.1～14.3 ②4.2 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外灰N4/～N5/。内青灰5PB5/1。 | 口縁部内外面部降灰。<br>回転方向右。 |
| 493 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①(14.0) ②3.8 | 外面5/6回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外暗青灰5B4/1～明青灰5PB4/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 494 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①14.0 ②3.9 | 外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を微量に含む。B：良好。C：外青灰5B5/1～明オリーブ灰5GY7/1、内灰10Y6/～N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面スス付着？<br>回転方向右。 |
| 495 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部3上層黒色土 | ①(13.8) ②3.7 | 外面2/3回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外灰N4/、内暗青灰5PB4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 496 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①10.5 ②4.5<br>受部径13.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外にぶい黄橙10YR7/3、内にぶい橙2.5YR6/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 497 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | ①11.7 ②3.7<br>受部径14.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ後底部中央部ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 外面に降灰。<br>口縁部は細かい欠損。<br>回転方向右。 |
| 498 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土 | ①(12.4) ②7.5<br>受部径(14.6)<br>脚部径(10.0) | 底部外面カキメ、内面不定方向ナデ。脚部内面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N7/、内青灰5PB6/1。 | 内外面に降灰。<br>脚部に別個体釉着。 |
| 499 | 須恵器 | 高杯(脚) | 1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ②14.2+α<br>脚部径14.3 | 底部内面不定方向ナデ。脚部回転ナデ。脚部内外面シボリ痕。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N6/～N5/、内灰N6/、外底灰N6/。 | 三方向に二段スカシ。 |
| 500 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①5.9 ②6.2+α | 口縁部回転ナデ。頸部～体部上位ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外すべて降灰のため不明、内灰N4/。 | 外面に降灰。 |
| 501 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土 | ②7.0+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。内面は調整不明。他は回転ナデ。体部上位2カ所に1条沈線、沈線間に連続刺突文。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外灰白5Y8/1～7/1、内不明。 | 外面にヘラ記号。<br>沈線間に連続刺突文。 |

# 表21　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表㉑

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 502 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | ①(25.5) ②7.2+α | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具痕。 | A:2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:やや良好。C：内外共青灰5PB6/1～紫灰5P6/1。 | 口縁部外面にヘラ記号。 |
| 503 | 石器 | スクレイパー | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | 長6.8+α 幅7.5+α<br>厚1.4 重105.8 | 側縁部細部調整。 | | 安山岩。 |
| 504 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長19.3 幅1.65 厚0.7 | ケズリ。木釘残存。 | | 裏面炭化。 |
| 505 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長17.0 幅3.4 厚1.2 | ケズリ。 | | |
| 506 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長13.3+α 幅1.75+α<br>厚0.6 | ケズリ。 | | 表面炭化。 |
| 507 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長17.0+α 幅3.3<br>厚0.6 | ケズリ。 | | 表面炭化。 |
| 508 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長13.3 幅5.6 厚0.5 | ケズリ。 | | 表面1/2部分炭化。 |
| 509 | 木製品 | 板材 | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土 | 長28.4 幅6.6 厚0.7 | ケズリ。 | | 裏面炭化。 |
| 510 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原3区拡張部2下層黒色土 | 長11.5+α 幅4.0+α<br>厚2.7 | 先端部ケズリ。 | | 元は木杭か？ |
| 511 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(13.4) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 512 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①13.3 ②3.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外暗緑灰10G4/1～明青灰5PB7/1、内青灰5B5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 513 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(14.6) ②4.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：やや良好(酸化焼成)。C：外灰白2.5Y8/2、内浅黄橙10YR8/3。 | 外面にヘラ記号。<br>内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 514 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(14.7) ②4.25 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰10Y4/1～6/1、内灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |
| 515 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(11.9) ②3.9<br>受部径(14.09) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N6/、内褐灰10YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。回転方向不明。<br>別個体釉着。 |
| 516 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(11.8) ②4.5<br>受部径(14.2) | 外面は降灰のため調整不明。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好、C：外青灰5PB6/1、内灰N6/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。回転方向不明。<br>別個体釉着。 |
| 517 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部3褐色砂質土 | ①(12.5) ②4.4<br>受部径(14.8) | 外面2/3回転ヘラケズリ後底部中央部ナデ。内面1/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外灰N6/、内青灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 518 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部3褐色砂質土 | ②3.35+α ④(9.6) | 底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外黄灰2.5Y6/1～灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y7/1～灰白N7/。 | 杯B。 |
| 519 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原3区拡張部2褐色砂質土 | ①(10.6) ②5.95<br>③(6.3) | 体部下位～底部外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外にぶい褐7.5YR5/3～黄灰2.5Y6/1、内褐灰7.5YR5/1～にぶい褐7.5YR5/3。 | |
| 520 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(12.2) ②6.2 | 体部上位外面カキメ。体部下位～底部外面手持ちヘラケズリ。内面は回転ナデの後一部ナデ。他は回転ナデ。 | A:1.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1～灰10Y6/1。 | 体部下位外面に布目痕。 |
| 521 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部3褐色砂質土 | ②3.55+α<br>つまみ径(3.35) | 内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量に含む。B：不良。C：内外共灰黄2.5Y7/2。 | 外面にヘラ記号。 |
| 522 | 須恵器 | 高杯(杯) | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①12.0 ②4.4+α | 底部内面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。体部外面2カ所に1条沈線。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：内外共暗灰N3/～灰N5/。 | 内外共に降灰。<br>沈線間に連続刺突文。 |
| 523 | 須恵器 | 高杯(脚) | 1号窯跡灰原3区拡張部2上層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部2褐色砂質土 | ②6.85+α<br>脚部径(11.4) | 脚部回転ナデ。内面シボリ痕。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：やや不良。C：内外共橙5YR6/6～橙7.5YR7/6。 | |
| 524 | 須恵器 | 高杯(脚) | 1号窯跡灰原3区拡張部3褐色砂質土 | ②10.8+α<br>脚部径(10.4) | 脚部回転ナデ。内面シボリ痕。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C：内外共.暗青灰5PB3/1～暗紫灰5P3/1。 | 外面にヘラ記号。<br>三方向に二段スカシ。 |
| 525 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部流入土 | ②2.9+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外不明、内褐灰10YR5/1。 | 外面に降灰。 |
| 526 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(46.2) ②18.35+α | 口縁部外面カキメ後2カ所に2条沈線。その後沈線間に連続斜線文。頸部内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：内外共灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。 | 口縁部外面に連続斜線文。 |
| 527 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(58.0) ②17.1+α | 口縁部外面カキメ後2カ所に2条沈線。その後沈線上位に連続斜線文。他は回転ナデ・ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：不良。C：内外共灰黄2.5Y7/2～浅黄2.5Y7/3。 | 口縁部外面に連続斜線文。 |
| 528 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原2区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト上層黒色土 | ①(44.8) ②30.9+α | 口縁部回転ナデ。頸部ナデ。体部外面擬格子タタキ、内面は同心円文当て具痕。口縁部外面3箇所に2条沈線、沈線間に連続斜線文施文。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む、微細な赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外にぶい橙2.5YR6/4～灰N/4、内にぶい橙2.5YR6/4～にぶい橙7.5YR6/4。 | 沈線間に連続斜線文。 |
| 529 | 須恵器 | 不明 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | 長8.4 幅4.9+α | 内面ナデ。表面調整不明。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰白N7/。 | 窯道具？ |
| 530 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黄色土 | ①(12.6) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：不良。C：内外共灰白10YR8/1～灰白10YR8/2。 | 外面にヘラ記号。<br>内面に内面にシッタ痕。<br>回転方向右。 |

# 表22　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表㉒

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 531 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土 | ①13.2 ②3.75 | 外面回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の砂粒を多量に含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1～青灰5PB6/1、内褐灰5YR5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 532 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2・3区拡張部ベルト下層黒色土 | ①13.6 ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C：外灰N5/。内灰N6/～N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 533 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部3下層黒色土 | ①10.3 ②3.5<br>受部径12.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：外浅黄橙10YR8/4～橙5YR6/6、内浅黄橙7.5YR8/6。 | 回転方向左。 |
| 534 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土 | ①(11.4) ②4.0<br>受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR4/1、内褐灰5YR5/1。 | 外面に降灰。<br>外面にヘラ記号？<br>回転方向右。 |
| 535 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区拡張部黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部下層黄色土 | ②15.6+α | 肩部外面ヨコナデ。肩部下位～体部下位外面カキメ後肩部・体部上位2カ所に2条沈線、沈線間に連続刺突文。体部下位内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内黄灰2.5Y5/1。 | 体部下位外面にヘラ記号。<br>内外面に降灰。<br>沈線間に連続刺突文。 |
| 536 | 須恵器 | 平瓶 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土 | ①7.4 ②7.3+α | 口縁部～頸部回転ナデ後口縁部下位外面一部にカキメ？ | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：やや良好。C：外淡黄2.5Y8/3～灰白2.5Y8/2、内灰白2.5Y8/2。 | 外面に煤付着？ |
| 537 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原1区拡張部11・12層灰層下<br>1号窯跡灰原3区拡張部　褐色砂質土 | ①(11.0) ②7.4+α | 口縁部内面～外面降灰のため調整不明。頸部～体部内面回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外不明、内褐灰10YR5/1。 | 内外面に降灰。 |
| 538 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黄色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土 | ①(43.0) ②17.7+α | 口縁部上位外面回転ナデ後3カ所に1条・3条沈線。その後沈線上位に連続斜線文。口縁部下位～頸部外面回転ナデ・ナデ。他は回転ナデ。 | A:3㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:やや不良。C：外にぶい橙5YR6/4～にぶい褐7.5YR6/4、内灰黄褐10YR6/2～にぶい褐7.5YR6/4。 | 沈線上位に連続斜線文。 |
| 539 | 須恵器 | 大甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部褐色砂質土<br>1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土<br>1号窯跡灰原3区拡張部上層黒色土 | ①62.0 ②37.9+α | 口縁部上位～中位外面カキメ後2カ所に連続斜線文。その後連続斜線文下位2カ所に2条・3条沈線。頸部内外面ヨコナデ。体部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。 | A:2㎜以下の白色砂粒をやや多く含む。B：やや不良。C：内外共灰白2.5Y7/1～灰白8/1。 | 口縁部外面に連続斜線文。 |
| 540 | 炭化材 | | 1号窯跡灰原3区拡張部下層黒色土 | 長8.2 幅3.1<br>厚0.1～0.35 | | | 木材削り時の木片か？ |
| 541 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区拡張部3最下層 | ①(14.0) ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面1/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N4/～灰N5/、内灰N5/～青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 542 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部2最下層 | ①(11.5) ②3.6 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：内外共暗緑灰10G4/1～暗緑灰5G4/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 543 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区拡張部最下層青灰色土 | ①(11.9) ②3.85<br>受部径(14.0) | 内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：やや良好。C:外不明、内灰5Y6/1～オリーブ灰2.5GY6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向不明。 |
| 544 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3区拡張部最下層青灰色土<br>1号窯跡灰原3区2層灰層(黒色土) | ①(12.6) ②4.8+α | 底部外面回転ヘラケズリの後回転ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部下位外面に連続刺突文施文。 | A：微細な白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい赤褐2.5YR5/3、内灰赤2.5YR5/2～灰赤2.5YR4/2。 | 体部下位外面に連続刺突文。<br>三方向にスカシ？ |
| 545 | 須恵器 | 提瓶 | 1号窯跡灰原3区拡張部2最下層 | ①7.75 ②5.4+α | 口縁部回転ナデ。頸部内面ナデ。 | A:1㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B:良好。C：外不明、内暗灰N3/。 | 内外面に降灰。 |
| 546 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部3最下層 | ①(24.2) ②6.05+α | 口縁部中位外面カキメ。体部外面平行タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰N5/、内灰白2.5Y8/1～灰N5/。 | |
| 547 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原3区拡張部2最下層 | ①(17.8) ②18.0+α<br>胴部最大径(32.3) | 口縁部～頸部回転ナデ。体部外面擬格子タタキ後カキメ、内面同心円文当て具痕。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：内外共灰白N7/～灰白2.5Y7/1。 | |
| 548 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原4区青灰色粘質土 | ②3.6+α 受部径(13.8) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N4／～灰白7.5Y7/1、内灰N4/。 | 外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 549 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原4区青灰色粘質土 | ①(11.9) ②3.6<br>受部径(13.9) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面中央部回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/、断面灰黄2.5Y7/2。 | 外面ヘラ記号。<br>外面に降灰。<br>回転方向右。 |
| 550 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト2層(褐灰色土) | ①11.0 ②3.7<br>受部径13.2 | 外面降灰のため調整不明。内面1/5ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外不明、内青灰5PB5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰、別個体釉着。 |
| 551 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3区拡張部2流入土<br>1号窯跡灰原4区3層(灰層下) | ①(13.3) ②4.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5～3㎜程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外灰5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2～灰5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 552 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原4区3層(灰層下) | ①11.0 ②4.3<br>受部径13.2 | 外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.1～0.3㎜の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰白N7/～暗灰N3/、内灰白N7/。 | 外面に降灰。<br>口縁部に杯蓋口縁釉着。<br>回転方向左。 |
| 553 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①(12.8) ②3.6 | 外面1/3回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：外紫灰5P6/1、内紫灰5PB6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 554 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①(13.4) ②4.4 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外灰7.5Y6/1～黄灰2.5Y4/1、内青灰5B6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>内面にシッタ痕。 |

# 表23　梅頭遺跡第４次調査出土遺物観察表㉓

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g)<br>①口径 ②器高 ③底径<br>④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A：胎土　B：焼成　C：色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 555 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①(13.2) ②4.2 | 外面1/2回転ヘラケズリ後天頂部ナデ。内面1/5回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4 ～にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい橙5YR6/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 556 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①14.1 ②4.35 | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2 ～灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | |
| 557 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①(11.7) ②3.4<br>受部径(13.8) | 外面降灰のため調整不明。内面2/3一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共暗灰N3/。 | 外面にヘラ記号？<br>外面に降灰。 |
| 558 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ①(12.8) ②4.6<br>つまみ径2.5 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内灰N6/ ～灰N5/。 | 回転方向右。 |
| 559 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト7層 | ②8.4+α<br>脚部径(10.0) | 脚部回転ナデ。内外面にシボリ痕。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒を多量に含む。B：良好。C：内外共灰N6/ ～灰N4/。 | 内外面に降灰。 |
| 560 | 須恵器 | 蓋 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層(3・4区間ベルト10層) | ②2.2+α | 外面2/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰7.5Y6/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 561 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層(3・4区間ベルト10層) | ①(11.0) ②4.7<br>受部径(14.0) | 外面1/2回転ヘラケズリ、底部中央部未調整。内面1/4不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒を微量含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1 ～青灰5B5/1、内灰白N7/。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 562 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原3区3-⑦層(3・4区間ベルト10層) | ①(9.6) ②6.5 | 口縁部～体部中位外面カキメ。体部下位外面回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。 | A：微細な白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B：やや良好。C：外浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/4 ～にぶい黄橙10YR7/3。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に赤彩。<br>回転方向右。 |
| 563 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①(12.5) ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 | A：1.5㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：やや良好。C：外褐灰10YR4/1 ～灰褐7.5YR5/2、内褐灰10YR5/1 ～灰黄褐10YR5/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 564 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト8層<br>1号窯跡灰原3区3-⑥層(3・4区間ベルト9層) | ①(12.7) ②4.25 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む、微細な赤褐色粒を微量に含む。B：良好。C：外にぶい橙5YR6/4 ～浅黄橙10YR8/4、内にぶい橙5YR6/4。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 565 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①(11.4) ②3.95<br>受部径(13.4) | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：2㎜以下の白色砂粒をやや多量に含む。B：良好。C：内外共灰N5/。 | 外面にヘラ記号。<br>外面に降灰、別個体付着。 |
| 566 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原4区2層灰層(黒色土) | ①(13.4) ②3.6+α<br>受部径16.0 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面一部ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5 ～ 2㎜程の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1 ～灰白5Y7/1、内灰5Y5/1。 | 回転方向右。 |
| 567 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①11.8 ②4.1<br>受部径13.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ後底部中央部ナデ。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1 ～灰黄2.5Y7/2、内灰黄褐10YR6/2。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向左。 |
| 568 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①(8.3) ②6.0+α | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。体部外面2カ所に2条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：内外共暗灰N3/。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 569 | 須恵器 | 椀 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ①(9.4) ②7.1<br>③(5.5) | 体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。体部外面に2条沈線。 | A：2㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1 ～灰N5/、内灰N5/。 | 回転方向左。 |
| 570 | 須恵器 | 高杯蓋 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層(3-⑥層) | ②2.6+α<br>つまみ径2.1 | 外面降灰のため調整不明。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：1㎜以下の白色砂粒を少量含む。B：良好。C：外不明、内灰N5/。 | 外面に降灰。 |
| 571 | 須恵器 | 鉢or盤 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層 | ②3.6+α | 口縁部～体部回転ナデ。 | A:微細な砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共青灰5PB5/1。 | 内外共に降灰 |
| 572 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層(3-⑥層) | 長2.3 幅6.6 厚1.9 | ナデ後一部タタキ？ヘラ切り。 | A：1㎜以下の白色砂粒を多量に含む、微細な石英をやや多量に含む。B：やや良好。C：内外共灰黄2.5Y7/2。 | 甕製作時の切り落とし片。 |
| 573 | 須恵器 | 有高杯 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | ①14.2 ②5.1+α<br>受部径16.7 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A：0.5～4ミリの白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：外灰N4/ ～黄灰2.5Y6/1、内灰N5/。 | 外面に降灰。<br>三方向にスカシ。<br>受部に高杯蓋口縁釉着。 |
| 574 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下<br>1号窯跡灰原3・4区間ベルト9層(3-⑥層) | ②4.4+α ⑤(9.6) | 体部下位手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。頸部内面シボリ痕。体部中位外面2カ所に1条沈線施文後連続刺突文。 | A：1㎜ほどの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N5/。 | 沈線間に連続刺突文。 |
| 575 | 須恵器 | 瓦 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | 長10.5+α 幅8.0+α<br>高6.2+α | 凸部ヨコナデ後一部タテナデ。凹部布目痕後ナデ。端部面取り。 | A：0.2～0.5mm程の白色砂粒をやや多く含む。B：良好。C：凹凸共灰N5/。 | 凹凸面にヘラ記号。 |
| 576 | 須恵器 | 切削物 | 1号窯跡灰原4区9層～11層灰層～灰層下 | 長3.4 幅1.0 厚0.8 | 端部ナデ。外面カキメ、内面当て具痕。ヘラ切り。 | A：1mm以下の雲母を微量含む。B：良好。C：内外共灰N4/。 | 甕製作時の切り落とし片。 |
| 577 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原4区拡張部上層黒色土 | ①13.3 ②3.9 | 外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。 | A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良好。C：外オリーブ灰2.5GY5/1 ～灰白5Y8/1、内オリーブ灰2.5GY5/1。 | 外面にヘラ記号。<br>回転方向右。 |
| 578 | 黒色土器B類 | 椀 | 1号窯跡灰原4区層位不明 | ②4.3+α④(7.6) | 高台貼付の回転ナデ。底部外面ナデ。他は手持ちヘラミガキ。 | A:1㎜以内の白色砂粒、雲母を少量含む。B：良好。C：内外共黒褐10YR3/1。 | |

# Ⅲ．まとめ

## １．窯の構造

梅頭遺跡４次１号窯跡は、地下式構造を専らとする牛頸窯跡群では極めて珍しい半地下式構造を採用していた。築造当初は地下式構造であったが、窯体をかさ上げし、焼成部天井を削って新たに焚口部を造り、焼成部を窯背部土坑上にのばしている。半地下式構造に改造するのはこの窯背部土坑上にのばした焼成部上位にあたり、最終操業時には焚口部から焼成部中位までが地下式、焼成部中位から上位が半地下式となる。窯構造は、作業路と窯尻の状況から操業当初から多孔式煙道窯であり、最終操業段階まで一貫している。窯は最終操業面まで４面、作業路は４本確認できる。各操業面と作業路の対応関係については不明な部分があるが、各操業面に１～４段目作業路が順次対応すると考えると各操業面の規模は以下の表のとおりとなる。

**表24　1号窯跡各操業面別窯体規模一覧表**

| 操業面 | 全長 | 焚口部・燃焼部 | | | | | 焼成部 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 焚口部幅 | 燃焼部長 | 傾斜角度 | 比高差 | 位置 | 最大幅 | 傾斜角度 | 延長 |
| １次 | 10.67～11.13m | 1.84m | 1.77～2.33m | 0～13° | | | 1.80m | 15～34° | |
| ２次 | 10.52～10.68m | 1.54～1.71m | 1.36～1.52m | 15° | 0.64m | 0.78m | 1.68m | 15～31° | 1.31m |
| ３次 | 10.28～10.75m | 1.68～1.80m | 1.41～1.88m | 0° | 0.94m | 1.68m | 1.79m | 9～34° | 1.09m |
| 最終 | 9.99～10.73m | 1.78m | 2.38～3.14m | 10° | 0.92m | 1.74m | 1.96m | 16～34° | 0.08m |

**※各数値の計測箇所は、遺構原稿中に示すとおりである。**
**※表中の焚口・燃焼部の比高差・位置は、各操業面の最終操業時の燃焼部・焼成部境で比較したものである。**

表でみるとおり、各操業面とも全長約10mあまりで焚口部幅や焼成部の傾斜角度もあまり変わらない。天井部は、最終操業面焼成部中位で高さ1.24～1.38m、アーチ形を呈することが確認された以外は明らかにできなかった。

調査時、１次操業面の焚口・燃焼部は湧水が著しく、窯の操業には不向きであると考えられ、かさ上げをおこなう理由の一つと考えられる。また、１次操業面では地下式と考えられるが、２次操業段階で作業路が1.31m上方にあることから、この時から焼成部上位は半地下式であったと考えられる。その後最終操業時にいたるまで半地下式部分は順次延長され、最終的には2.48m延長される。しかし、調査で確認された半地下式の壁体が順次延長されたものか、最終操業段階に合わせて再構築されたものかは明らかにできなかった。さらに焚口部は、前壁に貼壁をおこない、側壁に構築材を用いており、天井部を構築していることは明らかである。しかし、仮設天井とされる焚口部を絞り込むような構造であったとは考えにくい。

牛頸窯跡群において、貼床をおこない操業を繰り返す窯跡は通有のものであり、大きくかさ上げをおこなう窯跡も多数存在するが、その一方で貼床がほとんど確認できない窯跡も存在する。また、

大きくかさ上げをおこなうのは窯の規模が最大になる６世紀末～７世紀初頭までのことであり、７世紀中頃以降の窯跡では確認することができない。かさ上げをおこなう窯跡でも、後田63－Ⅰ号窯跡は窯尻の位置を変えずに焚口部から焼成部下位をかさ上げし、窯の全長は次第に短く焼成部傾斜角度も緩くなる。また、小田浦39－Ⅰ号窯跡は焼成部中位から最終操業面の作業路がのびるが、一体の窯と考えるよりは２基の窯が重なったものと考えられる。

これに対し、小田浦79地点３号窯跡では、右側壁を60cm程延長した状況が確認されている。また小田浦37－Ⅰ号窯跡では焼成部上半の両側壁に小孔があり、図と写真で確認する限りでは、この部分を半地下式に改造している可能性が高い。延長部の長さは、図上で２m近く確認され、それに合せて溝も掘り直されるようである。このように過去の調査例からみると、焼成部上位を半地下式に改造する事例も存在するようである。

梅頭４次１号窯跡の特徴は、同一規模・構造の窯を繰り返し築造する点にある。この際、延長部を半地下式構造に築造するが、半地下部構築後、新たに作業路を掘り込んでおり、側壁の外側には厚い保護盛土をともなう。天井部の厚みは15cmほど確認され、壁体には構築材が夥しい。こうした状況は、先に挙げた小田浦79次３号窯跡や小田浦37－Ⅰ号窯跡では確認されておらず、牛頸窯跡群では初めての事例である。

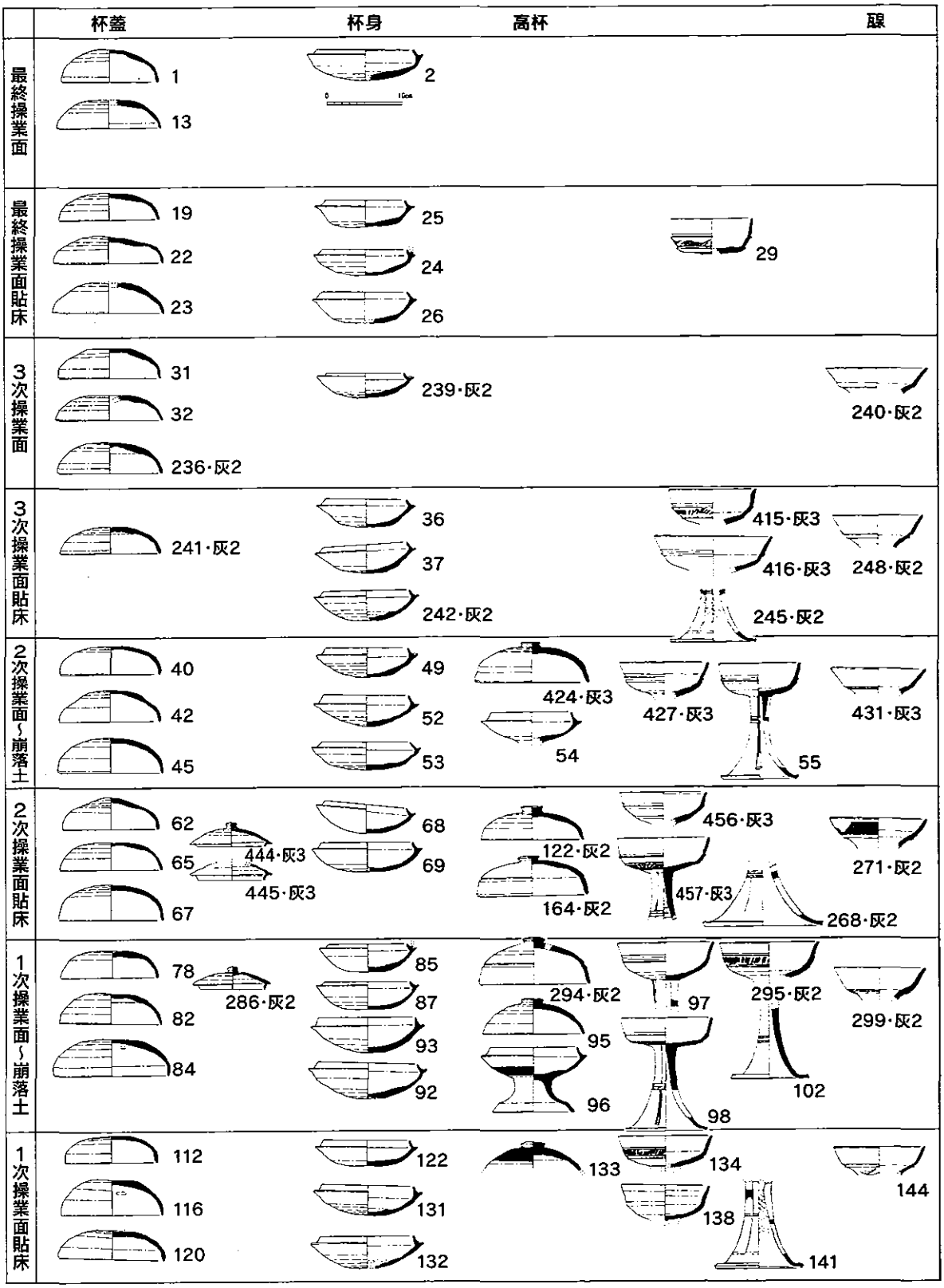
また、燃焼部床面で確認された窯の主軸に直行する溝も牛頸窯跡群では確認できない。通常、焚口部・燃焼部には船底状ピットが掘り込まれることが多いが、この溝は焚口部より手前にあり、灰層に覆われることから操業時もこの状態であった可能性が高い。以上の２点は従来の牛頸窯跡群では見られなかった窯構造であり、他地域との技術交流の結果と考えられるが、ここでは特徴の提示に止め系譜等については今後の課題としたい。

## ２．遺物の変遷と年代

前項のとおり、１号窯跡は同一規模・構造の窯を繰り返し築造している。その結果、各操業面の灰層や貼床はかさ上げした土に覆われて層位的に明瞭な層序が確認され、遺物を層位的に取り上げることができた。以下では、各操業面の遺物を層位ごとに並べ、各器種の変遷を確認することで窯跡の年代・操業期間を明らかにしたい。なお、取り上げるのは変遷の追いやすい蓋杯・高杯・甕とする。

まず、杯蓋は各操業面とも口径12～14cmと幅をもち、口径による区分は難しい。形態の特徴を見ると、２次操業面あたりまでは口縁部から直立に近く立ち上がり、丸みの強い天井部を持ち、器高が高いもの（１類）が多いが、３次操業面以降は口縁部からやや内傾して立ち上がり、天井部はやや丸みを失い、器高がやや低くなる（２類）。また、杯G蓋が１・２次操業段階で確認される。つまみは高い山形を呈し、かえりは長い。

杯身は最終操業面へむかい口径が縮小するように見えるが、法量的には１次操業面にも変わらないものを含み、口径による区分は困難である。形態の特徴を見ると、２次操業面までは立ち上がりがやや内傾し比較的高く、底部は丸みが強く杯部は深いもの（１類）があるが、３次操業面以降は立ち上がりの内傾度合いがやや強く短くなり、底部はやや丸みを失い器高が低くなる（２類）。杯




第71図　１号窯跡各操業面出土遺物変遷図（S＝1／8）

G蓋に対応する杯G身は、209のような底部の丸みの強いものが確認できる。

高杯は、有蓋高杯の蓋は天井部と体部の境に沈線を持つものと持たないものが並存する。つまみは中央をくぼませるものが多い。高杯は低脚のもので、屈曲部をもった後に大きく開いて端部へいたる。無蓋高杯は、１次操業段階では杯部は深く丸みをもつもの（１類）が多いが、それ以降では次第に平底に近くなり杯部も浅くなる（２類）。体部外面には段を巡らし、刺突文を段の間に巡らす。施文位置は、杯部外面に施すものと体部外面に施すものがあり、３次操業面以降粗雑になる。脚部は二段スカシを有するものとスカシのないものがあり、スカシも上段は切り込みのみのものがある。裾部は、あまり開かないものから徐々に大きく開くものが多くなり、口径と底径が変わらないものが２次操業段階であらわれる。

甕は、体部はともなわないが、いずれも頸部から屈曲部をもった後に、端部へいたる。全形が不明なため、形態の変遷は確認できない。

以上の各類型について、周辺の窯跡資料から検証する。杯蓋・杯身２類は、梅頭１次１号窯跡出土蓋杯Ⅰ類に類似する。杯蓋・杯身１類は、同じく蓋杯Ⅲ類に類似し、蓋杯Ⅰ類に先行することが確認された。高杯は、杯部への加飾が残り、古い様相と考えられ、無蓋高杯１類は野添６・９号窯跡で確認することができる。これらのことから、杯蓋・杯身２類と無蓋高杯２類はⅣA期古段階とされ、これに先行し古い様相を持つ杯蓋・杯身１類と無蓋高杯１類をⅢB期新段階とすることができよう。その画期は２・３次操業段階間にあると考えるが、変遷図にも明らかなように極めて漸進的なものであり、形態変遷の画期は各器種間で同一ではないことが明らかとなった。

## ３．遺物の数量

**表25　梅頭遺跡４次１号窯跡出土須恵器数量表（表中の単位はg）**

| 出土位置 | 須恵器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 杯蓋 | | 杯身 | | | 椀 | 台付椀 | 高杯 | 鉢 | 鉢 | 甕 | | | 壺 | | | 瓶 | | | | 壺・大甕 | 穿孔杯 | 蓋 | 紡錘車 | 切削物 | 土製品 | 不明 | |
| | H | G | H | G | B | | | | | | 短頸壺 | 長頸壺 | 直頸 | 短 | 平瓶 | 提瓶 | 横瓶 | 短頸 | | | | | | | | | |
| 表採・検出中 | 220 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4350 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 | |
| 焼成部右土坑 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 290 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | |
| 灰原１区 | 11380 | 0 | 14950 | 80 | 0 | 720 | 0 | 3450 | 0 | 40 | 695 | 0 | 760 | 740 | 0 | 1150 | 1900 | 1500 | 109590 | 70 | 60 | 0 | 0 | 0 | 18980 | |
| 灰原２区 | 19620 | 90 | 20280 | 20 | 90 | 1780 | 0 | 9530 | 0 | 30 | 1460 | 0 | 1950 | 780 | 820 | 210 | 1210 | 3700 | 192310 | 90 | 960 | 0 | 10 | 0 | 25800 | |
| 灰原３区 | 30805 | 20 | 27395 | 0 | 70 | 1610 | 0 | 14545 | 90 | 750 | 7120 | 30 | 1130 | 1060 | 260 | 4270 | 1130 | 5645 | 305070 | 0 | 280 | 0 | 120 | 60 | 41840 | |
| 灰原４区 | 5370 | 0 | 5820 | 0 | 0 | 360 | 0 | 3080 | 0 | 0 | 1060 | 0 | 300 | 150 | 560 | 450 | 1320 | 2710 | 63120 | 0 | 30 | 0 | 35 | 0 | 7275 | |
| 灰原５区 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 窯体内 | 16110 | 0 | 12550 | 0 | 0 | 830 | 30 | 7315 | 90 | 450 | 1670 | 0 | 50 | 200 | 0 | 280 | 1130 | 1630 | 166195 | 0 | 0 | 40 | 20 | 0 | 13315 | |
| 作業路 | 60 | 0 | 365 | 0 | 0 | 50 | 0 | 110 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 530 | |
| 合計(g) | 83565 | 110 | 81390 | 100 | 160 | 5350 | 30 | 38035 | 180 | 1270 | 12005 | 30 | 4390 | 2930 | 1640 | 6360 | 6690 | 15185 | 848155 | 160 | 1330 | 40 | 185 | 60 | 107890 | 1217240 |
| 比率(%) | 6.865 | 0.009 | 6.686 | 0.008 | 0.013 | 0.44 | 0.002 | 3.125 | 0.015 | 0.104 | 0.986 | 0.002 | 0.361 | 0.241 | 0.135 | 0.522 | 0.55 | 1.247 | 69.67854 | 0.013 | 0.109 | 0.003 | 0.015 | 0.005 | 8.86349 | 100 |

１号窯跡は、丘陵斜面に単独で立地する。このことは、窯の遺物が他の窯のものと混じらず、当該窯で焼成された製品の生産傾向を知る良好なモデルケースと考えられる。先述のように、窯は４面にわたる操業面において、ⅢB期新段階からⅣA期古段階の比較的短い操業期間が確認された。このため、窯体内・灰原から出土したすべての遺物を数量化することとし、窯で生産された器種の多寡と総量を計測し、牛頸窯跡群における該期の生産傾向を看取したい。なお、数量化の方法としては様々な方法があり、梅頭１次調査の報告においては器種ごとに破片数をカウントする方法をとった。しかし、破片はあくまで破片であり、器種ごとに相対的な比較はおこなえても、絶対的な比較性に乏しく、また破片数のカウントという地味で苦しい作業の末に挙がった数値は普遍性を持たず、その窯以外では使用不可という大きな欠点を持っていた。このため、今回は器種ごとに分け

た遺物を台秤を用いて５ｇ単位で重量を計測し集計する方法をとった。極めて単純な方法であるが、これによって灰原に廃棄された各器種の遺物に使用された粘土の量が推定でき、使用量から器種ごとの生産比重の多寡が明らかになるものと期待される。結果、須恵器については別表のとおりの成果をえた。ただし、この結果は灰原すべてを完掘できなかったことから、当時の生産傾向を知る上で必ずしも万全なものではない。また、窯は深い谷部内に構築されていたものの、桟瓦やコンクリート片などの産業廃棄物が混じる。したがって、資料的にはやや弱い側面をもつことを明記しておく。

まず、須恵器出土総量を見ると約1.22ｔであった。このうち、ほぼ７割を甕・大甕が占める。次いで多いのは、蓋杯であり両者の合計で約13.6%。続いて高杯3.1%の順となる。この結果には、甕以外の器種と考えられる不明とされたもの（約8.7%）が加わらず、小型器種よりも甕類の方が破損率の高い可能性もあることから一概には言えないが、粘土の使用量すなわち甕にかける生産の比重が高かったことを十分に示している。しかし、点数にすると実測図でもうかがえるとおり蓋杯の方が圧倒的に多く、甕は多量の粘土と多くの手間をかけるものの生産的には効率の悪い器種とも言える。

梅頭１次１号窯跡の報告をおこなう際に、破片数で出土遺物数量を示したことがある。この時は出土総量に甕が占める割合は45%であったが、実感として正確な比率を表していないように感じていた。今回破片重量の数値化をおこなったことで、具体的な粘土使用量の一端をうかがうことができた。また、廃棄された破片の総量は約1.22ｔであったが、粘土の段階から乾燥・焼成を経ることを考えると廃棄破片のみで1.6ｔ程度と推定され、製品として出荷されたものを３倍程度と見積もると、今回調査した窯では５ｔ前後の粘土が使用された可能性がある。港湾構造物設計基準によると、自然地盤における粘土の単位堆積重量は1.5～1.7t/㎥とされ、これで先の数値を単純に割り戻すと３㎥ほどになるが、実際には純粋な粘土層は少ないことが予想され、さらに土の体積量は増えるものと考えられる。これらはあくまで机上の計算であるが、現在数千箱にのぼる牛頸窯跡群出土須恵器の破片重量は数十ｔ単位であり、出荷製品分を含めると数百ｔレベルの粘土が消費されたものと考えられる。これまでの牛頸窯跡群の調査における問題点として、粘土の採取場所がよく分かっていない点が挙げられる。今回、破片総量の重量を計測することで具体的な粘土使用量の推定もおこなったが、膨大な牛頸窯跡群の粘土をどこからどのように確保・供給するのか、今後の検討課題としたい。

## ４．燃料材について

牛頸窯跡群の調査では、窯跡から出土した炭化材の樹種同定をおこない、順次その成果が公表されている。しかし、燃料材の樹種は明らかになっても、材の形状や規模については明らかでなかった。今回の調査では、窯の燃料材と見られる炭化材が灰原を中心に多数出土し、全面炭化しているが本来の形状に近く、窯焚き使用時の雰囲気をよく残すものと考えられた。以下では、炭化材の観察から４次１号窯跡における燃料材の形状と推測できる森林利用状況について明らかにしてみたい。

まず炭化材を観察すると、大小様々なものがあることに気づく。整理すると以下のとおりである。

Ⅰ　木の幹の部分を使用したと考えられるもの

A) 幹材をそのまま使うもの（320・353）

B) 幹材をミカン割り等に割って使うもの（191・205・317・318・319・321・351・352・467）

II　木の枝の部分を使用したと考えられるもの（204・350）

III　伐採時にでた木屑を使用したと考えられるもの（304・540）

IV　木製品を使用したと考えられるもの（202・203・510）

以上のように分類できるものと考える。この結果は筆者の肉眼観察の結果であり、幹材としたものは直径が枝にしては大きいという程度で判断したもので、正確に枝材と類別されたものではない。このため一抹の不安が残るが、321のような長さ59.8cmの燃料材があることは、焼成して失われた部分を考えると一抱えもあるような大型の燃料材が存在したことをうかがわせる。また、炭化材のうち一方が炭化するがもう一方は生木の部分を残すもの（203～205）が含まれることは、燃焼部に大小問わず様々な燃料材を並べ、幅1.8m程度に復元できる焚口部へむかって燃料材が押し込まれた状態が想定でき、大型窯の操業時の姿を彷彿とさせる。

これまでおこなわれた窯跡出土炭化材樹種同定結果によれば、牛頸窯跡群では時期を問わず照葉二次林の森林を伐採して焼成をおこなう姿がうかがえた。また燃料材の選択にあたっては、特定の樹種にこだわることなく無雑作に辺りの木々を使用していることが想定されていた。今回出土した燃料材と考えられる炭化材は、直径30cm以上もあろうかという幹材、または枝材・木製品・木屑などがあり、ありとあらゆる木を焚いて操業にあたる姿が垣間見えた。このことは、従来知られていた樹種同定の結果と調和的である。こうして、古墳時代の窯焚き風景に一つの見方を加えることができたと考えるが、周知のとおり、牛頸窯跡群では７世紀後半以降窯が小型化しており、焚口は高さも幅も古墳時代のものとは比べ物にならないくらい小さくなる。このことは、燃料材も長く太いものから小型のものへ変化したことを想定させるが、樹種同定の結果によればその時期の燃料材も前代とは変化がないという。今後窯跡出土の炭化材も樹種だけではなく、状態のよい形状のわかる資料から燃料材の長さや太さを導き出し、牛頸窯跡群の奈良時代の窯焚き風景の復元を目指したい。

（石木）

## ５．ロクロの回転方向について

ここでは、梅頭４次調査１号窯跡の出土土器のロクロ回転方向を検討する。蓋杯は262点のうち、75%を右回転が占め、左回転が10%、手持ちヘラケズリが１点のみで０%に近い値を示す。椀は16点のうち87%を右回転が占め、13%が左回転である。高杯の蓋は回転ヘラケズリ後、ナデやカキメを施すものが多く、回転方向を確認できる５点のうち４点を右回転が占めている。短頸壺の蓋についても、20点中、60%を右回転が占め、５%が手持ちヘラケズリで、左回転は確認していない。高杯や壺、短頸壺、甕、鉢、提瓶、平瓶についても確認できるものはすべて右回転である。本調査では４面の操業面を確認したため、窯体内、灰原の層位と回転方向の関連についても検討したが、とくに傾向はでなかった。

陶邑窯跡群では、TK208～TK209までの蓋杯のヘラケズリ方向を検討し、TK47を境に左回転

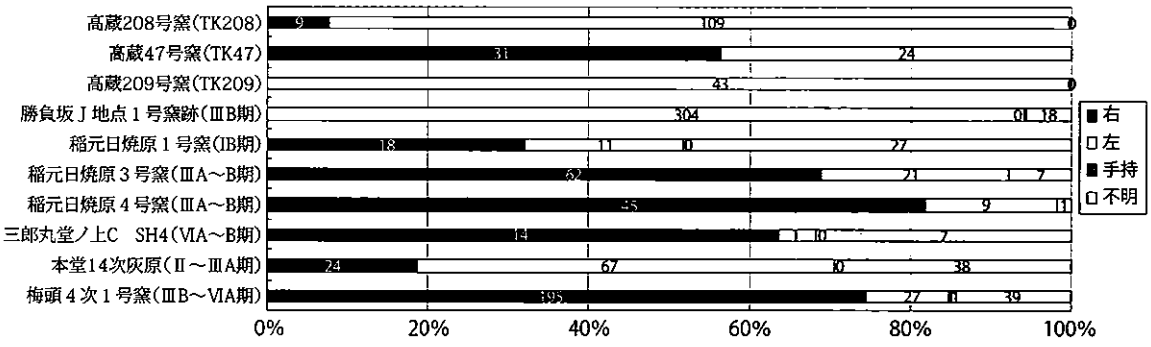
から右回転の優位へ変化し、TK209ではすべてが右回転になることが指摘される(註１)。現在整理中の梅頭４次調査の資料よりも、時期的に先行する本堂14次調査の灰原資料では、蓋杯129点のうち右回転が19%、左回転が52%、29%は不明で、左回転が多い。本堂14次調査の資料は小田編年Ⅱ～ⅢA期で、牛頸窯跡群の大まかな流れとして左回転の割合が多い段階から右回転主流への変化が想定できる。他地域の例を検討すると、小郡の苅又窯跡群では右回転が大半を占め、左回転は全体の１～２%で極めて少ない。宗像の稲元日焼原窯跡ではＩＢ～ⅢB期にかけて右回転が増加し、ⅢB期には82%を占めて主流となる。同じ宗像の須恵須賀浦窯跡や稲元黒巡窯跡には、左右の割合が１：１程度の窯もあるが、基本的に右回転が主流である。Ⅳ期の三郎丸堂ノ上Ｃ４号窯や須恵須賀浦６号窯などは右回転が主流となる。このように、北部九州でも回転方向の割合は、左回転から漸進的に右回転主流へと変化していき、陶邑で右回転が主流になることと同じ傾向として注目される。

ロクロの回転方向の変化は、漸進的に右回転化することから、手回しロクロ、蹴ロクロといったロクロ構造の変化によるものではない。右回転化は朝鮮半島の技術の日本化する過程であるとも指摘される(註１)。全体的な傾向として右回転化は注目されるが、理由は今後の課題としたい。また、牛頸窯跡群全体を対象とした回転方向の検討や、全国各地の窯跡資料を対象とした検討が必要であろう。

(中島)

註1)　平安学園考古学クラブ『陶邑古窯址群』Ⅰ　1966

**表26　窯ごとのロクロ回転方向の割合**



# 図　　版



（１）調査地全景（調査前）（南西から）



（２）１号窯跡最終操業面全景（南東から）

図版２



（１）最終操業面窯体内全景（南東から）



（２）最終操業面焚口部全景（東から）

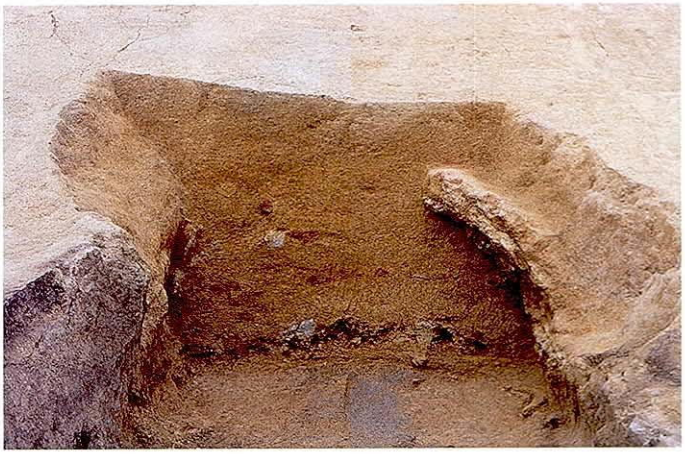


（1）最終操業面焼成部右側壁半地下天井部（南から）

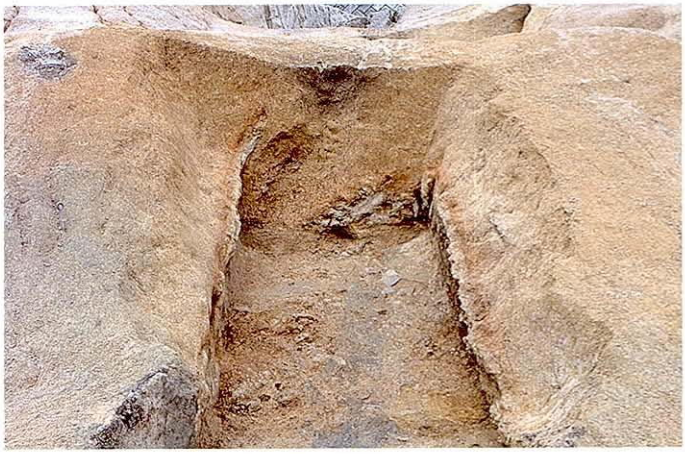


（2）最終操業面焼成部左側壁半地下天井部（東から）

図版４



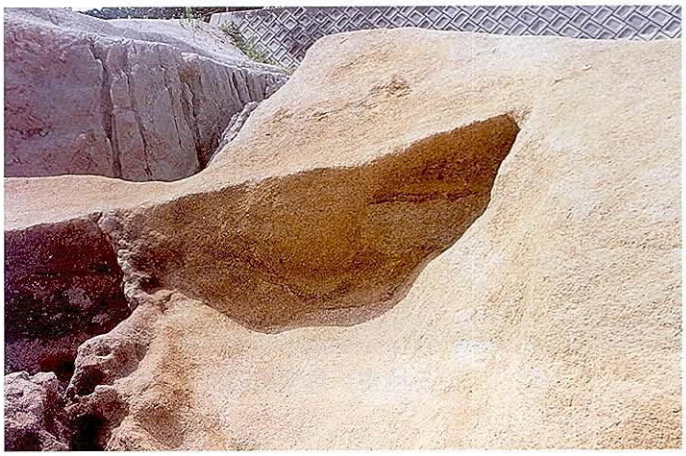
（１）焼成部ｋ-ｋ’面土層（南東から）



（２）焼成部ｉ-ｉ’面土層（南東から）



（３）焼成部ｈ-ｈ’面土層（南東から）



（４）焼成部ｈ-ｈ’面作業路部分土層（南東から）



（５）焼成部１縦断面土層（東から）



（６）焼成部２縦断面土層（北東から）



（７）焼成部３縦断面土層（北東から）



（８）焼成部４縦断面土層（北東から）



（１）作業路ｆ－ｆ’面土層
（東から）



（２）作業路ｅ－ｅ’面土層
（北東から）



（３）作業路ｄ－ｄ’面土層
（北東から）

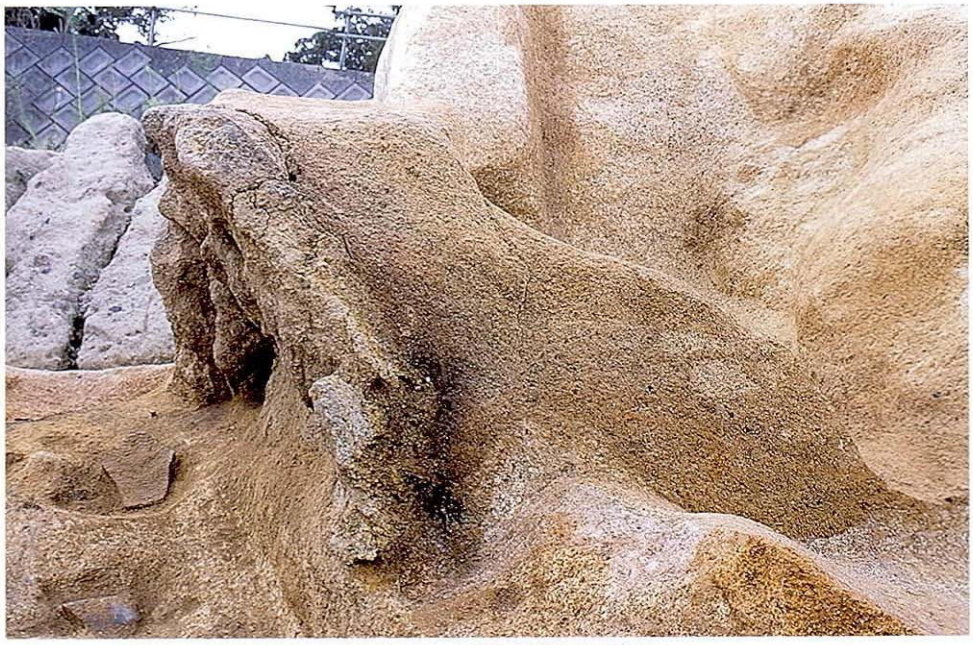
図版６



（１）最終操業面排煙部検出状況（北東から）



（２）最終操業面焼成部右側壁半地下部分排煙口残存状況



（１）焼成部右側壁半地下部
断面断割②（南から）



（２）焼成部左側壁半地下部
断面断割②（東から）



（３）窯尻部縦断面作業路土層
（南から）

図版８



（１）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（南から）



（２）最終操業面焚口部左側壁構築材検出状況（東から）



（１）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（南西から）



（２）最終操業面焼成部右側壁構築材検出状況①（南西から）



（３）最終操業面焼成部右側壁構築材検出状況②（南西から）

図版10



（1）最終操業面焚口部左側壁構築材検出状況（東から）



（2）最終操業面焚口部右側壁構築材検出状況（北西から）



（3）最終操業面焚口部右側壁葉検出状況（南西から）



（1）焼成部上半最終操業面半地下部分完掘状況（北から）



（2）焼成部上半最終操業面半地下部分完掘状況（北西から）

図版12



（1）最終操業面焚口部灰層（東から）



（2）最終操業面焚口部灰層縦断面（東から）



（3）灰層２・３区間最終操業時灰層縦断面（北東から）



（1）最終操業面焚口部完掘状況（北東から）

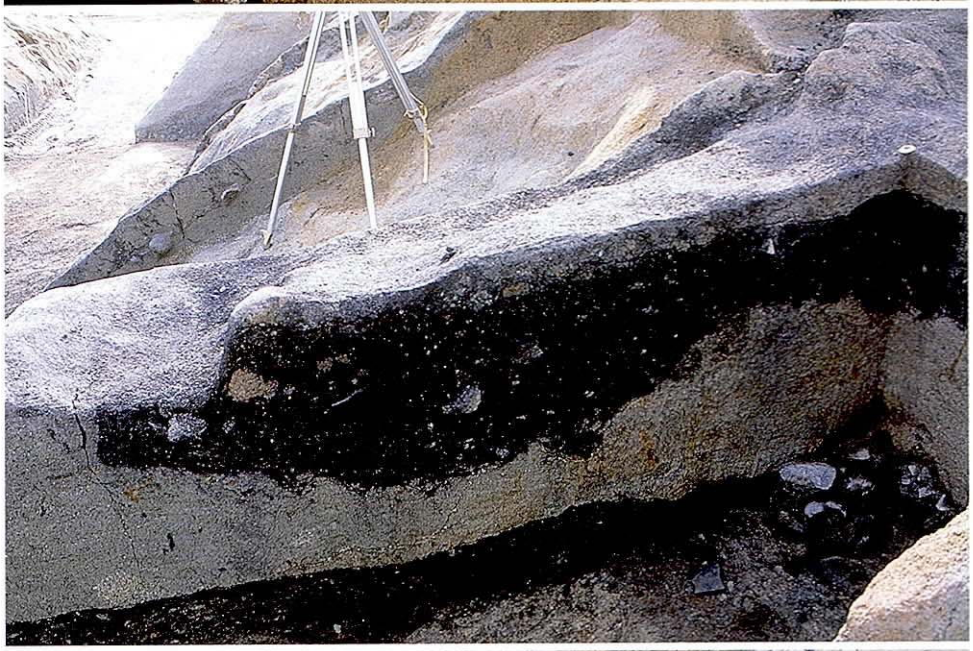


（2）最終操業面下灰層断割土層（南東から）

図版14



（1）最終操業面縦断面断割土層（東から）



（2）３次操業面前庭部土坑土層（東から）



（3）３次操業面前庭部土坑完掘状況（東から）



（1）３次操業面全景（南東から）



（2）３次操業面窯体内全景（南東から）

図版16



（1）３次操業面窯体内右側壁全景（南から）



（2）３次操業面窯体内左側壁全景（北東から）



（1）３次操業面縦断面断割
土層（東から）



（2）２次操業面前庭部土坑
土層（北東から）



（3）２次操業面前庭部土坑
完掘状況（東から）

図版18



（1）２次操業面全景（南東から）



（2）２次操業面窯体内全景
（南東から）



（1）２次操業面右側壁全景（南から）



（2）２次操業面左側壁全景（東から）

図版20



（1）２次操業面縦断面断割
土層（東から）



（2）１次操業面前庭部土坑
土層（北東から）



（3）１次操業面前庭部土坑
完掘状況（東から）



（1）１次操業面全景（南東から）



（2）１次操業面窯体内全景（南東から）

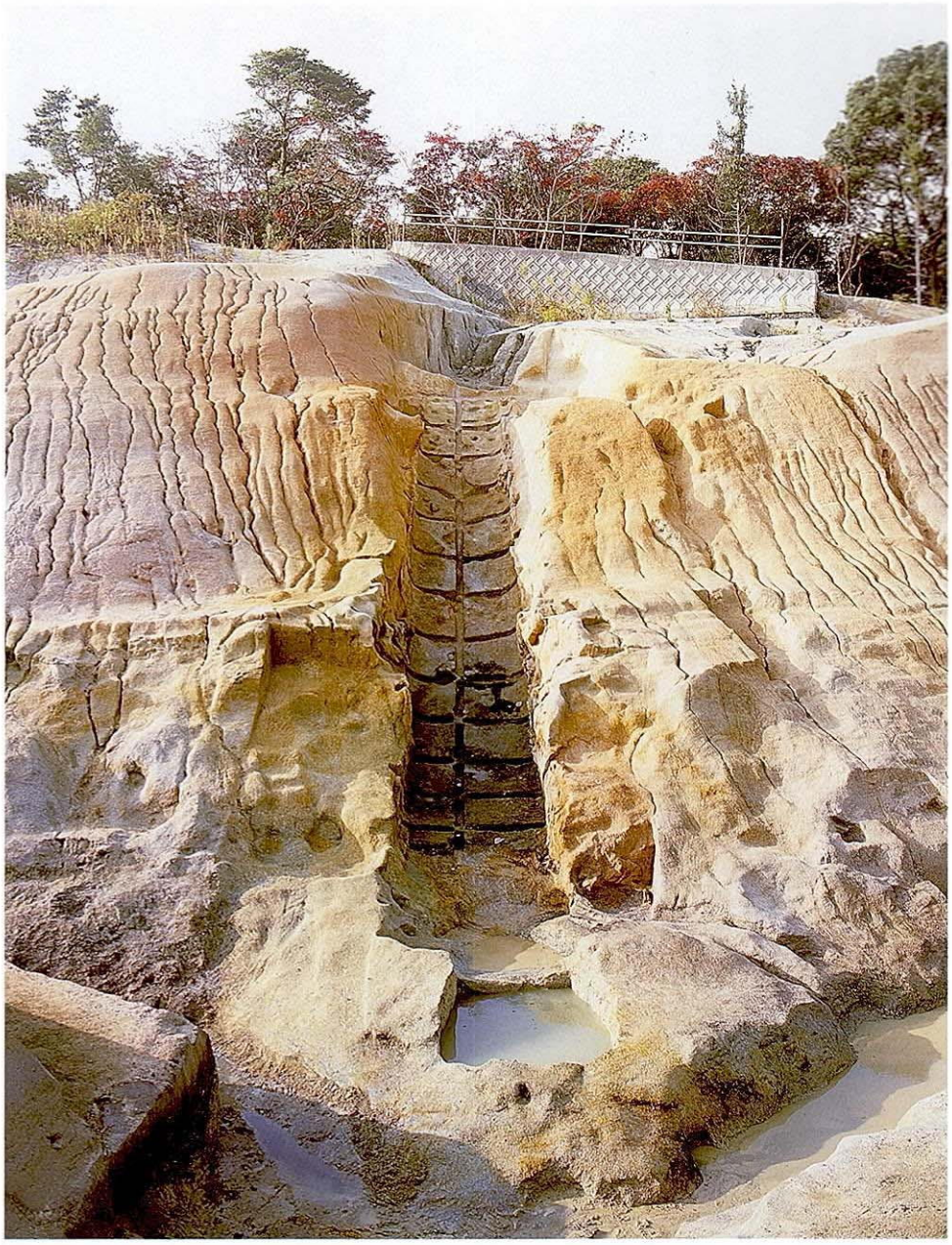
図版22



（1）１次操業面右側壁全景（南西から）



（2）１次操業面左側壁全景（北東から）



（1）１次操業面断割全景
（南東から）



（2）１次操業面焚口部断割
（東から）

図版24



（1）左側壁断割（１～３次操業面）（東から）



（2）焼成部上半天井部支持材床面検出状況（南東から）



（3）同上完掘状況（南東から）



（1）灰原検出状況（東から）



（2）灰原１・２区間土層
上半（北東から）



（3）灰原１・２区間土層
下半（北東から）

図版26



（1）灰原２・３区間拡張部
土層（北東から）



（2）灰原４～６区土層
（北東から）



（3）調査地の現況（北から）



14



36



37



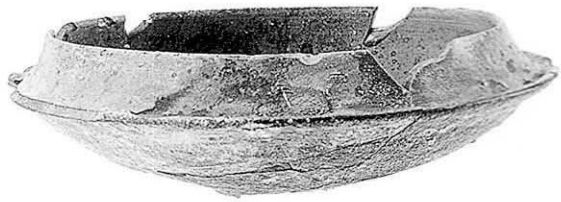
40



45



49



54



55



58



61



62

1号窯跡出土遺物①



74



80



81



86



96



92



92



98

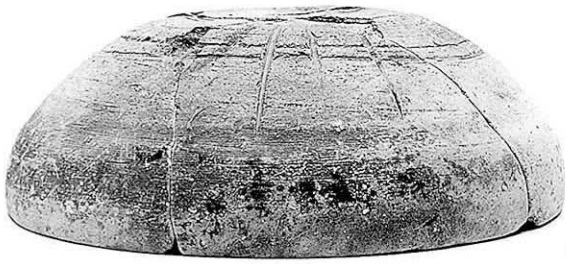


102

1号窯跡出土遺物②



103



116



106



124



132



107



147



111



148



115



157



160

1号窯跡出土遺物③

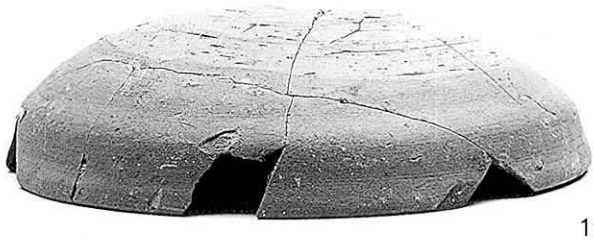

161


165


169


171


190


192


199


207


209


210


211


214


216


227


263


264


266


283


286


288


289


295


296



297



328



300



331



306



332



324



326



333



336



363



345



338



348



339



349



344

1号窯跡出土遺物⑦



354



414



361



417



406



455



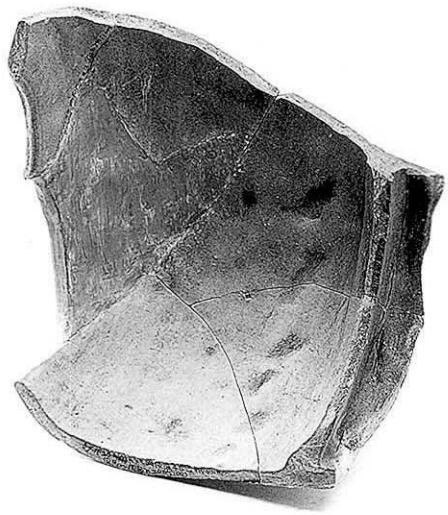
462



477



464表



464裏



482



497



490



498



492



496



499

1号窯跡出土遺物⑨



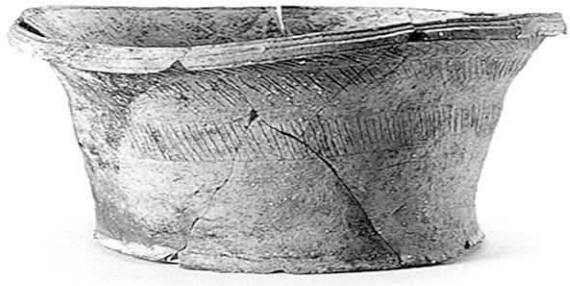
501



533



528



538



539



529



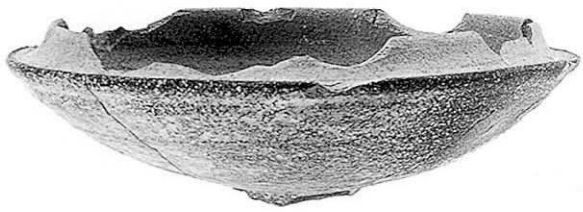
550



531



567



573



578





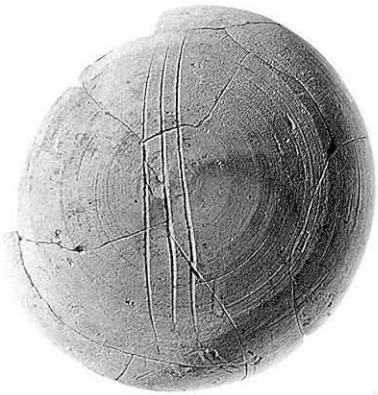
575 凸面



36



37



40



45



58



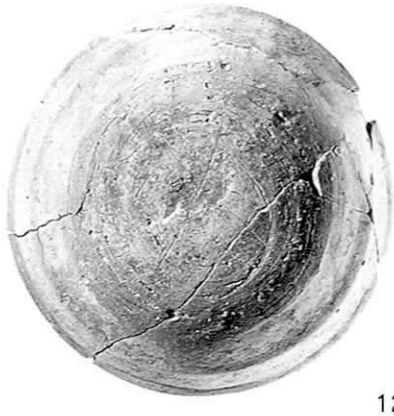
86



115



116



124



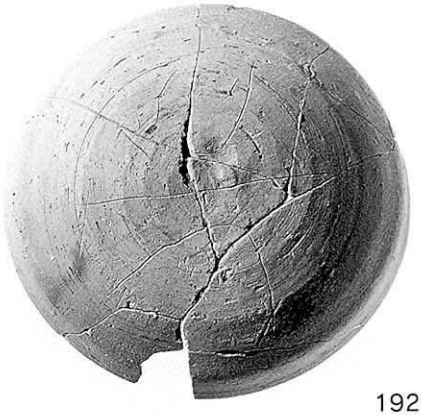
157



160



161



192



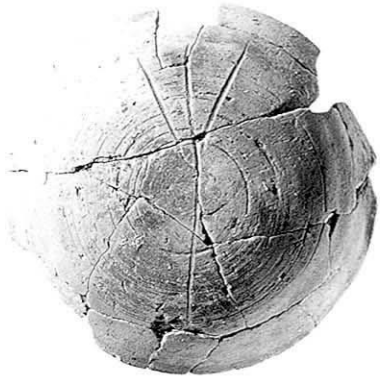
207



214



216



263



283



288



289



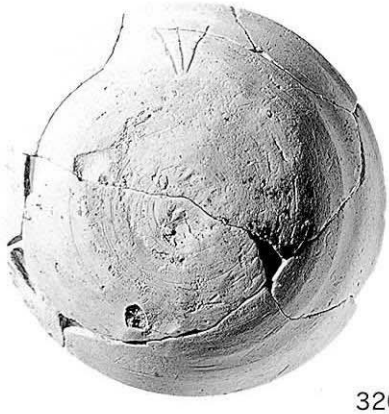
296



297



308



326



328



336



344



345



354



361

1号窯跡出土遺物⑬

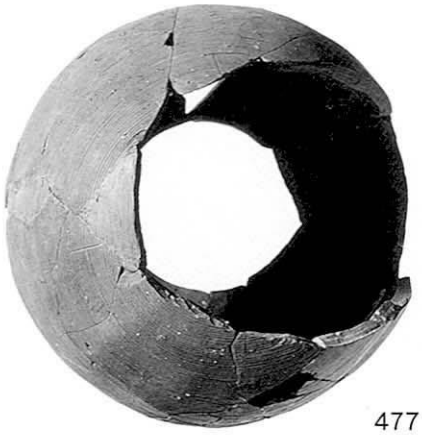
図版40



363



406



477



482



496



501



531



550



567

1号窯跡出土遺物⑭

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | うしくびうめがしらいせきぐん　よん |
| 書名 | 牛頸梅頭遺跡群Ⅳ |
| 副書名 | 上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | Ⅻ |
| シリーズ名 | 大野城市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第86集 |
| 編著者名 | 石木　秀啓・中島　圭 |
| 編集機関 | 大野城市教育委員会 |
| 所在地 | 〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話092（501）2211 |
| 発行年月日 | 2008年9月30日 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 °′″ | 東経 °′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 梅頭遺跡（うめがしらいせき）第１次調査 | 福岡県大野城市大字上大利（ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり）588－４の一部他 | | | 33°31′05″ | 130°29′40″ | 2005.6.22～11.14 | 3,000 | 区画整理 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 梅頭遺跡第４次調査 | 生産遺跡 | 古墳～飛鳥 | 窯跡１基 | 須恵器・土師器・窯壁 | |

**要約**

梅頭遺跡４次調査は、窯跡１基が確認されたが、窯は同一規模の窯体を４面重ねていた。操業開始段階では地下式の多孔式煙道窯であったが、操業面を重ねるに従い焼成部上位を半地下式に改造して操業をおこなう。このため各操業面の層序が明確に分かり、遺物変遷を追う上で重要な資料を得ることができた。半地下式部分は構築材として使われた炭化材が多量に出土し、窯構造は最終操業段階まで多孔式煙道窯が踏襲される。時期は６世紀後半～７世紀初頭に位置づけられ、多孔式煙道窯の出現が６世紀後半ごろにあたることが判明した。また、灰原から出土した燃料材は長さ60cm程度のものも含み、大型の薪を焚口・燃焼部に並べて焼成をおこなう姿が復元でき、既知の炭化材樹種同定結果とあわせて古墳時代の窯焚き風景の復元に重要な資料となった。

大野城市文化財調査報告書　第86集

牛頸梅頭遺跡群Ⅳ

平成20年９月30日

発 行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町２－２－１

印 刷　(株) 三光　福岡営業所
福岡県福岡市博多区山王１－14－４